

## 参考資料 1-3

科学技術・学術審議会  
測地学分科会地震火山部会  
観測研究計画推進委員会（第10回）  
H23. 10. 6

「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」に関する論文リスト

## 目次

1. 地震・火山現象予測のための観測研究の推進	
(1) 地震・火山現象のモニタリングシステムの高度化	1
(2) 地震・火山現象に関する予測システムの構築	1 5
(3) 地震・火山現象に関するデータベースの構築	2 2
2. 地震・火山現象解明のための観測研究の推進	
(1) 日本列島及び周辺域の長期・広域の地震火山現象	2 3
(2) 地震・火山噴火に至る準備過程	5 9
(3) 地震発生先行・破壊過程と火山噴火過程	9 8
(4) 地震発生・火山噴火素過程	1 2 4
3. 新たな観測技術の開発	1 3 7
4. 計画推進のための体制の強化	1 4 8

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
1. 地震・火山現象予測のための観測研究の推進										
(1) 地震・火山現象のモニタリングシステムの高度化										
ア. 日本列島域										
西村卓也・藤原 智・村上 亮・水藤 尚・飛田幹男・矢来博司	2007	福岡県西方沖地震に伴う地殻変動と断層モデル	月刊地球	29	98-105		1(1)ア			北海道大
Hori, M., T. Iinuma, and T. Kato	2008	Stress inversion method and analysis of GPS array data	C. R. Mecanique	336	132-148	○	1(1)ア	2(1)ア	GPS観測から得られた変位速度場に基づき、地殻内の応力並びに弾性定数を求める逆解析手法を開発した。二次元平面応力状態という仮定の下ではあるが、歪-応力の構成則が完全にわかっていなくても、変位速度場から応力増分を推定することができる。また、期間を変えて求めた幾つかの変位速度場データに基づいて、弾性定数（ポアソン比）の分布を推定する手法を構築することにも成功し、両手法を日本列島で得られた実際のGPSデータに適用した。	東北大
Margerin, L. and Sato, H.	2011	Reconstruction of multiply-scattered arrivals from the cross-correlation of waves excited by random noise sources in a heterogeneous dissipative medium	Wave Motion	58	146-160	○	1(1)ア	2(1)ウ	不均質構造における多重散乱まで含めた波動を考察し、ノイズ相互相関からグリーン関数を抽出することは光学定理の成立と等価であることを証明した。これは、ノイズ相互相関法の理論的裏付けとなる。	東北大
Tsuruoka, H., H. Kawakatsu and T. Urabe	2009	GRiD MT (Grid-based Realtime Determination of Moment Tensors) monitoring the long-period seismic wavefield	Phys. Earth Planet. Inter.	175	8-16	○	1(1)ア	1(1)イ	GRiD MTは、モニタリング対象領域を10km間隔のメッシュに分割し、分割されたメッシュを仮想震源としてその点でのMT解を常時(1秒ごと)に決定し、得られたMT解から理論波形と観測波形のVariance Reduction (VR)をモニタリングすることによって、地震の発生・位置・メカニズム（モーメントテンソル）解を完全自動で決定するシステムである。	東大地震研
Hirose, H. and Obara, K.	2006	Short-term slow slip and correlated tremor episodes in the Tokai region, central Japan	Geophys. Res. Lett.	33	L17311-10.1029/2006GL026579	○	1(1)ア	2(1)イ		防災科研
松村稔・伊藤喜宏・木村尚紀・小原一成・関口渉次・堀貞喜・笠原敬司	2006	高精度即時震源パラメータ解析システム(AQUA)の開発	地震		167-184	○	1(1)ア	2(1)イ		防災科研
Mizoguchi, K., T., Hirose and T., Shimamoto, E., Fukuyama	2006	Moisture-related weakening and strengthening of a fault activated at seismic slip rates	Geophys. Res. Lett.	L16319	doi:10.1029/2006GL026980	○	1(1)ア	2(1)イ		防災科研
Obara, K. and H.Hirose	2006	Non-volcanic deep low-frequency tremors accompanying slow slips in the southwest Japan subduction zone	Tectonophys.	417	33-51	○	1(1)ア	2(1)イ		防災科研
K., O'Hara, K., Mizoguchi and T., Shimamoto・J. C., Hower	2006	Experimental frictional heating of coal gouge at seismic slip rates: Evidence for devolatilization and thermal pressurization of gouge fluids	Tectonophys.		109-118	○	1(1)ア	2(1)イ		防災科研
Sekiguchi, S.	2006	Hierarchical travelttime tomography	Geophys. J. Int.	166	1105-1124	○	1(1)ア	2(1)イ		防災科研
Shiomi, K., K. Obara and H. Sato	2006	Moho Depth Variation beneath Southwestern Japan Revealed From the Velocity Structure Based on Receiver Function Inversion	Tectonophys.	420	205-221	○	1(1)ア	2(1)イ		防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
松村正三	2009	地震活動変化から何を読み解くか？－プレート境界地震のアスペリティの特定－	地震	61	S123-S131	○	1(1)ア	1(1)イ		防災科研
Obara, K.	2009	Inhomogeneous distribution of deep slow earthquake activity along the strike of the subducting Philippine Sea plate	Gondwana Research	16	512-526	○	1(1)ア	1(1)イ		防災科研
Obara, K. and S. Sekine	2009	Characteristic activity and migration of episodic tremor and slow-slip events in central Japan	Earth Planets Space	61	853-862	○	1(1)ア	1(1)イ		防災科研
Wegler, U., H. Nakahara, C. Sens-Schoenfelder, M. Korn, and K. Shiomi	2009	Sudden drop of seismic velocity after the 2004 Mw 6.6 mid-Niigata earthquake, Japan, observed with Passive Image Interferometry	J. Geophys. Res.	114, B06305	doi:10.1029/2008JB005869	○	1(1)ア	1(1)イ		防災科研
Kimura, T., K. Obara, H. Kimura, and H. Hirose	2011	Automated detection of slow slip events within the Nankai subduction zone	Geophys. Res. Lett.	38	L01311, doi:10.1029/2010GL045899	○	1(1)ア	1(1)イ		防災科研
松村正三	2010	東海および東南海地域における特有な地震活動パタンの再現（東海地域の地震活動変化：その6）	地震	63	83-95	○	1(1)ア	1(1)イ		防災科研
Hirose, H.	in press	Tilt records prior to the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake	Earth Planets Space	63		○	1(1)ア	2(3) (3-1)ア		防災科研
Nishimura, T., S. Fujiwara, M. Murakami, H. Suito, M. Tobita, and H. Yarai	2006	Fault model of the 2005 Fukuoka-ken Seiho-oki earthquake estimated from coseismic deformation observed by GPS and InSAR	Earth Planets Space	58	51-56	○	1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
Ozawa, S., H. Yarai, M. Tobita, H. Une, and T. Nishimura	2008	Crustal deformation associated with the Noto Hanto Earthquake in 2007 in Japan	Earth Planets Space	60	95-98	○	1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
Ji, X., M. Utsugi, H. Shirai, A. Suzuki, J. He, S. Fujiwara and Y. Fukuzaki	2006	Modelling of spatial-temporal changes of the geomagnetic field in Japan	Earth Planets Space	58	757-763		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
小清水他	2006	平成17年（2005年）福岡県西方沖を震源とする地震に伴う地殻変動と断層モデル	国土地理院時報	109	45-49		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
紀小麗・白井宏樹・鈴木啓・何金蘭・濱崎英夫	2006	自然直交基底法を用いた一等磁気点の化成	国土地理院時報	110	27-32		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
石本他	2007	GEONETによる平成19年（2007年）能登半島地震に伴う地殻変動	国土地理院時報	113	37-39		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
雨貝他	2007	GEONETにみられる大気擾乱の広域的な影響について	国土地理院時報	112			1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
飛田幹男	2007	地球観測衛星「だいち」が観測した能登半島地震の地殻変動分布と震源断層	月刊地震レポート サイスマ	11	5		1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
雨貝知美・和田弘人・藤原みどり・鈴木啓・飛田幹男・矢来博司	2007	衛星合成開口レーダーを用いた平成19年（2007年）能登半島地震に伴う地殻・地盤変動の検出	国土地理院時報	113	3-11		1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
和田弘人・松坂 茂・藤原みどり・雨貝知美・飛田幹男・福崎順洋・矢来博司・仲井博之	2007	ALOS/PALSARデータの干渉SAR測量への利用とデータ処理・解析システムの構築概要	国土地理院時報	111	107-117		1(1)ア	3(2)ア		国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
鈴木啓・雨貝知美・藤原みどり・和田弘人・飛田幹男・矢来博司	2007	衛星合成開口レーダーを用いた平成19年(2007年)新潟県中越沖地震に伴う地殻変動の検出	国土地理院時報	114	47-53		1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
小澤慎三郎・矢来博司・飛田幹男・宇根寛・西村卓也	2007	平成19年(2007年)能登半島地震の震源断層モデル	国土地理院時報	113	49-54		1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
紀小麗・宇津木充・白井宏樹・鈴木啓・何金蘭・濱崎英夫・雨宮秀雄	2007	球キャップ調和解析を用いた2000年日本域における地磁気空間分布モデルの構築	測地学会誌	53	13-24		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
S. Kawamoto	2008	Monitoring of hydrothermal intrusions at Hakone Volcano inferred from GPS observations	International Symposium on GPS/GNSS 2008 IN TOKYO proceedings		105-109		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
Toyofuku et. al.	2008	GEONET -GPS Earth Observation System-	International Symposium on GPS/GNSS 2008 IN TOKYO proceedings		1116-1120		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
Nakagawa et. al.	2008	New Analysis Strategy of GEONET	International Symposium on GPS/GNSS 2008 IN TOKYO proceedings		1139-1143		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
Furuya et. al.	2008	Verifications of absolute antenna phase characteristic models in GEONET	International Symposium on GPS/GNSS 2008 IN TOKYO proceedings		1155-1158		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
Miyahara et. al.	2008	Development of crustal monitoring support system	International Symposium on GPS/GNSS 2008 IN TOKYO proceedings		94-97		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
豊福他	2008	平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震に伴う緊急の電子基準点復旧及び現地調査作業	国土地理院時報	117	63-71		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
宮原他	2008	GPS連続観測システムが捉えた平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震に伴う地殻変動	国土地理院時報	117	73-77		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
雨貝 知美・鈴木 啓・和田 弘人・藤原 みどり・飛田 幹男・矢来 博司	2008	衛星合成開口レーダーを用いた平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震に伴う地殻変動の検出	国土地理院時報	117	15-20		1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
小沢慎三郎・今給黎哲郎・飛田幹男・矢来博司・西村卓也・水藤尚	2008	平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震による地殻変動と震源断層モデル	国土地理院時報	117	79-80		1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
中川他	2009	GPS連続観測システム(GEONET)の新しい解析戦略(第4版)によるルーチン解析システムの構築について	国土地理院時報	118	1-8		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
豊福他	2009	電子基準点のアンテナ絶対位相特性モデルの構築と評価	国土地理院時報	118	9-15		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
岩下他	2009	GPS連続観測システム(GEONET)解析結果に生じる人為的要因によるオフセットの補正手法について	国土地理院時報	118	23-30		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
宮原他	2009	GPS連続観測システム(GEONET)の新しい解析戦略(第4版)によるルーチン解析システムの構築について解析戦略(第4版)から見た地殻変動について	国土地理院時報	118	31-36		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
小清水他	2010	異常点検出表示システムの改良	国土地理院時報	120	37-44		1(1)ア	1(1)イ		国土地理院
下野 隆洋・渡部 金一郎・南 秀和・大野 裕幸・西井 康郎・宮脇 正典	2011	航空機SARによる霧島山(新燃岳)の火口地形観測	日本写真測量学会平成23年度年次学術講演会発表論文集		123-124		1(1)ア			国土地理院
野口優子・鈴木 啓・飛田幹男・小林知勝・矢来博司	in press	「だいち」SAR干渉解析による豊後水道周辺の非定常地殻変動抽出の試み	国土地理院時報	121			1(1)ア	3(2)ア		国土地理院
細野耕司・西政樹・吉田明夫	2006	内陸大地震の余震活動域の深さの時間変化	地震	59	29-37	○	1(1)ア			気象庁
明田川保・伊藤秀美・弘瀬冬樹	2006	X Window Systemを用いた地震検索・地震活動解析プログラム(REASA)の開発	験震時報	70	51-66		1(1)ア			気象庁
弘瀬冬樹・中島淳一・長谷川昭	2007	Double-Difference Tomography法による関東地方の3次元地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定	地震	60	123-128	○	1(1)ア			気象庁・東北大
勝間田明男	2007	機械式地震計の周波数特性を持つ再帰型デジタルフィルター	験震時報	71	85-87		1(1)ア			気象庁
Takayama, H. and A. Yoshida	2007	Crustal deformation in Kyushu derived from GEONET data	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004690	○	1(1)ア			気象庁
Katsumata, A.	2007	Magnitude determination of deep-focus earthquakes in and around Japan with regional velocity-amplitude data (II)	Pap. Met. Geophys.	58	31-61	○	1(1)ア		深発地震を含む地震の速度振幅マグニチュード決定法を開発した。	気象庁
明田川保・伊藤秀美	2008	静穏化・活発化の定量的評価への取り組みー地震活動評価のための静穏化・活発化検出プログラムの開発ー	験震時報	71	89-98		1(1)ア	1(2)(2-1)ウ		気象庁
Nakamura, M., Y. Yoshida, D. Zhao, H. Takayama, K. Obana, H. Katao, J. Kasahara, T. Kanazawa, S. Kodaira, T. Sato, H. Shiobara, M. Shinohara, H. Shimamura, N. Takahashi, A. Nakanishi, R. Hino, Y. Murai, and K. Mochizuki	2008	Three-dimensional P- and S-wave velocity structures beneath Japan	Phys. Earth Planet. Inter.	168	49-70	○	1(1)ア		日本列島の詳細な三次元速度構造を求め、その特徴について議論した	気象庁・北海道大・東北大
Hoshiya, M., O. Kamigaichi, M. Saito, S. Tsukada, and N. Hamada	2008	Earthquake early warning starts nationwide in Japan	EOS Trans. Am. Geophys. Union	89	73-74		1(1)ア			気象庁
干場充之・松森敏幸	2009	地震の揺れの前に警報をー緊急地震速報ー	中国科学技術月報	1月号	27		1(1)ア			気象庁
青木重樹・吉田知央	2008	震源過程、「2006年11月15日及び2007年1月13日の千島列島東方の地震」	験震時報	71	114-119		1(1)ア			気象庁
気象庁	2008	伊豆大島の火山活動に関する勉強会報告書					1(1)ア			気象庁
藤浩明・笠谷貴史・下泉政志・新貝雅文・大志万直人・吉村令慧・塩崎一郎・山崎明・藤井郁子・村上英記・山口寛・上嶋誠	2008	西南日本背弧の海底電磁気観測	Conductivity Anomaly 研究会論文集		27-34		1(1)ア			気象庁・鳥取大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
石垣祐三	2009	全国を対象とした地震活動監視のための解析手法について - M7.0における余震活動予測を通して -	験震時報	72	1-25		1(1)ア	1(2)(2-1)ウ		気象庁
碓井勇二・青木重樹・林元直樹・下山利浩・野坂大輔・吉田知央	2010	CMT解析の自動処理とその高度化	験震時報	73	169-184		1(1)ア			気象庁
地震調査研究推進本部	2010	伊豆東部の地震活動の予測手法について	伊豆東部の地震活動の予測手法報告書		30pp		1(1)ア	1(2)(2-1)ウ	伊豆東部で発生する地震活動について、過去の地震活動の特徴を抽出し整理し、群発地震活動と地下深部のマグマの貫入の関係を求め、地震活動の推移を予測する手法をとりまとめた	気象庁
地震調査研究推進本部	2010	伊豆東部の地震活動の予測手法			30pp		1(1)ア	1(2)(2-1)ウ		気象庁
宮岡一樹・斉藤誠	2011	伊豆東部火山群の地震活動予測情報と噴火警戒レベル	減災	5	77-80		1(1)ア	1(2)(2-1)ウ		気象庁
伊藤弘志, 加藤正治, 高橋昌紀, 斉藤昭則	2011	伊豆— 小笠原弧, 福徳岡ノ場火山における2010年噴火後の火山地形	海洋情報部研究報告	47	9-13		1(1)ア	1(3)ア		海上保安庁
小山薫, 笹原昇, 熊川浩一	2009	三宅島火山の地磁気異常と磁気構造	海洋情報部技報	27	87-91		1(1)ア	1(3)ア		海上保安庁
小野寺健英, 伊藤弘志, 熊川浩一, 小山薫, 加藤正治	2009	海域火山基礎情報図「鬼界カルデラ」調査	海洋情報部技報	27	92-97		1(1)ア	1(3)ア		海上保安庁
小山薫, 笹原昇, 熊川浩一, 小野寺健英, 久保田隆二	2008	硫黄島の3次元磁気構造モデル	海洋情報部研究報告	44	9-16		1(1)ア	1(3)ア	2007年と1998年に実施した硫黄島の航空磁気測量のデータを用いて、鉛直方向を含む角柱構造モデルの磁化強度分布の推定が可能である3次元地磁気トモグラフィ法(植田, 2006)によって硫黄島の磁気構造モデルの解析を行った。	海上保安庁
植田義夫, 小野寺健英, 熊川浩一, 小山薫	2007	諏訪瀬島の地磁気異常と3次元磁気構造	火山	52	211-220	○	1(1)ア	1(3)ア	1999年に実施された諏訪瀬島の航空磁気測量の解析結果は、以下のとおり。①諏訪瀬島の平均磁化強度は3.14A/m、海域部を含めると3.00A/m②海底部の平均磁化強度は陸域部に比して低く、同島を形成した初期火山活動は珪長質に富む火山岩を主体とした火山活動であったことが示唆される③御岳を中心とした火山活動に伴う熱消磁域は御岳から根上岳に分布し、この部分がマグマの火道に連なる	海上保安庁
小山薫・熊川浩一・植田義夫	2007	最近の航空磁気測量について	海洋情報部技報	25	87-94		1(1)ア	1(3)ア		海上保安庁
高江須剛	2009	新験潮データ転送装置の紹介	海洋情報部技報	27	36-40		1(1)ア			海上保安庁
<b>イ. 地震発生・火山噴火の可能性の高い地域</b>										
小川達則, 佐々木寿, 能和幸範, 青山 裕	2009	非接触センサの連続観測による土砂動態モニタリングの可能性	砂防学会誌	61	27-30	○	1(1)イ			北海道大
武尾 実・青木陽介・大湊隆雄・占部 卓・及川 純・辻 浩・小山悦郎・長田 昇・大島弘光・青山 裕・前川徳光・鈴木敦生・田中 聡・石原吉明・山本 希・山田 守・大倉敬宏・井上寛之・井口正人・為栗 健・植平賢司・中元真美・平野舟一郎	2009	浅間山の大学合同稠密地震観測(2005年7月-2007年7月)	東京大学地震研究所彙報	84	1-37		1(1)イ			北海道大
斎藤武士・大沢信二・橋本武志・寺田暁彦・吉川慎・大倉敬宏	2008	阿蘇火山湯だまりの水・熱・塩化物収支	日本地熱学会誌	30	107-120	○	1(1)イ			北海道大
橋本武志	2006	永年変動によるみかけの全磁力変化—火山地磁気効果の評価—	Conductivity Anomaly 研究会論文集		51-58		1(1)イ			北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
橋本武志・茂木 透・鈴木敦生・山谷祐介・三品正明・中塚 正・小山悦郎・小山崇夫・相沢広記・平林順一・松尾元広・野上健治・小川康雄・氏原直人・鍵山恒臣・神田 径・大久保綾子・田中良和・宇都智史・宇津木充	2006	平成17年度浅間山電磁気構造探査の概要	Conductivity Anomaly 研究会論文集		79-78		1(1)イ			北海道大
植木真人・大島弘光・前川徳光・吉田友香	2006	吾妻火山における精密重力測定網の構築	東北災害研究	42	41-46		1(1)イ			北海道大
Uchida, N., T. Matsuzawa, S. Hirahara, and A. Hasegawa	2006	Small repeating earthquakes and interplate creep around the 2005 Miyagi-oki earthquake (M7.2)	Earth Planets Space	58	1577-1580	○	1(1)イ	2(2)(2-1)イ	宮城県沖の過去21年のプレート間準静的滑りの時空間分布を、小繰り返し地震を用いて推定した。2005年宮城県沖(M7.2)、1997年宮城県沖(M7.6)、2003年福島県沖(M6.3)の地震の準静的滑りは、主に地震時すべり域の外側で起きている。また、時間変化は、深部では小さく浅部で大きい。2005年宮城県沖地震後の余効滑りは小さく、この地震の震源域周辺は引き続き固着が強い状態であると推定された。	東北大
日野亮太・鈴木健介・山本揚二郎・西野実・金沢敏彦・山田知朗・中東和夫・望月公廣・桑野亜佐子・青木元・田中昌之・荒木英一郎・小平秀一・藤江剛・金田義行	2006	海底地震観測による2005年宮城県沖地震(M7.2)の余震分布(速報)	地震	59	297-308	○	1(1)イ	2(2)(2-1)ア		東北大
三品正明	2007	東北大学における地殻変動連続観測	測地学会誌	53	359-368	○	1(1)イ	2(2)(2-1)イ		東北大
Yamamoto, Y., R. Hino, K. Suzuki, Y. Ito, T. Yamada, M. Shinohara, T. Kanazawa, G. Aoki, M. Tanaka, K. Uehira, G. Fujie, Y. Kaneda, T. Takanami, and T. Sato	2008	Spatial heterogeneity of the mantle wedge structure and interplate coupling in the NE Japan forearc region	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10.1029/2008GL036100	○	1(1)イ	2(2)(2-1)ア		東北大
Hino, R., S. Ii, T. Iinuma, and H. Fujimoto	2009	Continuous Long-Term Seafloor Pressure Observation for Detecting Slow-Slip Interplate Events in Miyagi-Oki on the Landward Japan Trench Slope	Journal of Disaster Research	4	72-82	○	1(1)イ	3(1)ア	宮城県沖海底下のプレート境界における非地震性すべりの検知能力向上のため、自己浮上式海底圧力計の観測アレイを構築した。陸上GPS観測点の変位時系列データのみを用いた場合では沿岸から100km以上離れた領域でのすべりを検知するのが困難だが、海底圧力計のデータを用いることで海溝近くまで検知可能な領域が広がること、また、海溝軸に直交する方向にアレイを延伸した場合がもっとも効率的に非地震性すべりの検知能力を向上させられることを示した。	東北大
Uchida, N., S. Yui, S. Miura, T. Matsuzawa, A. Hasegawa, Y. Motoya, and M. Kasahara	2009	Quasi-static slip on the plate boundary associated with the 2003 M8.0 Tokachi-oki and 2004 M7.1 off-Kushiro earthquakes, Japan	Gondwana Research	16	527-533	○	1(1)イ	2(2)(2-1)イ	2003年M8.0十勝沖地震前後の準静的滑りの時空間分布を、13年間の小繰り返し地震及び8ヶ月間のGPSデータから推定した。十勝沖地震前のアスペリティ周囲の滑りレートは、長い間小さかったが、3年前から小さな加速が地震時滑り域の深部延長で見られた。また、本震後、その東方で大規模な余効滑りが生じたことが明らかになった。2004年釧路沖地震(M7.1)はこの余効滑りにより早められた可能性がある。	東北大・東大地震研
Yabe, Y. and K. Omura	2011	In-situ stress at a site close proximity to the Gofukuji fault, central Japan, measured using drilling cores	Island Arc	20	160-173, doi:10.1111/j.1440-1738.2010.00756.x	○	1(1)イ	2(1)ア		東北大
Umakoshi, K., N. Itasaka, H. Shimizu	submitted	High-frequency earthquake swarm associated with the May 1991 dome extrusion at Unzen Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.			○	1(1)イ			東大地震研
Araya, A., A. Takamori, W. Morii, H. Hayakawa, T. Uchiyama, M. Ohashi, S. Telada, and S. Takemoto	2010	Analyses of far-field coseismic crustal deformation observed by a new laser distance measurement system	Geophys. J. Int.	181	127-140	○	1(1)イ	2(1)ア		東大地震研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Araya, A., W. Morii, H. Hayakawa, A. Takamori, T. Uchiyama, M. Ohashi, I. Yamada, S. Telada, and S. Takemoto	2007	Broadband Observation with Laser Strainmeters and a Strategy for High Resolution Long-term Strain Observation Based on Quantum Standard	J. Geod. Soc. Japan	53	81-97	○	1(1)イ	2(1)ア		東大地震研・名古屋大
新谷昌人・森井互・高森昭光・早河秀章・竹本修三・内山隆・大橋正健・孫文科・山中佳子	2006	レーザー伸縮計で捉えた歪みステップ	月刊地球号外	56	104-110		1(1)イ	2(1)ア		東大地震研
伊藤 武男, Endra Gunawan, 木股 文昭, 田部井 隆雄, Irwandi, Agstan, Irwan Meilano, Mark Simons	2010	スマトラ島北西部のスマトラ断層における地震発生ポテンシャル	名古屋大学環境学研究所 2004年北部スマトラ地震調査報告VI	V 1	107-111		1(1)イ			名古屋大
Abidin, H. Z., H. Andreas, T. Kato, T. Ito, I. Meilano, F. Kimata, D. H. Natawidjaya, and H. Harjono	2009	Crustal Deformation Studies in Java (Indonesia) Using GPS	Journal of Earthquake and Tsunami	3(2)	76-88	○	1(1)イ			名古屋大
伊藤武男、木股文昭、Agstan、Endra Gunawan、田部井隆雄、Irwan Meilano、Didik Sugiyanto、Irwandi	2009	スマトラGPS観測網 (AGNeSS) のシステムの紹介	名古屋大学全学技術センター (理学) 装置開発系技術報告	4	26-29		1(1)イ			名古屋大
Ito T., Agustan, I. Meirano, T. Tabei and F. Kimata	2008	The construction of new dense GPS observation network: AGNeSS (Aceh GPS Network for Sumatran Fault System	The 4 th Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquake		83-88		1(1)イ			名古屋大
Kato, T., T. Ito, H. Z. Abidin, and Agustan	2007	Preliminary report on crustal deformation surveys and tsunami measurements caused by the July 17, 2006 South off Java Island Earthquake and Tsunami, Indonesia	Earth Planets Space	59	1055-1059	○	1(1)イ			名古屋大
M. Irwan, Y. Ohta, F. Kimata, T. Ito, T. Tabei, D. Darmawan, H. Andreas, A. Hasanudin, K. Mipi, S. Sugiyanto, and Agustan	2007	Two Yeares GPS Observation in Aceh	The 3rd Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquakes, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University		7-10		1(1)イ			名古屋大
伊藤武男・太田雄策・Irwan Meilano・木股文昭	2007	スマトラアングマン地震の地震学的測地学的な側面からの知見	名古屋大学環境学研究所「2004年北部スマトラ地震調査報告Ⅲ」		0		1(1)イ			名古屋大
木股文昭・伊藤武男・太田雄策・メイラノイルワン・田部井隆雄	2007	インドネシア国スマトラにおけるGPS観測のための予備調査 -スマトラのGPS観測による2004年アチェ、アングマン地震の滑り分布の推定-	防災科学技術研究所研究資料	304	57-67		1(1)イ			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Ito, T., S. Kawamoto, Y. Ohta, I. Meirano, and F. Kimata	2006	Evaluation of visco-elastic and poro-elastic deformations following 2004 Sumatra-Andaman earthquake	Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquakes (Part2), Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University		114-119		1(1)イ			名古屋大
Meilano, I., Y. Oota, D. Darmawan, H. Andreas, H. Z. Abidin, M. A. Kusama, D. Sugiyanto, Agustan, T. Ito, T. Tabei, and F. Kimata	2006	GPS measurement of coseismic displacement in Aceh province after the 2004 Aceh-Andaman earthquake	Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquakes (Part2), Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University		103-108		1(1)イ			名古屋大
Ohota, Y., M. Irwan, T. Ito, F. Kimata, T. Tabei and D. Sugiyanto	2006	Crustal deformation following the 2004 Sumatra-Andaman earthquake in the northern Sumatra region	Investigation Report of 2004 Northern Sumatra Earthquakes (Part2), Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University		109-113		1(1)イ			名古屋大
Kanda, W., Tanaka, Y., Utsugi, M., Takakura, S., Hashimoto, T., Inoue, H.	2008	A preparation zone for volcanic explosions beneath Naka-dake crater, Aso volcano, as inferred from magnetotelluric surveys	J. Volcanol. Geotherm. Res.	178	32-45	○	1(1)イ	2(2)(2-2)ア	高度なモニタリングシステムを構築するにあたり、阿蘇火山中岳火口下部の熱エネルギー供給システムを明らかにするため、電気伝導度構造調査を行い、構造と熱水・火山ガスの経路および超低周波微動の発生域との関係を明らかにした。	京都大理学研究科・北海道大
Ohsawa, S., Saito, T., Yoshikawa, S., Mawatari, H., Yamada, M., Amita, K., Takamatsu, N., Sudo, Y., Kagiya, T.,	2010	Color change of lake water at the active crater lake of Aso volcano, Yudamari, Japan: is it in response to change in water quality induced by volcanic activity?	Limnology	11	207-215	○	1(1)イ		高度なモニタリングを行う上で、これまでに指摘されていた火口湖の色の変化がどのような機構で規定狭荒れているかを明らかにした。	京都大理学研究科
Yamada, M., Ohsawa, S., Kazahaya, K., Yasuhara, M., Takahashi, H., Amita, K., Mawatari, H. and Yoshikawa, S.	2011	Mixing of magmatic CO2 into volcano groundwater flow at Aso volcano assessed combining carbon and water stable isotopes.	J. Geochemical Exploration	108	81-87	○	1(1)イ			京都大理学研究科
Kagiya, T., Yoshikawa, S., Utsugi, M. and Asano, T.	2011	Conductivity distribution of the surface layer in the northern Aso Caldera	Annual Rep. Inst. Geotherm. Sci. Kyoto Univ.	FY2010	60-62		1(1)イ	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Terada, A., Hashimoto, T., Kagiya, T. and Sasaki, H.	2008	Precise remote-monitoring technique of water volume and temperature of a crater lake in Aso volcano, Japan: Implication for a sensitive window of volcanic hydrothermal system	Earth Planets Space	60	705-710	○	1(1)イ			京都大理 学研究科
山田 誠・大沢信二・風早康平・安原正也・高橋 浩・網田和宏・馬渡秀夫・吉川 慎	2008	同位体水文学的手法による火山地下水流動系へのマグマ起源CO <sub>2</sub> の混入過程の研究－阿蘇火山を例にして－	月刊地球号外	60	114-120		1(1)イ			京都大理 学研究科
大見士朗・Honn KAO	2006	Source-Scanning Algorithm による深部低周波地震震源域のイメージング－鳥取県西部地域を例として－	京都大学防災研究所年報	49B	269-275		1(1)イ			京大防災 研
Ohno, M., T. Sato, K. Notsu, H. Wakita and K. Ozawa	2006	Groundwater-level changes due to pressure gradient induced by nearby earthquakes off Izu Peninsula, 1997	Pure Appl. Geophys.	163	647-656	○	1(1)イ	2(1)エ		産総研
小泉 尚嗣, 松本 則夫, 秋田藤夫, 佐藤 努, 北川 有一	2006	2003年十勝沖地震に伴う地下水変化の評価	東濃地震科学研究所報告	20	35-38		1(1)イ			産総研
Azuma, S., H. Ishii, Y. Asai, Y. Kitagawa and H. Wakita	2007	Variation in groundwater levels, pore pressures and crustal strain related to earthquakes in the upper granite and sedimentary formations in the area of western Tono, Japan	Geodynamics of Atotsugawa Fault System, Terrapub		173-180	○	1(1)イ	3(3)ア		産総研・ 名古屋大
Kano, Y., T. Yanagidani, Y. Kitagawa and F. Yamashita	2007	Monitoring of pore pressure changes using closed borehole wells: Interpretations based on poroelasticity	Geodynamics of Atotsugawa Fault System, Terrapub		163-172	○	1(1)イ	3(3)ア		産総研
齋藤英二・井口正人	2007	口永良部島火山におけるGPS連続観測結果	口永良部島の水蒸気爆発発生とその後の推移の予測のための実践的研究, 京都大学防災研究所付属火山活動研究センター		21-24		1(1)イ	2(3)(3-3)イ		産総研
Itaba, S., N. Koizumi, M. Matsumoto, M. Takahashi, T. Sato, R. Ohtani, Y. Kitagawa, Y. Kuwahara, T. Satoh and K. Ozawa	2008	Groundwater level changes related to the ground shaking of the Noto Hanto Earthquake in 2007	Earth Planets Space	60	1153-1159	○	1(1)イ	3(3)ア	2007年能登半島地震 (M6.9) による近畿・東海周辺における地震後の地下水位変化について解析した。観測された地下水位変化は主に地震動によると思われる。2000年以降に発生した主な地震による地震後の地下水位変化と比較することで、観測点毎の大まかな特徴を把握できた。	産総研
Itaba, S., N. Koizumi, T. Toyoshima, M. Kaneko, K. Sekiya and K. Ozawa	2008	Groundwater changes associated with the 2004 Mid-Niigata Prefecture Earthquake and Niigataken Chuetsu-oki Earthquake in 2007	Earth Planets Space	60	1161-1168	○	1(1)イ	3(3)ア	2004年新潟県中越地震 (M6.8) と2007年新潟県中越沖地震 (M6.8) は、規模・場所・メカニズムが似ている上に短い期間に続けて発生した。地震に伴う地下水位変化の再現性を調べる為に2つの地震に伴う地下水位変化の解析を、震源域近傍と遠方とで分けて行なった。結果として、震源域近傍でも遠地でもほぼ同様な地下水位変化が観測された。これらの変化は主に地震動によって生じたと考えられる。	産総研
Shibata, T., N. Matsumoto, F. Akita, N. Okazaki, H. Takahashi and R. Ikeda	2010	Linear poroelasticity of groundwater levels from observational records at wells in Hokkaido, Japan	Tectonophys.	483	305-309	○	1(1)イ	3(3)ア		産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Wen-Chi Lai, Kuo-Chin Hsu, Chjeng-Lun Shieh, Youe-Ping Lee, Kuo-Chyng Chang, N. Koizumi and M. Matsumoto	2010	Evaluation of the effects of ground shaking and static volumetric strain changes on earthquake-related groundwater level changes in Taiwan	Earth Planets Space	62	391-400	○	1(1)イ	3(3)ア	台湾における2003-2006年の観測結果から、地震後の地下水位変化について地震動加速度と静的体積歪変化の寄与を考察した。対象とした地震は同期間中に台湾周辺で発生したM6以上の地震17個である。得られた地震後の地下水位変化の主な要因は地震動によるものと考えられたが、その加速度だけでは説明できない場合もあり、地盤の不均質さに基づく局所的な地震時体積歪変化の増幅や動的な体積歪変化の寄与が示唆される。	産総研
小泉 尚嗣, 板場 智史, 豊島 剛志, 金子正史, 関谷一義, 小沢邦夫	2010	2004年新潟県中越地震および2007年新潟県中越沖地震前後の地下水変化について	東濃地震科学研究所報告	25	141-148		1(1)イ	3(3)ア		産総研
川端訓代, 松多信尚, 安藤雅孝, 浅井 康広, 小泉 尚嗣, 田阪 茂樹, 角森 史昭	2011	台湾縦谷の玉里断層クリープ運動—玉里大橋の変形	地質学雑誌	117	1-2	○	1(1)イ			産総研
今給黎哲郎・和田弘人・雨貝知美・藤原みどり・鈴木啓・飛田幹男・矢来博司・藤原智	2009	だいちPALSAR による地震・火山性地殻変動観測とその意義	信学技報	109, no. 10 1	133-138		1(1)イ			国土地理院
岩切一宏・増田与志郎	2006	2005年福岡県西方沖の地震による地震動の特徴	験震時報	70	1-14		1(1)イ		2005年福岡県西方沖の地震の震源及び地震動の特徴について記述した	気象庁
山崎明・重野伸昭・山本輝明・熊谷佳子・伊藤信和	2008	鹿屋の絶対観測室内の磁気異常とその経年的安定性について	Conductivity Anomaly 研究会論文集		106-111		1(1)イ			気象庁
橋本雅彦・森山多加志・西村三治・菅原政志・有田真	2009	雌阿寒岳の地磁気全磁力観測	月刊地球	31	684-688		1(1)イ	1(1)ア		気象庁
大和田毅・吉武由紀	2009	桜島における地磁気観測	月刊地球	31	689-692		1(1)イ	1(1)ア		気象庁
高橋幸祐・大和田毅・大川隆志・熊坂信之・源泰拓	2009	草津白根山における地磁気全磁力観測	月刊地球	31	693-698		1(1)イ	1(1)ア		気象庁
熊坂信之・大和田毅・長谷川浩・山本哲也	2009	安達太良山における地磁気全磁力観測	月刊地球	31	699-704		1(1)イ	1(1)ア		気象庁
笹岡雅宏・清水淳平・大川隆志・増子徳道・大和田毅	2009	三宅島における地磁気全磁力観測	月刊地球	31	705-712		1(1)イ	1(1)ア		気象庁
中島新三郎・芥川真由美	2009	雲仙岳での地磁気観測	月刊地球	31	713-716		1(1)イ	1(1)ア		気象庁
生駒良友・豊留修一・石田憲久・森永健司・有村雄一・中橋正樹・海東恵美	2009	阿蘇山における地磁気観測	月刊地球	31	717-720		1(1)イ	1(1)ア		気象庁
山崎明ほか	2010	吾妻山における地球電磁気観測	Conductivity Anomaly 研究会論文集				1(1)イ	1(1)ア		気象庁
山本剛靖・小林昭夫	2009	近畿地方北部で観測された地殻歪の長期的変化	気象研究所研究報告	60	17-24	○	1(1)イ		敦賀・今津ボアホール3成分歪計の12.5年間のデータについて季節変化や降水影響を補正し、東海スロースリップの歪変化と方位が整合的な変化を見いだした。	気象庁
<b>ウ. 東海・東南海・南海地域</b>										
Kobayashi, T. and M. Hashimoto	2007	Change of strain rate and seismicity in the Chubu district, Central Japan, associated with a Tokai slow event	Earth Planets Space	59	351-361	○	1(1)ウ			北海道大
Sasai, Y., M. J. S. Johnston, Y. Tanaka, R. Mueller, T. Hashimoto, M. Utsugi, S. Sakanaka, M. Uyeshima, J. Zlotnicki and P. Yvetot	2007	Drag-out effect of piezomagnetic signals due to a borehole: The Mogi source as an example	Annali di Geofisica	50	93-104	○	1(1)ウ			北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
渡部豪・田所敬一・杉本慎吾・奥田隆・生田領野・安藤雅孝・武藤大介・木元章典・久野正博	2009	熊野灘での海底地殻変動観測によるプレート固着状態推定：現状と展望	測地学会誌	55	39-51	○	1(1)ウ	3(1)ア		名古屋大
田所敬一・杉本慎吾・武藤大介・渡部豪・生田領野・安藤雅孝・奥田隆・木元章典・佐柳敬造・久野正博	2008	駿河-南海トラフにおける海底地殻変動繰り返し観測	測地学会誌	54	127-139	○	1(1)ウ	3(1)ア		名古屋大
Tadokoro, K., M. Ando, R. Ikuta, T. Okuda, G. M. Besana, S. Sugimoto, and M. Kuno	2006	Observation of coseismic seafloor crustal deformation due to M7 Class offshore earthquakes	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.2929/2006GL026742	○	1(1)ウ	3(1)ア		名古屋大
安藤雅孝	2006	地震予知に向けた最近の研究	地質と調査	108	2-9		1(1)ウ	3(1)ア		名古屋大
安藤雅孝	2006	次の東海地震はどこだ	名大環境学研究所 地震火山・防災研究センター		96		1(1)ウ	3(1)ア		名古屋大
安藤雅孝・中村衛・松本剛・古川雅英・田所敬一・古本宗充	2006	スマトラ地震と琉球海溝の沈み込みについて：海底地殻変動観測の必要性	月刊地球号外	56	111-116		1(1)ウ	3(1)ア		名古屋大
伊藤武男	2006	地震火山・防災研究センターの観測網のIP網化について	名古屋大学全学 技術センター (理学)装置開発 系技術報告	1	41-44		1(1)ウ			名古屋大
仮屋新一・伊藤武男・山内常生・木股文昭	2006	石英管伸縮計で観測された低周波地震活動に関する歪変化	東濃地震科学研究所報告	20	185-196		1(1)ウ			名古屋大
澁谷拓郎, 平原和朗, 上野友岳	2009	レシーバ関数解析による地震波速度不連続構造	地震	61	S199-S207	○	1(1)ウ	2(1)ウ	レシーバ関数を計算する手法, レシーバ関数の波形インバージョンにより速度構造を推定する方法, レシーバ関数の共通変換点重合により速度不連続面を推定する方法について, レビューを行った。	京大防災研
Shibutani, T., T. Ueno and K. Hirahara	2008	Improvement in the extended-time multitaper receiver function estimation technique	Bull. Seism. Soc. Am.	98	812-816	○	1(1)ウ	2(1)ウ	レシーバ関数を計算する際のデコンボリューションを安定して行うために, 時間拡張マルチテーパ法の改良を行った。	京大防災研
Ueno T., T. Shibutani and K. Ito	2008	Subsurface structures derived from receiver function analysis and relation to hypocenter distributions in the region from the eastern Shikoku to the northern Chugoku districts, Southwest Japan	Earth Planets Space	60	537-579	○	1(1)ウ	2(1)ウ	西南日本合同観測のデータを用いて, 室戸岬から鳥取県西部に至る測線においてレシーバ関数イメージを求め, この地域に沈み込むフィリピン海プレート周辺の構造について議論した。	京大防災研
Ueno T., T. Shibutani and K. Ito	2008	Configuration of the continental Moho and Philippine Sea Slab in Southwest Japan derived from receiver function analysis: Relation to subcrustal earthquakes	Bull. Seism. Soc. Am.	98	2416-2427	○	1(1)ウ	2(1)ウ	近畿・中国・四国地方の定常観測点のデータを用いて, この地域の多数の測線におけるレシーバ関数イメージを求め, この地域に沈み込むフィリピン海プレートの形状を推定した。	京大防災研・北海道大
浅田照行・梅田康弘・辰己賢一・重富國宏・木村昌三・川谷和夫・大村誠	2007	高知県黒潮町佐賀における海水・淡水境界面の観測	京都大学防災研究所年報	50B	321-326		1(1)ウ			京大防災研
金田義行	2007	南海トラフ巨大地震震源域に展開する海底ネットワーク	科学	77(3)			1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
YOSHIYUKI KANEDA, SHUICHI KODAIRA	2009	Structural Research on the Nankai Trough Using Reflections and Refractivities	Journal of Disaster Research	4(2)	67-71	○	1(1)ウ	1(2)(2-1)ア		JAMSTEC
金田義行	2010	海溝型巨大地震・津波観測システム	未来材料				1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
大堀道広, 中村武史, 有吉慶介, 神谷眞一郎, 松本浩幸, 荒木英一郎, 佐久間淳, 川口勝義, 坪井誠司, 金田義行	2010	DONETで測定できる最大加速度に関する検討	JAMSTEC Report of Research and Development	11	17-31	○	1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口勝義	2007	海底高密度リアルタイム観測ネットワークと海中作業技術	社団法人日本深海技術協会会報				1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口勝義	2007	地震・津波稠密海底観測網の開発	月刊地球	29	529-533		1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口勝義, 金田義行, 荒木英一郎	2007	海底高密度リアルタイム観測ネットワークのデザインコンセプト	海洋理工学会誌	13	58-63		1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口勝義	2009	深海底リアルタイムネットワークの構築	日本マリンエンジニアリング学会誌	44			1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
KATSUYOSHI KAWAGUCHI, Sho Kaneko, Takato Nishida, Tetsuya Komine	2009	Cable Laying ROV for Real-time Seafloor Observatory Network Construction	Proceedings of OCEANS '09 IEEE Bremen	22	No. 1		1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口勝義	2010	リアルタイム海底観測点展開のための基盤設備と周辺技術	海洋調査技術学会誌				1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口勝義	2010	海洋地球科学観測用海底ケーブルシステム	光海底ケーブル				1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口勝義, 金子 将, 西田孝人, 小嶺哲也	2011	Construction of Real-time Seafloor Observatory for Earthquakes and Tsunami Monitoring	Praxis book on Seafloor Observatories			○	1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
川口 勝義	2011	通信用海底ケーブル技術の科学利用	電気学会誌			○	1(1)ウ	3(1)ウ		JAMSTEC
松本浩幸, 馬場俊孝, 柏瀬憲彦, 金田義行, 三須敏郎, 堀哲郎	2010	2009年8月11日に駿河湾で発生した地震による深層水取水管の被災とその要因	土木学会論文集 B2(海岸工学)	66	1366-1370	○	1(1)ウ	2(1)イ		JAMSTEC
木下 正高・笠谷 貴史・後藤 忠徳・浅川 賢一・岩瀬 良一・満澤 巨彦	2006	伊豆東方沖地震に誘発された相模湾初島沖の海底地すべり	日本地すべり学会誌	43	41-43	○	1(1)ウ	2(1)イ		JAMSTEC
笠谷貴史, 月岡哲, 山本富士夫, 百留忠洋, 澤隆雄, 吉田弘, 石橋正二郎, 田原淳一郎, 木下正高, 青木太郎	2007	深海巡航AUV「うらしま」によって得られた相模湾初島沖の海底地すべり音響イメージ	海洋調査技術	19	11-17	○	1(1)ウ	2(1)イ		JAMSTEC
Takafumi Kasaya	2007	Multidisciplinary observations at an expandable sub-marine cabled station off the Hatsushima island, the Sagami bay, Japan	月刊地球		674-676		1(1)ウ	2(1)イ		JAMSTEC
Takafumi Kasaya, Tada-nori Goto, Kiyoshi Baba, Masataka Kinoshita, Yozo Hamano, Yoshio Fukao	2009	Recent progress of the Electro-Magnetic survey to investigate Earths interior	JAMSTEC Report of Research and Development			○	1(1)ウ	2(1)イ		JAMSTEC
Takafumi Kasaya, Toshiya Kanamatsu, Takao Sawa, Masataka Kinoshita, Satoshi Tukioka, Fujio Yamamoto	2011	Acoustic images around the submarine fan system of northern kumano basin obtained during the eperimental dives of the deep sea AUV URASHIMA	Exploration Geophysics	42	80-87	○	1(1)ウ	2(1)イ		JAMSTEC
笠谷 貴史	2010	相模湾初島沖で捉えられた泥流の姿	月刊地球号外	61	175-182		1(1)ウ	2(1)イ		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
小泉尚嗣	2006	地震予測のための地下水観測システム	産総研ブックス 「きちんとわかる 巨大地震」 (白日社)		191-203		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
小泉 尚嗣, 板場 智史	2006	東南海・南海地震予測のための地下水等総合 観測施設整備	東濃地震科学研 究所報告	20	179-183		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
Itaba, S. and N. Koizumi	2007	Earthquake-related changes in groundwater levels at the Dogo hot spring, Japan	Pure Appl. Geophys.	164	2397- 2410	○	1(1)ウ		過去の南海地震に対して、繰り返し湧水量や水位を低下させている道後 温泉の水位変化を評価した。同温泉は、地震動や地殻の体積歪変化に対 して敏感に水位を変化させることが判明した。通常は地震動の寄与の方 が大きくて地震後水位が増加するが、近傍で巨大地震が生じた時は体積 歪変化の寄与が地震動の寄与を上回る。1946年南海地震に伴う10m以上 の水位低下も地震時体積歪変化で定量的に説明出来ることがわかった。	産総研
Matsumoto, N., Y. Kitagawa and N. Koizumi	2007	Detectability of groundwater level anomalies caused by a hypothetical preslip prior to the anticipated Tokai earthquake in the groundwater observation network of Geological Survey of Japan, AIST	Pure Appl. Geophys.	164	2377- 2396	○	1(1)ウ	3(3)ア	想定東海地震前に震源域周辺で前兆すべりが生じると仮定したときの、 前兆的地下水水位変化の検出精度について評価した。	産総研
小泉 尚嗣, 松本 則夫, 板場智史	2007	地下水と地震予知-地下水観測による地震前後 の地殻変動の推定-	地震ジャーナル	43	11-18		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
松本 則夫, 板場 智史	2007	東南海・南海地震予測のための地下水等総合 観測ネットワーク	月刊地球	29-6	406-411		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
小泉 尚嗣	2009	地下水等総合観測による巨大地震予測	日本地球惑星科 学連合ニュース レター	5-2	3-5		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
小泉 尚嗣, 高橋 誠, 松本 則夫, 佐藤努, 大谷 竜, 北川 有一, 板場 智史, 梅田 康弘, 武田 直 人	2009	地下水等総合観測による東海・東南海・南海 地震予測	地質ニュース	663	29-34		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
小泉 尚嗣, 高橋 誠, 松本 則夫, 佐藤努, 大谷 竜, 北川 有一, 板場 智史, 梅田 康弘, 武田 直 人, 重松 紀生, 桑原保人, 佐藤 隆司, 今西 和 俊, 木口 努, 関 陽児, 塚本 斉, 山口 和雄, 加 野 直巳, 住田 達哉, 風早 康平, 高橋 正明, 高 橋 浩, 森川 徳敏, 角井 朝昭, 下司信夫, 中島 隆, 中江 訓, 大坪 誠, 及川輝樹, 干野真	2009	東南海・南海地震予測のための地下水等総合 観測点整備について	地質ニュース	662	6-10		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
松本 則夫	2009	東南海・南海地震予測のための地下水等デー タの通信・表示・解析システムの紹介	地質ニュース	662	42-44		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
大谷 竜, 板場 智史, 北川 有一, 佐藤努, 松本 則夫, 高橋 誠, 小泉 尚嗣	2009	新規地下水等総合観測網による短期的ゆっ くり滑りの検出能力の事前評価	地質ニュース	662	51-54		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
北川 有一, 板場 智史, 武田 直人, 小泉 尚嗣	2009	地殻歪観測による短期的ゆっくり滑りのモニ タリング	地質ニュース	662	55-59		1(1)ウ	3(3)ア		産総研
Itaba, S., N. Koizumi, M. Matsumoto and R. Ohtani	2010	Continuous Observation of Groundwater and Crustal Deformation for Forecasting Tonankai and Nankai Earthquakes in Japan	Pure Appl. Geophys.	167	1105- 1114	○	1(1)ウ	3(3)ア	東南海・南海地震予測のために紀伊半島～四国周辺に展開した、産総研 の地下水等総合観測施設による紀伊半島のゆっくり滑り検出結果につ いて報告した。また、同観測網によるゆっくり滑り検出能力について評価 した。	産総研
小林昭夫	2006	GPS東海地域6時間解析値の面的監視	験震時報	70	67-72		1(1)ウ			気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
吉田明夫・小林昭夫・塚越利光	2006	富士山直下の低周波地震活動は2000年秋になぜ活発化したか？	地震	58	401-406	○	1(1)ウ			気象庁
小林昭夫・山本剛靖・中村浩二・木村一洋	2006	歪計により観測された東海地域の短期スロースリップ(1984~2005年)	地震	59	19-27	○	1(1)ウ			気象庁
鎌谷紀子・勝間田明男	2007	東海地域のスロースリップと深部低周波微動および地震活動変化	月刊地球	29	397-405		1(1)ウ			気象庁
山崎 明, 青木 重樹, 吉田 康宏, 小林昭夫, 勝間田 明男, 阿部 正雄, 森脇 健, 大河原 斉揚, 長田 芳一, 松岡 英俊, 吉田 知央, 関谷 博, 新納 孝壽, 平松 秀行	2007	海底地震計を用いた2004年紀伊半島南東沖地震の余震観測	気象研究所研究報告	59	65-82	○	1(1)ウ			気象庁
Yamamoto, T.,	2007	Continuous observation of crustal movement by the Japan Meteorological Agency	J. Geod. Soc. Japan	53	147-156	○	1(1)ウ			気象庁
Yamamoto, T., A. Kobayashi, A. Katsumata, and S. Mori	2008	Evaluation of detection level of crustal deformation observation in the time domain through power spectrum analysis	J. Geod. Soc. Japan	54	81-91	○	1(1)ウ			気象庁
Ide, S., K. Imanishi, Y. Yoshida, C. Beroza and D. R. Shelly	2008	Bridging the gap between seismically and geodetically detected slow earthquakes	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10.1029/2008GL034014	○	1(1)ウ			気象庁
小林昭夫	2008	潮位記録を用いた地殻上下変動推定のための津村による海域区分の検証	験震時報	71	1-17		1(1)ウ			気象庁
小林昭夫	2010	四国西部において2005年に発生した小規模な長期的スロースリップ	地震	63	97-100	○	1(1)ウ	1(2)(2-1)ア		気象庁
Katsumata, A., T. Yamamoto, A. Kobayashi, N. Hamada, and S. Yoshikawa	2010	Evaluation of detection level of crustal deformation observation in the time domain through power spectrum analysis — Investigation of a long-baseline laser extensometer—	J. Geod. Soc. Japan	56	107-116	○	1(1)ウ	3(3)ア	長基線レーザー伸縮計の記録を評価し、東海長期的スロースリップについて、GPSよりも早期に検知できる可能性を示した。	気象庁
Kobayashi, A. and T. Yamamoto	2011	Repetitive long-term slow slip events beneath the Bungo Channel, southwestern Japan, identified from leveling and sea level data from 1979 to 2008	J. Geophys. Res.	116	doi:10.1029/2010JB007822	○	1(1)ウ	1(2)(2-1)ア	GPSによって確認されていた豊後水道におけるスロースリップについて、水準測量及び潮位記録から、GPS観測以前についても繰り返し発生していたことを見いだした。	気象庁
吉田康宏	2011	精密制御震源(アクロス)を用いた地殻活動モニタリング 2.1.アクロスの原理と解析方法 2.2.森町のアクロス送信装置概要 2.3.受信データ解析	気象研究所技術報告	63	88-148		1(1)ウ	3(3)ア		気象庁
岩切一宏	2011	精密制御震源(アクロス)を用いた地殻活動モニタリング 2.4.短スパン地震計アレイ観測	気象研究所技術報告	63	149-161		1(1)ウ	3(3)ア		気象庁
小林昭夫	2011	潮位記録による地殻上下変動の推定 3.1.舞阪の潮位変化から推定される東海スロースリップの繰り返し発生	気象研究所技術報告	63	162-167		1(1)ウ	1(2)(2-1)ア		気象庁
勝間田明男	2011	新地殻変動観測手法の開発 4.2.技術要素	気象研究所技術報告	63	197-216		1(1)ウ	3(3)ア		気象庁



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
山崎明	2011	地震活動によるプレートの詳細構造の解明 1.1. 南海トラフ沿いの海域で実施した自己浮上式海底地震計観測 1.2. 紀伊半島南方沖の南海トラフ周辺の微小地震活動について	気象研究所技術報告	63	1-47		1(1)ウ			気象庁
山本剛靖	2011	新地殻変動観測手法の開発 4.1. 必要性とその背景 4.3. 天竜船明観測点における観測の結果	気象研究所技術報告	63	217-238		1(1)ウ	1(2)(2-1)ア		気象庁
Yoshida, A., K. Hosono, H. Takayama, A. Kobayashi and K. Maeda	in press	Seismic and geodetic evidence for the existence of hot materials beneath the Wakayama swarm activity, southwestern Japan	Tectonophys.	In press		○	1(1)ウ			気象庁
吉田康宏・勝間田明男・岩切一宏	2007	低周波アクロスによる東海監視 - 静岡県森町 -	月刊地球	29	498-505		1(1)ウ	3(3)ア		気象庁

## (2) 地震・火山現象に関する予測システムの構築

### (2-1) 地震発生予測システム

#### ア. 地殻活動予測シミュレーションとデータ同化

Ariyoshi, K., T. Matsuzawa, and A. Hasegawa	2007	The key frictional parameters controlling spatial variations in the speed of postseismic slip propagation on a subduction plate boundary	Earth Planet. Sci. Lett.	256	136-146, doi:10.1016/j.epsl.2007.01.019	○	1(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ	余効すべりの伝播速度は主として有効法線応力で規定され、観測されている余効すべりの伝播速度を説明するためには、プレート境界の有効法線応力が静岩圧よりもずっと小さい必要があることを示した。	東北大
Ariyoshi, K., T. Matsuzawa, R. Hino, and A. Hasegawa	2007	Triggered non-similar slip events on repeating earthquake asperities: Results from 3D numerical simulations based on a friction law	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2006GL028323	○	1(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ	小さなアスペリティでは普段はまったく同じ地震が繰り返し発生するが、隣接する大きな地震の余効すべり等の擾乱が押し寄せたときは、普段と破壊過程が異なったり、スローイベントになってしまうことを示した。	東北大
内田直希・松澤暢・三浦哲・平原聡・長谷川昭	2007	小繰り返し地震解析による宮城・福島県沖プレート境界の準静的すべり	地震	59	287-295	○	1(2)(2-1)ア	1(1)イ		東北大
Ariyoshi, K., T. Hori, J. Ampuero, Y. Kaneda, T. Matsuzawa, R. Hino, and A. Hasegawa	2009	Influence of interaction between small asperities on various types of slow earthquakes in a 3-D simulation for a subduction plate boundary	Gondwana Research	16	534-544	○	1(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		東北大・JAMSTEC
Ariyoshi, K., T. Matsuzawa, Y. Yabe, N. Kato, R. Hino, and A. Hasegawa	2009	Character of slip and stress due to interaction between fault segments along the dip direction of a subduction zone	J. Geodyn.	48	55-67	○	1(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		東北大・JAMSTEC
Uchida, N., J. Nakajima, A. Hasegawa, and T. Matsuzawa	2009	What controls interplate coupling?: Evidence for abrupt change in coupling across a border between two overlying plates in the NE Japan subduction zone	Earth Planet. Sci. Lett.	283	111-121	○	1(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ	上盤プレートが異なる、東北沖から関東沖のプレート境界について、地震の滑りベクトルから、フィリピン海プレート (PHS) の北東縁の位置を推定した。次に、小繰り返し地震の積算すべりから、太平洋プレート上面のプレート間固着が、上盤が北米プレートである北で大きく、PHSである南で小さいことを明らかにした。さらに、地震波トモグラフィから、その原因が上盤プレートマントル最下部の蛇紋岩化にあると推定した。	東北大・東大地震研
Uchida, N., T. Matsuzawa, J. Nakajima, and A. Hasegawa	2010	Subduction of a wedge-shaped Philippine Sea plate beneath Kanto, central Japan, estimated from converted waves and small repeating earthquakes	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006962	○	1(2)(2-1)ア	2(1)ア	関東下のフィリピン海プレート (PHS) 下面で発生する小繰り返し地震の波形中に上面での変換波を見出し、PHSの上面深度および厚さを推定した。変換波の走時とPHS上の地震位置から、PHSは北東に向い薄くなる楔形をし、東部で沈み込み角度がゆるく、北東縁付近で上向きに曲がっていると推定された。この形状は、PHSが沈み込み前の形状を維持しつつ太平洋プレートと相互作用することにより形成されたと考えられる。	東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Mitsui, N., T. Hori, S. Miyazaki and N. Kato	2010	Data assimilation of an earthquake generation cycle model on a 2-D fault with interseismic data	Theoretical and Applied Mechanics Japan	59	347-357	○	1(2)(2-1)ア			名古屋大
Hori, T., S. Miyazaki and N. Mitsui	2009	An earthquake generation cycle model with scale dependent frictional property - Preliminary results and research plan for the project of evaluation for the coming Tokai, Tonankai and Nankai earthquakes	Journal of Disaster Research	4	111-117	○	1(2)(2-1)ア			名古屋大
Mitsui, Noa and K. Hirahara	2006	Slow slip events controlled by the slab dip and its lateral change along a trench	Earth Planet. Sci. Lett.	245	344-358	○	1(2)(2-1)ア			名古屋大
Hok, S. and Fukuyama, E.	2009	Dynamic rupture of shallow 3D dipping fault earthquakes using a newBIEM technique for half-space medium	EOS Trans. Am. Geophys. Union		S31A-1695		1(2)(2-1)ア	1(2)(2-1)イ		防災科研
Hok, S. and Fukuyama, E.	2011	A new BIEM for rupture dynamics in half-space and its application to the2008 Iwate-Miyagi Nairiku earthquake	Geophys. J. Int.	184	301-324	○	1(2)(2-1)ア	1(2)(2-1)イ		防災科研
Hok, S., Fukuyama, E., and Hashimoto, C.	2010	Dynamic rupture segmentation along the Nankai Trough, southwest Japan	EOS Trans. Am. Geophys. Union		T14B-08		1(2)(2-1)ア	1(2)(2-1)イ		防災科研
T. Matsuzawa, H. Hirose, B. Shibazaki, K. Obara	2010	Modeling short- and long-term slow slip events inthe seismic cycles of large subduction earthquakes	J. Geophys. Res.	115	B12301, doi:10.1029/2010JB007566	○	1(2)(2-1)ア	1(1)ウ		防災科研
B. Shibazaki, S. Bu, T. Matsuzawa, H. Hirose	2010	Modeling the activity of short-term slow slip eventsalong deep subduction interfaces beneath Shikoku, southwest Japan	J. Geophys. Res.	115	B00A19, doi:10.1029/2008JB006057	○	1(2)(2-1)ア	1(1)ウ		防災科研
高山博之・黒木英州・前田憲二	2007	シミュレーションを用いた東南海・南海地震の発生順序について	気象研究所研究報告	58	127-134	○	1(2)(2-1)ア			気象庁
弘瀬冬樹・中島淳一・長谷川昭	2007	Double-Difference Tomography法による西南日本の3次元地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定	地震	60	1-20	○	1(2)(2-1)ア			気象庁・東北大
高山博之・前田憲二・弘瀬冬樹	2008	南海トラフ沿い大地震の開始位置に与えるプレート境界の形状の効果	地震	60	279-284	○	1(2)(2-1)ア			気象庁
甲斐玲子・前田憲二・高山博之	2008	想定震源域付近で地震が発生した場合の東海地震への影響	験震時報	71	79-87		1(2)(2-1)ア			気象庁
弘瀬冬樹・前田憲二・高山博之	2009	南海トラフ沿い巨大地震の破壊開始点および発生時期の推定 - フィリピン海スラブの3次元沈み込み形状を用いた地震発生シミュレーション	月刊地球	31(5)	255-263		1(2)(2-1)ア	1(1)ウ		気象庁
弘瀬 冬樹・前田 憲二・高山 博之	2009	東海地域の長期的スロースリップイベントおよび地震サイクルの再現の試み,	地震	62	67-84	○	1(2)(2-1)ア		東海地域の長期的スロースリップイベントと東海地震のシミュレーションを行った。弘瀬・他(2007, 地震2)のプレート形状を用い、東海地域のスロースリップのモデルを改良することにより、観測されているスロースリップの領域、すべり量と整合的なモデルを他の研究に先駆けて作成するとともに、スロースリップを繰り返しながら東海地震に至る可能性があることを示した。	気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
木村一洋・前田憲二・弘瀬冬樹	2010	1935年および1965年の静岡地震による東海地震の発生時期への影響	験震時報	73	165-168		1(2)(2-1) ア	1(1)イ		気象庁
弘瀬冬樹・前田憲二	2011	GPSデータを用いた摩擦パラメータ(a-b)の推定	気象研究所技術報告	63	255-265		1(2)(2-1) ア	1(1)ウ		気象庁
イ. 地殻活動予測シミュレーションの高度化										
Hashimoto, C., E. Fukuyama, T. Terakawa, T. Sagiya, K. Nakajima, T. Sato, T., and M. Matsu'ura	2009	Development of a predictive simulation system for crustal activities in and around Japan - VII	Annual Report of the Earth Simulator Center, the Earth Simulator Center, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology				1(2)(2-1) イ			名古屋大
Hashimoto, C., A. Noda, T. Sagiya, and M. Matsu'ura	2008	Interplate seismogenic zones along the Kuril-Japan trench inferred from GPS data inversion	Nature Geoscience	2	141-144	○	1(2)(2-1) イ			名古屋大
Hashimoto, C., T. Sato, and M. Matsu'ura	2008	3-D simulation of steady plate subduction with tectonic erosion: Current crustal uplift and free-air gravity anomaly in northeast Japan	Pure Appl. Geophys.	165	567-583	○	1(2)(2-1) イ			名古屋大
Matsu'ura, M., A. Noda, A., T. Terakawa, C. Hashimoto, T. Sagiya, E. Fukuyama, K. Nakajima, and T. Sato	2008	Development of a predictive simulation system for crustal activities in and around Japan - VI	Annual Report of the Earth Simulator Center, the Earth Simulator Center, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology				1(2)(2-1) イ			名古屋大
今西和俊・長郁夫・桑原保人・平田直・Panayotopoulos, Y	2006	糸魚川-静岡構造線活断層系中・南部域における微小地震の発震機構解	活断層・古地震研究報告	6	55-70		1(2)(2-1) イ			産総研
木口努・桑原保人	2006	掘削直後の孔径変化を利用した浅部応力方位測定法の管固断層周辺への適用	活断層・古地震研究報告	6	153-161		1(2)(2-1) イ			産総研
干野真, 桑原保人, 今西和俊, 長郁夫, 武田哲也	2007	2004年新潟県中越地震震源域南端部の微小地震活動と速度構造	活断層・古地震研究報告	7	173-180		1(2)(2-1) イ			産総研
今西和俊, 桑原保人	2007	応力テンソルインバージョンによる内陸活断層周辺の応力場推定	月刊地球	29	329-334		1(2)(2-1) イ			産総研
長郁夫, 桑原保人	2007	応力トリガリング評価法の高度化のための基礎解析	活断層・古地震研究報告	7	273-292		1(2)(2-1) イ			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
長郁夫, 松下レイケン, 中井未里, 今西和俊, 干野真, 桑原保人, 水野高志, 武田哲也	2007	S波異方性解析のための自動データ処理システムの試作	地震	60	107-116	○	1(2)(2-1)イ			産総研
Mizuno, T., Y. Kuwahara, H. Ito, and K. Nishigami	2008	Spatial Variations in Fault - Zone Structure along the Nojima Fault, Central Japan, as Inferred from Borehole Observations of Fault - Zone Trapped Waves	Bull. Seism. Soc. Am.	98	558-570	○	1(2)(2-1)イ		野島断層の富島および平林におけるボアホール地震計で共通に観測される断層トラップ波を検出した。差分法による波形モデリングにより野島断層の破碎帯構造が断層中央部から南西端にかけて幅が広がる構造を持つことを推定した。	産総研・京大防災研
Pervukhina, M., and Y. Kuwahara	2008	Correlations between electrical and elastic properties of solid-liquid composites with interfacial energy-controlled equilibrium microstructures	Earth Planet. Sci. Lett.	265	410-422	○	1(2)(2-1)イ			産総研
今西 和俊・桑原 保人・長 郁夫・干野 真・武田 哲也・針生 義勝	2008	2004年新潟県中越地震の震源域南部隣接域の地震空白域における臨時地震観測	地質ニュース	649	16-22		1(2)(2-1)イ			産総研
長 郁夫・桑原 保人	2008	物理モデルに基づく六日町断層の長期評価への取り組み	地質ニュース	649	32-36		1(2)(2-1)イ			産総研
Cho, I, T. Tada, Y. Kuwahara	2009	Stress triggering of large earthquakes complicated by transient aseismic slip episodes	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB006125	○	1(2)(2-1)イ		近隣の地震がもたらす静的な応力変化が危険活断層の地震発生にどのような影響を与えるかについて、状態と速度に依存する摩擦則に従う断層の物理モデルを用いて調べた。その結果、地震サイクルのどの時期に応力擾乱が与えられるかによって次の地震が遅れるか早まるかが系統的に変化することがわかった。この原因として、断層深部での非地震性すべりが原因となっていることが明らかにされた。	産総研
桑原保人	2009	内陸地震の物理モデルと予測	地質ニュース	663	14-18		1(2)(2-1)イ			産総研
木口努, 桑原保人, 佐藤凡子, 横山幸也	2010	浅部応力方位測定のためのレーザー式孔径変化測定装置の開発	地質調査研究報告	61	337-350		1(2)(2-1)イ			産総研
木口努・桑原保人	2010	松本盆地東縁断層北部周辺の浅部地殻応力方位測定	活断層・古地震研究報告	11	43-64		1(2)(2-1)イ			産総研
<b>ウ. 地震活動評価に基づく地震発生予測</b>										
Goltz, C., D. L. Turcotte, S. G. Abaimov, R. M. Nadeau, N. Uchida, and T. Matsuzawa	2009	Rescaled earthquake recurrence time statistics: application to microrepeaters	Geophys. J. Int.	176	256-264	○	1(2)(2-1)ウ	1(1)イ		東北大
Okada, M., N. Uchida, and S. Aoki	2011	Statistical forecasts and tests for small interplate repeating earthquakes along the Japan Trench	Earth Planets Space		in press doi:10.5047/eps.2011.02.008	○	1(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)ア		東北大
Nanjo, K. Z.	2008	Testing earthquake forecasts -Recent progress for Europe and implication for a first generation of Japanese testing center	一地震活動のモデルと予測に関する研究-統計数理研究所共同研究集会レポート 19-共研-5002		169-175		1(2)(2-1)ウ	4(5)		東大地震研
Hirata, N. T. H. Jordan, H. Tsuruoka and K. Z. Nanjo	2009	Call for Papers: Special Issue of Earth, Planets and Space (EPS) "Earthquake Forecast Testing Experiment for Japan"	Earth Planets Space	61	805		1(2)(2-1)ウ			東大地震研
楠城一嘉・鶴岡弘・笠原敬司・酒井慎一・平田直・小原一成	2009	首都圏の地震カタログの統合へ向けた品質評価	東京大学地震研究所彙報	84	145-152		1(2)(2-1)ウ	1(3)ア		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
楠城一嘉・鶴岡弘・平田直・笠原敬司	2009	地震発生予測システムの構築に向けて-統計物理学者に望むこと-	物性研究	93	125-142		1(2)(2-1)ウ			東大地震研
Nanjo, K. Z., D. Schorlemmer, J. Woessner, S. Wiemer, and D. Giardini	2010	Earthquake detection capability of seismic networks in Switzerland	Geophys. J. Int.	181	1713-1724	○	1(2)(2-1)ウ	1(3)ア		東大地震研
Nanjo, K. Z.	2010	Earthquake forecast models for Italy based on the RI algorithm	Ann. Geophys.	53	117-127	○	1(2)(2-1)ウ	4(5)		東大地震研
平田 直	2010	地震発生予測: 現状と課題	電気協会報				1(2)(2-1)ウ			東大地震研
Nanjo, K. Z., T. Ishibe, H. Tsuruoka, D. Schorlemmer, Y. Ishigaki, and N. Hirata	2010	Analysis of completeness magnitude and seismic network coverage for Japan	Bull. Seism. Soc. Am.	100	3261-3268	○	1(2)(2-1)ウ	1(3)ア	本研究では、気象庁によって作成・管理されている、一元化震源カタログの性能評価を行った。下限マグニチュードという指標に従い、1965年以降に日本で起きた地震の震源データを評価したことで、建議の項目1(2)(2-1)ウに必要な基礎データを構築することが出来た。この情報を活用した統計モデルや物理モデルに基づく地震活動評価により、時空間的に高分解能な地震活動評価を行う手法を確立することが可能となる。	東大地震研
Nanjo, K. Z.	2011	Earthquake forecasts for the CSEP Japan experiment based on the RI algorithm	Earth Planets Space	63	261-274	○	1(2)(2-1)ウ	1(3)(3-1)ア		東大地震研
Ishibe, T., K. Shimazaki, H. Tsuruoka, Y. Yamanaka, and K. Satake	2011	Correlation between Coulomb stress changes imparted by large historical strike-slip earthquakes and current seismicity in Japan	Earth Planets Space	63	301-314	○	1(2)(2-1)ウ	1(3)(3-1)ア		東大地震研
Nanjo, K. Z., H. Tsuruoka, N. Hirata, and T. H. Jordan	2011	Overview of the first earthquake forecast testing experiment in Japan	Earth Planets Space	63	159-169	○	1(2)(2-1)ウ	4(5)	地震活動のデータに基づく確率論的な予測を行うことを目的とした1(2)(2-1)ウに沿って、本研究では、地震発生の準備過程や素過程を考慮した新しい地震活動予測手法を開発し、これを用いて地震活動の予測実験を行うために必要な評価基盤を構築した。この際に、同種の研究を行っているアメリカ、ヨーロッパ等の研究グループとの国際連携を図られた。	東大地震研
Yamashina, K. and K. Z. Nanjo	in press	An improved relative intensity model for earthquake forecast in Japan	Earth Planets Space			○	1(2)(2-1)ウ	1(3)(3-1)ア		東大地震研
Anderson, J. G. and K. Z. Nanjo	submitted	Distribution of earthquake cluster sizes in the western United States and in Japan	Bull. Seism. Soc. Am.			○	1(2)(2-1)ウ			東大地震研
Tsuruoka, H., N. Hirata, D. Schorlemmer, F. Euchner, K. Z. Nanjo and T. H. Jordan	submitted	CSEP Testing Center and the first results of the earthquake forecast testing experiment in Japan	Earth Planets Space			○	1(2)(2-1)ウ	4(5)	本論文では、1(2)(2-1)ウに沿って、統計モデルや物理モデルに基づいて地震活動を評価し、時空間的に高分解能な地震活動評価を行う手法を確立するために構築された研究基盤を利用して、地震発生予測検証実験が開始されたことを報告した。また本稿では、必要な震源データの品質管理や、地震活動予測手法を整理してデータに適用可能なソフトウェアの整備が当実験に有機的に活用されていることが実証されている。	東大地震研
Hirata, N., T. H. Jordan, H. Tsuruoka, K. Z. Nanjo	2011	Preface	Earth Planets Space	63	157		1(2)(2-1)ウ	4(5)		東大地震研
Nanjo, K. Z., H. Tsuruoka, S. Yokoi, Y. Ogata, G. Falcone, N. Hirata, Y. Ishigaki, T. H. Jordan, K. Kasahara, K. Obara, D. Schorlemmer, K. Shiomi, and J. Zhuang	submitted	Predictability study on the aftershock sequence following the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku, Japan, earthquake: First results	Geophys. Res. Lett.			○	1(2)(2-1)ウ	1(3)(3-1)ア		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Wang, D. and J. Mori	in press	Rupture Process of the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake (Mw 9.0) as Imaged with Back-Projection of Teleseismic P-waves	Earth Planets Space			○	1 (2) (2-1) ウ	2 (3) (3-2) ア	東北地方太平洋沖地震の破壊過程の推定のために、USArrayで観測されたデータを用いてバックプロジェクション解析を行った。破壊伝播速度と方向から、高周波の地震波の発生源はふたつの部分に分けられる。まず1.0-1.5 km/sという比較的遅い破壊伝播速度をもち北西に伝播した。つぎに破壊は南西に進展し、最初1.5 km/sだった伝播速度が約3.0 km/sまで加速した。破壊速度の変化は断層面上の物性の大きな変化によるものである可能性がある。	京大防災研
Smyth, C. and J. Mori	2011	Statistical models for temporal variations of seismicity parameters to forecast seismicity rates in Japan	Earth Planets Space	63	doi:10.5047/eps.2010.10.001	○	1 (2) (2-1) ウ	1 (3) ア	この論文は、ある期間と地域を区切って、地震の発生頻度を予測するモデルを提出した。このモデルは地震の発生数とそのグーテンベルグ・リヒター則のb値を自己帰帰過程として予測するものである。密度の推定と時間変化に関する仮定が他のモデルと異なっていることが特徴である。このモデルは日本の「第1回地震発生予測検証実験」で最も予測に成功したモデルとなった。	京大防災研
Smyth, C., J. Mori, C. Jiang	2010	Model Ensembles for Prediction of Wenchuan Aftershock Activity	Bull. Seism. Soc. Am.	100	doi:10.1785/0120090300	○	1 (2) (2-1) ウ	1 (3) ア		京大防災研
Enescu, B., J. Mori, M. Miyazawa, Y. Kano	2009	Omori-Utsu Law c-Values Associated with Recent Moderate Earthquakes in Japan	Bull. Seism. Soc. Am.	99	doi:10.1785/0120080211	○	1 (2) (2-1) ウ	1 (3) ア		京大防災研
Miyazawa, M. and J. Mori	2009	Test of Seismic Hazard Map from 500 Years of Recorded Intensity Data in Japan	Bull. Seism. Soc. Am.	99	doi:10.1785/0120080262	○	1 (2) (2-1) ウ			京大防災研
Mori, J.	2008	Determination of Dip Direction for the 2007 Niigata-ken Chuetsu-Oki Earthquake from Relocation of Aftershocks Using Arrival Times Determined by Cross-Correlation	Earth Planets Space	60	1117-1120	○	1 (2) (2-1) ウ	2 (3) (3-2) ア		京大防災研
Mori, J., Y. Kano, B. Enescu	2008	Comparison of Early Aftershock Sequences for the 2004 Mid-Niigata and 2007 Noto Hanto Earthquakes in Central Japan	Earth Planets Space	60	151-154	○	1 (2) (2-1) ウ	1 (3) ア	2004年新潟県中越地震と2007年能登半島地震の連続記録を解析し、地震発生直後の余震活動を比較した。このふたつの地震の本震はほぼ同じ大きさ・深さ・発震機構をもつが、余震の発生数は大きく異なり、中越地震のほうがかなり活発であった。本震後最初の数分間はふたつの地震での余震の発生はほぼ同じであったが、中越地震では、本震発生から7分後から余震の活発化がみられ、この状態が継続した。中越地震でのこの余震活動の変化は断層帯での流体の効果によるものと推定した。	京大防災研
Park, S. and J. Mori	2007	Are Asperity Patterns Persistent? Implication from Large Earthquakes in Papua New Guinea	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004481	○	1 (2) (2-1) ウ	2 (3) (3-2) ア	バブアニューギニアのニューブリテン海溝沿いで発生する大地震についてアスペリティの分布を解析した。我々は、1971年の2つの地震 (Mw8) のすべり分布をPdiffフェイズを用いて決め、1995年のM7.9の地震のすべり分布を遠地直達P波を用いて決めた。沈み込み帯の同じ場所がすべてであるにもかかわらず、同じそれぞれの地震のアスペリティは重なり合っておらず、この地域では、繰り返し発生する大地震のアスペリティは永続的ではないことがわかった。	京大防災研
Enescu, B. J. Mori, M. Miyazawa	2007	Quantifying early aftershock activity of the 2004 mid-Niigata Prefecture earthquake (Mw6.6)	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004629	○	1 (2) (2-1) ウ	1 (3) ア		京大防災研
Yamada, M., S. Park, J. Mori	2007	The 2007 Noto Peninsula, Japan Earthquake (Mw6.7): Damage to wooden structures	Seismol. Res. Lett.	79	20-24	○	1 (2) (2-1) ウ	2 (3) (3-2) ア		京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Sato, K. and J. Mori.	2006	Relationship between rupture complexity and earthquake size	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005jb003614	○	1(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		京大防災研
Miyazawa, M. and J. Mori	2006	Evidence suggesting fluid flow beneath Japan due to periodic seismic triggering from the 2004 Sumatra-Andaman earthquake	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2005GL025087	○	1(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		京大防災研
Miyazawa, M. and J. Mori	2006	Recorded Maximum Seismic Intensity Maps in Japan from 1586 to 2004	Seismol. Res. Lett.	77	154-158	○	1(2)(2-1)ウ	1(3)ア		京大防災研
Nagao, T., A. Takeuchi, and K. Nakamura	2011	A new algorithm for the detection of seismic quiescence: introduction of the RTM algorithm, a modified RTL algorithm	Earth Planets Space	63	315-324	○	1(2)(2-1)ウ		地震活動静穏化現象をより効率良く抽出できる新しいアルゴリズムの開発を行った。その結果、これまで静穏化現象が報告されていなかった2007年能登半島地震や2008年岩手宮城内陸地震でも明瞭な静穏化現象を確認する事に成功した。また広域の静穏化と局所的な活性化がペアで生じている可能性が極めて高い事を指摘した。	東海大
井元政二郎	2009	地震活動のモデル検定について	地震	61	207-209	○	1(2)(2-1)ウ	1(3)イ		防災科研
M. Imoto	2011	Performance of a seismicity model for earthquakes in Japan ( $M \geq 5.0$ ) based on P-wave velocity anomalies	Earth Planets Space	63	289-299	○	1(2)(2-1)ウ	1(3)イ		防災科研
Imoto, M., D. Rhoades, H. Fujiwara, and N. Yamamoto	2011	Conventional N-, L-, and R-tests of earthquake forecasting models without simulated catalogs	Earth Planets Space	63	275-287	○	1(2)(2-1)ウ			防災科研
伊藤秀美・明田川保	2006	余震活動解析プログラムの改良	験震時報	70	15-28		1(2)(2-1)ウ			気象庁
岡田正実・高山博之・弘瀬冬樹・内田直希	2007	地震長期発生確率予測に使用する更新過程対数正規分布モデルのパラメータ事前分布	地震	60	85-100	○	1(2)(2-1)ウ			気象庁・東北大
岡田正実	2009	繰り返し地震および余震の確率予測	地震	61	S143-S153	○	1(2)(2-1)ウ			気象庁
Hirose, F. and K. Maeda	2010	Earthquake Forecast Models for Inland Japan Based on the G-R Law and the Modified G-R Law	Earth Planets Space	63	239-260	○	1(2)(2-1)ウ	1(1)ア	地震の規模別頻度分布をGutenberg-Richter (G-R)則またはマグニチュードに上限値を設定する改良G-R則で近似し、地域毎に適切な則を採用して地震発生率を推定するMGRモデルを作成した。さらにこのモデルは、予測期間の直前に発生したM6以上の地震による余震活動も考慮している。改良G-R則を併用した本モデルは、G-R則だけを用了モデルよりも概ね良い成績となった。	気象庁
Okada, M., N. Uchida, and S. Aoki	2011	Statistical forecasts and tests for small repeating earthquakes along the Japan Trench	Earth Planets Space	In press		○	1(2)(2-1)ウ	1(1)ア	プレート境界で繰り返し発生する地震の予測可能性を調べるために、相似地震を用いて、事前に発生確率を計算し、検証する実験を行った。全予測(365回)で統計検定すると、棄却されず、パスした。モデル比較テストを通じて、ランダム予測などより有意に優れていることを明らかにした。	気象庁
Hirose, F., K. Miyaoka, N. Hayashimoto, T. Yamazaki, and M. Nakamura	2011	Outline of the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake ( $Mw9.0$ ) - Seismicity: Foreshocks, Mainshock, Aftershocks, and Induced Activity -	Earth Planets Space	In press		○	1(2)(2-1)ウ	1(1)ア		気象庁

## (2-2) 火山噴火予測システム

### ア. 噴火シナリオの作成

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
鍵山恒臣	2010	カルデラ生成噴火の準備過程解明に向けた研究の展望	地質学雑誌	116	463-472	○	1(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ	火山噴火の多様性を整理し、噴火の推移予測を行うための研究の道筋を提案した	京都大理 学研究科
Kagiya, T. and Morita, Y.	2008	First steps in understanding caldera forming eruptions	Journal of Disaster Research	3	270-275	○	1(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		京都大理 学研究科
鍵山恒臣・森田裕一	2008	カルデラ生成噴火の準備過程の理解に向けて	月刊地球号外	60	5-7		1(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		京都大理 学研究科
鍵山恒臣	2008	カルデラ生成噴火の準備過程－解明のための作業仮説の提案	月刊地球号外	60	10-20		1(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		京都大理 学研究科
イ. 噴火シナリオに基づく噴火予測										
上田英樹・藤田英輔・鶴川元雄・山本英二	2010	リアルタイム傾斜データを用いた火山性異常地殻変動の自動検出と暫定変動源モデル自動推定手法の開発	防災科学技術研究所研究報告	76	21-32		1(2)(2-2) イ	1(1)ア		防災科研
(3) 地震・火山現象に関するデータベースの構築										
ア. 地震・火山現象の基礎データベース										
山口照寛・笠原稔・高橋浩晃・岡山宗夫・高田真秀・一柳昌義	2010	地殻変動データベースシステムの開発	測地学会誌	56	47-58	○	1(3)ア	1(1)ア	全国の大学等のひずみ傾斜等の長周期データを流通網を用いて一元化し収集するソフトウェアを開発した。データ受信機能のほか、潮汐解析や歪解析などの時系列データの基本的解析ツールを搭載するとともに、断層モデルによる理論歪場計算、ストリーミングひずみ解析機能なども実装された。これにより、全国どここのデータでもほぼリアルタイムにデータ閲覧することが可能となっている。	北海道 大・東大 地震研
Iwamori, H., Albarede, F., and Nakamura, H.	2010	Global structure of mantle isotopic heterogeneity and its implications for mantle differentiation and convection	Earth Planet. Sci. Lett.		doi:10.1016/j.epsl.2010.09.014.	○	1(3)ア	2(1)イ		東工大
Iwamori, H., and Albarede, F.	2008	The decoupled isotopic record of ridge and subduction zone processes in oceanic basalts by Independent Component Analysis	Geochem. Geophys. Geosyst.	9	Q04033, doi:10.1029/2007GC001753	○	1(3)ア	2(1)イ		東工大
大見士朗	2006	WINフォーマット微小地震データの検索とダウンロードのためのシステムの試作	東京大学地震研究所技術研究報告	12	1-5		1(3)ア			京大防災 研
Obara, K., and T. Maeda	2009	Reverse propagation of T waves from the Emperor seamount chain	Geophys. Res. Lett.	36, L08304	doi:10.1029/2009GL037454.	○	1(3)ア	1(1)ア		防災科研
Obara, K., and M. Matsumura	2010	Reverse Propagation of Surface Waves Reflected from Seamounts in the northwestern Pacific	Bull. Seism. Soc. Am.	100	1342-1349	○	1(3)ア	1(1)ア		防災科研
産業技術総合研究所	2011	地震動マップ即時推定システム	<a href="http://qq.ghz.geogrid.org/index.html">http://qq.ghz.geogrid.org/index.html</a>				1(3)ア			産総研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター	2011	活断層データベース	<a href="http://riodb02.ibase.aist.go.jp/activefault/index.html">http://riodb02.ibase.aist.go.jp/activefault/index.html</a>				1(3)ア		(1)日本の活断層に関係する文献の書誌データ(9,000件以上)、(2)文献から採録された、調査地点ごとの調査結果データ(1万地点以上)、(3)産業技術総合研究所(産総研)が調査結果データを集約した活動セグメントパラメータの3種類のデータを収録している。	産総研
産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター	2011	地殻応力場データベース	<a href="http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db106/">http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db106/</a>				1(3)ア			産総研
産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター	2011	地震に関連する地下水観測データベース	<a href="http://riodb02.ibase.aist.go.jp/gxwell/GSJ/index.shtml">http://riodb02.ibase.aist.go.jp/gxwell/GSJ/index.shtml</a>				1(3)ア		産総研が地震予知研究を目的に観測・解析を行っている50ヶ所あまりの観測点(主に東海~四国)の地下水位・歪・水温・地震波形などの最新データおよび関連情報を見ることが出来る。また、手持ちのデータを産総研のプログラムを使って解析することもできる。	産総研
産業技術総合研究所地質情報研究部門	2011	火山衛星画像データベース	<a href="http://igg01.gsj.jp/vsldb/image/">http://igg01.gsj.jp/vsldb/image/</a>				1(3)ア			産総研
産業技術総合研究所地質情報研究部門	2011	活火山データベース	<a href="http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db099/index.html">http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db099/index.html</a>				1(3)ア			産総研
産業技術総合研究所地質情報研究部門	2011	日本の第四紀火山	<a href="http://riodb02.ibase.aist.go.jp/strata/VOL_JP/index.html">http://riodb02.ibase.aist.go.jp/strata/VOL_JP/index.html</a>				1(3)ア			産総研
海岸昇降検知センター	2006	海岸昇降検知センター潮位年報平成17年	海岸昇降検知センター潮位年報平成17年	-	24pp		1(3)ア	1(1)ア		国土地理院
国土地理院	2006	火山土地条件図「伊豆大島地区」報告書	国土地理院技術資料	NO. D・2-49	42pp		1(3)ア			国土地理院
海岸昇降検知センター	2007	海岸昇降検知センター潮位年報平成18年	海岸昇降検知センター潮位年報平成18年	-	24pp		1(3)ア	1(1)ア		国土地理院
国土地理院	2007	火山土地条件図「安達太良山地区」報告書	国土地理院技術資料	NO. D・2-50	35pp		1(3)ア			国土地理院
海岸昇降検知センター	2008	海岸昇降検知センター潮位年報平成19年	海岸昇降検知センター潮位年報平成19年	-	24pp		1(3)ア	1(1)ア		国土地理院
国土地理院	2008	火山土地条件図「くじゅう連山地区」報告書	国土地理院技術資料	NO. D・2-51	34pp		1(3)ア			国土地理院
国土地理院	2008	火山土地条件図「雌阿寒岳・雄阿寒岳地区」報告書	国土地理院技術資料	NO. D・2-52	35pp		1(3)ア			国土地理院
海岸昇降検知センター	2009	海岸昇降検知センター潮位年報平成20年	海岸昇降検知センター潮位年報平成20年	-	24pp		1(3)ア	1(1)ア		国土地理院
木村佳織	2009	火山土地条件図「薩摩硫黄島」について	国土地理院時報	119	23-35		1(3)ア			国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
海岸昇降検知センター	2010	海岸昇降検知センター潮位年報平成21年	海岸昇降検知センター潮位年報平成21年	-	24pp		1(3)ア	1(1)ア		国土地理院
海岸昇降検知センター	2010	登録験潮場位置図(平成22年12月)版	登録験潮場位置図(平成22年12月)版		177pp		1(3)ア	1(1)ア		国土地理院
林豊・宇平幸一	2008	活火山カタログの改訂と火山活動度による活火山の分類(ランク分け)	験震時報	71	43-57		1(3)ア			気象庁
林豊・宇平幸一	2008	最近一万年間火山活動に基づく火山活動度指数による日本の活火山ランク分けについて	験震時報	71	59-78		1(3)ア			気象庁
石井美樹・外谷健・芥川真由美	2008	気象庁地磁気観測所におけるJGRFに関するデータの一次解析概要	Conductivity Anomaly 研究会論文集		92-97		1(3)ア			気象庁
石井美樹・池田清・芥川真由美	2009	気象庁地磁気観測所におけるJGRFに関するデータの一次解析概要(2)	Conductivity Anomaly 研究会論文集		67-73		1(3)ア			気象庁
イ. 地震・火山現象に関する情報の統合化										
河村 将・工藤 健・山岡耕春・古本宗充	2010	統計的アプローチによる地殻活動解明--(I)統一化された形式をもつ日本列島地殻現象データベース構築-	地震	63	21-34	○	1(3)イ			名古屋大
松原誠	2009	日本列島三次元地震波速度構造表示ソフトウェア	防災科学技術研究所研究報告	76	1-9		1(3)イ	1(1)ア		防災科研
Matsubara, M. and K. Obara	in press	The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake related to a strong velocity gradient with the Pacific plate	Earth Planets Space	63		○	1(3)イ	2(1)ウ		防災科研
山下浩之・萬年一剛・石塚 治・川手新一・平田大二・蛸子貞二・谷口英嗣	2006	神奈川県湯河原町宮下で掘削されたボーリングコアの岩相記載と地質学的意義	神奈川県温泉地質研究所報告	38	1-10		1(3)イ			産総研
山元孝広	2007	A rhyolite to dacite sequence of volcanism directly from the heated lower crust: Late Pleistocene to Holocene Numazawa volcano, NE Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	167	119-133	○	1(3)イ			産総研
下司信夫・中野 俊	2007	鹿児島県トカラ列島口之島火山の形成史と噴火活動履歴	地質調査研究報告	58	105-116	○	1(3)イ		鹿児島県トカラ列島口之島火山の野外地質調査に基づき、その地質構造および活動史を明らかにした。口之島では約4万年前以降少なくとも6つの溶岩ドームが成長したこと、複数回の崩壊があったこと、最新の噴火は数100年前に発生した可能性があることなどを明らかにした。	産総研
下司信夫・中野 俊・壇原 徹	2007	鹿児島県トカラ列島トカラ平瀬に分布する火山岩類とそのFT年代	地質調査研究報告	58	45-47	○	1(3)イ			産総研
高田 亮・石塚吉浩・中野 俊・山元孝広・小林 淳・鈴木雄介	2007	噴火割れ目が語る富士火山の特徴と進化	富士火山		183-202	○	1(3)イ			産総研
山元孝広・高田 亮・石塚吉浩・宮地直道・田島靖久	2007	富士火山西斜面で発生した玄武岩質火砕流の特徴とその起源	富士火山		245-254	○	1(3)イ			産総研
山元孝広・石塚吉浩・高田 亮	2007	富士火山南西山麓の地表及び地下地質: 噴出物の新層序と化学組成変化	富士火山		97-118	○	1(3)イ			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
西来邦章・松本哲一・宇都浩三・高橋 康・三宅康幸	2007	中部日本, ハヶ岳地域の火山活動期の再検討	地質学雑誌	113	193-211	○	1(3)イ		ハヶ岳地域に分布する第四紀火山岩類について地質調査および系統的なK-Ar年代測定と古地磁気方位測定を実施した。これらの結果に基づいて、ハヶ岳火山群の従来考えられていた形成史の矛盾点を指摘し、噴火形成期の新たな区分方法について提唱した。	産総研
津久井雅志・中野 俊・齋藤成一滝	2008	9世紀にアムールプレート東縁に沿って起きた噴火・地震活動について	火山	53	79-91	○	1(3)イ		地質調査のほかに遺跡の発掘の調査記録や文字史料を加えて噴火・地震履歴の再検討を行なった。9世紀に東日本と西日本の境界800km以上に沿って連動した噴火と地震活動がみられ、アムールプレート東縁沿いおよび富士山・伊豆弧諸火山における東西圧縮の表現だと解釈できる。	産総研
Fujiwara, N., Y. Ishizuka, T. Yamazaki, and M. Nakagawa,	2009	十勝岳西麓で新たに発見された4700年前の火砕流堆積物と十勝岳の完新世の活動の再検討	火山	54	253-262	○	1(3)イ			産総研
西来邦章・及川輝樹・太田 靖・松本哲一・宇都浩三・三宅康幸	2009	長野県大門峠地域に分布する流紋岩質溶岩ドームのK-Ar年代：諏訪-ハヶ岳火山地域の流紋岩類の活動時期について	火山	54	61-71	○	1(3)イ			産総研
長谷川健・岸本博志・中川光弘・伊藤順一・山元孝広	2009	北海道東部, 根釧原野および斜里平野における約3万5千~1万2千年前のテフラ層序と後屈斜路カルデラ火山の噴火史	地質学雑誌	115	369-390	○	1(3)イ			産総研
Uto, K., K. Kano, and O. Ishizuka,	2010	男鹿半島戸賀火山, 戸賀軽石層中のサニディン斑晶のレーザ融解40Ar/39Ar年代	火山	55	201-206	○	1(3)イ			産総研
Yoshimoto, M., T. Fujii, T. Kaneko, A. Yasuda, S. Nakata, and T. Matsumoto,	2010	Evolution of Mount Fuji, Japan: Inference from drilling into the subaerial oldest volcano, pre-Komitake	Island Arc	19	470-488	○	1(3)イ			産総研
高田亮	2010	インドネシア・スンダ弧におけるカルデラ噴火とカルデラ火山の特徴	地質学雑誌	116	473-483	○	1(3)イ	2(3)(3-3)イ		産総研
中野 俊・奥野 充・菊川 茂	2010	立山火山	地質学雑誌	116	37-48	○	1(3)イ			産総研
山元孝広・伊藤順一・中川光弘・長谷川健・岸本博志	2010	北海道東部, 屈斜路・摩周カルデラ噴出物の放射炭素年代値	地質調査研究報告	61	161-170	○	1(3)イ			産総研
山元孝広・川邊禎久	2010	伊豆大島火山, 北の山・伊東無コアの放射性炭素年代	火山	55	215-218	○	1(3)イ			産総研
国土地理院地理調査部防災地理課	2006	都市圏活断層図」の内容と整備状況	測量	56	36-39		1(3)イ			国土地理院
星野実・飯田誠・木村幸一・高橋広典・北原敏夫	2007	新しい都市圏活断層図について	国土地理院時報	112	51-65		1(3)イ			国土地理院
星野 実・鈴木義宜・岩橋純子・吉武勝宏・田中庸夫	2010	平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震1:25,000詳細活断層図(活断層・地形分類及び地形の変状)について	国土地理院時報	121	29-37		1(3)イ			国土地理院

## 2. 地震・火山現象解明のための観測研究の推進

### (1) 日本列島及び周辺域の長期・広域の地震・火山現象

#### ア. 列島及び周辺域のプレート運動、広域応力場

Watanabe, T., H. Takahashi, M. Ichiyanagi, M. Okayama, M. Takada, R. Otsuka, K. Hirata, S. Morita, M. Kasahara and H. Mikada	2006	Seismological monitoring on the 2003 Tokachi-oki earthquake, derived from Off-Kushiro permanent OBSs and land-based observations	Tectonophys.	26	107-118	○	2(1)ア	2(2)(2-1)ア		北海道大
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	----	---------	---	-------	------------	--	------

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
高橋浩晃	2006	北海道で発生した津波地震—1975年北海道東 方沖地震：再訪—	北海道大学地球 物理学研究報告	69	207-220		2(1)ア	2(2)(2-1) ア		北海道大
宮町宏樹・一柳昌義・前田宜浩・山口照寛・ 高橋浩晃・笠原稔・平野舟一郎・センラク ス・ミハイルワレンチン・オクサーナムクリ コワ・ユーリレピン・キムチュンウン・ニ コライワシレンコ・ニコライシェスタコフ・ ミハイルゲラシメンコ・ボルモトフウラジ ミール・マグガリータルネバ・グンビーナラ リッサ	2009	スタグナントスラブのイメージングのための 極東ロシア広帯域地震観測網の構築	北海道大学地球 物理学研究報告	72	37-40		2(1)ア	2(1)ウ		北海道大
高橋浩晃・前田宜浩・笠原稔	2009	中千島で発生した巨大地震	北海道大学地球 物理学研究報告	72	399-410		2(1)ア	2(2)(2-1) ア		北海道大
Shestakov, N. V., M. D. Gerasimenko, H. Takahashi, M. Kasahara, V. A. Bormotov, V. G. Bykov, A. G. Kolomiets, G. N. Gerasimov, N. F. Vasilenko, A. S. Prytkov, V. Yu. Timofeev, D. G. Ardyukov and T. Kato	2010	Present tectonics of the southeast of Russia as seen from GPS Observations	Geophys. J. Int.	184	doi: 10.1111 /j.1365 - 246X.20 10.0487 1.x	○	2(1)ア	2(1)オ	ロシア極東のGPSデータから日本列島北方域のプレート運動モデルを 構築した。アムールプレートのユーラシアプレートに対する速度は年間 数mm程度と当初予想よりも小さいことが明らかになった。アムールプ レートの収束速度のみから日本海東縁部での数百年周期の地震サイクル を説明するのは困難である。サハリンでも明らかに東西圧縮の歪場であ り、日本海東縁部に年間数cmの収束をもたらす新しいメカニズムを検討 する必要がある。	北海道大
Oishi, M. and T. Sato	2007	Moment release budget at oblique convergence margin as revealed by the 2004 Sumatra-Andaman earthquake	Earth Planets Space	59	913-921	○	2(1)ア		2004年スマトラ・アンダマン地震の本震時のすべり分布が、この地域に おけるインド・オーストラリアプレートの斜め沈み込みモデルと調和的 であることを明らかにした。	弘前大学
真保 敬・佐藤魂夫・野田俊太	2008	北海道東方沖で発生する地震の近地sP変換波 を用いた震源の深さの推定	地震	60	179-192	○	2(1)ア		2003年十勝沖地震の余震の震源の深さをsP変換を用いて精度よく推定し た。	弘前大学
Takeuchi, M., T. Sato, and T. Sinbo	2008	Stress due to the inter-seismic backslip and its relation with the focal mechanisms of earthquakes occurring in the Kuril and northeastern Japan arcs	Earth Planets Space	60	549-557	○	2(1)ア		太平洋プレートの沈み込みに伴う応力蓄積を、独自に震源分布から求め た精密なプレート境界を用いて評価した。	弘前大学
平塚晋也・佐藤魂夫	2008	多重逆解法による2004年スマトラ・アンダ マン地震の震源域とその周辺における応力場の 推定	地震	61	61-75	○	2(1)ア		2004年スマトラ・アンダマン地震の余震の断層面解に対し、多重逆解法 という新しい応力インバージョン法を適用し、震源域の応力場の推定を 行った。	弘前大学
Tada, T	2006	Stress Green's functions for a constant slip rate on a triangular fault	Geophys. J. Int.	164	653-669	○	2(1)ア			東大地震 研
Fukuda, J., Miyazaki, S., Higuchi, T., and Kato, T.	2008	Geodetic inversion for space-time distribution of fault slip with time- varying smoothing regularization	Geophys. J. Int.	173	25-48	○	2(1)ア			東大地震 研
Hatano, T., Otsuki, M., and Sasa, S.	2007	Criticality and Scaling Relations in a Sheared Granular Material	J. Phys. Soc. Jpn	76	doi: 10.1143 /JPSJ.7 6.02300 1	○	2(1)ア			東大地震 研
Shibazaki, B., Garatani, K. and Okuda, H.	2007	Finite element analysis of crustal deformation in the Ou Backbone Range, northeastern Japan, with non-linear visco-elasticity and plasticity: effects of non-uniform thermal structure	Earth Planets Space	59	499-512	○	2(1)ア			東大地震 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Suzuki, T. and Yamashita, T.	2006	Nonlinear thermoporoelastic effects on dynamic earthquake rupture	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005JB003810	○	2(1)ア			東大地震研
Hatano, T	2007	Power-law friction in closely packed granular materials	Phys. Rev. E	75	DOI:10.1103/PhysRevE.75.060301	○	2(1)ア			東大地震研
Kame, N, Saito, S. and Oguni, K.	2008	Quasi-static analysis of strike fault growth in layered media	Geophys. J. Int.	173	309-314	○	2(1)ア			東大地震研
Miyazaki, S. and Larson, K.M.	2008	Coseismic and early postseismic slip for the 2003 Tokachi-oki earthquake sequence inferred from GPS data	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10.1029/2007GL032309	○	2(1)ア			東大地震研
Shibazaki, B. and Shimamoto, T.	2007	Modelling of short-interval silent slip events in deeper subduction interfaces considering the frictional properties at the unstable-stable transition regime	Geophys. J. Int.	1	191-205	○	2(1)ア			東大地震研
Suzuki, T. and Yamashita, T.	2007	Understanding of slip-weakening and -strengthening in a single framework of modeling and its seismological implications	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL030260	○	2(1)ア			東大地震研
Suzuki, T. and Yamashita, T.	2009	Dynamic modeling of slow earthquakes based on thermoporoelastic effects and inelastic generation of pores	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB006042	○	2(1)ア			東大地震研
Hatano, T.	2008	Scaling properties of granular rheology near the jamming transition	J. Phys. Soc. Jpn	77	doi:10.1143/JPSJ.77.123002	○	2(1)ア	2(3)(3-1)イ		東大地震研
Ichimura, T. and Hori, M.	2009	Structural seismic response analysis based on multiscale approach of computing fault-structure system	Earthquake Engineering & Structural Dynamics	38	439-455	○	2(1)ア			東大地震研
芝崎文一郎	2009	沈み込み帯深部で発生するスロースリップイベントのモデル化	地震	61	415-421	○	2(1)ア			東大地震研
Shibazaki, B., Garatani, K., Iwasaki, T., Tanaka, A. and Iio, Y.	2008	Faulting processes controlled by the nonuniform thermal structure of the crust and uppermost mantle beneath the northeastern Japanese island arc	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005361	○	2(1)ア		レオロジー構造を考慮した地震発生サイクルモデル構築のために、非線形有限要素法を用いて、東北日本脊梁山脈周辺を対象に、3次元的な熱構造の不均質を考慮した断層形成と応力集中過程のモデル化を行った。シミュレーション結果、脊梁山脈を挟んで二つの塑性歪み集中域（断層帯）の形成が確認できる。断層は、火山地帯では火山の近傍に形成されているが、非火山地帯では、奥羽脊梁山脈の中心からやや離れたところに形成される。	東大地震研・京大防災研
Mori, T. and Kawamura, H.	2008	Simulation study of the two-dimensional Burridge-Knopoff model of earthquakes	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005219	○	2(1)ア			東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Mori, T. and Kawamura, H.	2008	Simulation study of earthquakes based on the two-dimensional Burridge-Knopoff model with long-range interactions	Phys. Rev. E	77	doi:10.1103/PhysRevE.77.051123	○	2(1)ア			東大地震研
Mori, T. and Kawamura, H.	2008	Spatiotemporal correlations of earthquakes in the continuum limit of the one-dimensional Burridge-Knopoff model	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2008JB005725	○	2(1)ア			東大地震研
Hatano, H.	2009	Scaling of the critical slip distance in granular layers	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2009GL039665	○	2(1)ア			東大地震研
Suzuki, T. and T. Yamashita	2010	Nondimensional control parameters governing the behavior of 1-D fault slip: effects of shear heating, inelastic pore creation and fluid flow	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006557	○	2(1)ア		断層における摩擦発熱、間隙流体拡散や非弾性空隙生成などの熱多孔質性と断層滑りの間の関係について低速から高速までの動的地震破壊を包括的に理解する理論的解析を行った。断層滑りの定性的挙動は三つの無次元パラメータで決まるということが理論的に示された(摩擦発熱による流体圧変化と空隙生成による流体圧変化の比、摩擦発熱による流体圧変化と流体拡散による流体圧変化の比、流体圧の初期値)。	東大地震研
Hatano, H.	2009	Granular friction and microearthquakes	Proceedings of World Tribology Congress (Japanese Society of Tribologists)		846		2(1)ア			東大地震研
Kame, N and Aochi, H.	2009	A hybrid FDM-BIEM approach for earthquake dynamic rupture simulation	Proceedings of 12th International Conference on Fracture		T15.003		2(1)ア			東大地震研
Mitsui, Y. and Hirahara, K.	2009	Coseismic thermal pressurization can notably prolong earthquake recurrence intervals on weak rate and state friction faults: Numerical experiments using different constitutive equations	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB006220	○	2(1)ア			東大地震研
Mitsui Y. and Hirahara K.	2009	Interseismic pore compaction suppresses earthquake occurrence and causes faster apparent fault loading	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2009GL039932	○	2(1)ア			東大地震研
Hatano, T.	2010	Critical scaling of granular rheology	Progress of Theoretical Physics Supplement	184	143-152	○	2(1)ア		地震活動解析への応用を視野に、AEの時空統計性の背後にあるメカニズム解明の理論研究を行った。AEの大きさ・頻度分布はジャミング転移点と呼ばれるある臨界密度においてのみベキ則になること、また、再来時間の分布関数を表す冪指数が下限マグニチュードに依存することを発見した。これらは、離散モデルにおけるAE活動が自己組織化臨界ではなく、ジャミング転移点という特定の分岐点における揺らぎの増大であることを示す。	東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Hatano, T.	2010	Constitutive law of dense granular matter	J. Phys. Conference Series	258	doi:10.1088/1742-6596/258/1/012006	○	2(1)ア			東大地震研
五十嵐俊博・飯高隆・宮林佐和子	2011	レーザー関数解析から推定された日本列島の地殻構造	地震	63	139-151	○	2(1)ア	2(2)(2-1)ウ		東大地震研
Iidaka, T., T. Igarashi, and T. Iwasaki	2009	Configuration of the subducting Philippine Sea slab in the eastern part of southwestern Japan with seismic array and Hi-net data	Gondwana Research	16	504-511	○	2(1)ア	2(2)(2-1)ウ		東大地震研
Salah, M. K., T. Seno, and T. Iidaka	2008	Upper mantle anisotropy beneath central and southwest Japan: An insight into subduction-induced mantle flow	Journal of Geodynamics	46	21-37	○	2(1)ア	2(1)イ		東大地震研
Salah, M.K., T., Seno, and T., Iidaka	2008	Seismic anisotropy in the wedge above the Philippine Sea slab beneath Kanto and southwest Japan derived from shear wave splitting	J. Asian Earth Sci.	34	doi:10.1016/j.jseaeas.2008.04.004	○	2(1)ア	2(1)イ		東大地震研
Iidaka, T., T. Iwasaki, and K. Yoshimoto	2006	Nontransparent uppermost mantle in the island-arc Japan	Tectonophys.	420	189-204	○	2(1)ア	2(1)イ		東大地震研
Inoue, S., H. Kayanne, N. Matta, W. S. Chen, Y. Ikeda	2011	Holocene uplifted coral reefs in Lanyu and Lutaio Islands to the southeast of Taiwan	Coral Reefs	(in press)	doi:10.1007/s00338-011-0783-x	○	2(1)ア	4(5)		東工大理
Ikeda, Y., He, H., Kano, K., Lin, W., Ishiyama, T., Zhang, H., Wei, Z., and Shi, F.	2009	Geological reconnaissance of the source area for the Wenchuan, Shichuan Province Earthquake of May 12, 2008	"Investigation report of the May 12th 2008, Wenchuan earthquake, China", Grant-in-Aid No. 20900002 for Special Purposes of 2008, MEXT, Japan.		241-272		2(1)ア	4(5)		東工大理
田力正好, 池田安隆	2009	島弧規模の大地形, および島弧内の山地・盆地の形成: 特に東北日本弧を中心として	「デジタルブック最新第四紀学」, 日本第四紀学会		196-200		2(1)ア			東工大理
田力正好, 池田安隆, 野原 壯	2009	過去10数万年間の地殻変動から推定された, 岩手・宮城内陸地震の震源断層	地震	62	1-12	○	2(1)ア			東工大理
He, H., Y. Ikeda, Y. He, M. Togo, J. Chen, C.Y.Chen, M. Tajikara, T. Echigo, and S. Okada	2008	Newly-generated Daliangshan Fault Zone: Shortcutting on the central section of Xianshuihe-Xiaojiang fault system	Science in China, Series D (Earth Sciences)	51	1248-1258	○	2(1)ア	4(5)		東工大理

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
He, H., and Ikeda, Y.	2007	Faulting on the Anninghe fault zone, Southwest China in Late Quaternary and its movement model	Acta Seismologica Sinica	20	571-583	○	2(1)ア	4(5)		東工大理
Takada, Y., Y. Fukahata, A. Hashima, T. Terakawa, K. Fukui, T. Yanagisawa, Y. Ikeda, G. Kimura, and M. Matsu'ura	2007	Development of three-dimensional basement structure in Taiwan deduced from past plate motion: Consistency with the present seismicity	Tectonics	26	doi:10.1029/2006TC001957	○	2(1)ア			東工大理
Kayanne, H., Y. Ikeda, T. Echigo, M. Shishikura, T. Kamataki, K. Satake, J. N. Malik, S. R. Basir, G. K. Chakraborty, and A. K. Ghosh Roy	2007	Coseismic and postseismic creep in the Andaman Islands associated with the 2004 Sumatra-Andaman earthquake	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2006GL028200	○	2(1)ア	4(5)		東工大理
He, H., H. Ran, and Y. Ikeda	2006	Uniform strike-slip rate along the Xianshuihe-Xiaojiang fault system its implications for active tectonics in southeastern Tibet	Acta Geologica Sinica	80	376-386	○	2(1)ア	4(5)		東工大理
池田安隆	2006	薄皮褶曲断層帯における地震発生のパラドックス	月刊地球号外	53	26-35		2(1)ア			東工大理
池田安隆	2006	2004年中越地震と活構造との関係	月刊地球号外	54	208-216		2(1)ア			東工大理
Yagi, Y. and Fukahata, Y.	2011	Introduction of uncertainty of Green's function into waveform inversion for seismic source processes	Geophys. J. Int.	186	doi:10.1111/j.1365-246X.2011.05043.x.	○	2(1)ア		地震波形から震源過程を推定するインバージョン解析では、グリーン関数の不確実性が最大の誤差源と考えられるが、その効果は無視されてきた。我々はグリーン関数に誤差があることを前提として新たに定式化を行い、その結果誤差行列が大きな共分散成分を持つことを見出した。新たな定式化により、これまでは解析が難しかった震源時間関数の長い2006年Java津波地震でも安定的に解が得られることを示した。	東工大理
Hashimoto, M., Fukushima, Y. and Fukahata, Y.	2011	Fan-delta uplift and mountain subsidence during the Haiti 2010 earthquake	Nature Geoscience	4	255-259	○	2(1)ア	2(3)(3-2)ア		東工大理
Stark, C.P., Barbour, J.R., Hayakawa, Y.S., Hattanji, T., Hovius, N., Chen, H., Lin, C.W., Horng, M.J., Xu, K.Q., and Fukahata, Y.	2010	The climatic signature of incised river meanders	Science	327	1497-1501	○	2(1)ア			東工大理
深畑幸俊	2009	地震学におけるABICを用いたインバージョン解析研究の進展	地震	61	S103-S113	○	2(1)ア	2(3)(3-2)ア		東工大理
深畑幸俊	2009	線形粘弾性問題の時間無限大の解	応用数理	19	84-96	○	2(1)ア			東工大理
Hashima, A., Fukahata, Y. and Matsu'ura, M.	2008	3-D Simulation of Tectonic Evolution in Mariana with a Coupled Model of Plate Subduction and Back-Arc Spreading	Tectonophys.	458	127-136	○	2(1)ア			東工大理
Hashima, A., Takada, Y., Fukahata, Y. and Matsu'ura, M.	2008	General expressions for internal deformation due to a moment tensor in an elastic/viscoelastic multilayered half-space	Geophys. J. Int.	175	992-1012	○	2(1)ア			東工大理
Matsu'ura M., Noda, A. and Fukahata	2007	Geodetic data inversion based on Bayesian formulation with direct and indirect prior information	Geophys. J. Int.	171	1342-1351	○	2(1)ア	2(3)(3-2)ア		東工大理



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Takada, Y., Fukahata, Y., Hashima, A., Terakawa, T., Fukui, K., Yanagisawa, T., Ikeda, Y., Kimura, G. and Matsu'ura M.	2007	Development of 3-D basement structure in Taiwan deduced from past plate motion: Consistency with the present seismicity	Tectonics	26	TC3004, doi:10.1029/2006TC001957	○	2(1)ア			東工大理
Fukahata, Y. & Matsu'ura, M.	2006	Quasi-static internal deformation due to a dislocation source in a multilayered elastic/viscoelastic half-space and an equivalence theorem	Geophys. J. Int.	166	418-434	○	2(1)ア			東工大理
鷺谷 威	2009	GPS観測による日本列島の地震テクトニクス	地震	62	85-96	○	2(1)ア			名古屋大
Nishimura, S., and M. Hashimoto	2006	A Model with Rigid Rotations and Slip Deficits for the GPS-Derived Velocity Field in Southwest Japan	Tectonophys.	421	187-207	○	2(1)ア	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
寺石真弘・大谷文夫・園田保美・大志万直人	2006	日向灘地殻活動総合観測線における地殻変動連続観測 —最近15年間(1991-2005)の結果—	京都大学防災研究所年報	49B	253-262		2(1)ア	3(3)ア		京大防災研
久保篤規・岡田明子	2007	四国の中央構造線の北傾斜と応力場	月刊地球	29	335-340		2(1)ア		中央構造線の北傾斜面近傍の微小地震の卓越したメカニズム解が横ずれ型であることを確認した。	高知大学
大坪誠・山路敦・久保篤規	2007	不均一な発震機構データから応力を分離する応力テンソルインバージョンの開発とその適用	月刊地球	29	292-296		2(1)ア		地震のメカニズム解を用いた不均質応力場の抽出法の提案	高知大学
高知大学附属高知地震観測所・四国総研土木技術部	2007	平成19年度共同研究報告書「燧灘、高縄半島下における中央構造線の深部構造とその断層活動に関する研究」			1-7		2(1)ア		燧灘-高縄半島付近の地震のメカニズム決定と応力推定	高知大学
久保篤規・山田朗・池田倫治・川谷和夫他10名	2008	四国西部、中央構造線周辺における人工地震観測報告-2008年3月低周波動域における実験-	高知大学学術研究報告、自然科学・農学編	57	1-9		2(1)ア		中央構造線近傍における人工地震観測	高知大学
高知大学附属高知地震観測所・四国総研土木技術部	2008	平成20年度共同研究報告書「燧灘、高縄半島下における中央構造線の深部構造とその断層活動に関する研究」			1-9		2(1)ア		燧灘-高縄半島付近の地震のメカニズム決定と応力推定および断層のすべり条件	高知大学
Otsubo, M., Yamaji, A., and Kubo, A.	2008	Determination of stresses from heterogeneous focal mechanism data: an adaptation of the multiple inverse method	Tectonophys.	457	150-160	○	2(1)ア		地震のメカニズム解を用いた不均質応力場の抽出法の提案	高知大学
Moore, G., Bangs, N.L., Taira, A., Kuramoto, S., Pangborn, E. and Tobin, H.	2007	Three-Dimensional Splay Fault Geometry and Implications for Tsunami Generation,	Science	318	1128-1131	○	2(1)ア	2(1)ウ	掘削対象海域の海底下構造を調査し、巨大分岐断層の全貌を明らかにした	JAMSTEC
Moore, G.F., Park, J.-O., Bangs, N.L., Gulick, S.P., Tobin, H.J., Nakamura, Y., Saito, S., Tsuji, T., Yoro, T., Tanaka, H., Uraki, S., Kido, Y., Sanada, Y., Kuramoto, S., and Taira, A.	2009	Structural and seismic stratigraphic framework of the NanTroSEIZE Stage 1 transect. In Kinoshita, M., Tobin, H., Ashi, J., Kimura, G., Lallemand, S., Scretton, E.J., Curewitz, D., Masago, H., Moe, K.T., and the Expedition 314/315/316 Scientists	Proc. IODP 314-315-316 Scientists			○	2(1)ア	2(1)ウ	南海トラフの海底下地殻構造	JAMSTEC
Martin, K.M., Gulick, S., Bangs, N., Moore, G., Ashi, J., Park, J.-O., Kuramoto, S., Taira, A.	2010	Possible Strain Partitioning Structure Between the Kumano Forearc Basin and the Slope of the Nankai Trough Accretionary Prism	Geochem. Geophys. Geosyst.			○	2(1)ア	2(1)ウ	熊野前弧海盆と南海付加帯の間での歪み分配を示す構造	JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Chang, C., McNeill, L.C., Moore, J.C., Lin, W., Conin, M., and Yamada, Y.,	2010	In situ stress state in the Nankai accretionary wedge estimated from borehole wall failures	Geochem. Geophys. Geosyst.	11	In press	○	2(1)ア	2(1)ウ	孔壁崩壊が示す南海付加帯での孔内現場応力	JAMSTEC
Lin, W., et al.	2010	Present-day principal horizontal stress orientations in the Kumano forearc basin of the southwest Japan subduction zone determined from IODP NanTroSEIZE drilling Site C0009	Geophys. Res. Lett.	37		○	2(1)ア	2(1)ウ	熊野前弧海盆での主応力方向	JAMSTEC
Moore, J. C., C. Chang, L. McNeill, M. K. Thu, Y. Yamada, and G. Huftile	2010	Growth of borehole breakouts with time after drilling: Implications for state of stress, NanTroSEIZE transect, SW Japan	Geochem. Geophys. Geosyst.	12		○	2(1)ア	2(1)ウ	掘削後の孔壁崩壊の進行	JAMSTEC
Kimura, G., G. F. Moore, M. Strasser, E. Screaton, D. Curewitz, C. Streiff, and H. Tobin	2010	Spatial and temporal evolution of the megasplay fault in the Nankai Trough	Geochem. Geophys. Geosyst.			○	2(1)ア	2(4)ア	巨大分岐断層の空間的、時間的発展	JAMSTEC
Sean P.S. Gulick, Nathan L.B. Bangs, Gregory F. Moore, Juichiro Ashi, Kylara M. Martin, Dale S. Sawyer, Harold J. Tobin, Shin'ichi Kuramoto and Asahiko Taira	2010	Rapid forearc basin uplift and megasplay fault development from 3D seismic images of Nankai Margin off Kii Peninsula, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	300/1-2	55-62	○	2(1)ア	2(1)ウ	3D地震波探査から見た前弧海盆の隆起と巨大分岐断層の形成	JAMSTEC
Li, Chun-Feng	2011	An integrated geodynamic model of the Nankai subduction zone and neighboring regions from geophysical inversion and modeling	Journal of Geodynamics	18629	64-80		2(1)ア	2(1)ウ	逆解析モデリングによる南海トラフ周辺の力学モデル	JAMSTEC
Isse, T., Shiobara, H., Tamura, Y., et al.	2009	Seismic structure of the upper mantle beneath the Philippine Sea from seafloor and land observation: implications for mantle convection and magma genesis in the Izu-Bonin-Mariana subduction zone	Earth Planet. Sci. Lett.	278	107-119	○	2(1)ア	2(1)イ	島弧のマントルウエッジが一樣ではなく、目玉状に地震波の速度異常が存在し、それが噴出するマグマ組成と関係があることを示した。	JAMSTEC・産総研
Sato, T., Kodaira, S., Takahashi, N. et al.	2009	Amplitude modeling of the seismic reflectors in the crust-mantle transition layer beneath the volcanic front along the northern Izu-Bonin island arc	Geochemistry Geophysics Geosystems	10	doi:10.1029/2008GC001990	○	2(1)ア	2(1)ウ		JAMSTEC
Kokado, K., S. Kurihara and S. Matsuzaka	2008	VLBI Activities in the Past 10 Years at Tsukuba 32m VLBI Station and Correlation Center	Journal of the Geodetic Society of Japan	54	221-231	○	2(1)ア	4(5)		国土地理院
高島和宏・石本正芳・町田守人・藤咲淳一・小門研亮	2006	国土地理院における測地 VLBI	2005年度VLBIシンポジウム集録		5-8		2(1)ア	4(5)		国土地理院
高島和宏	2006	VLBI 施設の一般公開と PR 手法	2005年度VLBIシンポジウム集録		124-127		2(1)ア	4(5)		国土地理院
小門研亮・藤咲淳一・高島和宏	2006	VLBI 観測データのグローバル解析	2005年度VLBIシンポジウム集録		128-131		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Fujisaku, J., K. Kokado and K. Takashima	2006	Tsukuba 32-m VLBI Station	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2005 Annual Report	NASA/CP-2006-214136	133-136		2(1)ア	4(5)		国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Machida, M., M. Ishimoto and K. Takashima	2006	Tsukuba VLBI Correlator	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2006 Annual Report	NASA/CP-2006-214136	186-189		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Machida, M., M. Ishimoto, K. Takashima, T. Kondo and Y. Koyama	2006	K5/VSSP Data Processing System of Small Cluster Computing at Tsukuba VLBI Correlator	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2006 General Meeting Proceedings	NASA/CP-2006-214140	117-126		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Fukuzaki, Y., K. Shibuya and K. Doi	2006	Status and results of JARE Syowa station, Antarctica	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2006 General Meeting Proceedings	NASA/CP-2006-214140	177-181		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Masaki, Y., S. Matsuzaka and Y. Tamura	2006	Local Tie Survey at VERA Ogasawara Station at Site Chichijima	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2006 General Meeting Proceedings	NASA/CP-2006-214140	366-370		2(1)ア	4(5)		国土地理院
小門研亮・町田守人・高島和宏	2006	VLBIグローバル解析による地球姿勢パラメータの高精度決定	国土地理院時報	110	11-18		2(1)ア	4(5)		国土地理院
小門研亮・藤咲淳一・高島和宏	2007	JADE観測スケジュール作成について	2006年度VLBIシンポジウム集録		63-66		2(1)ア	4(5)		国土地理院
谷本大輔・重松宏実・町田守人・栗原忍・小門研亮・関戸衛・小山泰弘	2007	超高速データ転送による地球姿勢計測への取り組み	2007年度VLBI懇談会シンポジウム集録		248-251		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Kokado, K., J. Fujisaku and K. Takashima	2007	Tsukuba 32-m VLBI Station	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2006 Annual Report	NASA/CP-2007-214151	103-106		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Machida, M., K. Takashima, H. Shigematsu and E. Iwata	2007	Tsukuba VLBI Correlator	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2006 Annual Report	NASA/CP-2007-214151	151-154		2(1)ア	4(5)		国土地理院
町田守人・小門研亮・岩田悦郎・重松宏実・栗原忍・和田弘人・松坂茂・農澤健太郎・谷本大輔	2008	国土地理院機関報告	2007年度VLBI懇談会シンポジウム集録		18-21		2(1)ア	4(5)		国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kokado, K., M. Machida, S. Kurihara and S. Matsuzaka	2008	Tsukuba 32-m VLBI Station	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2007 Annual Report	NASA/TP-2008-21416 2	102-105		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Shigematsu, H., E. Iwata, M. Machida and K. Wada	2008	Tsukuba VLBI Correlator	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2007 Annual Report	NASA/TP-2008-21416 2	151-154		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Kurihara, S.	2008	Permanent Component: Geographical Survey Institute, Tsukuba, Japan	IVS Newsletter Issue	22	2-3		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Matsuzaka, S., K. Wada, E. Iwata, H. Shigematsu, S. Kurihara, M. Machida, K. Kokado and D. Tanimoto	2008	The Past Decade of Tsukuba 32-m VLBI Station	MEASURE THE FUTURE Proceedings of the Fifth IVS General Meeting	Nauka, Saint Peter sburg	104-108		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Matsuzaka, S., H. Shigematsu, S. Kurihara, M. Machida, K. Kokado and D. Tanimoto	2008	Ultra Rapid UT1 Experiment with e-VLBI	MEASURE THE FUTURE Proceedings of the Fifth IVS General Meeting	Nauka, Saint Peter sburg	68-71		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Matsuzaka, S., K. Wada, E. Iwata, H. Shigematsu, S. Kurihara, M. Machida, K. Kokado, D. Tanimoto and K. Nozawa	2008	VLBI Activities of Tsukuba 32-m Station and Tsukuba Correlator	MEASURE THE FUTURE Proceedings of the Fifth IVS General Meeting	Nauka, Saint Peter sburg	98-103		2(1)ア	4(5)		国土地理院
町田守人・近藤哲朗・小山泰弘	2008	K5相関処理支援アプリケーション“PARNASSUS”の開発	国土地理院時報	115	11-26		2(1)ア	4(5)		国土地理院
和田弘人・栗原忍・小門研亮・重松宏実・福崎順洋・中島俊夫・谷本大輔・向井泰子	2009	国土地理院機関報告	2008年度VLBI懇談会シンポジウム集録		228-231		2(1)ア	4(5)		国土地理院
高島和宏	2009	国際VLBI 事業 (IVS) 活動状況報告	2008年度VLBI懇談会シンポジウム集録		31-33		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Kurihara, S and K. Kokado	2009	Ultra-Rapid UT1 Experiment Using e-VLBI Technique	Bulletin of the Geographical Survey Institute	57	35-43		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Tanimoto, D., S. Kurihara, K. Kokado and S. Matsuzaka	2009	Tsukuba 32-m VLBI Station	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2008 Annual Report	NASA/TP-2009-21418 3	169-172		2(1)ア	4(5)		国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Shigematsu, H., S. Kurihara, K. Kokado and K. Nozawa	2009	Tsukuba VLBI Correlator	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2008 Annual Report	NASA/TP-2009-214183	216-219		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Nozawa, K., H. Shigematsu, K. Kokado and S. Kurihara	2009	Data processing and analysis tools for ultra-rapid UT1 measurement	IVS NICT Technology Development Center News 2009	30	33-35		2(1)ア	4(5)		国土地理院
三浦優司・栗原忍・吉田賢司・川元智司・小谷京湖	2009	VLBI-GPS コロケーション測量について	国土地理院時報	119	71-85		2(1)ア	4(5)		国土地理院
三浦優司・小門研亮・福崎順洋・松坂茂・栗原忍	2010	国土地理院機関報告	2009年度VLBI懇談会シンポジウム集録		11-13		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Kurihara, S and S. Matsuzaka	2010	Tsukuba 32-m VLBI Station	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2009 Annual Report	NASA/TP-2010-215860	134-137		2(1)ア	4(5)		国土地理院
Miura, Y., K. Kokado and S. Kurihara	2010	Tsukuba VLBI Correlator	International VLBI Service for Geodesy and Astrometry 2009 Annual Report	NASA/TP-2010-215860	184-187		2(1)ア	4(5)		国土地理院
松坂茂・川元智司	2010	国際VLBI 事業(IVS)と国際GNSS 事業(IGS)	JACIC 情報	96	51-54		2(1)ア	4(5)		国土地理院
黒川隆司・福良博子・久間裕一・井城秀一・田中郁男・鈴木充広・長岡 継・江河有聡	2007	下里SLR観測の新技术	海洋情報部研究報告	43	37-43	○	2(1)ア	4(5)		海上保安庁
黒川隆司・福良博子・久間裕一・井城秀一・田中郁男・鈴木充広	2007	下里水路観測所におけるSLR観測の精度の変遷	海洋情報部技報	25	81-85		2(1)ア	4(5)		海上保安庁
佐藤まりこ・松下 優・藤田雅之・仙石 新	2009	「LAGEOS」SLRデータ解析による下里の移動速度の再計算	海洋情報部研究報告	45	1-12	○	2(1)ア	4(5)	1995~2007年までの「LAGEOS」SLRグローバルデータを用いて、下里の移動速度の再計算を行った。その結果、ユーラシアプレート安定域に対して294°の方向に2.9cm/年という速度が得られた。	海上保安庁
鈴木充広・成田誉孝・緒方克司・山田圭佑	2010	下里水路観測所の人工衛星レーザー測距装置の現況と諸元	海洋情報部研究報告	46	116-124		2(1)ア	4(5)		海上保安庁
<b>イ. 上部マントルとマグマの発生場</b>										
Katsumata, K., N. Wada and M. Kasahara	2006	Three-dimensional P and S wave velocity structures beneath the Hokkaido corner, Japan-Kurile arc-arc junction	Earth Planets Space	58	e37-e40	○	2(1)イ			北海道大
Katsumata, K.	2006	Imaging the high b-value anomalies within the subducting Pacific plate in the Hokkaido corner	Earth Planets Space	58	e49-e52	○	2(1)イ			北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い議論の項目	次に関連の深い議論の項目	概要説明	機関名
Nakajima, J., J. Shimizu, S. Hori, and A. Hasegawa	2006	Shear-wave splitting beneath the southwestern Kurile arc and northeastern Japan arc: A new insight into mantle return flow	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2005GL025053	○	2(1)イ		太平洋プレート内で発生した稍深発地震の波形を用いて、北海道から東北にかけてのS波スプリッティング解析を行った。得られた異方性の方向は、前弧側では島弧の走向にほぼ平行、背弧側ではプレートの最大傾斜方向にほぼ平行であった。背弧側において異方性の方向がプレートの収束方向と斜交するという結果は、マントルウエッジ内の二次対流によって異方性が生じていることを示唆している。	東北大
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2007	Tomographic evidence for the mantle upwelling beneath southwestern Japan and its implications for arc magmatism	Earth Planet. Sci. Lett.	254	90-105	○	2(1)イ			東北大
Zhao, D.	2007	Seismic images under 60 hotspots: Search for mantle plumes	Gondwana Research	12	335-355	○	2(1)イ	2(2)(2-2)ア		東北大
Zhao, D.	2007	Multiscale seismic tomography of mantle plumes and subducting slabs.	in "Superplumes: Beyond Plate Tectonics", ed. by D. A. Yuen, S. Maruyama, S. Karato, and B. F. Windley, Springer, Dordrecht		7-30	○	2(1)イ	2(2)(2-2)ア		東北大
Zhao, D., S. Maruyama, and S. Omori	2007	Mantle dynamics of western Pacific to East Asia: New insight from seismic tomography and mineral physics	Gondwana Research	11	120-131	○	2(1)イ			東北大
Nakajima, J., H. Iwamori, and A. Hasegawa	2008	Reply to the comment on "Tomographic evidence for the mantle upwelling beneath southeastern Japan and its implications for arc magmatism" by H. Mashima	Earth Planet. Sci. Lett.	265	322-323	○	2(1)イ			東北大・東工大理
Sun, A., D. Zhao, M. Ikeda, Y. Chen, A. Yamada, Q. Chen, Y. Ohno, and N. Nishizawa	2008	3-D P and S wave velocity structure and its relationship to seismic and volcanic activity in Southwest Japan	Progress in Geophysics	23	1013-1022	○	2(1)イ			東北大
Tsuji, Y., J. Nakajima, and A. Hasegawa	2008	Tomographic evidence for hydrated oceanic crust of the Pacific slab beneath northeastern Japan: Implications for water transportation in subduction zones	Geophys. Res. Lett.	35, L14308	doi:10.1029/2008GL034461	○	2(1)イ	2(2)(2-1)エ		東北大
Wang, J. and D. Zhao	2008	P-wave anisotropic tomography beneath Northeast Japan	Phys. Earth Planet. Inter.	170	115-133	○	2(1)イ			東北大
中島淳一・長谷川昭	2008	東北日本弧下のマントルウエッジの地震学的構造とその解釈	地学雑誌	117	76-92	○	2(1)イ			東北大
長谷川昭	2008	火山直下の地殻とマントルの構造	下鶴大輔・荒牧重雄・井田喜明・中田節也(編)「火山の事典」, 朝倉書店		190-195(分担執筆)		2(1)イ			東北大
長谷川昭・中島淳一・北佐枝子・辻優介・新居恭平・岡田知己・松澤暢・趙大鵬	2008	地震波でみた東北日本沈み込み帯の水の循環—スラブから島弧地殻への水の供給	地学雑誌	117	59-75	○	2(1)イ	2(2)(2-1)エ		東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Chou, H., B. Kuo, L. Chiao, D. Zhao, and S. Hung	2009	Tomography of the westernmost Ryukyu subduction zone and the serpentinization of the forearc mantle	J. Geophys. Res.	114	B12301	○	2(1)イ	2(2)(2-1)エ		東北大
Duan, Y., D. Zhao, X. Zhang, S. Xia, Z. Liu, F. Wang, and L. Li	2009	Seismic structure and origin of active intraplate volcanoes in Northeast Asia	Tectonophys.	470	257-266	○	2(1)イ			東北大
Lei, J., D. Zhao, and Y. Su	2009	Insight into the origin of the Tengchong intraplate volcano and seismotectonics in southwest China from local and teleseismic data	J. Geophys. Res.	114	B05302	○	2(1)イ			東北大
Maruyama, S., A. Hasegawa, M. Santosh, T. Kogiso, S. Omori, H. Nakamura, K. Kawai, and D. Zhao	2009	The dynamics of Big Mantle Wedge, Magma Factory, and Metamorphic -Metasomatic Factory in subduction zones	Gondwana Research	16	414-430	○	2(1)イ			東北大
Sano, Y., A. Kameda, N. Takahata, J. Yamamoto, and J. Nakajima	2009	Tracing extinct spreading center in SW Japan by helium-3 emanation	Chemical Geology	266	50-56	○	2(1)イ			東北大
Yamamoto, S., J. Nakajima, A. Hasegawa, and S. Maruyama	2009	Izu-Bonin arc subduction under the Honshu island, Japan: Evidence from geological and seismological aspect	Gondwana Research	16	572-580	○	2(1)イ	2(1)ア		東北大
Zhao, D., Y. Tian, J. Lei, L. Liu, and S. Zheng	2009	Seismic image and origin of the Changbai intraplate volcano in East Asia: Role of big mantle wedge above the stagnant Pacific slab	Phys. Earth Planet. Inter.	173	197-206	○	2(1)イ		中国と北朝鮮の国境にある長白山活火山の起源は、東アジア大陸東部下のマンテル遷移層にある停滞スラブの深部脱水とスラブ上のBig mantle wedge (BMW) 内の熱い上昇流に関係していることが分かった。	東北大
Kiyosugi, K., C. Connor, D. Zhao, L. Connor, and K. Tanaka	2010	Relationships between volcano distribution, crustal structure, and P-wave tomography: An example from the Abu monogenetic volcano group, SW Japan	Bull. Volcanol.	72	331-340	○	2(1)イ			東北大
Wang, J. and D. Zhao	2010	Mapping P-wave anisotropy of the Honshu arc from Japan Trench to the back-arc	J. Asian Earth Sci.	39	396-407	○	2(1)イ	2(1)ウ		東北大
Wei, W., D. Zhao, and Y. Shi	2010	Three-dimensional P-wave tomography of the volcanic areas in southwest Japan	Earth Sci. Frontiers	17	149-157	○	2(1)イ			東北大
Zhao, D., S. Ueki, Y. Nishizono, and A. Yamada	2010	New seismic evidence for the origin of arc and back-arc magmas	in "Topics in Igneous Petrology", ed. by J. Ray, G. Sen, and B. Ghosh, Springer, Dordrecht		117-132	○	2(1)イ			東北大
片山郁夫・平内健一・中島淳一	2010	日本列島下での沈み込みプロセスの多様性	地学雑誌	119	205-223	○	2(1)イ	2(1)ア		東北大
Zhao, D., S. Yu, and E. Ohtani	2011	East Asia: Seismotectonics, magmatism and mantle dynamics	J. Asian Earth Sci.	40	689-709	○	2(1)イ	2(4)エ	太平洋スラブは東アジア大陸東部下のマンテル遷移層に停滞し、スラブの真上にBig mantle wedge (BMW) が形成された。BMW内の対流と停滞スラブの深部脱水が東アジア地域の地震・火山活動とマンテルダイナミクスを規制している。	東北大
Miyazaki, S., Segall, P., McGuire, J. J., Kato, T., and Hatanaka, Y.	2006	Spatial and temporal evolution of stress and slip rate during the 2000 Tokai slow earthquake	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2004JB003426.	○	2(1)イ			東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Richard, G.C., and Iwamori, H.	2010	Stagnant slab, wet plumes and Cenozoic volcanism in East Asia.	Phys. Earth Planet. Inter.	183	280-287	○	2(1)イ	2(1)ウ		東工大大理
Nakamura, H., Iwamori, H., and Kimura, J.-I.	2008	Geochemical evidence for enhanced fluid flux due to overlapping subducting plates	Nature Geoscience	1	doi:10.1038/ng- eo200	○	2(1)イ	2(1)ウ		東工大大理
Iwamori, H.	2007	Transportation of H2O beneath the Japan arcs and its implications for global water circulation	Chemical Geology	239	182-198	○	2(1)イ	2(1)ウ		東工大大理
Iwamori, H., Richardson, C., and Maruyama, S.	2007	Numerical modeling of thermal structure, circulation of H2O, and magmatism-metamorphism in subduction zones: implications for evolution of arcs	Gondwana Research	11	109-119	○	2(1)イ	2(1)ウ		東工大大理
Toh, H., K. Baba, M. Ichiki, T. Motobayashi, Y. Ogawa, M. Mishina, and I. Takahashi	2006	Two-dimensional electrical section beneath the eastern margin of Japan Sea	Geophys. Res. Lett.	33	L22309	○	2(1)イ			東工大流 体・東北 大
Umeda, K., K. Asamori, T. Negi and Y. Ogawa	2006	Magnetotelluric imaging of crustal magma storage beneath Mesozoic crystalline mountains in a non-volcanic region, Northeast Japan	Geochem. Geophys. Geosyst.	7	Q08005	○	2(1)イ	2(1)ウ		東工大流 体
Umeda, K., Y. Ogawa, K. Asamori, and T. Oikawa	2006	Aqueous fluids derived from a subducting slab: observed high 3He emanation and conductive anomaly in a non-volcanic region, Kii Peninsula southwest Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	149	47-61	○	2(1)イ	2(1)ウ		東工大流 体
Heise, W., H. M. Bibby, T. G. Caldwell, S. C. Bannister, Y. Ogawa, S. Takakura, and T. Uchida	2007	Melt distribution beneath a young continental rift: The Taupo Volcanic Zone, New Zealand	Geophys. Res. Lett.	34	L14313	○	2(1)イ			東工大流 体
Tonegawa, T., Nishida, K., Watanabe, T., Shiomi, K	2009	Seismic interferometry of teleseismic S-wave coda for retrieval of body waves: an application to the Philippine Sea slab underneath the Japanese Islands	Geophys. J. Int.	178(3)	1183- 1789	○	2(1)イ			名古屋大
中道治久	2008	地震波速度構造と震源メカニズムによる深部低周波地震の発生機構—岩手山と富士山の例—	火山	53	215-221	○	2(1)イ	2(1)ウ		名古屋大
Hori, S.	2006	Seismic activity associated with the subducting motion of the Philippine Sea plate beneath the Kanto district, Japan	Tectonophys.	417	85-100	○	2(1)イ	2(2)(2-1) イ		防災科研
Kimura, H. and K. Kasahara, T. Igarashi, and N. Hirata	2006	Repeating earthquake activities associated with the Philippine Sea plate subduction in the Kanto district, central Japan. : A new plate configuration revealed by interplate aseismic slips	Tectonophys.	417	101-118	○	2(1)イ	2(2)(2-1) イ		防災科研
Sekiguchi, S.	2006	Hierarchical travelttime tomography	Geophys. J. Int.	166	1105- 1124	○	2(1)イ	2(2)(2-1) イ		防災科研
Shiomi, K., K. Obara and H. Sato	2006	Moho Depth Variation beneath Southwestern Japan Revealed From the Velocity Structure Based on Receiver Function Inversion	Tectonophys.	420	205-221	○	2(1)イ	2(2)(2-1) イ		防災科研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
松原誠・関根秀太郎・林広樹・小原一成・笠原敬司	2007	Hi-netのデータを用いた三次元速度・Q構造によるフィリピン海プレートのイメージング	月刊地球号外	57	60-70		2(1)イ	2(2)(2-1)イ		防災科研
K., Shiomi, M., Matsubara and K., Obara	2006	Configuration of Philippine Sea slab and local seismicity beneath central and southwest Japan	EOS Trans. Am. Geophys. Union	T21	A-0390	○	2(1)イ	2(2)(2-1)イ		防災科研
汐見勝彦・松原誠・小原一成	2008	地震学的探査によるモホ不連続面の検出 - 近畿地方を例として -	地学雑誌	117	45 - 58	○	2(1)イ	2(2)(2-1)イ		防災科研
Shiomi, K., M. Matsubara, Y. Ito and K. Obara	2008	Simple relationship between seismic activity along Philippine Sea slab and geometry of oceanic Moho beneath southwest Japan	Geophys. J. Int.	173	1018 - 1029	○	2(1)イ	2(2)(2-1)イ		防災科研
Shiomi, K., M. Matsubara, Y. Ito and K. Obara	2008	Structural features of the subducting slab beneath the Kii Peninsula, central Japan: Seismic evidence of slab segmentation, dehydration, and anisotropy	J. Geophys. Res.	113, B10318	doi:10.1029/2007JB005535	○	2(1)イ	2(2)(2-1)イ		防災科研
Matsubara, M., K. Obara and K. Kasahara	2008	Three - dimensional P - and S - wave velocity structures beneath the Japan Islands obtained by high - density seismic stations by seismic tomography	Tectonophys.	454	86 - 103	○	2(1)イ	2(2)(2-1)イ		防災科研
金田義行, 朴進牛, 尾鼻浩一郎, 木下正高, 堀高峰, 小平秀一, 金沢俊彦, 篠原雅尚, 酒井慎一, 山田知朗	2006	2004年紀伊半島南東沖地心震源域の地殻構造と余震分布について	地震	59	187-197		2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
金田義行	2008	海洋研究開発機構における地震調査観測研究海溝型巨大地震震源域の地殻構造・活動研究	「地震予知連絡会40年のあゆみ」				2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Kodaira, S., G. Fujie, M. Yamashita, S. Miura, N. Takahashi, Y. Kaneda	2006	Active source seismic studies across/along across-arc seamount chains in Izu-Bonin arc line in the Izu-Ogasawara - Cruise report of KR0601 and KR0605 -	JAMSTEC Report of Research and Development	4	13-26	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Shuichi Kodaira, Takane Hori, Aki Ito, Seiichi Miura, Gou Fujie, Jin-Oh Park, Toshitaka Baba, Hide Sakaguchi, Yoshiyuki Kaneda(IFREE)	2006	A cause of rupture segmentation and synchronization in the Nankai trough revealed by seismic imaging and numerical simulation	J. Geophys. Res.	111	B09301, doi:10.1029/2005JB004030	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Obana, K., S. Kodaira, Y. Kaneda	2006	Seismicity related to heterogeneous structure along the western Nankai trough off Shikoku Island	Geophys. Res. Lett.	33	L23310, doi:10.1029/2006GL028179	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Obana, K., S. Kodaira, Y. Kaneda	2009	Seismicity at the Eastern End of the 1944 Tonankai Earthquake Rupture Area	Bull. Seism. Soc. Am.	99(1)	110-122	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Nakanishi, A., S. Kodaira, S. Miura, A. Ito, T. Sato, J.-O. Park, Y. Kido, Y. Kaneda	2008	Detailed structural image around splay fault branching in the Nankai subduction seismogenic zone: Results from a high-density ocean-bottom seismic survey	J. Geophys. Res.	113	B03105, doi:10.1029/2007JB004974-	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
三浦誠一, 鶴哲郎, 藤江剛, 中島義成, 浅川栄一	2006	OBS/MCS統合イメージング処理の実用化に関する検討	物理探査	59(5)	485-495		2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
三浦 誠一	2008	「かいらい」の新構造探査システム	日本深海技術協 会会報				2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Miura, S., M. Yamashita, N. Takahashi, S. Kodaira, Y. Kaneda	2008	Wide-angle seismic profiling across the middle Izu-Ogasawara Arc - KR07-13 cruise -	JAMSTEC Report of Research and Development	7	19-29	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Miura, S., T. Sato, T. No, N. Takahashi, S. Kodaira, Y. Kaneda	2006	Wide-angle seismic experiment crossing the Sofu-gan tectonic line in the Izu-Ogasawara arc -KY0507 cruise-	JAMSTEC Report of Research and Development	3	19-30	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Fujie, G., A. Ito, S. Kodaira, N. Takahashi, Y. Kaneda	2006	Confirming sharp bending of the Pacific plate in the northern Japan trench subduction zone by applying a travelttime mapping method	Phys. Earth Planet. Inter.	157	72-85	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
藤江 剛, 伊藤亜紀	2007	日本海溝北部におけるプレート境界型地震の破壊域分布と地殻構造	月刊地球	29	427-431		2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Fujie, G., J. Kasahara, K. Murase, K. Mochizuki, Y. Kaneda	2008	Interactive analysis tools for the wide-angle seismic data for crustal structure study	物理探査	61(1)	26-33	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
藤江 剛, 小平秀一	2010	地殻構造モデリングのための新しい走時解析手法：検証と改良	JAMSTEC Report of Research and Development	12	37-51	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Takeshi Sato, Toshinori Sato, Masanao Shinohara, Ryota Hino, Minoru Nishino, Toshihiko Kanazawa	2006	P-wave velocity structure of the margin of the southeastern Tsushima Basin in the Japan Sea using ocean bottom seismometers and airguns	Tectonophys.	412(3-4)	159-171	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
No, T., K. K. Takizawa, N. Takahashi, Y. Kaiho, S. Kodaira, T. Kaneda	2007	Multi-channel seismic reflection survey in Izu-Ogasawara-Mariana island arc - KR06-13 cruise report-	JAMSTEC Report of Research and Development	5	41-50		2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
No, T., K. Takizawa, N. Takahashi, S. Kodaira, Y. Kaneda	2008	Multi-channel seismic reflection survey in the northern Izu-Ogasawara-Mariana island arc -KR07-09 cruise -	JAMSTEC Report of Research and Development	7	31-41		2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Narumi Takahashi, Shuichi Kodaira, Simon L. Klemperer, Yoshiyuki Tatsumi, Yoshiyuki Kaneda, Kiyoshi Suyehiro	2006	Crustal structure and evolution of the Mariana intra-oceanic island arc	Geology	35	203-206	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Narumi Takahashi, Takeshi Sato, Shuichi Kodaira, Yoshiyuki Kaneda	2006	Wide-angle seismic profiling across the middle Izu-Ogasawara arc for understanding boundary structure between the mature and juvenile arcs -KY0511 cruise-	JAMSTEC Report of Research and Development			○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC
Narumi Takahashi, Shuichi Kodaira, Yoshiyuki Tatsumi, Yoshiyuki Kaneda, and Kiyoshi Suyehiro	2007	Structure and growth of the Izu-Bonin-Mariana arc crust: I. Seismic constraint on crust and mantle structure of the Mariana arc - backarc system	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005120	○	2(1)イ	2(2)(2-1) ア		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Narumi Takahashi, Takeshi Sato, Shuichi Kodaira, Yoshiyuki Kaneda	2007	Wide-angle seismic profiling across the middle Izu-Ogasawara arc for understanding boundary structure between the mature and juvenile arcs. -KY0609 cruise-	JAMSTEC Report of Research and Development	5	9-20	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Narumi Takahashi, A. Ito, S. Kodaira, Y. Kaneda	2007	Wide-angle seismic profiling across an active rifted zone in the middle Izu-Ogasawara arc. -KY0511 cruise-	JAMSTEC Report of Research and Development	4	27-40	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Narumi Takahashi, Tsutomu takahashi, Shuichi Kodaira, Yoshiyuki Kaneda	2008	Refraction and reflection Seismic profilings to investigate the Eocene arc - KY0715 cruise -	JAMSTEC Report of Research and Development			○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Narumi Takahashi, Shuichi Kodaira, Yoshiyuki Tatsumi, Mikiya Yamashita, Takeshi Sato, Yuka Kaiho, Seiichi Miura, Tetsuo No, Kaoru Takizawa, Yoshiyuki Kaneda	2008	Structural variations of arc crusts and rified margins in the southern Izu-Ogasawara arc-backarc system	Geochem. Geophys. Geosyst.	10	doi:10.1029/2008GC002146	○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Narumi Takahashi, Mikiya Yamashita, Shuichi Kodaira, Seiichi Miura, Takeshi Sato, Tetsuo No, Kaoru Takizawa, Yoshiyuki Tatsumi and Yoshiyuki Kaneda	2010	Rifting structure developed in the central Izu-Ogasawara intra-oceanic arc	Springer book, Convergent margin tectonics by submersible in the Northwest Pacific			○	2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
高橋成実	2010	地殻進化をとりまく原理の変遷とその最前線	海の科学がわかる本		106-122		2(1)イ	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
Chadwick, W. W., Embley, R. W., Baker E. T. et al.	2010	Spotlight 10/ Northwest Rota-1 Seamount	Oceanography	23	182-183	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Embley, R. W., Chadwick, W. W., Baker E. T. et al.	2006	Long-term eruptive activity at a submarine arc volcano	nature	441	doi:10.1038/nature04762	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Fujiwara, T., Kido, Y., Tamura, Y. et al.	2009	Gravity and magnetic constraints on the crustal structure and evolution of the Horeki seamount in the Izu-Ogasawara (Bonin) arc	Earth Planets Space	61	333-343	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Ishizuka, O., Kimura, J-I., Li, Y. B. et al.	2006	Early stages in the evolution of Izu-Bonin arc volcanism: New age, chemical, and isotopic constraints.	Earth Planet. Sci. Lett.	250	385-401	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC
Ishizuka, O., Taylor, R. N., Milton, J. A. et al.	2006	Variation in the mantle sources of the northern Izu arc with time and space-Constraints from high-precision Pb isotopes.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	156	266-290	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC
Ishizuka, O., Yuasa, M., Tamura, Y. et al.	2010	Migrating shoshonitic magmatism tracks Izu-Bonin-Mariana intra-oceanic arc rift propagation	Earth Planet. Sci. Lett.	294	111-122	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Obana, K., Kamiya, S., Kodaira, S. et al.	2010	Along-arc variation in seismic velocity structure related to variable growth of arc crust in northern Izu-Bonin intraoceanic arc	Geochemistry Geophysics Geosystems	11	doi:10.1029/2010GC003146	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Reagan, M. K., Ishizuka, O., Stern, R. J. et al.	2010	Fore-arc basalts and subduction initiation	Geochemistry Geophysics Geosystems	11	doi:10.1029/2009GC002871	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC
Shukuno, H., Tamura, Y. et al.	2006	Origin of silicic magmas and the compositional gap at Sumisu submarine caldera, Izu-Bonin arc, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	156	187-216	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Stern, R. J., Tamura, Y., Embley, R. W. et al.	2008	Evolution of West Rota volcano, an extinct submarine volcano in the southern Mariana arc: evidence from sea floor morphology, remotely operated vehicle observations and 40Ar-39Ar geochronological studies	Island Arc	17	70-89	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Tamura, Y., K. Tani, Q. Chang, K. Syukuno, H. Kawabata, O. Ishizuka, and R. S. Fiske,	2007	Wet and Dry Basalt Magma Evolution at Torishima Volcano, Izu-Bonin Arc, Japan: the Possible Role of Phengite in the Downgoing Slab	J. Petrol.	48	1999-2031	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC ・産総研
Tamura, Y., Nakajima, J., Kodaira, S., Hasegawa, A.	2009	Tectonic setting of volcanic centers in subduction zones: three-dimensional structure of mantle wedge and arc crust	Tectonism and the Siting of Nuclear Facilities (C. Connor, N. Chapman & L. Connor; editors), special issue		176-194	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC ・東北大
Tamura, Y., J. B. Gill, D. L. Tollstrup, H. Kawabata, K. Syukuno, Q. Chang, T. Miyazaki, T. Takahashi, Y. Hirahara, S. Kodaira, O. Ishizuka, T. Suzuki, Y. Kido, and R. S. Fiske,	2009	Silicic Magmas in the Izu-Bonin Oceanic Arc and Implications for Crustal Evolution	J. Petrol.	50	685-723	○	2(1)イ	2(1)ウ	伊豆弧に噴出する流紋岩マグマと地殻構造との関係を議論し、流紋岩マグマの成因を示した。	JAMSTEC ・産総研
Tamura, Y., Ishizuka, O., Aoike, K. et al.	2010	Missing Oligocene crust of the Izu-Bonin arc: consumed or rejuvenated during collision?	J. Petrol.	51	823-846	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Tamura, Y., Ishizuka, O., Stern, R. J., et al.	2011	Two primary basalt magma types from Northwest Rota-1 volcano, Mariana arc and its mantle diapir or mantle wedge plume	J. Petrol.	52	1143-1183	○	2(1)イ	2(1)ア	一つの火山に二つの玄武岩質初生マグマが存在することを示した。	JAMSTEC
Tani, K., Fiske, R. S., Tamura, Y. et al.	2008	Sumisu volcano, Izu-Bonin arc, Japan: site of a silicic caldera-forming eruption from a small open-ocean island.	Bull. Volcanol.	70	547-562	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Tani, K., Dunkley, D. J., Kimura, J-K. et al.	2010	Syncollisional rapid granitic magma formation in an arc-arc collision zone: evidence from the Tanzawa plutonic complex, Japan.	Geology	38	215-218	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Tani, K., Dunkley, D. J., Ohara, Y.	2011	Termination of back-arc spreading: zircon dating of a giant oceanic core complex	Geology	39	47-50	○	2(1)イ	2(1)ウ		JAMSTEC
Tatsumi, Y. & Stern, R. J.	2006	Manufacturing continental crust in the Subduction Factory.	Oceanography	19	104-112	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC
Tatsumi, Y., Shukuno, H., Tani, K. et al.	2008	Structure and growth of the Izu-Bonin-Mariana arc crust: 2. Role of crust-mantle transformation and the transparent Moho in arc crust evolution.	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005121	○	2(1)イ	2(1)ウ	地震波で観測された地殻構造を岩石学的モデルで検証し、地殻構造に岩石学的解釈を与えるとともに地殻の成長の新しい仮説を提示した。	JAMSTEC
Tatsumi, Y. & Suzuki, T.	2009	Tholeiitic vs calc-alkalic differentiation and evolution of arc crust: constraints from melting experiments on a basalt from the Izu-Bonin-Mariana arc.	J. Petrol.	50	1575-1603	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC
Tatsumi, Y., Tani, K., Sato, K. et al.	2010	Multi-chronology of volcanic rocks leading to reliable age estimates of volcanic activity: an example from the Setouchi volcanic rocks on Shodo-Shima Island, SW Japan	Journal of the Geological Society of Japan	116	661-679	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC
Tollstrup, D., Gill, J. et al.	2010	Across-arc geochemical trends in the Izu-Bonin arc: Contributions from the subducting slab, revisited.	Geochemistry Geophysics Geosystems	11	doi:10.1029/2009GC002847	○	2(1)イ	2(1)ア		JAMSTEC
Geshi, N., S. Umino, H. Kumagaya, J. M. Sinton, S. White, K. Kishimoto, and T. W. Hilde,	2007	Discrete plumbing systems and heterogeneous magma sources of a 24 km <sup>3</sup> off-axis lava field on the western flank of East Pacific Rise, 14° S	Earth Planet. Sci. Lett.	258	61-72	○	2(1)イ			産総研
Ishizuka, o., R. N. Taylor, J. Andy Milton, R. W. Nebitt, M. Yuasa, and I. Sakamoto,	2007	Processes controlling along-arc isotopic variation of the southern Izu-Bonin arc	Geochem. Geophys. Geosyst.	8	doi:10.1029/2006GC001475	○	2(1)イ		伊豆小笠原弧南部の火山のマグマの起源物質を議論した。	産総研・JAMSTEC
Uto, K., Y. Yamamoto, M. Sudo, S. Utsumi, O. Ishizuka, T. Kogiso, and H. Amikawa,	2007	New K-Ar ages of the Society Islands, French Polynesia, and implication for the Society hotspot feature	Earth Planets Space	59	879-885	○	2(1)イ			産総研
Yamamoto, Y., O. Ishizuka, M. Sudo, K. Uto,	2007	<sup>40</sup> Ar/ <sup>39</sup> Ar ages and paleomagnetism of transitionally magnetized volcanic rocks in the Society Islands, French Polynesia: Raiatea excursion in the upper-Gauss Chron	Geophys. J. Int.	169	41-59	○	2(1)イ			産総研
Collier, J. S., V. Sansom, O. Ishizuoka, R.N.Taylor, T.A. Minshull, and R. B. Whitmarsh,	2008	Age of Seychelles-India break-up	Earth Planet. Sci. Lett.	272	264-277	○	2(1)イ			産総研
海野 進・下司信夫・熊谷英徳・岸本清行	2008	東太平洋海膨のオフリッジ火山はモホ遷移帯起源か？	地学雑誌	117	190-219	○	2(1)イ			産総研
Hawkins, J. W., and Ishizuka, O.	2009	Petrologic Evolution of Palau: A Nascent Island Arc	Island Arc	18	599-641	○	2(1)イ			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Hoang, N., J. Ito, K. Uto, and T. Matsumoto,	2009	Geochemical and Sr-Nd-Pb isotopic study of Late Neogene volcanic rocks from the Arita Imari area (SW Japan): Evidence for coexisting OIB-like and subduction-related mantle sources		13	31-57	○	2(1)イ		北部九州地域の珪長質単成火山(有田・伊万里火山群)について、新たに年代測定と地質調査による時空分部の検討を行うと共に、同位体組成分析によるマグマ成因に関する検討を行った。	産総研
Ishizuka, O., M. Yuasa, R. N. Taylor, and I. Sakamoto,	2009	Two contrasting magmatic types coexist after the cessation of back-arc spreading	Chemical Geology	266	283-305	○	2(1)イ		伊豆背弧地域の2つの異なるマグマタイプについて議論した。	産総研
Ishizuka, O. M. Yuasa, Y. Tamura, H. Syukuno, R. J. Stern, M. Ueshima, and R. N. Taylor,	2010	Migrating shoshonitic magmatism tracks Izu-Bonin-Mariana intra-oceanic arc rift propagation	Earth Planet. Sci. Lett.	294	111-122	○	2(1)イ			産総研
Tamura, Y. O. Ishizuka, K. Aoike, S. Kawate, Q. Chang, S. Saito, Y. Tatsumi, M. Arima, M. Takahashi, T. Kanamura, S. Kodaira, R. S. Friske,	2010	Missing Oligocene Crust of the Izu-Bonin Arc: Consumed or Rejuvenated During Collision?	J. Petrol.	50	685-723	○	2(1)イ			産総研
Tollstrup, D. L., J. B. Gill, A. Kent, D. Prinkey, R. Williams, Y. Tamura, and O. Ishizuka,	2010	Across-arc geochemical trends in the Izu-Bonin arc: Contributions from the subducting slab, revisited	Geochem. Geophys. Geosyst.	11	Q01X10, doi:10.1029/2009GC002847	○	2(1)イ			産総研
<b>ウ. 広域の地殻構造と地殻流体の分布</b>										
Matsumoto, S., K. Uehira, A. Watanabe, K. Goto, Y. Iio, N. Hirata, T. Okada, H. Takahashi, H. Shimizu, M. Shinohara and T. Kanazawa	2009	High resolution Q-1 estimation based on extension of coda normalization method and its application to P-wave attenuation structure in the aftershock area of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (M7.0)	Geophys. J. Int.	179	doi: 10.1111/j.1365-246X.2009.04313.x	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		北海道大
高橋浩晃・宮村淳一	2009	日本列島における深部低周波地震の発生状況	北海道大学地球物理学研究報告	72	177-190		2(1)ウ	2(1)イ		北海道大
Murai, Y.	2007	Scattering attenuation, dispersion and reflection of SH waves in two-dimensional elastic media with densely distributed cracks	Geophys. J. Int.	168	211-223	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ア		北海道大
村井芳夫	2007	非常に密に分布する亀裂群から成る断層破砕帯の散乱減衰・速度分散・反射特性	月刊地球	29	242-246		2(1)ウ	2(2)(2-1)ア		北海道大
Machida, Y., Shinohara, M., Takanami, T., Murai, Y., Yamada, T., Hirata, N., Suyehiro, K., Kanazawa, T., Kaneda, Y., Mikada, H., Sakai, S., Watanabe, T., Uehira, K., Takahashi, N., Nishino, M., Mochizuki, K., Sato, T., Araki, E., Hino, R., Uhira, K., Shiobara, H., Shimizu, H.	2009	Heterogeneous structure around the rupture area of the 2003 Tokachi-oki earthquake (Mw=8.0), Japan, as revealed by aftershock observation using Ocean Bottom Seismometers	Tectonophys.	465	164-176	○	2(1)ウ	2(1)ア		北海道大
一條和宏・村井芳夫・町田裕弥・三浦亮・西村裕一・高波鐵夫	2009	北海道えりも沖における海底地震観測から得られた地震活動	北海道大学地球物理学研究報告	72	23-35		2(1)ウ	2(1)ア		北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Shinohara, M., Yamada, T., Nakahigashi, K., Sakai, S., Mochizuki, K., Uehira, K., Ito, Y., Azuma, R., Kaiho, Y., No, T., Shiobara, H., Hino, R., Murai, Y., Yakiwara, H., Sato, T., Machida, Y., Shinbo, T., Isse, T., Miyamachi, H., Obana, K., Takahashi, N., Kodaira, S., Kaneda, Y., Hirata, K., Yoshikawa, S., Obara, K., Iwasaki, T., Hirata, N.	in press	Aftershock observation of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake by using ocean bottom seismometer network	Earth Planets Space			○	2(1)ウ	2(1)ア		北海道大
Yamada, T., Nakahigashi, K., Kuwano, A., Mochizuki, K., Sakai, S., Shinohara, M., Hino, R., Murai, Y., Takanami, T., Kanazawa, T.	in press	Spatial distribution of earthquakes off the east coast of Kanto region along the Japan Trench deduced from ocean bottom seismographic observations and its relations with aftershock sequence of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake	Earth Planets Space			○	2(1)ウ	2(1)ア		北海道大
西田泰典・橋本武志	2007	北海道における地殻、上部マントルの熱的構造：総合報告	北海道大学地球物理学研究報告	70	1-12		2(1)ウ			北海道大
小菅正裕	2010	恐山周辺の低周波地震活動	東北地域災害科学研究	46	7-12		2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		弘前大学
Ikeda, M., D. Zhao, and Y. Ohno	2006	Crustal structure, fault segmentation and activity of the Median Tectonic Line in Shikoku, Japan	Tectonophys.	412	49-60	○	2(1)ウ			東北大
Rubinstein, J., N. Uchida, and G. Beroza	2007	Seismic velocity reductions caused by the 2003 Tokachi-oki earthquake	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004440	○	2(1)ウ			東北大
Tian, Y., D. Zhao, R. Sun, and J. Teng	2007	The 1992 Landers earthquake: Effect of crustal heterogeneity on earthquake generation	Chinese J. Geophys.	50	1488-1496		2(1)ウ			東北大
Sano, Y., and J. Nakajima	2008	Geographical distribution of 3He/4He ratios and seismic tomography in Japan	Geochem. J.	42	51-60	○	2(1)ウ	2(1)イ		東北大
Yoshioka, S., M. Toda, and J. Nakajima	2008	Regionality of deep low-frequency earthquakes associated with subduction of the Philippine Sea plate along the Nankai Trough, southwest Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	272	189-198	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)イ		東北大
Gupta, S., D. Zhao, M. Ikeda, S. Ueki, and S. Rai	2009	Crustal tomography under the Median Tectonic Line in Southwest Japan using P and PmP data	J. Asian Earth Sci.	35	377-390	○	2(1)ウ			東北大
Lei, J. and D. Zhao	2009	Structural heterogeneity of the Longmenshan fault zone and the mechanism of the 2008 Wenchuan earthquake (Ms 8.0)	Geochem. Geophys. Geosyst.	10	Q10010	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		東北大
Mishina, M.	2009	Distribution of crustal fluids in Northeast Japan as inferred from resistivity surveys	Gondwana Research	16	563-571	○	2(1)ウ			東北大
Wang, J. and D. Zhao	2009	P-wave anisotropic tomography of the crust and upper mantle under Hokkaido, Japan	Tectonophys.	469	137-149	○	2(1)ウ	2(1)イ		東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Emoto, K., H. Sato, and T. Nishimura	2010	Synthesis of vector wave envelopes on the free surface of a random medium for the vertical incidence of a plane wavelet based on the Markov approximation	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006955	○	2(1)ウ		不均質構造における地震波のエンベロープ形成理論を自由表面がある場合に拡張した。構造推定の為の基礎と位置づけられる。	東北大
Horiguchi, K., S. Ueki, Y. Sano, N. Takahata, A. Hasegawa, and G. Igarashi	2010	Geographical distribution of helium isotope ratios in northeastern Japan	Island Arc	19	60-70	○	2(1)ウ	2(1)イ		東北大
Tripathi, J. N., H. Sato, and M. Yamamoto	2010	Envelope broadening characteristics of crustal earthquakes in northeastern Honshu, Japan	Geophys. J. Int.	182	988-1000	○	2(1)ウ		東北地方の前弧側と背弧側で、短周期地震波の伝播特性を調べ、見かけ継続時間の伝播距離依存性が異なることを解析から明らかにした。	東北大
Uchida, N., S. H. Kirby, T. Okada, R. Hino, and A. Hasegawa	2010	Supraslab earthquake clusters above the subduction plate boundary offshore Sanriku, NE Japan: Seismogenesis in a graveyard of detached seamounts?	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006797	○	2(1)ウ	2(1)ア	東北日本三陸沿岸の深さ25-50kmに、沈み込む太平洋スラブとほぼ平行に分布する特異な地震活動を見出した。変換波から前弧モホ面、再決定した小繰り返し地震からプレート境界の位置を推定した。その結果この地震活動は上盤プレートのマントルウェッジで発生しており、沈み込むスラブから分離した物質の中で発生している可能性が示唆された。これが正しければ、東北日本前弧域での底づけ作用を示す最初の地震学的証拠となる。	東北大
Cheng, B., D. Zhao, and G. Zhang	2011	Seismic tomography and anisotropy in the source area of the 2008 Iwate-Miyagi earthquake (M 7.2)	Phys. Earth Planet. Inter.	184	172-185	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		東北大
Huang, Z., D. Zhao, and L. Wang	2011	Shear-wave anisotropy in the crust, mantle wedge and the subducting Pacific slab under Northeast Japan	Geochem. Geophys. Geosyst.	12	Q01002	○	2(1)ウ	2(1)イ		東北大
Sawazaki, K., H. Sato, and T. Nishimura	2011	Envelope synthesis of short-period seismograms in 3-D random media for a point shear-dislocation source based on the forward scattering approximation: Application to small strike-slip earthquakes in southwestern Japa	J. Geophys. Res.	in press	doi:10.1029/2010JB008182	○	2(1)ウ		不均質媒質中の短周期地震波の伝播特性のモデル化とモンテカルロシミュレーションに基づく考察を行った。特にダブルカップル型震源の輻射パターンの場合、観測される短周期地震波のエンベロープの輻射角依存性が周波数によってどのように変化するかを定量的に記述することが可能となった。	東北大
坂中伸也・西谷忠師・網田和宏・三浦卓也・篠原宏志・市原寛・上島誠・三品正明・茂木亨・山谷祐介・小川康雄	2009	2008年岩手・宮城内陸地震(Mj7.2)震源域周辺の2次元比抵抗構造	東北地域災害科学研究				2(1)ウ	4(4)		秋田大
三浦卓也・西谷忠師・坂中伸也・小川康雄・茂木透・三品正明	2007	1914年仙北地震地域における地震活動とMTモデリング	Conductivity Anomaly 研究会論文集		9-16		2(1)ウ	4(4)		秋田大
小川康雄・糸魚川静夫が構造線断層帯MT観測グループ	2007	糸魚川-静岡構造線断層帯の比抵抗構造	Conductivity Anomaly 研究会論文集		17-21		2(1)ウ	4(4)		秋田大
Kato, A., T. Iidaka, R. Ikuta, Y. Yoshida, K. Katsumata, T. Iwasaki, S. Sakai, C. Thurber, N. Tsumura, K. Yamaoka, T. Watanabe, T. Kunitomo, F. Yamazaki, M. Okubo, S. Suzuki, N. Hirata	2010	Variations of fluid pressure within the subducting oceanic crust and slow earthquakes	Geophys. Res. Lett.	37	L14310, doi:10.1029/2010GL043723	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ	東海地震の固着域深部から、深部低周波微動震源域までの約100 kmの稠密地震計アレイを展開し、長期的スロースリップや深部低周波地震の発生域の詳細な地下構造を推定した。その結果、長期的スロースリップの重心には、顕著な低速度・高ポアソン比の海洋性地殻が存在する。一方、その深部の低周波微動域では、上記の低速度・高ポアソン比の異常が緩和する特徴を捉えた。	東大地震研・名古屋大
Kato, A., S. Sakai, T. Iidaka, T. Iwasaki and N. Hirata	2010	Non-volcanic seismic swarms triggered by circulating fluids and pressure fluctuations above a solidified diorite intrusion	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2010GL043887	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ	非火山性群発地震が発生する領域は、周囲よりも若干低速度、且つ、非常に低いポアソン比の異常を示す。これらの速度異常は、流体に満たされたクラックによって解釈できる。さらに、群発地震の直下に、顕著な高速度体が存在し、貫入した閃緑岩に対応すると考えられる。以上より、貫入したマグマが引き起こす熱水循環による流体圧の変化が非火山性群発地震を引き起こしているというモデルを提案した。	東大地震研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Yamaguchi, S., M. Uyeshima, H. Murakami, S. Sutoh, D. Tanigawa, T. Ogawa, N. Oshiman, R. Yoshimura, K. Aizawa, I. Shiozaki and T. Kasaya,	2009	Modification of the Network-MT method and its first application in imaging the deep conductivity structure beneath the Kii Peninsula, southwestern Japan	Earth Planets Space	61	957-971	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		東大地震研
Kurashimo, E., T. Iwasaki, N. Hirata, T. Ito and Y. Kandeda	2007	Crustal structure of the southwestern margin of the Kuril arc sited in the eastern part of Hokkaido, Japan, inferred from seismic refraction/reflection experiments	Earth Planets Space	59	375-380	○	2(1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研
蔵下英司・平田直・森田裕一・結城昇	2006	高機能小型オフラインデータロガーを用いた高密度地震観測システム	地震	59	107-116	○	2(1)ウ			東大地震研
Nakamura, H., and Iwamori, H.	2009	Contribution of slab-fluid in arc magmas beneath the Japan arcs	Gondwana Research	16	431-445	○	2(1)ウ	2(1)イ		東工大理
Tonegawa, T., Hirahara, K., Shibutani, T., Iwamori, H., Kanamori, H., and Shiomi, K.	2008	Water flow to the mantle transition zone inferred from a receiver function image of the Pacific slab	Earth Planet. Sci. Lett.	274	346-354	○	2(1)ウ	2(1)イ		東工大理
清水 以知子	2010	深部 H2O流体の廉潔性と界面の熱力学	岩石鉱物科学	39	208-219	○	2(1)ウ	2(1)イ		東工大理
Honkura, Y., Y. Ogawa, M. Matsushima, S. Nagaoka, N. Ujihara, and T. Yamawaki	2009	A model for observed circular polarized electric fields coincident with the passage of large seismic waves	J. Geophys. Res.	114	B10103	○	2(1)ウ			東工大流体
Asamori, K., K. Umeda, Y. Ogawa, T. Oikawa	2010	Electrical resistivity structure and helium isotopes around Naruko Volcano, northeastern Japan and its implication for the distribution of crustal magma	Int. J. Geophys	2010	738139	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		東工大流体
Pulkkinen, A., Kataoka, R., Watari, S., Ichiki, M.	2010	Modeling geomagnetically induced currents in Hokkaido, Japan	Advances in Space Research	46	1087-1093	○	2(1)ウ			東工大流体
Kuriki, M., M. Matsushima, Y. Ogawa, Y. Honkura	in press	Spectral peaks in electric field at resonance frequencies for seismically excited motion of ions in the Earth's magnetic field	Earth Planets Space			○	2(1)ウ			東工大流体
木村俊則・後藤忠徳・笠谷貴史・岡本拓・三ヶ田均・真田佳典・渡辺俊樹・芦田譲	2010	構造境界面を組込んだMT法の2次元インバージョン	物理探査	63	185-196	○	2(1)ウ			名古屋大
Nakamichi, H., H. Watanabe, and T. Ohminato	2007	Three-dimensional velocity structures of Mount Fuji and the South Fossa Magna, central Japan	J. Geophys. Res.		doi:10.1029/2005JB004161	○	2(1)ウ	2(1)エ		名古屋大
中道治久	2007	富士山と南部フォッサマグナの地震活動と速度構造, 富士火山: 富士火山に関する最近の研究総括	山梨県環境科学研究所・日本火山学会編集		151-159	○	2(1)ウ	2(1)エ		名古屋大
中道治久・富士山稠密地震観測グループ	2007	稠密地震観測による南部フォッサマグナの地震波速度構造	月刊地球号外	57	71-76		2(1)ウ	2(1)エ		名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Satoru Yamaguchi, Makoto Uyeshima, Hideki Murakami, Sirou Sutoh, Daichi Tanigawa, Tsutomu Ogawa, Naoto Oshiman, Ryohei Yoshimura, Koki Aizawa, Ichiro Shiozaki, and Takafumi Kasaya	2009	Modification of the Network-MT method and its first application in imaging the deep conductivity structure beneath the Kii Peninsula, southwestern Japan	Earth Planets Space	61	957-971	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
臼井嘉哉・上嶋誠・小河勉・山口覚・村上英記・丹保俊哉・藤浩明・吉村令慧・大志万直人・最上巴恵・小山茂・望月裕峰	2009	ネットワークMT法による新潟-神戸ひずみ集中帯の深部比抵抗構造	Conductivity Anomaly 研究会論文集		37-43		2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
最上巴恵・山口覚・上嶋誠・小河勉・臼井嘉哉・村上英記・丹保俊哉・藤浩明・大志万直人・吉村令慧・小山茂・望月裕峰	2009	中部地方新潟-神戸歪み集中帯周辺のネットワークMT観測 - 石川高松-阿木測線の序報 -	Conductivity Anomaly 研究会論文集		44-51		2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
上嶋誠・小河勉・山口覚・村上英記・藤浩明・吉村令慧・大志万直人・小山茂・丹保俊哉	2007	歪集中帯地殻比抵抗研究グループ、中部地方におけるネットワークMT観測（第2報）	Conductivity Anomaly 研究会論文集		22-27		2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
Yamaguchi S. et al	2009	Modification of the Network-MT method and its first application in imaging the deep conductivity structure beneath the Kii Peninsula, southwestern Japan	Earth Planets Space	61	957-971	○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ	大局的比抵抗構造を調査する際に有力なネットワークMT法の利点はそのままで、欠点であった通信回線ケーブルの使用可能依存性を克服するために自作電極と局所的メタリック電話回線のみを利用した修正ネットワークMT法を用い、紀伊半島中央部の深部比抵抗構造調査を行った。得られたモデルの特徴は10Ωm以下の良導体が紀伊半島中央部のコンラッド面とフィリピン海スラブ上面の間(DFLが多く発生する所を含む)に存在することである。	鳥取大学
大志万直人ほか	2010	西南日本背弧における海域・陸域での地磁気電位差観測の概要	京都大学防災研究所年報	53B	181-189		2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ	山陰地方の陸域・海域を含む西南日本弧の地殻・マントル比抵抗モデルを構築するために、2006~2009年に海域・陸域での観測を連携させたMT観測を実施した。観測測線は鳥取・兵庫境付近沖の海域を含む測線と隠岐諸島周辺海域を含む測線である。これらの測線に沿って海域では海底磁力電位差計及び海底電位差計を用いた観測を、また、陸域では広帯域MT観測、長周期帯MT観測を併用して実施した。これらの観測と解析結果の概要を報告した。	鳥取大学
村上英記・塩崎一郎	2012印刷予定(投稿中)	14.4 電磁気的構造	日本地質学会編『日本地方地質誌7. 四国地方』, 朝倉書店			○	2(1)ウ	2(2)(2-1)ウ	西南日本弧の島弧横断第1測線「山陰-山陽-四国地方」から得られた四国地方東部の2次元比抵抗構造断面図と佐藤ほか(2005)等が求めた詳細な地震反射波断面を比較検討した結果、中央構造線反射面北傾斜、深さ20km以浅の付加体構造、海洋地殻(デュブレックスからLayer3)や海洋マントル構造に対比できる比抵抗構造の存在を示した。また、Obara(2002)が発見した深部低周波微動の発生領域に対応する深さ35km~40kmあたりの比抵抗構造の特徴も示した。	鳥取大学
Saiga, A., S. Matsumoto, K. Uehira, T. Matsushima, and H. Shimizu	2010	Velocity structure in the crust beneath the Kyushu area	Earth Planets Space	62	449-462	○	2(1)ウ	2(1)イ		九州大
松原誠・小原一成	2010	地震波速度構造から推定される蛇紋岩化ウェッジマントルの存在	月刊地球	32	136-140		2(1)ウ	1(1)ア		防災科研
Ide, S., K. Shiomi, K. Mochizuki, T. Tonegawa, and G. Kimura	2010	Split Philippine Sea plate beneath Japan	Geophys. Res. Lett.	37	L21304, doi:10.1029/2010GL044585	○	2(1)ウ	1(1)ア		防災科研
Kimura, H., T. Takeda, K. Obara, and K. Kasahara	2010	Seismic Evidence for Active Underplating Below the Megathrust Earthquake Zone in Japan	Science	329	210-212, doi:10.1126/science.1187115	○	2(1)ウ	1(1)ア	防災科学技術研究所の地震観測網のデータと反射法地震探査データの解析から、沈み込むプレートの表面がはがれて日本列島の地殻の底に付加する現象 - 底付け作用 - が進行していることを明らかにした。	防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Julius S. Lipp, Yuki Morono, Fumio Inagaki & Kai-Uwe Hinrichs,	2008	Significant contribution of Archaea to extent biomass in marine subsurface sediments,	Nature	454	991-994,	○	2(1)ウ	2(4)イ	海底下での微生物(古細菌)の分布	JAMSTEC
Morono Y, Terada T, Masui N., and Inagaki F.	2009	Discriminative detection and enumeration of microbial life in marine subsurface sediments	Int'l Soc. Microbial Ecology	3	503-511	○	2(1)ウ	2(4)イ	海底下微生物活動の定量的評価	JAMSTEC
Futagaki T., Morono Y., Terada T., Kaksonen A. H., and Inagaki F.	2009	Dehalogenation activities and distribution of reductive dehalogenase homologous genes in marine subsurface sediments	Applied & Environ. Microbiology	75/21	6905-6909	○	2(1)ウ	2(4)イ	海底下微生物の遺伝子解析	JAMSTEC
Screaton, E., Kimura, G., Curewitz, D., Moore G., et. Al.	2009	Interactions between deformation and fluids in the frontal thrust region of the NanTroSEIZE transect offshore the Kii Peninsula, Japan: Results from IODP Expedition 316 Sites C0006 and C0007	Geochem. Geophys. Geosyst.	10	1-14	○	2(1)ウ	2(4)イ	沈み込み帯での地殻内流体と変形作用の相互作用	JAMSTEC
Calvert, A. J., Klemperer, S. L., Takahashi, N. et al.	2008	Three-dimensional crustal structure of the Mariana island arc from seismic tomography	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB004939	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
Fujie, G.	2009	Modeling strategies and tools for a large amount of wide-angle seismic travelttime data,	JAMSTEC Report of Research and Development	Special Issue	211-218	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
Kodaira, S., Sato, T., Takahashi, N. et al.	2007	Seismological evidence for variable growth of crust along the Izu intraoceanic arc	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004593	○	2(1)ウ	2(1)ア	島弧地殻の多様性をしめし、島弧地殻と火山のマグマとの関係を初めて示した。	JAMSTEC
Kodaira, S., Sato, T., Takahashi, N. et al.	2007	New seismological constraints on growth of continental crust in the Izu-Bonin intra-oceanic arc	Geology	35	1031-1034	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
Kodaira, S., Sato, T., Takahashi, N. et al.	2008	Seismic imaging of a possible paleoarc in the Izu-Bonin intraoceanic arc and its implications for arc evolution processes.	Geochemistry Geophysics Geosystems	9	doi:10.1029/2008GC002073	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
Kodaira, S.	2009	Active Source Seismic Studies in Subduction Zones around Japan - Recent Results from Seismic Surveys in Subduction Seismogenic Zones and Intra-Oceanic Arcs -	Zishin	61	S155-S163	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
Kodaira, S., Noguchi, N., Takahashi, N. et al.	2010	Evolution from fore-arc oceanic crust to island arc crust derived from seismic study along the Izu-Bonin fore-arc.	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006968	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
Miura, S.	2009	A History of JAMSTEC Seismic Data Acquisition System,	JAMSTEC Report of Research and Development	Special Issue	81-87	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Takahashi, T., Sato, H., Nishimura, T. et al.	2009	Tomographic inversion of the peak delay times to reveal random velocity fluctuations in the lithosphere: Method and application to the northeastern Japan	Geophys. J. Int.	178	1437-1455	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
Takahashi, T., Obana, K., Kodaira, S., et al.	2011	Random inhomogeneities in the northern Izu-Bonin arc estimated by tomographic inversion of peak delay times of S-wave seismograms	J. Geophys. Res.	116	doi:10.1029/2010JB007691	○	2(1)ウ	2(1)ア		JAMSTEC
<b>エ. 地震活動と火山活動の相互作用</b>										
村上 亮	2010	地震予知研究と火山噴火予知研究の連携の強化	地震ジャーナル	50	16-21		2(1)エ			北海道大
Hasegawa, A., J. Nakajima, N. Uchida, T. Okada, D. Zhao, T. Matsuzawa, and N. Umino	2009	Plate subduction, and generation of earthquakes and magmas in Japan as inferred from seismic observations: An overview	Gondwana Research	16	370-400	○	2(1)エ	2(1)イ		東北大
中島淳一・長谷川昭	2009	地震波トモグラフィでみたスラブの沈み込みと島弧マグマ活動	地震	61	S177-S186	○	2(1)エ	2(1)イ		東北大
Zhao, D., M. Santosh, and A. Yamada	2010	Dissecting large earthquakes in Japan: Role of arc magma and fluids	Island Arc	19	4-16	○	2(1)エ	2(1)ウ	高精度地震波トモグラフィで日本列島下の地殻とマントル最上部の微細構造を推定した結果、火山活動と地震活動が密接に関連していることが分かった。	東北大
Morita, Y., S. Nakao, Y. Hayashi	2006	A quantitative approach to the dike intrusion inferred from a joint analysis of geodetic and seismological data for 1998 earthquake swarm off the east coast of Izu Peninsula, central Japan	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005JB003860	○	2(1)エ	2(2)(2-2)ア		東大地震研
H. Utada, Y. Takahashi, Y. Morita, T. Koyama, T. Kagiya	2007	ACTIVE system for monitoring volcanic activity: A case study of the Izu-Oshima Volcano, Central Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	164	217-243	○	2(1)エ	2(2)(2-2)ア		東大地震研・京大理
Abe, Y., Ohkura, T., Shibutani, T., Hirahara, K. and Kato, M	2010	Crustal structure beneath Aso Caldera, southwest Japan, as derived from receiver function analysis.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	195	1-12	○	2(1)エ		阿蘇カルデラを含む九州地方のモホ面の深さ分布を明らかにし、地溝帯として期待されるようなモホ面のせり上がりが無いことを明らかにした。また、阿蘇カルデラ西部の地下15km付近に低速度域が存在することを明らかにした。	京都大理学研究科
Ohsawa, S., Sakai, T., Yamada, M., Mishima, T., Yoshikawa, S. and Kagiya, T.,	2011	Dissolved inorganic carbon extremely rich in mantle component of hot spring waters from the Hitoyoshi Basin located in a non-volcanic region of Central Kyushu, Japan	J. Hot Spring Sci.	60	410-417	○	2(1)エ		九州中部の非火山地域に分布する温泉に含まれる炭酸の成分の起源を調査した結果、人吉盆地の温泉からはマントル起源の成分、人吉から宮崎県北部にかけての温泉からはスラブ脱水起源の成分が検知された。この成分が検知された領域は、深さ20~30km付近の低比抵抗域と一致していることが明らかとなった。	京都大理学研究科
酒井拓哉・大沢信二・山田 誠・三島壮智・吉川 慎・鍵山恒臣・大上和敏	2011	九州中央部の非火山地域に湧出する温泉の炭酸成分の起源	温泉科学	60	418-433	○	2(1)エ			京都大理学研究科
鍵山恒臣・吉川 慎・宇津木 充・井上寛之	2010	由布岳・由布院盆地周辺の表層電気伝導度分布	大分県温泉調査研究会報告	61	3-6		2(1)エ	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科
宇津木充・鍵山恒臣・小森省吾	2010	MT法を用いた鶴見・伽藍火山周辺における地下比抵抗構造調査	大分県温泉調査研究会報告	61	29-34		2(1)エ	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科
鍵山恒臣・宇津木 充・吉川 慎・井上寛之	2009	鶴見岳・伽藍岳の噴気活動と表層の電気伝導度分布に関する調査	大分県温泉調査研究会報告	60	3-6		2(1)エ	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
鎌山恒臣・宇津木 充・吉川 慎・寺田暁彦	2008	伽藍岳・塚原の地熱活動の周辺域への広がりに関する調査	大分県温泉調査研究会報告	59	35-39		2(1)エ	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究所
Abe, Y., T. Ohkura, K. Hirahara, and T. Shibutani	2011	Common-conversion-point stacking of receiver functions for estimating the geometry of dipping interfaces	Geophys. J. Int.	185	1305-1311	○	2(1)エ		レシーバ関数解析において、深部に急傾斜で存在するスラブをイメージングするための新しい手法を提案した。この手法を適用し、九州中部のレシーバ関数イメージを求め、深さ90 kmまでに海洋地殻からの脱水が完了することを示唆する結果を得た。	京大防災研
大谷文夫・寺石眞弘・園田保美・藤田安良・中志万直人	2010	宮崎観測所における測地観測	京都大学防災研究所年報	53B	285-292		2(1)エ	2(3)(3-1)イ		京大防災研
寺石眞弘・大谷文夫・竹内文朗・森井 亙・尾上謙介・細 善信・園田保美・和田安男・中村佳重郎	2009	地殻変動連続観測における季節変化	京都大学防災研究所年報	52B	285-292		2(1)エ	2(3)(3-1)イ		京大防災研
河野裕希・松本 聡・松島 健・植平賢司・清水 洋・馬越孝道	2008	1990~1995年雲仙火山噴火前に起きた応力場の変化	月刊地球号外	60	85-90		2(1)エ	2(2)(2-2)ア		九州大
Kozono, T. and T. Koyaguchi	2010	A simple formula for calculating porosity of magma in volcanic conduits during dome-forming eruptions	Earth Planets Space	62	483-488	○	2(1)エ	2(2)(2-2)ア		防災科研
Koyaguchi, T., Y. J. Suzuki, and T. Kozono	2010	Effects of the crater on eruption column dynamics	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB007146	○	2(1)エ	2(2)(2-2)ア		防災科研
小園誠史・田中宏幸・小屋口剛博	2010	ミュウオグラフィーによる巨大物体の密度分布可視化およびその火山噴火における火道内気液二相流解析への応用	混相流	24	45-56	○	2(1)エ	2(2)(2-2)ア		防災科研・東大地震研

#### オ. 地震発生サイクルと長期地殻ひずみ

雨宮晋一郎・高波鐵夫・北川源四郎	2009	上梓臼ひずみ高精度記録からの鋸歯状成分の除去について	北海道大学地球物理学研究報告	72	231-245		2(1)オ	2(1)ア		北海道大
Ghimire, S., K. Katsumata and M. Kasahara	2008	Spatio-temporal evolution of Coulomb stress in the Pacific slab inverted from the seismicity rate change and its tectonic interpretation in Hokkaido, Northern Japan	Tectonophys.	455	25-42	○	2(1)オ			北海道大
Moore, A., Nishimura, Y., Gelfenbaum, G., Kamataki, T. and Triyono, R.	2006	Sedimentary deposits of the 26 December 2004 tsunami on the northwest coast of Aceh, Indonesia	Earth Planets Space	58	253-258	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
高清水康博・嵯峨山 積・仁科健二・岡 孝雄・中村有吾・西村裕一	2007	北海道胆振海岸東部から確認された17世紀の津波堆積物	第四紀研究	46	119-130	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
Nishimura, Y	2007	Volcanism-induced tsunamis and tsunamites.	"Tsunamiite", T. Shiki ed.,		163-184	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
西村裕一	2008	津波堆積物の時空間分布に基づく古津波の調査研究	地震	61	S497-S508	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
中村有吾・西村裕一・中川光弘・Victor M. Kaistrenko・Alexander Ya. Iliev	2009	国後島南部および色丹島における北海道起源の完新世広域テフラの同定	火山	6	263-274	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
西村裕一・鎌滝孝信・Andrew Moore・Guy Gelfenbaum	2006	スマトラ沖地震(2004年12月)に伴う津波と津波堆積物	月刊地球	56	203-209		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
西村裕一・中村有吾・Victor M. Kaistrenko・Alexander Ya. Iliev	2009	南千島（北方四島）、国後島および色丹島におけるテフラと津波堆積物	月刊地球	357	311-320		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
谷岡勇市郎・西村裕一・中村有吾・平川一臣・Tatiana K. Pinegina・Ekaterina A. Kravchunovskaya・Viktotovna V. Ponomareva・Aditya R. Gusman	2009	巨大地震発生様式解明にむけて北千島（パラムシル島・シユムシユ島）での津波痕跡調査	月刊地球	357	321-333		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
Ahn, Y. S., Mizugaki, S., Nakamura, F., and Nakamura, Y	2006	Historical change in lake sedimentation in Lake Takkobu, Kushiro Mire, northern Japan over the last 300 years	Geomorphology	78	321-334	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
中村有吾・丸茂美佳・平川一臣・澤柿教伸	2006	北海道東部、知床半島の完新世テフラ層序	第四紀研究	47	39-49	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
中村有吾	2007	「白滝地域の段丘面区分」鈴木宏行・直江康雄（編）『白滝遺跡群VIII』	財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書	250	286-287		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
中村有吾	2008	「旧白滝地域のテフラ層序と地形環境」直江康雄（編）『白滝遺跡群IX』	財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書	261	231-239		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
中村有吾	2009	「薬学部研究棟地点における火山灰分析」『北大構内の遺跡 XVI』	北海道大学				2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
中村有吾	2011	「火山灰の同定」	K39遺跡工学部 共用実験研究棟 地点発掘調 査報告書 北海道 大学埋蔵文化 財調査室		246-247		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
中村有吾	2011	「北見市北上4遺跡におけるテフラ層の同定」『北見市北上4遺跡』	財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書	275	233-239		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
平田賢治・佐竹健治・山木滋・谷岡勇市郎・山中佳子・西村卓也	2007	目撃証言報告に基づく1952年十勝沖地震の津波波源の北東縁の検討	地震	60	21-41	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大・名古屋大
谷岡勇市郎・日野亮太・長谷川洋平	2007	津波波形から推定した2005年8月16日宮城県沖地震のすべり量分布	地震	59	271-284	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
Tanioka, Y., K. Katsumata	2007	Tsunami generated by the 2004 Kushiro-oki earthquake	Earth Planets Space	59	e1-e3	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
Tanioka, Y., K. Satake, and K. Hirata	2007	Recurrence of recent large earthquakes along the southernmost Kurile-Kamchatka subduction zone, in Volcanism and Subduction: The Kamchatka region	Geophysical Monograph	172	145-152	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
Tanioka, Y., Y. Hasegawa, and T. Kuwayama	2008	Tsunami waveform analyses of the 2006 underthrust and 2007 outer-rise Kurile earthquakes	Advances in Geosciences	14	129-134	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
伊尾木圭衣・谷岡勇市郎	2009	中千島沖巨大地震による津波の北海道オホーツク海沿岸の挙動	地震	61	145-148	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大
平田賢治・佐竹健治・谷岡勇市郎・長谷川洋平	2006	十勝沖・根室半島沖地震の津波研究解説	月刊地球	28	432-440		2(1)オ	2(3)(3-2)イ		北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Ioki, K. and Y. Tanioka	2010	Slip Distribution of the 1963 Great Kurile Earthquake Estimated from Tsunami Waveforms	Pure and Applied Geophysics	168	1045-1052	○	2(1)オ	2(3)(3-2)イ	1963年ウルップ島沖巨大地震のすべり量分布を津波波形インバージョンにより推定した。その結果地震モーメントは $2.4 \times 10^{21}$ Nm (Mw8.2)と推定された。またこの地震の破壊域は2006年中千島巨大地震の破壊域とは重複しておらず、また空白域も存在しない事が明らかになった。	北海道大
白石和也・阿部進・岩崎貴哉・齊藤秀雄・佐藤比呂志・越谷 信・加藤直子・新井隆太・川中 卓	2010	屈折初動走時トモグラフィ解析における初期モデルランダム化による解の信頼性評価	物理探査	63	345-356	○	2(1)オ			東大地震研
Kagohara, K., T. Ishiyama, T. Imaizumi, T. Miyauchi, H. Sato, Y. Ikeda, T. Echigo, N. Matsuta, A. Miwa and T. Ikawa	2009	Subsurface geometry and structural evolution of the eastern margin of the Yokote basin fault zone based on seismic reflection data, northeast Japan	Tectonophys.	470	319-328	○	2(1)オ			東大地震研・名古屋大
Ito T., Y. Kojima, S. Kodaira, H. Sato, Y. Kaneda, T. Iwasaki, E. Kurashimo, N. Tsumura, A. Fujiwara, T. Miyauchi, N. Hirata, S. Harder, K. Miller, A. Murata, S. Yamakita, M. Onishi, S. Abe, T. Sato, T. Ikawa	2009	Crustal structure of southwest Japan, revealed by the integrated seismic experiment Southwest Japan 2002	Tectonophys.	472	124-134	○	2(1)オ			東大地震研
Sato, H., K. Ito, S. Abe, N. Kato, T. Iwasaki, N. Hirata, T. Ikawa, T. Kawanaka	2009	Deep seismic reflection profiling across active reverse faults in the Kinki Triangle, central Japan	Tectonophys.	472	86-94	○	2(1)オ			東大地震研
Tsumura, N., N. Komada, J. Sano, S. Kikuchi, S. Yamamoto, T. Ito, T. Sato, T. Miyauchi, T. Kawamura, M. Shishikura, S. Abe, H. Sato, T. Kawanaka, S. Suda, M. Higashinaka, T. Ikawa	2009	A bump on the upper surface of the Philippine Sea plate beneath the Boso Peninsula, Japan inferred from seismic reflection surveys: A possible asperity of the 1703 Genroku earthquake	Tectonophys.	472	39-50	○	2(1)オ			東大地震研
Abe, S., E. Kurashimo, H. Sato, N. Hirata, T. Iwasaki and T. Kawanaka	2007	Interferometric seismic imaging of crustal structure using scattered teleseismic waves	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL030633	○	2(1)オ			東大地震研
Wu, F., D. Okaya, H. Sato and N. Hirata	2007	Interaction between two subducting plates under Tokyo and its possible effects on seismic hazards	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL030763	○	2(1)オ			東大地震研
Ishiyama, T., K. Mueller, H. Sato, and M. Togo	2007	Coseismic fault-related fold model, growth structure, and the historic multisegment blind thrust earthquake on the basement-involved Yoro thrust, central Japan	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004377	○	2(1)オ			東大地震研
Kato, N., H. Sato and N. Umino	2006	Fault reactivation and active tectonics on the fore-arc side of the back-arc rift system, NE Japan	Journal of Structural Geology	28	2011-2022	○	2(1)オ			東大地震研・東北大
佐藤比呂志・加藤直子	2010	北部本州背弧域の地殻構造と震源断層	地質学雑誌	116	592-601	○	2(1)オ			東大地震研
伊藤谷生・佐藤比呂志	2010	西南日本における海溝-島弧-緑海系の地殻構造-南海トラフから大和海盆北縁まで-	地学雑誌	119	235-244	○	2(1)オ			東大地震研
岩崎貴哉・佐藤比呂志	2009	陸域制御震源地震探査から明らかになった島弧地殻・上部マントル構造	地震	61	S165-S176	○	2(1)オ			東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
楢原京子・今泉俊文・宮内崇裕・佐藤比呂志・内田拓馬・越後智雄・石山達也・松多信尚・岡田真介・池田安隆・戸田 茂・越谷信・野田 賢・加藤 一・野田克也・三輪敦志・黒澤英樹・小坂英輝・野原 壯	2006	横手盆地東縁断層帯・千屋断層の形成過程と千屋丘陵の活構造	地学雑誌	115	691-714	○	2(1)オ			東大地震研
石山 達也・佐藤 比呂志	2006	浅層反射法地震探査により明らかになった活断層の地下構造：最近10年の成果と今後の課題	物理探査	59	515-524	○	2(1)オ			東大地震研
加藤直子・佐藤比呂志・今泉俊文・越谷信・戸田 茂・荻野スミ子・越後智雄・木村治夫・楢原京子・森下信人・小林 勉・高橋就一・梅津洋輔・水本匡起・吉田明弘・小池太郎・佐藤 良	2006	庄内平野東縁活断層系松山断層における反射法地震探査	活断層研究	26	87-93	○	2(1)オ			東大地震研
古屋 裕・伊藤谷生・佐藤比呂志・平田直・駒田希充・津村紀子・浅尾一巳・荒井良祐・半場康弘	2009	反射法地震探査による房総半島西部内房沿岸の浅部地下構造	東京大学地震研究所彙報	84	41-56		2(1)オ			東大地震研
村上文俊・佐藤比呂志・黒田 徹・阿部 進・加藤直子	2009	自然地震におけるMEMS型加速度センサーの特性評価	東京大学地震研究所彙報	84	251-266		2(1)オ			東大地震研
蔵下英司・佐藤比呂志・阿部 進・加藤直子	2009	関東山地「飯能-御坂測線」における稠密自然地震観測	東京大学地震研究所彙報	84	217-227		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志・岩崎貴哉・金沢敏彦・宮崎真一・加藤直子・酒井慎一・山田知朗・宮内崇裕・伊藤谷生・平田 直	2007	反射法地震探査・余震観測・地殻変動から見た2007年能登半島地震の特徴について	東京大学地震研究所彙報	82	369-379		2(1)オ			東大地震研
富岡伸芳・佐藤比呂志	2007	2007年能登半島地震の震源域陸域の地質	東京大学地震研究所彙報	82	255-264		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志・阿部 進・齊藤秀雄・加藤直子・伊藤谷生・川中 卓	2007	二船式による2007年能登半島地震震源域の反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	82	275-300		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志・川崎慎治・阿部 進・加藤直子・岩崎貴哉・伊藤谷生	2007	2007年能登半島地震震源域陸域の反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	82	265-274		2(1)オ			東大地震研
越谷 信・森下裕介・野田 賢・佐藤比呂志・蔵下英司・荻野スミ子・武田哲也・加藤直子・平野信一・加藤 一・池田安隆・井川猛・村上文俊・北上低地帯西縁断層帯研究グループ	2007	奥羽脊梁山脈東縁部、北上低地帯西縁断層帯花巻地域の反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	82	3-12		2(1)オ			東大地震研
岡田真介・小田 晋・越後智雄・戸田 茂・鈴木規真・河合陽平・加藤 一・佐藤比呂志・木村治夫・田力正好・石山達也・今泉俊文・楢原京子・松多信尚・内田拓馬・宇野智樹・河村知徳・池田安隆	2007	伊那谷断層帯小黒川測線における浅層反射法地震探査：データ取得と処理	東京大学地震研究所彙報	82	13-24		2(1)オ			東大地震研・東工大理
松多信尚・池田安隆・佐藤比呂志・今泉俊文・東郷正美・柳 博美・三ヶ田均・戸田 茂・堤 浩之・蔵下英司・越谷 信・野田 賢・加藤 一・平川一臣・八木浩司・穴倉正展・越後智雄・石山達也・原口 強・荻野スミ子・新井慶将・河村知徳・加藤直子・井川猛・神城反射法地震探査グループ	2007	糸魚川-静岡構造線活断層系神城断層の浅層および極浅層反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	82	25-36		2(1)オ			東大地震研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
松多信尚・池田安隆・佐藤比呂志・今泉俊文・田力正好・蔵下英司・河村知徳・加藤直子・戸田 茂・谷 美由紀・加藤 一・東郷正美・中村洋介・越後智雄・田中淳彦・井川 猛・大町反射法地震探査グループ	2007	糸魚川-静岡構造線活断層系北部大町地域の浅層反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	82	37-44		2(1)オ			東大地震研
松多信尚・池田安隆・東郷正美・今泉俊文・佐藤比呂志・戸田 茂・田力正好・加藤 一・石山達也・井川 猛・松本反射法地震探査グループ	2007	糸魚川-静岡構造線活断層系北部・松本地域における反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	82	44-56		2(1)オ			東大地震研
松多信尚・池田安隆・佐藤比呂志・今泉俊文・東郷正美・河村知徳・戸田 茂・宮内崇祐・加藤 一・越後智雄・田力正好・石山達也・新井慶将・井川 猛・富士見反射法地震探査グループ	2007	糸魚川-静岡構造線活断層系中部・富士見地域における反射法地震探査, 地震研究所彙報	東京大学地震研究所彙報	82	57-64		2(1)オ			東大地震研
石山達也・佐藤比呂志・戸田 茂・中西利典・松多信尚・杉戸信彦・堤 浩之・岡田篤正・小池太郎・今村朋裕・服部泰久・鈴木規眞・天野桂吾・加藤義人・河合陽平・高木啓司	2007	養老断層のP波浅層反射法地震探査: 2004年志津測線	東京大学地震研究所彙報	82	65-74		2(1)オ			東大地震研
石山達也・松多信尚・戸田 茂・佐藤比呂志・加藤 一・竹村恵二・堤 浩之・岡田篤正・荻鼻伸洋・中村謙之・竹内祥子・谷 美由紀・石井 整・中西利典・田力正好・木村治夫・長谷川 真・杉戸信彦・金田平太郎	2007	桑名断層のP波浅層反射法地震探査: 2000年員井川測線	東京大学地震研究所彙報	82	75-84		2(1)オ			東大地震研
石山達也・佐藤比呂志・戸田 茂・杉戸信彦・木村治夫・越後智雄・岡田眞介・加藤 一・岡田篤正・小池太郎・鈴木規眞・今村朋裕・服部泰久・小田 晋	2007	鈴鹿山地東縁断層のP波浅層反射法地震探査: 2005年西野尻測線	東京大学地震研究所彙報	82	85-94		2(1)オ			東大地震研
石山達也・佐藤比呂志・戸田 茂・杉戸信彦・木村治夫・越後智雄・岡田眞介・加藤 一・岡田篤正・小池太郎・鈴木規眞・今村朋裕・服部泰久・小田 晋	2007	鈴鹿山地東縁断層のP波浅層反射法地震探査: 2005年時山測線	東京大学地震研究所彙報	82	95-104		2(1)オ			東大地震研
堤 浩之・戸田 茂・今村朋裕・石山達也・河村知徳・佐藤比呂志・宮内崇裕・加藤 一・隈元 崇・武田麻美・山本彰吾	2007	四国の中央構造線断層帯の浅層反射法地震探査-2002年新居浜測線と2003年阿波測線-	東京大学地震研究所彙報	82	105-117		2(1)オ			東大地震研
加藤直子・佐藤比呂志・今泉俊文・加藤 一・井川 猛・荻野スミ子・木村治夫・楳原京子・小池太郎	2007	曾根丘陵断層群を横切る浅層反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	82	181-192		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志・八木浩司・池田安隆・今泉俊文・荻野スミ子・宮内崇裕・戸田 茂・平野信一・松多尚信・越後智雄・田力正好・井川 猛・酒井隆太郎・新庄97反射法地震探査グループ	2006	新庄盆地東部活褶曲群を横切る反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	81	157-170		2(1)オ			東大地震研
加藤直子・佐藤比呂志・小澤岳史・川中 卓	2006	石油探査データの再解析による庄内平野東縁断層帯の地下形状	東京大学地震研究所彙報	81	149-156		2(1)オ			東大地震研
蔵下英司・佐藤比呂志・越谷 信・野田賢・加藤 一・荻野スミ子・武田哲也・平野信一・池田安隆・井川 猛	2006	北上低地帯西縁断層系における浅層反射法地震探査	東京大学地震研究所彙報	81	139-148		2(1)オ			東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
楢原京子・今泉俊文・越後智雄・宮内崇裕・越谷 信・野田 賢・加藤 一・戸田 茂・石山達也・佐藤比呂志・岡田真介・神田聡史・神谷直音・森下信人・高橋就一・橋森公亮・清水聡子・山崎航太・小池太郎・井川 猛	2006	横手盆地東縁断層帯・白岩断層を横断する浅層反射法地震探査(2005年): データ取得と処理について	東京大学地震研究所彙報	81	129-138		2(1)オ			東大地震研
楢原京子・今泉俊文・佐藤比呂志・宮内崇裕・越後智雄・松多信尚・石山達也・越谷 信・野田 賢・加藤 一・内田拓馬・宇野知樹・森泉俊行・小田 晋・神田聡史・森下信人・水本匡起・梅津洋輔・小林 勉・水高草多・野田克也・井川 猛	2006	横手盆地東縁断層帯・千屋断層(運上野)を横断する浅層反射法地震探査(2004年): データ取得と処理について	東京大学地震研究所彙報	81	119-128		2(1)オ			東大地震研
楢原京子・内田拓馬・宮内崇裕・今泉俊文・佐藤比呂志・越後智雄・池田安隆・越谷 信・野田 賢・松多信尚・石山達也・戸田 茂・加藤 一・岡田真介・加藤直子・萩野スミ子・木村治夫・渡邊勇二・宇野知樹・田中環・小島 淳・市川史大・小畑一馬・乗田康之・今村朋裕・野田克也・井川 猛	2006	横手盆地東縁断層帯・太田断層を横断する浅層反射法地震探査(2003年): データ取得と処理について	東京大学地震研究所彙報	81	107-118		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志・池田安隆・今泉俊文・三ヶ田均・戸田 茂・堤 浩之・越谷 信・野田 賢・伊藤谷生・宮内崇裕・八木浩司・東郷正美・岩崎貴哉・坂 守・平田 直・松多信尚・河村知徳・石丸恒存・井川 猛・千屋96反射法地震探査グループ	2006	千屋断層(花岡)を横断する浅層反射法地震探査: データ取得と処理について	東京大学地震研究所彙報	81	97-106		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志・岩崎貴哉・石山達也	2010	プレート境界から分岐した活断層の長期評価: 相模トラフ横断地殻構造探査	科学	80	825-831		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志	2009	内陸地震の震源断層をいかに捉えるか	科学	79	199-205		2(1)オ			東大地震研
平田 直・佐藤比呂志・加藤愛太郎・酒井慎一	2008	中越沖地震の震源断層が示すこと-構造調査と地震直後の機動的観測の重要性	科学	78	506-510		2(1)オ			東大地震研
平田 直・佐藤比呂志・能登半島地震合同余震観測グループ	2007	2007年能登半島地震の意味——防災のための活断層の考え方	科学	77	562-566		2(1)オ			東大地震研
石山達也・加藤直子・佐藤比呂志・鈴木毅彦・戸田 茂・今泉俊文	2010	角田-弥彦断層の変動地形と浅部地下構造	月刊地球	32	411-416		2(1)オ			東大地震研
加藤直子・佐藤比呂志・今泉俊文・越谷 信・石山達也・戸田 茂・蔵下英司・平田 直	2010	2008年岩手・宮城内陸地震震源域磐井川沿いにおける反射法・屈折法地震探査	月刊地球	32	433-439		2(1)オ			東大地震研
平田 直・佐藤比呂志・加藤愛太郎	2008	日本海側での最近の内陸大地震とその発生評価について—2004年新潟県中越地震, 2007年能登半島地震, 2007年新潟県中越沖地震—	月刊地球	30	471-476		2(1)オ			東大地震研
佐藤比呂志・加藤 直子・須田 茂幸・川中卓	2006	反射法地震探査による中越地震震源域周辺の地質構造	月刊地球号外	53	117-124		2(1)オ			東大地震研
加藤直子・越後智雄・佐藤比呂志・広神2004反射法地震探査グループ	2006	浅層反射法地震探査から見た2004年新潟県中越地震の断層モデル	月刊地球号外	53	103-109		2(1)オ			東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
鈴木康弘	2010	平均変位速度分布に基づく糸魚川-静岡構造線断層帯北部の地震発生予測	活断層研究	33	1-14	○	2(1)オ			名古屋大
堤 浩之・杉戸信彦・越谷 信・石山達也・今泉俊文・丸島直史・廣内大助	2010	岩手県奥州市・一関市に出現した2008年岩手・宮城内陸地震の地震断層	地学雑誌	119	826-840	○	2(1)オ			名古屋大
Sugito, N., A. Okada, and H. Tsutsumi	2010	Geologic evidence for surface rupture associated with the 1847 M 7.4 Zenkōji earthquake at Dannohara, Nagano City, Japan	Bulletin of the Seismological Society of America	100	1678-1694	○	2(1)オ			名古屋大
糸静線断層帯重点的調査観測変動地形グループ	2010	糸魚川-静岡構造線断層帯変動地形資料集 No. 4南部(白州-猷沢間)			28		2(1)オ			名古屋大
太田陽子・渡辺満久・谷口 薫・鈴木康弘・澤 祥・田中真弓・鈴木郁夫・廣内大助・金幸隆	2009	トレンチ調査からみた十日町盆地東縁断層の変位様式と活動履歴	地学雑誌	119	102-120	○	2(1)オ			名古屋大
鈴木康弘	2009	平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震 1:25,000詳細活断層図(活断層、地形分類及び地形の変状)	国土地理院技術資料	D, 1-	No. 54 1		2(1)オ			名古屋大
鈴木 康弘・杉戸信彦・坂上寛之・内田主税・渡辺満久・澤 祥・松多信尚・田力正好・廣内大助・谷口 薫	2009	糸魚川-静岡構造線活断層情報ステーション-web-GISベースのシステム構築とその意義	E-journal GEO	4(1)	37-46	○	2(1)オ			名古屋大
鈴木康弘	2010	2008年岩手・宮城内陸地震と活断層-想定外地震の衝撃-	E-journal GEO	4	109-116	○	2(1)オ			名古屋大
鈴木康弘・杉戸信彦ほか	2009	糸魚川-静岡構造線活断層変動地形資料集 No. 3中南部(茅野-白州)			32		2(1)オ			名古屋大
Strasser, M., Moore, G.F., Kimura, G., Kopf, A.J., Underwood, M., Guo, J., Screaton, E. JI.	2011	Slumping and mass -movement deposition in the Nankai forearc: Evidence from IODP drilling and 3 - D reflection seismic data	Geochem. Geophys. Geosyst.			○	2(1)オ	2(4)ア	南海トラフの地滑り堆積物	JAMSTEC
Sakaguchi, A., Kimura, G., Strasser, M., Screaton, E.J., Curewitz, D., Murayama, M.	2011	Episodic seafloor mud brecciation due to great subduction zone earthquakes	Geology			○	2(1)オ	2(4)ア	巨大地震による泥層の破砕	JAMSTEC
Kitamura, Y. and Yamamoto, Y.	2011	Records of submarine landslides in subduction input recovered by IODP Expedition 322, Nankai Trough, Japan	Submarine Mass Movements and Their Consequences		In press	○	2(1)オ	2(4)ア	海底地滑り堆積物	JAMSTEC
Fujiwara, O	2007	Major Contribution of Tsunami Deposits in Quatern. Res.	第四紀研究	46	293-302		2(1)オ			産総研
Fujiwara, O. and T. Kamataki	2007	Identification of tsunami deposits considering the tsunami waveform: an example of subaqueous tsunami deposits in Holocene shallow bay on southern Boso Peninsula, Central Japan	Sediment. Geol.	200	295-313	○	2(1)オ			産総研
Kitagawa, Y., K. Fujimori and N. Koizumi	2007	Temporal change in permeability of the Nojima fault zone by repeated water injection experiments	Tectonophys.	443	183-192	○	2(1)オ	3(3)ア	淡路島の野島断層における繰り返し注水試験によって、断層近傍の透水性が回復(減少)してきていることを観測と解析によって明らかにした。	産総研・京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Komatsubara, J. and O. Fujiwara	2007	Overview of Holocene tsunami deposits along the Nankai, Suruga and Sagami Troughs, southwest Japan	Pure Appl. Geophys.	164	493-507	○	2(1)オ			産総研
Shishikura, M., T. Echigo and H. Kaneda	2007	Marine reservoir correction for the Pacific coast of central Japan using 14C ages of marine mollusks uplifted during historical earthquakes	Quatern. Res.	67	286-291	○	2(1)オ			産総研
澤井祐紀	2007	珪藻化石群集を用いた海水準変動の復元と千島海溝南部の古地震およびテクトニクス	第四紀研究	46	363-383	○	2(1)オ			産総研
藤原 治	2007	地震津波堆積物：最近20年間のおもな進展と残された課題	第四紀研究	46	451-462		2(1)オ			産総研
藤原 治・後藤和久・平川一臣・池原 研・今村文彦	2007	古地震・津波情報の地震・津波防災への活用	第四紀研究	46	445-450		2(1)オ			産総研
藤原 治・小松原純子・高田圭太・央倉正展・鎌滝孝信	2007	静岡県湖西市元白須賀付近の砂丘海浜システムの発達過程	地学雑誌	115	569-581	○	2(1)オ			産総研
Aung, T.T., K. Satake, Y. Okamura, M. Shishikura, W. Swe, H. Saw, T. L. Swe, S. T. Tun and T. Aung	2008	Geologic evidence for three great earthquakes in past 3400 years off Myanmar	J. Earthq. Tsunami	2	259-265	○	2(1)オ			産総研
Kruawun, J., B. F. Atwater, Y. Sawai, C. Montri, C. Titima, M. Elizabeth and A. Prendergast	2008	Medieval forewarning of the 2004 Indian Ocean tsunami in Thailand	Nature		doi:10.1038/nature07373	○	2(1)オ			産総研
Namegaya, Y. and K. Satake	2008	Tsunami generated by the 2007 Noto Hanto earthquake	Earth Planets Space	60	127-132	○	2(1)オ			産総研
Nelson, A., Y. Sawai, A. Jennings, LA. Bradley, L. Gerson, B. Sherrrod, J. Sabeen and B. P. Horton	2008	Great-earthquake paleogeodesy and tsunamis of the past 2000 years at Alsea Bay, central Oregon coast, USA	Quart. Sci. Rev.	27	doi:10.1016/j.quasci	○	2(1)オ			産総研
Sawai, Y., T. Kamataki, M. Shishikura, H. Nasu, T. Katie, Y. Okamura, K. Satake, Y. Fujii, J. Komatsubara, D. Matsumoto and T. T. Aung	2008	Aperiodic recurrence of geologically recorded tsunamis from the past 5,500 years in eastern Hokkaido, Japan	J. Geophys. Res.		doi:10.1029/2007JB005503	○	2(1)オ		北海道東部太平洋岸における津波堆積物の詳細な年代測定から、過去5500年間において巨大津波の再来間隔は平均400年だが、100~800年のばらつきがあることを解明。Nature Geoscience誌でもトピック論文として取り上げられた。	産総研
Sawai, Y., Y. Fujii, O. Fujiwara, T. Kamataki, J. Komatsubara, Y. Okamura, K. Sataka and M. Shishikura	2008	Marine incursions of the past 1500 years and evidence of tsunamis at Suijin-numa, a coastal lake facing the Japan Trench	Holocene	18	517-528	○	2(1)オ		宮城県山元町水神沼における地質調査で検出した3層のイベント砂層について、津波の可能性を検討。そのうち一つは869年貞観地震に対比される。	産総研
後藤和久・藤野 滋弘	2008	2004年インド洋大津波後の津波堆積物研究の課題と展望	地質学雑誌	114	599-617	○	2(1)オ			産総研
佐竹健治・央倉正展・行谷佑一・藤良太郎・竹内 仁	2008	元禄関東地震の断層モデルと外房における津波	歴史地震	23	81-90	○	2(1)オ			産総研
央倉正展・前奎英明・越後智雄・石山達也・永井亜沙香	2008	南海トラフ沿いに起きた歴史地震に伴う隆起を記録した紀伊半島南部沿岸の生物遺骸群集	歴史地震	23	21-26	○	2(1)オ			産総研
Fujino, S., G. Naruse, D. Matsumoto, T. Jarupongsakul, A. Sphawajraksakul and N. Sakakura	2009	Stratigraphic evidence for pre-2004 tsunamis in southwestern Thailand	Marine Geol.	262	25-28	○	2(1)オ			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Komatsubara, J., O. Fujiwara, K. Takada, Y. Sawai, T. T. Aung and T. Kamataki	2009	Historical tsunamis and storms recorded in coastal lowland deposits along the Nankai Trough southwestern Japan	Sedimentology	55	1703-1716	○	2(1)オ			産総研
Matsumoto, D., G. Naruse, S. Fujino, A. Suphawajruksakul, T. Jarupongsakul, N. Sakakura and M. Murayama	2009	Truncated flame structure within a deposit of the Indian Ocean Tsunami: evidence of syn-sedimentary deformation	Sedimentology	55	1559-1570	○	2(1)オ			産総研
Namegaya, Y., Y. Tanioka, K. Abe, K. Satake, K. Hirata, M. Okada and A. R. Gusman	2009	In situ measurements of tide gauge response and corrections of tsunami waveforms from the Niigataken Chuetsu-oki Earthquake in 2007	Pure Appl. Geophys.	166	97-116	○	2(1)オ			産総研
Shishikura, M., T. Echigo and Y. Namegaya	2009	Evidence for coseismic and aseismic uplift in the last 1000 years in the focal area of a shallow thrust earthquake on the Noto Peninsula, west-central Japan	Geophys. Res. Lett.		doi:10.1029/2008GL036252	○	2(1)オ			産総研
澤井祐紀・佐竹健治	2009	北海道東部太平洋沿岸域の古地震・古津波痕跡調査と運動型地震	月刊地球	31	211-222		2(1)オ			産総研
宍倉正展・池田安隆・越後智雄・茅根 創・佐竹健治・J. Malik・S.R. Basir・G.K. Chakraborty	2009	2004年スマトラ島沖地震で沈降したアンダマン諸島南部でのトレンチ掘削調査—過去のスマトラ級イベントを求めて—	月刊地球	31	158-164		2(1)オ			産総研
藤原 治・鎌滝孝信・内田淳一・阿部恒平・原口 強	2009	房総半島南東岸の完新世前期の溺れ谷堆積物にみられる地震隆起の痕跡と津波堆積物	第四紀研究	48	1-10	○	2(1)オ			産総研
藤原 治・小野映介・矢田俊文・海津正倫・岡村行信・佐竹健治・佐藤善輝・澤井祐紀・T. T. Aung	2009	歴史と地層記録から確認された1707年宝永地震による遠州灘沿岸の隆起	月刊地球	31	203-210		2(1)オ			産総研
藤原 治・平川一臣・阿部恒平・入月俊明	2009	伊豆半島南端の間に伝承された1854年安政東海地震による津波堆積物の掘削調査	歴史地震	24	1-6	○	2(1)オ			産総研
Koshimura, S., Y. Namegaya and H. Yanagisawa	2010	Tsunami Fragility: A New Measure to Identify Tsunami Damage	Journal of Disaster Research	4	479-488	○	2(1)オ			産総研
Sawai, Y., J. Kruawun, M. Elizabeth, C. Montri, C. Titima and A. Prendergast	2010	Diatom assemblages in tsunami deposits associated with the 2004 Indian Ocean tsunami at Phra Thong Island, Thailand.	Marine Micropaleontology	73	70-79	○	2(1)オ			産総研
越村俊一・行谷佑一・柳澤英明	2010	津波被害関数の構築	土木学会論文集	65	320-331	○	2(1)オ			産総研
山田泰広・日野亮太・小林励司・宍倉正展・川村喜一郎・坂口有人	2010	ジオハザードの科学的な理解—人類の脅威となる巨大地震の探査に向けて—	月刊地球	32	77-85		2(1)オ			産総研
中島 隆, 小泉 尚嗣, 下司 信夫, 及川 輝樹, 新正裕尚, 三浦大助, 角井 朝昭, 重松 紀生	2010	熊野井内浦掘削コアから推測する中期中新世熊野酸性岩北岩体の垂直構造と定置過程	地質学雑誌	116	374-387	○	2(1)オ			産総研
藤原 治・小野映介・矢田俊文・海津正倫・佐藤善輝・V. Heyvaert	2010	1498 年明応地震による遠州灘沿岸浜名川流域の地形変化—掘削調査による地質学的検討—	歴史地震	25	29-38	○	2(1)オ			産総研
藤原 治・町田 洋・塩地潤一	2010	大分市横尾貝塚に見られるアカホヤ噴火に伴う津波堆積物	第四紀研究	49	23-33	○	2(1)オ			産総研
Malik, J., M. Shishikura, T. Echigo, Y. Ikeda, K. Satake, H. Kayanne, Y. Sawai, C. V. R. Murty and O. Dikshit	2011	Geologic evidence for two pre-2004 earthquakes during recent centuries near Port Blair, South Andaman Island, India	Geology	39	559-562	○	2(1)オ			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
(2) 地震・火山噴火に至る準備過程										
(2-1) 地震準備過程										
ア. アスペリティの実体										
Takahashi, H., and M. Kasahara	2007	Spatial relations between interseismic seismicity, coseismic asperities and aftershock activity in the southwestern Kuril trench	Volcanism and Subduction: The Kamchatka region, AGU monograph	172	153-164	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ	北海道太平洋地域の詳細な震源分布から、アスペリティ内部では定常的な地震活動が低調なこと、定常的な地震活動はアスペリティを取り囲むように発生していることを明らかにし、この特徴から未知のアスペリティの抽出が可能であることを示した。この考えを発展させることにより、十勝根室沖の沖合いに見られる巨大な地震活動空白域が500年間隔連続型巨大地震の震源域に相当する可能性を指摘した。	北海道大
Takahashi, H., and M. Kasahara	2007	Geodetic constraint on slip distribution of the 2006 Central Kuril earthquake	Earth Planets Space	59	1095-1098	○	2(2)(2-1)ア	2(1)ア		北海道大
Hasegawa, A.	2006	Introduction to the special section for the 2005 M7.2 Miyagi-oki earthquake	Earth Planets Space	58	i - ii	○	2(2)(2-1)ア	1(1)イ		東北大
Hino, R., Y. Yamamoto, A. Kuwano, M. Nishino, T. Kanazawa, T. Yamada, K. Nakahigashi, K. Mochizuki, M. Shinohara, K. Minato, G. Aoki, N. Okawara, M. Tanaka, M. Abe, E. Araki, S. Kidaira, G. Fujie, and Y. Kaneda	2006	Hypocenter distribution of the main- and aftershocks of the 2005 Off Miyagi Prefecture earthquake located by ocean bottom seismographic data	Earth Planets Space	58	1543-1548	○	2(2)(2-1)ア	1(1)イ		東北大
Ito, Y. and K. Obara	2006	Dynamic deformation of the accretionary prism excites very low frequency earthquakes	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2005GL025270	○	2(2)(2-1)ア			東北大
Ito, Y. and K. Obara	2006	Very low frequency earthquakes within an accretionary prisms are very low stress-drop earthquakes	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL025883	○	2(2)(2-1)ア			東北大・防災科研
Ito, Y., K. Obara, T. Takeda, K. Shiomi, T. Matsumoto, S. Sekiguchi, and S. Hori	2006	Initial-rupture fault, main-shock fault, and aftershock faults: Fault geometry and bends inferred from centroid moment tensor inversion of the 2005 west off Fukuoka prefecture earthquake	Earth Planets Space	58	69-74	○	2(2)(2-1)ア			東北大
Miura, S., T. Iinuma, S. Yui, N. Uchida, T. Sato, K. Tachibana, and A. Hasegawa	2006	Co- and post-seismic slip associated with the 2005 Miyagi-oki earthquake (M7.2) as inferred from GPS data	Earth Planets Space	58	1567-1572	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ	2005年8月16日の宮城県沖の地震(M7.2)の地震時すべり分布並びに余効すべりの時空間発展を陸上GPS観測データに基づくインバージョン解析により推定し、1978年宮城県沖地震のアスペリティのうち、北側に存在するものに関しては、地震時にも地震後にもすべりが起こっておらず、引き続き次の宮城県沖地震に向けての準備過程にあり、歪が蓄積されつつあることを明らかにした。	東北大
Umino, N., T. Kono, T. Okada, J. Nakajima, T. Matsuzawa, N. Uchida, A. Hasegawa, Y. Tamura, and G. Aoki	2006	Revisiting the three M <sup>7</sup> Miyagi-oki earthquakes in the 1930s: Possible seismogenic slip on asperities that were re-ruptured during the 1978 M7.4 Miyagi-oki earthquake	Earth Planets Space	58	1587-1592	○	2(2)(2-1)ア	2(3)(3-2)ア		東北大
Yamamoto, Y., R. Hino, M. Nishino, T. Yamada, T. Kanazawa, T. Hashimoto, and G. Aoki	2006	Three-dimensional seismic velocity structure around the focal area of the 1978 Miyagi-oki earthquake	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2005GL025619	○	2(2)(2-1)ア			東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い議論の項目	次に関連の深い議論の項目	概要説明	機関名
河野俊夫・海野徳仁・長谷川昭	2007	1930年代に発生したM7クラスの宮城県沖地震の震度分布について	地震	59	339-353	○	2(2)(2-1)ア	2(3)(3-2)ア		東北大
海野徳仁・河野俊夫・岡田知己・中島淳一・松澤暢・内田直希・長谷川昭・田村良明・青木元	2007	1930年代に発生したM7クラスの宮城県沖地震の震源再決定-1978年宮城県沖地震のアスペリティでのすべりだったのか？	地震	59	325-337	○	2(2)(2-1)ア	2(3)(3-2)ア		東北大
Iinuma, T., M. Ohzono, Y. Ohta, and S. Miura	2011	Coseismic slip distribution of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake (M 9.0) estimated based on GPS data- Was the asperity in Miyagi-oki ruptured?	Earth Planets Space	in press	doi:10.5047/eps.2011.06.013	○	2(2)(2-1)ア	1(1)イ	2011年東北地方太平洋沖地震の地震時すべり分布を、陸上GPS観測点で得られた地震時変位を基に推定した。約40年周期で発生すると考えられていた宮城県沖地震の震源域において本震時のすべりが及んでいること、また、本震の主破壊域は沈み込むプレートと陸側プレートの地殻部分とが接触している領域に限定されていることを示した。	東北大
Ito, Y., T. Tsuji, Y. Osada, M. Kido, D. Inazu, Y. Hayashi, H. Tsushimai, R. Hino, and H. Fujimoto	2011	Frontal wedge deformation near the source region of the 2011 Tohoku-Oki earthquake	Geophys. Res. Lett.	in press	doi:10.1029/2011GL048355	○	2(2)(2-1)ア	3(1)ア	東北地方太平洋沖地震(M9.0)に伴う上下地殻変動を海溝軸から約20km陸側に設置した海底圧力計で観測した。観測された地殻変動は5mの隆起を示した。また水平変動量を海底に設置された機器の地震前後の位置の比較から求めた結果、5mの隆起量を観測した地点では58m東へ、より陸側の地点では74m南東へそれぞれ地震後に移動していた。これらの地殻変動量から推定されるプレート境界上でのすべり量は80mと推定された。	東北大
Saiga, A., A. Kato, S. Sakai, T. Iwasaki, and N. Hirata	2011	Crustal anisotropy structure related to lateral and down-dip variations in interplate coupling beneath the Kii Peninsula, SW Japan	Geophys. Res. Lett.	38	L09307, doi:10.1029/2011GL047405	○	2(2)(2-1)ア	2(1)ウ		東大地震研
Mochizuki, K., T. Yamada, M. Shinohara, Y. Yamanaka and T. Kanazawa,	2008	Weak Interplate Coupling by Seamounts and Repeating M-7 Earthquakes	Science	321	1194-1197	○	2(2)(2-1)ア			名古屋大
木股文昭・伊藤武男・太田雄策・メイラノイルワン・田部井隆雄	2006	スマトラのGPS観測から見てきた滑り分布:スマトラアチェでのGPS観測から見てきた2004年アチェ・アングマン地震の滑り分布	月刊地球号外	56	86-94		2(2)(2-1)ア			名古屋大
Tahara, M., H. Shimizu, M. Nakada, Y. Ito	2006	Focal depth distribution using sP depth phase and implications for plate coupling in the Hyuganada region, Japan	Physics of the Earth and Planetary Interiors		155, 219-235	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)エ	日向灘で発生する地震の震源をsP-phaseを用いて高精度に決定し、プレート境界で発生する逆断層型の地震の周囲で正断層型が多数発生していることを示した。それらの正断層型のうち、上盤側(陸側)で発生する地震の分布は負の重力異常のピーク域に一致しており、この領域に浮力が働いていることを示唆する。この浮力が日向灘のプレート境界の固着を弱めている可能性がある。	九州大
Tahara, M., K. Uehira, H. Shimizu, M. Nakada, T. Yamada, K. Mochizuki, M. Shinohara, M. Nishino, R. Hino, H. Yakiwara, H. Miyamachi, K. Umakoshi, M. Goda, N. Matsuwo and T. Kanazawa	2008	Seismic velocity structure around the Hyuganada region, Southwest Japan, derived from seismic tomography using land and OBS data and its implications for interplate coupling and vertical crustal uplift	Physics of the Earth and Planetary Interiors	167	19-33	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ	日向灘のプレート境界付近の3次元地震波速度構造をOBSの観測データも用いて精度良く推定した。その結果、九州パラオリッジに対応するプレート境界域とマントルウェッジが低速度であることが明らかになった。また、この低速度域(高ポアソン比の領域)は低重力異常域であり、非地震性すべりの発生域とも一致している。九州パラオリッジがプレート間の固着に影響を及ぼしている可能性がある。	九州大
Asano, Y., T. Saito, Y. Ito, K. Shiomi, H. Hirose, T. Matsumoto, S. Aoi, S. Hori, and S. Sekiguchi	in press	Spatial distribution and focal mechanisms of aftershocks of the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake	Earth Planets Space			○	2(2)(2-1)ア	1(1)ア		防災科 研・東北 大
Pulido, N., Y. Yagi, H. Kumagai, and N. Nishimura	in press	Rupture process and coseismic deformations of the 27 February 2010 Maule Earthquake, Chile	Earth Planets Space			○	2(2)(2-1)ア			防災科 研
Takane Hori	2006	Mechanisms of separation of rupture area and variation in time interval and size of great earthquakes along the Nankai Trough, southwest Japan	Journal of the Earth Simulator	5	8-19	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
堀 高峰	2006	地震サイクルの数値シミュレーションから見た北海道東部の大地震発生様式	月刊地球	28	481-486		2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
堀 高峰	2007	南海トラフの巨大地震再来間隔変化のメカニズム解明に向けて	地震ジャーナル	44			2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
Takane Hori and Hide Sakaguchi	2007	Numerical simulations of accretionary wedge formation	Subduction zone geodynamics conference at Montpellier				2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
堀高峰	2009	プレート境界地震の規模と発生間隔変化のメカニズム	地震	61	391		2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
Takane Hori, Shin' ichi Miyazaki, and Noa Mitsui	2009	A Model of Earthquake-Generation Cycle with Scale-Dependent Frictional Property - Preliminary Results and Research Plan for a Project of Evaluation for Coming Tokai, Tonankai, and Nankai Earthquakes	Journal of Disaster Research	4	111-117	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
Hori, T. and S. Miyazaki	2010	Hierarchical asperity model for multiscale characteristic earthquakes: A numerical study for the off-Kamaishi earthquake sequence in the NE Japan subduction zone	Geophys. Res. Lett.	37	L10304, doi:10.1029/2010GL042669	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
toriumi mitsuhiro, Ito, Y	2007	Pressure effect of self-diffusion in periclase by molecular dynamics	J. Geophys. Res.	112	B04206, doi:10.1029/2005JB003685.	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
兵藤守, 堀高峰	2010	フィリピン海プレートの3次元形状が南海トラフ巨大地震発生に及ぼす影響	JAMSTEC Report of Research and Development	11	1-15	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
佐藤壮	2006	海底地震探査による日本海の地殻構造	「日本海超深度掘削実現を目指して」シンポジウム報告書				2 (2) (2-1) ア	2 (1) イ		JAMSTEC
佐藤壮	2006	地震波構造探査からみた背弧拡大 -日本海と伊豆小笠原島弧を例にして-	「日本海超深度掘削実現を目指して」シンポジウム報告書				2 (2) (2-1) ア	2 (1) ウ		JAMSTEC
Sato T., N. Takahashi, S. Miura, G. Fujie, D.-H. Kang, S. Kodaira, Y. Kaneda	2006	Last stage of the Japan Sea back-arc opening deduced from the seismic velocity structure using wide-angle data	Geochem. Geophys. Geosyst.	7	Q06004, doi:10.1029/2005GC001135	○	2 (2) (2-1) ア	2 (1) イ		JAMSTEC
山下幹也, 横田華奈子, 深尾良夫, 小平秀一, 三浦誠一, 勝又勝郎	2011	Seismic reflection imaging of a Warm Core Ring south of Hokkaido	物理探査	42 (1)	18-24		2 (2) (2-1) ア	2 (1) イ		JAMSTEC
TAKESHI NAKAMURA, Hiroshi Takenaka	2006	A numerical analysis of seismic waves for an anisotropic fault zone	Earth Planets Space	58 (5)	569-582	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
TAKESHI NAKAMURA, YASUSHI ISHIHARA, YOSHIKO YAMANAKA, YOSHIYUKI KANEDA	2009	Source process for complex fault system of the 2007 Chuetsu-oki, Niigata, Japan, earthquake	Earth Planets Space	61	273-278	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC ・名古屋 大
TAKESHI NAKAMURA, Seiji Tsuboi, Yoshiyuki Kaneda, Yoshiko Yamanaka	2009	Rupture process of the 2008 Wenchuan, China earthquake inferred from teleseismic waveform inversion and forward modeling of broadband seismic waves	Tectonophys.	491	72-84	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC ・名古屋 大
中村武史, 竹中博士, 岡元太郎, 金田義行	2011	流体-固体境界周辺における3次元地震波動場 の差分解法に関する数値実験	地震	63	189-196	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
有吉慶介, 松澤暢, 矢部康男, 長谷川昭, 加藤尚 之	2007	沈み込みプレート境界における断層セグメン ト間の相互作用	地震	59	309-324	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC ・東北大
有吉慶介, 堀高峰, 金田義行, Jean-Paul Ampuero, 松澤 暢, 日野亮太, 長谷川昭	2009	連鎖反応モデルから想定される深部低周波微 動の特徴	SENAC	42 (2)	19-25	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
有吉慶介, 堀高峰, 金田義行, Jean-Paul Ampuero, 松澤 暢, 日野亮太, 長谷川昭	2010	海溝型巨大地震の発生前に期待される, ゆっ くり地震の活動変化	SENAC	43 (1)	19-24	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
有吉慶介, 松澤暢, 矢部康男, 加藤尚之, 日野 亮太, 長谷川 昭, 金田義行	in press	東北地方太平洋沖地震・スマトラ島沖地震に おける連動型地震の考察	JAMSTEC Report of Research and Development			○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
RYOKO NAKATA, Ryosuke Ando, Takane Hori, Satoshi Ide	submit ted	Generation mechanism of slow earthquakes: Numerical analysis based on a dynamic model with the brittle-ductile mixed fault heterogeneity	J. Geophys. Res.			○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
光井能麻, 堀高峰, 宮崎真一, 平原和朗, 金田 義行	2009	限られた期間のデータを用いたプレート境界 面の摩擦パラメータ範囲の拘束	地震	61	149-159	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC ・名古屋 大
Toshitaka Baba, Kenji Hirata, Takane Hori, Hide Sakaguchi	2006	Offshore geodetic data conducive to the estimation of the after slip distribution following the 2003 Tokachi-oki earthquake	Earth Planet. Sci. Lett.	241	281-292	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
Toshitaka Baba, Phil. R. Cummins	2006	Contiguous rupture areas of two Nankai earthquakes revealed by high-resolution tsunami waveform inversion	Geophys. Res. Lett.	32	doi:10. 1029/00 4GL0223 20	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
Toshitaka Baba, Phil. R. Cummins, Takane Hori	2006	Compound fault rupture during the 2004 off the Kii Peninsula earthquake (Mjma 7.4) inferred from highly resolved co seismic sea-surface deformation	Earth Planets Space	7	167-172	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
Toshitaka Baba, Kenji Hirata, Yoshiyuki Kaneda	2006	Tsunami magnitude determined from data of ocean-bottom pressure gauges around Japan	Geophys. Res. Lett.	31	doi:10. 1029/20 03GL019 397	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC
Toshitaka Baba, Yuichiro Tanioka, Phil R. Cummins, Koichi Uhira	2006	The slip distribution of the 1946 Nankai earthquake estimated from tsunami inversion using a new plate model	Phys. Earth Planet. Inter.	132	59-73	○	2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Toshitaka Baba, Takane Hori, Satoshi Hirano, Phil R. Cummins, Jin-Oh Park, Masanori Kameyama, Yoshiyuki Kaneda	2006	Deformation of a seamount sub ducting beneath an accretionary prism: onstraints from numerical simulation	Geophys. Res. Lett.	28	1827-1830	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		JAMSTEC
T. Baba, P.R. Cummins, T. Hori, Y. Kaneda	2006	High precision slip distribution of the 1944 Tonankai earthquake inferred from tsunami waveforms: Possible slip on a splay fault	地震	426	119-134	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		JAMSTEC
Toshitaka Baba, Takane Hori	2007	Precursory interplate decoupling of the 2003 Tokachi-oki earthquake inferred from the back slip analysis during 1998-2003	Geophys. Res. Lett.			○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		JAMSTEC
TOSHITAKA BABA, RICHARD MLECZKO, DAVID BURBIDGE, PHIL R. CUMMINS, HONG KIE THIO	2008	The Effect of the Great Barrier Reef on the Propagation of the 2007 Solomon Islands Tsunami Recorded in Northeastern Australia	Pure appl. geophys.	165	2219-2234	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		JAMSTEC
TOSHITAKA BABA, Phil R. Cummins, Hong Kie Thio, Hiroaki Tsushima	2009	Validation and Joint Inversion of Teleseismic Waveforms for Earthquake Source Models Using Deep Ocean Bottom Pressure Records: A Case Study of the 2006 Kuril Megathrust Earthquake	Pure and Applied Geophysics	166	DOI: 10.1007/s00024-008-0438-1	○	2(2)(2-1)ア	2(2)(2-1)イ		JAMSTEC
Shin'ichiro Kamiya, Yoji Kobayashi	2006	Serpentinized peridotite revealed by Seismic Tomography within forearc mantle wedge regions	J. Geophys. Res.			○	2(2)(2-1)ア	2(1)イ		JAMSTEC
神谷 眞一郎	2006	Serpentinized or partial molten mantle peridotite revealed seismologically as high Poisson's ratio anomalies beneath the Kanto-Tokai district, central Japan	J. Geophys. Res.			○	2(2)(2-1)ア	2(1)イ		JAMSTEC
神谷 眞一郎	2009	関東山地黒瀬川帯の蛇紋岩は深さ50kmのマン トルウェッジから上昇した	月刊地球				2(2)(2-1)ア	2(1)イ		JAMSTEC
Yamaguchi, S., M. Uyeshima, et al.	2008	Improvement of the Network-MT method and its first application in imaging the deep conductivity structure beneath the Kii Peninsula, southwestern Japan	Earth Planets Space			○	2(2)(2-1)ア			JAMSTEC
Asakawa, K.T. Yokobiki, T. Goto, E Araki, T. Kasaya, M. Kinoshita, and J. Kojima	2009	New Scientific Underwater Cable System Tokai-SCANNER for Underwater Geophysical Monitoring Utilizing a Decommissioned Optical Underwater Telecommunication Cable	IEEE JOURNAL OF OCEANIC ENGINEERING	34	5390547	○	2(2)(2-1)ア			JAMSTEC
Fujita, M., Y. Matsumoto, T. Ishikawa, M. Mochizuki, M. Sato, S. Toyama, K. Kawai, T. Yabuki, A. Asada and Oscar L. Colombo	2006	Combined GPS/Acoustic seafloor geodetic observation system for monitoring off-shore active seismic regions near Japan	Proc. ION GNSS-2006, Fort Worth, Texas, (2006).			○	2(2)(2-1)ア	3(1)ア	海底地殻変動観測の観測手法・解析手法についてまとめるとともに、2002年から2005年までの観測から宮城沖の海底基準点がユーラシアプレート安定域に対して7.3cm/年で動いていることを明らかにした。	海上保安庁
Matsumoto, Y., M. Fujita, T. Ishikawa, M. Mochizuki, T. Yabuki and A. Asada	2006	Undersea co-seismic crustal movements associated with the 2005 Off Miyagi Prefecture Earthquake detected by GPS/Acoustic seafloor geodetic observation	Earth Planets Space	58	1573-1576	○	2(2)(2-1)ア	1(1)イ	GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測により2005年宮城沖の地震に伴い、震央の約10km東方に位置する海底基準点が東に10cm動いたことを捉えた。この変位は、陸上GPS観測による矩形断層モデルから推定される変位量と調和的である。	海上保安庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Matsumoto, Y., T. Ishikawa, M. Fujita, M. Sato, H. Saito, M. Mochizuki, T. Yabuki and A. Asada	2008	Weak interplate coupling beneath the subduction zone off Fukushima, NE Japan, inferred from GPS/acoustic seafloor geodetic observation	Earth Planets Space	60	e9-e12	○	2 (2) (2-1) ア	1 (1) イ	福島沖海底基準点における2002年～2008年3月までの観測から、同基準点がユーラシアプレート安定域に対して西向きに3.1cm/年の速さで移動していることが分かった。これは、宮城沖における速度と比べて有意に小さく、この海域ではプレート間カップリングが弱いことを示唆している。	海上保安庁
Matsumoto, Y., M. Sato, M. Fujita, T. Ishikawa, H. Saito, M. Mochizuki, T. Yabuki and A. Asada	2008	Undersea crustal movement off the Tokai District, central Japan, detected by GPS/Acoustic seafloor geodetic observation	Report of Hydrographic and Oceanographic Researches,	44	1-8		2 (2) (2-1) ア	2 (2) (2-1) イ	東海沖1海底基準点における2002年8月～2007年4月までの観測から、同基準点がユーラシアプレート安定域に対して西北西向きに2.9cm/年の速さで移動していることが分かった。同基準点の下にはリッジが沈みこんでいることが分かっており、この海域ではプレート間カップリングが強いことが示唆される。	海上保安庁
齋藤宏彰・佐藤まりこ・松本良浩	2008	海底地殻変動観測で捉えられた「相模湾」海底基準点の移動速度	海洋情報部技報	26	23-27		2 (2) (2-1) ア	3 (1) ア	相模湾海底基準点における2002年8月～2007年2月までの観測から、同基準点がユーラシアプレート安定域に対して西北西向きに4.1cm/年の速さで移動していることが分かった。この結果は、周辺の陸上GPS観測結果と大きさ、方向ともに整合的であり、観測結果の信頼度の高さを示していると言える。	海上保安庁
佐藤まりこ・木戸元之・田所敬一	2008	GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測～観測成果と新たな取り組み～	測地学会誌	54, 3	113-125	○	2 (2) (2-1) ア	3 (1) ア	大学等を含む海底地殻変動観測の現状について最新の成果を含めて総括するとともに、更なる観測技術の発展に向けた取り組みを紹介した。	海上保安庁
Sato, M., H. Saito, T. Ishikawa, Y. Matsumoto, M. Fujita, M. Mochizuki and A. Asada	2011	Restoration of interplate locking after the 2005 Off-Miyagi Prefecture earthquake, detected by GPS/acoustic seafloor geodetic observation	Geophys. Res. Lett.	38	doi:10.1029/2010GL045689	○	2 (2) (2-1) ア	1 (1) イ	海上保安庁の海底地殻変動観測により、2005年8月に発生した宮城県沖の地震後、1年程度の余効変動期間を経て、2007年頃から再びひずみの蓄積が開始されたことが分かった。	海上保安庁
Sato, M., T. Ishikawa, N. Ujihara, S. Yoshida, M. Fujita, M. Mochizuki and A. Asada	2011	Displacement Above the Hypocenter of the 2011 Tohoku-oki Earthquake	Science	332	1395	○	2 (2) (2-1) ア	1 (1) イ	海上保安庁の海底地殻変動観測から得られた、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う海底の動きについて報告した。震源のほぼ真上の基準点で東南東に約24m移動し、約3m隆起したことがわかった。	海上保安庁
イ. 非地震性滑りの時空間変化とアスペリティの相互作用										
Kosuga, M. and K. Watanabe	2011	Seismic activity around the northern neighbor of the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake with special attention to a potential large aftershock in the area	Earth Planets Space	63		○	2 (2) (2-1) イ		弘前大学で収録した地震波形データを基に、東北地方北部沖合での2011年東北地方太平洋沖地震の余震活動の特徴を明らかにした。	弘前大学
Ohta, Y., JT. Freymueller, S. Hreinsdottir, and H. Suito	2006	A large slow slip event and the depth of the seismogenic zone in the south central Alaska subduction zone	Earth Planet. Sci. Lett.	247	108-116	○	2 (2) (2-1) イ		アラスカ中央部において3年におよぶスロースリップイベントを初めて検出した。スロースリップは定常時に固着している部分の深部に位置し、スロースリップイベントが発生している時期においても固着域に顕著な変化は見られず歪み蓄積を継続していることを示した。	東北大
Suwa, Y., S. Miura, A. Hasegawa, T. Sato, and K. Tachibana	2006	Interplate coupling beneath NE Japan inferred from three dimensional displacement field	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2004JB003203	○	2 (2) (2-1) イ	2 (1) ア	GPSデータによりプレート境界の固着状況を調べ、宮城県沖と青森県沖から十勝沖にかけての広い領域で固着が生じており、また、内陸の下でも深さ100km程度まで固着の遷移域が広がっていることを明らかにした。	東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Hasegawa, A., N. Uchida, T. Igarashi, T. Matsuzawa, T. Okada, S. Miura, and Y. Suwa	2007	Asperities and quasi-static slips on the subducting plate boundary east off Tohoku, NE Japan	in "The seismogenic zone of subduction thrust faults", ed. by T. H. Dixon and J. C. Moore, Margins Theoretical Institute and Experimental Earth Science Series, Columbia University Press, New York		451-475	○	2 (2) (2-1) イ	2 (2) (2-1) ア		東北大
三浦哲・飯沼卓史・油井智史・佐藤俊也・立花憲司・長谷川昭	2007	2005年宮城県沖地震(M7.2)に伴った地震時・地震後地殻変動から推定されたプレート境界面上のすべり分布	地震	59	371-379	○	2 (2) (2-1) イ	2 (2) (2-1) ア	2005年8月16日の宮城県沖の地震(M7.2)の地震時すべり分布並びに余効すべりの時空間発展を陸上GPS観測データに基づくインバージョン解析により推定し、1978年宮城県沖地震のアスペリティのうち、北側に存在するものに関しては、地震時にも地震後にもすべりが起こっておらず、引き続き次の宮城県沖地震に向けての準備過程にあり、歪が蓄積されつつあることを明らかにした。	東北大
Ito, Y., K. Obara, T. Matsuzawa, and T. Maeda	2009	Very-low-frequency earthquakes related to small asperities on the plate boundary interface at the locked to aseismic transition	J. Geophys. Res.	114	doi:/10.1029/2008JB006036	○	2 (2) (2-1) イ			東北大
Ito, Y., Y. Asano, and K. Obara	2009	Very-low-frequency earthquakes indicate a transpressional stress regime in the Nankai accretionary prism	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2009GL039332	○	2 (2) (2-1) イ			東北大・防災科研・JAMSTEC
三品正明・立花憲司・三浦哲	2009	孔井式歪計によって観測された福島県沖の地震に伴った余効変動	北海道大学地球物理学研究報告	72	287-298		2 (2) (2-1) イ	1 (1) イ		東北大
松澤暢	2009	プレート境界地震とアスペリティ・モデル	地震	61	S347-S355	○	2 (2) (2-1) イ	1 (2) (2-1) ア		東北大
川田祐介・長濱裕幸・内田直希・松澤暢	2009	プレート境界地震に伴う余効すべりと岩石の粘弾性挙動	地質学雑誌	115	448-456	○	2 (2) (2-1) イ	1 (2) (2-1) ア		東北大
Ohzono, M., T. Sagiya, K. Hirahara, M. Hashimoto, A. Takeuchi, Y. Hoso, Y. Wada, K. Omoue, F. Ohya, and R. Doke	2010	Strain accumulation process around the Atotsugawa fault system in the Niigata-Kobe Tectonic Zone, central Japan	Geophys. J. Int.		doi:10.1111/j.1365-246X.2010.04876.x	○	2 (2) (2-1) イ			名古屋大・東北大
Agustan, Djoko Nugroho, Lena Sumargana, Irwan Meilano, Mohd. Effendi Daud, Fumiaki Kimata, Yusuf S. Djadjahardja,	2009	Water Level Changes in Weh Island due to the Postseismic Deformation of the 2004 Sumatra-Andaman Earthquake	Advances in Geosciences	13	203-213	○	2 (2) (2-1) イ			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kawamura, M and Yamaoka K.	2009	Temporal relationship between the 2000 Miyake-Kozu seismovolcanic activity and the 2000 Tokai Slow-slip event	Tectonophys.	465	45-59	○	2(2)(2-1) イ			名古屋大
Mitsui, Noa, T. Hori, S. Miyazaki and K. Nakamura	2009	Constraining interplate frictional parameters by using limited terms of synthetic observation data for afterslip: a preliminary test of data assimilation	Theoretical and Applied Mechanics Japan	58	113-120	○	2(2)(2-1) イ			名古屋大
大石真紀子・鷺谷威	2008	2004年スマトラアンダマン地震震源域における応力場の時空間変化	月刊地球	31	168-171		2(2)(2-1) イ			名古屋大
Kawamura M and Yamaoka K	2006	Spatiotemporal characteristics of the displacement field revealed with principal component analysis and the mode-rotation technique.	Tectonophys.	419	55-73		2(2)(2-1) イ			名古屋大
Ito, Y., K. Obara, K. Shiomi, S. Sekine and H. Hirose	2007	Slow Earthquakes Coincident with Episodic Tremors and Slow Slip Events	Science	315	503-506	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア	間欠的に発生する微動およびスロースリップイベントに同期した新たなスロー地震の発見した。	防災科 研・東北 大
Ito, Y., K. Obara, T. Matsuzawa, and T. Maeda	2009	Very-low-frequency earthquakes as small asperity on plate boundary in transition zone from locked to aseismic slip	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB006036	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア		防災科研
Maeda, T., and K. Obara	2009	Hypocenter distribution of deep low-frequency tremors in Nankai subduction zone, Japan	Report of the National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention	74	13-19		2(2)(2-1) イ	1(1)ア		防災科研
Maeda, T., and K. Obara	2009	Spatio-temporal distribution of seismic energy radiation from low frequency tremor in western Shikoku, Japan	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB006043	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア		防災科研
Matsuzawa, T., K. Obara, and T. Maeda	2009	Source duration of deep very-low-frequency earthquakes in western Shikoku, Japan	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB006044	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア		防災科研
Obara, K.	2010	Phenomenology of deep slow earthquake family in southwest Japan: Spatiotemporal characteristics and segmentation	J. Geophys. Res.		doi:10.1029/2008JB006048	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア		防災科研
Sekine, S., H. Hirose, and K. Obara,	2010	Along-strike variations in short-term slow slip events in the southwest Japan subduction zone	J. Geophys. Res.		doi:10.1029/2008JB006059	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア		防災科研
Kumagai, H.	2009	Quantification of the sources of volcano-seismic signals, in " Encyclopedia of Complexity and Systems Science " ed. By W. H. K. Lee	Springer, Berlin		9899-9932		2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研
熊谷博之・中野優	2009	火山性地震の発生過程— 定量化に関する最近の成果—	地震	61	S379-S390	○	2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kumagai, H., P. Palacios, T. Maeda, D. Barba Castillo, and M. Nakano	2009	Seismic tracking of lahars using tremor signals, J. Volcanol	Geotherm. Res.	183	112-121	○	2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研
Nakano, M., H. Kumagai, S. Toda, R. Ando, T. Yamashina, H. Inoue, and Snarjo	2010	Source model of an earthquake doublet that occurred in a pull-apart basin along the Sumatran fault Indonesia	Geophys. J. Int.	183	141-153	○	2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研
Kumagai, H., M. Nakano, T. Maeda, H. Yepes, P. Palacios, M. Ruiz, S. Arrais, M. Vaca, I. Molina, and T. Yamashina	2010	Broadband seismic monitoring of active volcanoes using deterministic and stochastic approaches	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006889	○	2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研
Hirose, H., and K. Obara	2010	Recurrence behavior of short-term slow slip and correlated non-volcanic tremor episodes in western Shikoku, southwest Japan	J. Geophys. Res.	115	B00A21, doi:10.1029/2008JB006050	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア		防災科研
Hirose, H., Y. Asano, K. Obara, T. Kimura, T. Matsuzawa, S. Tanaka, and T. Maeda	2010	Slow Earthquakes Linked Along Dip in the Nankai Subduction Zone	Science	330	1502	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ア	豊後水道で約6年ごとに発生するスロースリップイベント（深さ30km 付近）にともなって、プレート境界に沿った深部側（深さ30~40km）と、浅部側（深さ5km 付近）で、種類の異なる「スロー地震」が同時に発生していることを明らかにした。	防災科研
Kumagai, H., P. Palacios, M. Ruiz, H. Yepes, and T. Kozono	2011	Ascending seismic source during an explosive eruption at Tungurahua volcano, Ecuador	Geophys. Res. Lett.	38	L01306, doi:10.1029/2010GL045944	○	2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研
Kumagai, H., T. Saito, G. O'Brien, and T. Yamashina	2011	Characterization of scattered seismic wavefields simulated in heterogeneous media with topography	J. Geophys. Res.	116	B03308, doi:10.1029/2010JB007718	○	2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研
Nakano, M., T. Yamashina, H. Kumagai, H. Inoue, and Snarjo	2010	Centroid moment tensor catalogue for Indonesia	Phys. Earth Planet. Inter.	183	456-467	○	2(2)(2-1) イ	2(2)(2-1) ア		防災科研
Obara, K., Matsuzawa, T., Tanaka, S., Kimura, T., and Maeda, T.	2011	Migration properties of non-volcanic tremor in Shikoku, southwest Japan	Geophys. Res. Lett.	38	doi:10.1029/2011GL047110	○	2(2)(2-1) イ	1(1)ウ		防災科研
Kitagawa, Y., N. Koizumi, R. Ohtani, K. Watanabe and S. Itaba	2006	Detection of aseismic slip on an inland fault by crustal movement and groundwater observations: A case study on the Yamasaki fault, Japan	Pure Appl. Geophys.	163	657-673	○	2(2)(2-1) イ	1(1)イ	活断層における非地震性滑りを観測によって検出できた可能性を示唆。	産総研
Imanishi, K. and Y. Kuwahara	2009	Stress field in the source region after the 2007 Mw 6.6 Niigataken Chuetsu-oki earthquake deduced from aftershock focal mechanisms: Implication for a pre-mainshock stress field	Earth Planets Space	61	1053-1065	○	2(2)(2-1) イ		2007年新潟県中越沖地震の余震のメカニズム解と本震の断層運動による応力変化を組み合わせて、本震発生前の絶対応力場を推定した。	産総研
Imanishi, K., Y. Kuwahara, T. Takeda, T. Mizuno, H. Ito, K. Ito, H. Wada, and Y. Haryu	2011	Depth-dependent stress field in and around the Atotsugawa fault, central Japan, deduced from microearthquake focal mechanisms: Evidence for localized aseismic deformation in the downward extension of the fault	J. Geophys. Res.	116	doi:10.1029/2010JB007900	○	2(2)(2-1) イ		微小地震のメカニズム解の深さ変化から、跡津川断層深部延長部における非地震性すべりの可能性を示唆した。	産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Murakami, M., H. Suito, S. Ozawa, and M. Kaidzu	2006	Earthquake triggering by migrating slow slip initiated by M8 earthquake along Kuril Trench, Japan	Geophys. Res. Lett.	33	L09306	○	2(2)(2-1)イ	1(1)イ	大地震後に引き続いて発生した余効滑りが深部および周辺領域に拡大し、隣接する領域でM7クラスの地震を誘発した可能性を指摘した。大地震後の余効滑りが隣接領域での大地震を誘発した例はほとんどなく、数少ない事例の一つである。	国土地理院
Ozawa, S., H. Suito, and M. Tobita	2007	Occurrence of quasi-periodic slow-slip off the east coast of the Boso peninsula, Central Japan	Earth Planets Space	59	1241-1245	○	2(2)(2-1)イ	1(1)イ		国土地理院
Ozawa, S., H. Suito, T. Nishimura, M. Tobita, and H. Mune Kane	2007	Possibility of recovery of slip deficit rate between the North American plate and the Pacific plate off Sanriku, northeast Japan	Geophys. Res. Lett.	34	L20308	○	2(2)(2-1)イ	1(1)イ		国土地理院
Ozawa, S., H. Suito, T. Imakiire and M. Murakami	2007	Spatiotemporal evolution of aseismic interplate slip between 1996 and 1998 and between 2002 and 2004, in Bungo channel, southwest Japan	J. Geophys. Res.	112	B05409	○	2(2)(2-1)イ	1(1)ウ		国土地理院
Nishimura, T.	2009	Slip distribution of the 1973 Nemuro-oki earthquake estimated from the re-examined geodetic data	Earth Planets Space	61	1203-1214	○	2(2)(2-1)イ	1(1)イ		国土地理院
Suito, H., and J. T. Freymueller	2009	A viscoelastic and afterslip postseismic deformation model for the 1964 Alaska earthquake	J. Geophys. Res.	114	B11404	○	2(2)(2-1)イ	2(1)オ		国土地理院
水藤尚・小沢慎三郎	2009	東海地方の非定常地殻変動-東海スロースリップと2004年紀伊半島南東沖の地震の余効変動	地震	61	248-265	○	2(2)(2-1)イ	1(1)ウ	豊富なGPSデータを丹念に解析することにより東海地方でのスロースリップがほぼ終息するまでの一生を明らかにした。このことは、周囲の固着域への影響や大地震を繰り返してきた南海トラフ沿いのプレート境界における応力蓄積を正しく見積もる上で重要な成果であり、また次回同様の現象が発生した時に推移予測する上でも不可欠である。	国土地理院
Ozawa, S., T. Nishimura, H. Suito, T. Kobayashi, M. Tobita, and T. Imakiire	2011	Coseismic and postseismic slip of the 2011 magnitude-9 Tohoku-Oki earthquake	nature		doi:10.1038/nature10227	○	2(2)(2-1)イ	1(1)イ	GPSデータから東北地方太平洋沖地震の地震時と地震後の滑り分布を推定した。地震時の滑り域は南北約400kmに広がり、最大滑り量は27m以上と推定された。また余効滑りは地震時滑りの深部延長域に広がっていた。東北日本では、地震前のGPS観測により大きな歪蓄積が観測されており、どのように歪が解放されるのかが謎であったが、この地震が数百年分の歪を解放したことから、巨大地震によって解放されることが示された。	国土地理院
西村卓也	2006	測地データによる1952年十勝沖地震の断層モデル	月刊地球	325	441-447		2(2)(2-1)イ	1(1)イ		国土地理院
水藤尚・小沢慎三郎	2006	2004年釧路沖地震以降の北海道東部の地殻変動と余効すべりの時空間変化	月刊地球	325	459-462		2(2)(2-1)イ	1(1)イ		国土地理院
水藤尚・小沢慎三郎	2006	2004年釧路沖地震以降の北海道東部の地殻変動と余効すべり	国土地理院時報	110	91-94		2(2)(2-1)イ	1(1)イ		国土地理院
今給黎哲郎・小沢慎三郎・西村卓也・水藤尚	2006	2005年8月16日の宮城県沖の地震に関連した地殻変動と断層モデル	国土地理院時報	110	95-100		2(2)(2-1)イ	1(1)イ		国土地理院
ウ. ひずみ集中帯の成因と内陸地震発生準備過程										
Hori, M., S. Matsumoto, K. Uehira, T. Okada, T. Yamada, Y. Iio, M. Shinohara, H. Miyamachi, H. Takahashi, K. Nakahigashi, A. Watanabe, T. Matsushima, N. Matsuwo, T. Kanazawa, and H. Shimizu	2006	3D seismic velocity structure in and around the focal area of the 2005 west Off Fukuoka prefecture earthquake by double-difference tomography	Earth Planets Space	58	1621-1626	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Nakao, S., H. Takahashi, T. Matsushima, Y. Kohno and M. Ichiyonagi	2006	Postseismic deformation following the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (M7.0) derived by GPS observation	Earth Planets Space	58	1617-1620	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大
中尾茂・高橋浩晃・一柳昌義・松島健・河野裕希	2006	福岡県西方沖地震の余効変動観測	月刊地球	28	128-132		2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大
一柳昌義・前田宜浩・山口照寛・高橋浩晃・笠原稔・笹谷努・山本明彦	2007	2004年12月14日に発生した留萌支庁南部の地震(MJMA6.1)の余震活動	地震	59	381-384	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大
酒井慎一・加藤愛太郎・蔵下英司・飯高隆・五十嵐俊博・平田直・岩崎貴哉・金沢敏彦・渡辺茂・羽田敏夫・小林勝・三浦勝美・三浦禮子・田上貴代子・荻野泉・坂守・渡邊篤志・宮川幸治・勝俣啓・高橋浩晃・笠原稔・本多亮・前田宜浩・一柳昌義・山口照寛・小菅正裕・岡田知己・中島淳一・堀修一郎・中山貴史・新居恭平・長谷川昭・河野俊夫・鈴木秀市・津村紀子・小林里紗・野崎謙治・平松良浩・菅谷勝則・林垂以子・広瀬哲也・澤田明宏・田中敬介・山中佳子・中道治久・奥田隆・飯尾能久・西上欽也・宮澤理穂・和田博夫・平野憲雄・中尾節郎・片尾浩・大見士朗・伊藤潔・澁谷拓郎・加納靖之・土井一生・野田俊太・片木武・西辻陽平・松本聡・松島健・雑賀敦・宮町宏樹・今西和俊・桑原保人・長郁夫・干野真・武田哲也・浅野陽一・行竹洋平・上野友岳・前田拓人・松澤孝紀・関根秀太郎・松原誠・小原一成	2007	平成19年(2007年)能登半島地震合同余震観測	東京大学地震研究所彙報	82	225-233		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		北海道大・名古屋大
田近淳・田村慎・川上源太郎・高橋浩晃・濱田誠一・志村一夫	2007	1874年北海道初山別の地震に関する補足的資料：斜面崩壊を中心に	北海道立地質研究所報告	78	175-182		2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大
Hashimoto, M., H. Takahashi, R. Doke, M. Kasahara, A. Takeuchi, K. Onoue, Y. Hoso, Y. Fukushima, K. Nakamura, F. Ohya, R. Honda, M. Ichiyonagi, T. Yamaguchi, T. Maeda, and Y. Hiramatsu	2008	Postseismic displacements following the 2007 Noto peninsula earthquake detected by dense GPS observation	Earth Planets Space	60	139-144	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大
Vasilenko, N. F., B. W. Levon, A. S. Prytkov, C. U. Kim, and H. Takahashi	2007	Dislocation model of the August 2, 2007, Mw6.2 Nevelsk earthquake	Doklady Earth Sci	422	1145-1149	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大
Vasilenko, N. F., A. S. Prytkov, C. U. Kim and H. Takahashi	2009	Coseismic deformation of the earth's surface in Sakhalin related to the August 2, 2007, Mw=6.2 Nevelsk Earthquake	Russian Journal of Pacific Geology	3	424-428	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大
一柳昌義・高橋浩晃・山口照寛・高田真秀・岡山宗夫・笠原稔	2009	高密度臨時地震観測による2004年斜里岳群発地震活動	北海道大学地球物理学研究報告	72	299-314		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		北海道大
一柳昌義・高橋浩晃・前田宜浩・笠原稔・宮町宏樹・平野舟一郎・センラクス・ミハイルワレンチン・キムチュンウン	2010	日露共同地震観測による2007年8月2日に発生したサハリン南西沖の地震(MJMA6.4)の余震活動	地震	62	139-152	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		北海道大



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Takahashi, H	in press	Coseismic strain and stress changes in eastern Japan due to the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake as derived from GPS data	Earth Planets Space			○	2(2)(2-1)ウ	2(1)エ	東北沖地震によりよりもたらされた日本列島の歪の不均質場をGPSデータから直接推定した。地震が誘発された新潟神戸構造線や富士山付近で歪の異常が検出された。これらの異常は地下構造の不均質性に起因していることが予想され、活断層の離散的分布を規定する力学的な構造を示している可能性があり、内陸活断層に局所的に応力が蓄積され地震発生に至るプロセスを解明する上で重要な知見である。	北海道大
本多亮、山谷裕介、市原寛、長谷英彰、茂木透、山下晴之、上嶋誠、中川光弘	2011	屈斜路カルデラ周辺におけるMT法による比抵抗探査	北海道大学地球物理学研究報告	74	45-56		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
本多亮、市原寛、神山裕幸、茂木透、中川光弘	2011	北海道東部弟子屈地域の重力異常	北海道大学地球物理学研究報告	74	21-44		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
Ichihara, H., T. Mogi	2009	A realistic 3-D resistivity model explaining anomalous large magnetotelluric phases: the L-shaped conductor model.	Geophys. J. Int.	179	14-17	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
Ichihara, H., T. Mogi, H. Hase, T. Watanabe and Y. Yamaya	2009	Resistivity and density modelling in the 1938 Kutcharo earthquake source area along a large caldera boundary	Earth Planets Space	61	345-356	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
Ichihara, H, R. Honda, T. Mogi, H. Hase, H. Kamiyama, Y. Yamaya, and Y. Ogawa	2008	Resistivity structure around the focal area of the 2004 Rumoi-Nambu earthquake ( $M$ 6.1), northern Hokkaido, Japan	Earth Planets Space	60	883-888	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大・東工大流体
平田貴一、茂木透、山谷祐介、長谷英彰、市原寛	2009	MT法による黒松内地域の地下構造	北海道大学地球物理学研究報告	72	387-398		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
本多亮、笠原稔、茂木透	2009	北海道北部地域の重力測定（その2）	北海道大学地球物理学研究報告	72	203-218		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
梶原崇憲、茂木透	2008	Poissonの関係式を用いた北海道北部地域における重力・磁気異常の地下構造解析	北海道大学地球物理学研究報告	71	91-101		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
本多亮、茂木透	2008	北海道北部地域の重力測定	北海道大学地球物理学研究報告	71	71-90		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
Nishida, Y., M. Utsugi and T. Mogi	2007	Tectonomagnetic study in the eastern part of Hokkaido, NE Japan (II): Magnetic fields related with the 2003 Tokachi-oki earthquake and the 2004 Kushiro-oki earthquake	Earth Planets Space	59	1181-1186	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
本多亮、神山裕幸、山口照寛、市原寛、茂木透	2007	2004年留萌支庁南部地震震源域の重力測定	北海道大学地球物理学研究報告	70	27-42		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
市原寛、茂木透、山谷祐介、神山裕幸、小川康雄	2006	北海道東部弟子屈地域における広帯域MT観測および重力測定	北海道大学地球物理学研究報告	69	233-255		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
神山裕幸、山本明彦、長谷川健、梶原崇憲、茂木透	2006	日高山脈トツタベツ深成岩体の重力異常と貫入形態	北海道大学地球物理学研究報告	69	147-173		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		北海道大
小菅正裕	2006	地震波エンベロープを用いた新潟県中越地震のやや低周波の余震の検出	月刊地球	29	252-256		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		弘前大学
小菅正裕・東 麻美	2008	弘前市西部における地震活動	東北地域災害科学研究	44	7-12		2(2)(2-1)ウ			弘前大学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
小菅正裕・岩渕 智・村田和則	2009	稠密余震観測データを用いて推定した2004年新潟県中越地震震源域の応力場	地震	62	27-46	○	2(2)(2-1)ウ		2004年新潟県中越地震後に実施した合同余震観測データを用いて余震域の応力場について検討し、空間的な変動を詳細に明らかにした。	弘前大学
Katsumata, K., M. Kosuga, H. Katao et al.	2010	Focal mechanisms and stress field in the Atotsugawa fault area, central Honshu, Japan	Earth Planets Space	62	367-380	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ	跡津川断層周辺での合同地震観測データを用いて応力場の検討を行い、断層中央部深部が周辺とは異なる応力状態にあることを示した。	弘前大学・京大防災研
Hiratsuka, S. and T. Sato	2011	Alteration of stress field brought about by the occurrence of the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku earthquake (Mw9.0)	Earth Planets Space	63		○	2(2)(2-1)ウ		2011年東北地方太平洋沖地震によって引き起こされた応力場の変化をクローン破壊関数の変化(ΔCFF)を使って調べ、余震や誘発地震との関連について検討した。	弘前大学
Ito, Y., S. Sekiguchi, T. Okada, R. Honda, K. Obara, and S. Hori	2006	Performance of regional distance centroid moment tensor inversion applied to the 2004 mid-Niigata prefecture earthquake, Japan	Geophys. J. Int.	167	1317-1331	○	2(2)(2-1)ウ			東北大・防災科研
Nakajima, J., A. Hasegawa, S. Horiuchi, K. Yoshimoto, T. Yoshida, and N. Umino	2006	Crustal heterogeneity around the Nagamachi-Rifu fault, northeastern Japan, as inferred from travel-time tomography	Earth Planets Space	58	843-853	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		東北大
Okada, T., A. Hasegawa, J. Suganomata, D. Zhao, H. Zhang, and C. Thurber	2006	Imaging the source area of the 1995 southern Hyogo (Kobe) earthquake (M7.3) using double-difference tomography	Earth Planet. Sci. Lett.	253	143-150	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		東北大
Okada, T., T. Yaginuma, N. Umino, T. Matsuzawa, A. Hasegawa, H. Zhang, and C. H. Thurber	2006	Detailed imaging of the fault planes of the 2004 Niigata-Chuetsu, central Japan, earthquake sequence by double-difference tomography	Earth Planet. Sci. Lett.	244	32-43	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		東北大
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2007	Deep crustal structure along the Niigata-Kobe Tectonic Zone, Japan: its origin and segmentation	Earth Planets Space	59	e5-e8	○	2(2)(2-1)ウ			東北大
Okada, T., A. Hasegawa, J. Suganomata, N. Umino, H. Zhang, and C. Thurber	2007	Imaging the heterogeneous source area of the 2003 M6.4 northern Miyagi earthquake, NE Japan, by double-difference tomography	Tectonophys.	430	67-81	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		東北大
Iinuma, T., Y. Ohta, S. Miura, K. Tachibana, T. Matsushima, H. Takahashi, T. Sagiya, T. Ito, S. Miyazaki, R. Doke, A. Takeuchi, K. Miyao, A. Hirao, T. Maeda, T. Yamaguchi, M. Takada, M. Iwakuni, T. Ochi, I. Meilano, and A. Hasegawa	2008	Postseismic Slip Associated with the 2007 Chuetsu-oki Niigata, Japan, Earthquake (M6.8 on 16 July 2007) as Inferred from GPS Data	Earth Planets Space	60	1087-1091	○	2(2)(2-1)ウ		2007年新潟県中越沖地震に伴う余効変動を、地震直後から展開した臨時観測点および既設GPS連続観測点において得られた変位時系列データに基づいて解析した。本震断層面の配置を変えて解析を行ったところ、北東側の断層が北西側に傾斜し、南西側の断層が南東側に傾斜しているモデルが最適解を与える。いずれの断層面においても地震時にすべった領域よりも浅い側並びに深い側での余効すべりが求まり、地震時すべり域と余効すべり域との住み分けがなされている。	東北大・北海道大・名古屋大
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2008	Existence of low-velocity zones under the source areas of the 2004 Niigata-Chuetsu and 2007 Niigata-Chuetsu-Oki earthquakes inferred from travel-time tomography	Earth Planets Space	60	1127-1130	○	2(2)(2-1)ウ			東北大
Ohta, Y, S. Miura, T. Iinuma, K. Tachibana, T. Matsushima, H. Takahashi, T. Sagiya, T. Ito, S. Miyazaki, R. Doke, A. Takeuchi, K. Miyao, A. Hirao, T. Maeda, T. Yamaguchi, M. Takada, M. Iwakuni, T. Ochi, I. Meilano, and A. Hasegawa	2008	Coseismic and postseismic deformation related to the 2007 Chuetsu-oki, Niigata Earthquake	Earth Planets Space	60	1081-1086	○	2(2)(2-1)ウ	3(2)ア	2007年中越沖地震の地震時断層モデルおよび地震後余効変動の減衰常数について議論を行った。地震時断層モデルでは北西、南東それぞれに傾き下がる断層面を2枚仮定し、全部で4パターンの断層モデルを構築したが、測地データからはどの組み合わせにおいても観測値を説明できることを示した。	東北大・名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Yasuo Yabe, S.-R. Song, and C.-Y. Wang	2008	In-situ stress at the northern portion of the Chelungpu fault, Taiwan, estimated on boring cores recovered from a 2-km-deep-hole of TCDP	Earth Planets Space	60	809-819	○	2(2) (2-1)ウ			東北大
Iinuma, T., M. Ohzono, Y. Ohta, S. Miura, M. Kasahara, H. Takahashi, T. Sagiya, T. Matsushima, S. Nakao, S. Ueki, K. Tachibana, T. Sato, H. Tsushima, K. Takatsuka, T. Yamaguchi, M. Ichiyonagi, M. Takada, K. Ozawa, M. Fukuda, Y. Asahi, M. Nakamoto, Y. Yamashita, and N. Umino	2009	Aseismic slow slip on an inland active fault triggered by a nearby shallow event, the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake (Mw6.8)	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2009GL040063	○	2(2) (2-1)ウ		2008年岩手・宮城内陸地震の地震時すべり及び余効すべりの分布をGPS観測に基づく変位時系列データから求めた。余効すべりが本震断層面上、地震時すべり域よりも浅い側で発生したこと、また、本震時には変位を生じなかった隣接する活断層において地震後に非地震性すべりが発生したことが明らかになった。	東北大・北海道大・名古屋大
Umeda, K., A. Ninomiya, K. Shimoda, and J. Nakajima	2009	Helium isotope variations along the Niigata-Kobe Tectonic Zone, central Japan	The Lithosphere: Geochemistry, Geology and Geophysics		141-170	○	2(2) (2-1)ウ			東北大
Wallace, L. M., S. Ellis, K. Miyao, S. Miura, J. Beavan, and J. Goto	2009	Enigmatic, highly active left-lateral shear zone in southwest Japan explained by aseismic ridge collision	Geology	37	143-146	○	2(2) (2-1)ウ	3(2)ア		東北大
Wang, Z., D. Zhao, R. Huang, X. Tang, and O.P. Mishra	2009	Structural heterogeneity in Northeast Japan and its implications for the genesis of the 2004 and 2007 Niigata earthquakes	Bull. Seism. Soc. Am.	99	3355-3373	○	2(2) (2-1)ウ	2(1)ウ		東北大
Huang, Z., D. Zhao, N. Umino, L. Wang, T. Matsuzawa, A. Hasegawa, and T. Yoshida	2010	P-wave tomography, anisotropy and seismotectonics in the eastern margin of Japan Sea	Tectonophys.	489	177-188	○	2(2) (2-1)ウ			東北大
Nakajima, J., A. Kato, T. Iwasaki, S. Ohmi, T. Okada, T. Takeda, and The Japanese University Group of the Joint Seismic Observations at NKTZ	2010	Deep crustal structure around the Atotsugawa fault system, central Japan: A weak zone below the seismogenic zone and its role in earthquake generation	Earth Planets Space	62	555-566	○	2(2) (2-1)ウ	2(1)ウ	跡津川断層周辺の地殻の微細構造を推定し、(1)断層直下の下部地殻は低速度域になっていること、(2)上部地殻は断層に沿って速度不均質がみられ、地震活動が低調は断層中央部は周囲に比べ10%程度速度が遅いこと、などを明らかにした。断層直下の下部地殻の低速度域は2-3vol%の水の存在で説明できる。	東北大・東大地震研
Okada, T., N. Umino, and A. Hasegawa	2010	Deep structure of the Ou mountain range strain concentration zone and the focal area of the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku earthquake, NE Japan - Seismogenesis related with magma and crustal fluid	Earth Planets Space	62	347-352	○	2(2) (2-1)ウ	2(1)ウ	2008年6月14日にM7.2の地震(2008年岩手・宮城内陸地震)が岩手県南西部・宮城県北西部に発生した。この地震は、これまで活発な地震活動が見られた東北脊梁山地ひずみ集中帯および宮城県北部地域の前弧側のひずみ集中帯の付近で発生した。これらのひずみ集中帯や震源断層の直下には部分溶融域と思われる低速度域が分布し、そこから分離・上昇した地殻流体が今回の地震の発生に関わっていることが示唆される。	東北大
Okada, T., K. Yoshida, S. Ueki, J. Nakajima, N. Uchida, T. Matuzawa, N. Umino, A. Hasegawa, and Group for the aftershock observations of the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake	2011	Possible triggered shallow inland earthquakes in NE Japan by the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake	Earth Planets Space		accepted	○	2(2) (2-1)ウ	2(1)ウ	2011年東北地方太平洋沖地震後に発生した東北地方の内陸地震について、メカニズム解と震源分布から断層面を推定した。東北地方中央部では横ずれ断層型が確認され、またP軸の向きは北東-南西方向を向くことから、応力場の広域的な変化が示唆される。推定された断層面に対する2011年東北地方太平洋沖地震のすべりによるクローン応力変化は正であり、正の影響をうけて発生したと考えられる。	東北大
Kato, A., S. Sakai, K. Obara	in press	A normal-faulting seismic sequence triggered by the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake: Wholesale stress regime changes in the upper plate	Earth Planets Space			○	2(2) (2-1)ウ	2(1)ウ		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kurashimo, E., H. Sato, S. Abe, T. Iwasaki, T. Iidaka, N. Kato, S. Koshiya, T. Kawanaka, and N. Hirata	in press	Precise aftershock distribution and crustal structure in and around northern focal area of the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake	Earth Planets Space			○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研
蔵下英司・佐藤比呂志・阿部 進・岩崎貴哉・飯高 隆・加藤直子・坂 守・越谷 信・野田 賢・芹澤正人・佐藤史祥・綿引美美子・茂木太郎・花田 類・川中 卓・酒井 慎一・加藤愛太郎・金澤敏彦・平田 直	印刷中	2008年岩手・宮城内陸地震震源域北部における稠密余震観測	東京大学地震研究所彙報				2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研
Hiramatsu, Y., K. Iwatsuki, S. Ueyama, T. Iidaka, and the Japanese University Group of the Joint Seismic Observations at NKTZ	2010	Spatial variation in shear wave splitting of the upper crust in the zone of inland high strain rate, central Japan, Earth Planets Space	Earth Planets Space	62	675-684	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		東大地震研
Igarashi, T., T. Iidaka, T. Iwasaki, T. Shibutani, T. Ueno, and Japanese University Group	2009	Crust and uppermost mantle structure beneath central Japan inferred from receiver function analysis	Earth Planets Space	61	1215-1221	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		東大地震研
Iidaka, T., A. Kato, E. Kurashimo, T. Iwasaki, N. Hirata, H. Katao, I. Hirose and H. Miyamachi	2009	Fine structure of P-wave velocity distribution along the Atotsugawa fault, central Japan	Tectonophys.	472	95-104	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		東大地震研
Iidaka, T., Y. Hiramatsu, and The Japanese University Group of the Joint Seismic Observations at NKTZ	2009	Shear-wave splitting analysis of the upper mantle at the Niigata-Kobe Tectonic Zone with the data of the Joint Seismic Observations at NKTZ	Earth Planets Space	61	227-235	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		東大地震研
Kato, A., S. Sakai, T. Iidaka, T. Iwasaki, E. Kurashimo, T. Igarashi, N. Hirata, T. Kanazawa, K. . . Katsumata, H. Takahashi, R. Honda, T. Maeda, M. Ichiyangi, T. Yamaguchi, M. Kosuga, T. Okada, J. Nakajima, S. Hori, T. Nakayama, A. Hasegawa, T. Kono, S. Suzuki, N. Tsumura, Y. Hiramatsu, K. Sugaya, A. Hayashi, T. Hirose, A. Sawada, K. Tanaka, Y. Yamanaka, H. Nakamichi, T. Okuda, Y. Iio, K. Nishigami, M. Miyazawa, H. Wada, N. Hirano, H. Katao, S. Ohmi, K. Ito, I. Doi, S. Noda, S. Matsumoto, T. Matsushima, A. Saiga, H. Miyamachi, K. Imanishi, T. Takeda, Y. Asano, Y. Yukutake, T. Ueno, T. Maeda, T. Matsuzawa, S. Sekine, M. Matsubara, and K. Obara (2011),	2011	Anomalous depth dependency of the stress field in the 2007 Noto Hanto, Japan, earthquake: Potential involvement of a deep fluid reservoir	Geophys. Res. Lett.	38	L06306, doi:10.1029/2010GL046413	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ	2007年能登半島地震発生後に実施された高密度余震観測データを用いて、震源域の応力場の深さ変化を推定した。深さ4km以浅では、横ずれ型の応力場で特徴づけられるが、より深部では逆断層型の応力場が卓越する。本震の震源よりもさらに深い領域では、最大主圧縮軸の方位が様々な方位を向く。このような応力場の異常な深さ変化の要因として、震源域下部に局在化した流体がもたらす浮力について考察した。	東大地震研
Kato, A., T. Iidaka, T. Iwasaki, N. Hirata and S. Nakagawa.	2011	Reactivations of boundary faults within a buried ancient rift system by ductile creeping of weak shear zones in the overpressured lower crust: the 2004 mid-Niigata prefecture earthquake	Tectonophys.	486	101-108	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kato, A., T. Miyatake, and N. Hirata	2010	Asperity and Barriers of the 2004 Mid-Niigata Prefecture Earthquake Revealed by Highly Dense Seismic Observations	Bull. Seism. Soc. Am.	100	1, 298-306	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ	新潟県中越地震の本震断層面上の地震波速度構造・応力降下量を推定し、内陸地震のアスペリティモデルを提唱した。本震震源の北東浅部に高速度体がイメージングされた。ここでは、余震活動度が低く、アスペリティ・高応力降下量域に対応する。一方、本震震源の南西側では、負の応力降下量の領域が検出された。この領域は、上盤側の堆積層起源の層の厚みが急激に増加する場所に対応しており、バリアとして機能したと考えられる。	東大地震研
Aochi, H., and A. Kato	2010	Dynamic rupture of cross-cutting faults: Possible rupture process of the 2007 Mw6.6 Niigata-Ken Chuetsu-Oki earthquake	J. Geophys. Res.	115	B05310, doi:10.1029/2009JB006556	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
Tajima, R., F. Tajima, and A. Kato	2009	Seismic structure in and around the source area of the 2004 Mid Niigata, Japan, earthquake: 3-D waveform modeling based on local tomography images	Geophys. J. Int.	177	145-160	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
刀禰茂康・宮武隆・引間和人・加藤愛太郎	2009	不均質構造中で発生する地震が作るΔCFF	地震	62	97-107	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
Panayotopoulos, Y, N. Hirata, H. Sato, T. Iwasaki, A. Kato, K. Imanishi, Y. Kuwahara and I. Cho	2010	Seismicity and crustal structure in the vicinity of the southern Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line	Earth Planets Space	62	223-235	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
Ikeda, Y., T. Iwasaki, K. Kano, T. Ito, T. H. Sato, M. Tajikara, S. Kikuchi, M. Higashinaka, T. Kozawa and T. Kawanaka	2009	Active nappe with a high slip rate: Seismic and gravity profiling across the southern part of the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, central Japan	Tectonophys.	472	72-85	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研・東工大理
Kato, A., E. Kurashimo, T. Igarashi, S. Sakai, T. Iidaka, M. Shinohara, T. Kanazawa, T. Yamada, N. Hirata, and T. Iwasaki	2009	Reactivation of ancient rift systems triggers devastating intraplate earthquakes	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2008GL036450	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
Nakanishi, A., E. Kurashimo, Y. Tatsumi, H. Yamaguchi, S. Miura, S. Kodaira, K. Obana, N. Takahashi, T. Tsuru, Y. Kaneda, T. Iwasaki and N. Hirata	2009	Crustal evolution of the southwestern Kuril Arc, Hokkaido, Japan, deduced from seismic velocity and geochemical structure	Tectonophys.	472	105-123	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
Kato, A., S. Sakai, T. Iidaka, T. Iwasaki, E. Kurashimo, T. Igarashi, N. Hirata, T. Kanazawa, and Group for the aftershock observations of the 2007 Noto Hanto Earthquake	2008	Three-dimensional velocity structure in the source region of the Noto Hanto Earthquake in 2007 imaged by a dense seismic observation	Earth Planets Space	60	105-110	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
Kato, A., S. Sakai, E. Kurashimo, T. Igarashi, T. Iidaka, N. Hirata, T. Iwasaki, T. Kanazawa, and Group for the aftershock observation of the 2007 Niigataken Chuetsu-oki Earthquake by a dense seismic observation	2008	Imaging heterogeneous velocity structures and complex aftershock distributions in the source region of the 2007 Niigataken Chuetsu-oki Earthquake by a dense seismic observation	Earth Planets Space	60	83-88	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研
Sakai, S., A. Kato, T. Iidaka, T. Iwasaki, E. Kurashimo, T. Igarashi, N. Hirata, T. Kanazawa, and Group for the aftershock observations of the 2007 Noto Hanto Earthquake	2008	Three dimensional velocity structure in the source region of the Noto Hanto Earthquake in 2007 imaged by a dense seismic observation	Earth Planets Space	60	83-88	○	2 (2) (2-1)ウ	1 (2) (2-1)イ		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Shinohara, M., Kanazawa, T., Yamada, T., Nakahigashi, K., Sakai, S., Hino, R., Murai, Y., Yamazaki, A., Obana, K., Ito, Y., Iwakiri, K., Miura, R., Machida, Y., Mochizuki, K., Uehira, K., Tahara, M., Kuwano, A., Amemiya, S., Kodaira, S., Takanami, T., Kaneda, Y. & Iwasaki, T.	2008	Precise aftershock distribution of the 2007 Chuetsu-oki Earthquake obtained by using an ocean bottom seismometer network	Earth Planets Space	60	1121-1126	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研・北海道大・東北大
Miyatake, T., A. Kato, K. Hikima, and T. Kimura,	2008	The Effects of Negative Stress Drop on Fault Rupture: The 2004 mid-Niigata (Chuetsu), Japan, earthquake	Bull. Earthq. Res. Inst.	83	273-279	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研
Kato, A., T. Iidaka, E. Kurashimo, S. Nakagawa, N. Hirata and T. Iwasaki	2007	Delineation of probable asperities of the Atotsugawa fault, central Japan, using dense temporary seismic network	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL029604	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研
Kato, A., and The research team of aftershock observations for the 2004 mid-Niigata Prefecture Earthquake	2007	High-resolution aftershock observations in the source region of the 2004 mid-Niigata Prefecture Earthquake	Earth Planets Space	59	923-928	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研・弘前大学・名古屋大
Kato, A., E. Kurashimo, N. Hirata, T. Iwasaki and T. Iidaka	2006	Imaging crustal structure around the western segment of the Atotsugawa fault system, central Japan	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006/GL025841	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研
Kato, A., S. Sakai, N. Hirata, E. Kurashimo, T. Iidaka, T. Iwasaki and T. Kanazawa T.	2006	Imaging the seismic structure and stress field in the source region of the 2004 mid-Niigata prefecture earthquake: Structural zones of weakness and seismogenic stress concentration by ductile flow	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005JB004016	○	2(2)(2-1)ウ	1(2)(2-1)イ		東大地震研
Yoshimura, R., N. Oshiman, M. Uyeshima, H. Toh, T. Uto, H. Kanazaki, Y. Mochido, K. Aizawa, Y. Ogawa, T. Nishitani, S. Sakanaka, M. Mishina, H. Satoh, T. Goto, T. Kasaya, S. Yamaguchi, H. Murakami, T. Mogi, Y. Yamaya, M. Harada, I. Shiozaki, Y. Honkura, S. Koyama, S. Nakao, Y. Wada, and Y. Fujita	2009	Magnetotelluric Transect of the Niigata-Kobe Tectonic Zone, Central Japan: A Clear Correlation between Strain Accumulation and Resistivity Structure	Geophys. Res. Lett.	36	L20311	○	2(2)(2-1)ウ			東工大流体・北海道大
Wannamaker, P.E., T.G. Caldwell, G. R. Jiracek, V. Maris, G.J. Hill, Y. Ogawa, H. M. Bibby, S. B. Bennie, and W. Heise	2009	The fluid and deformation regime of an advancing subduction system; Marlborough, New Zealand	Nature	460	733-736	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ	ニュージーランド南島北部の沈み込み帯において、上部マントルおよび地殻の流体分布を明らかにし、それと断層の成熟度・発生様式との関連を示した重要な論文	東工大流体
Kaya, T., S. B. Tank, M. K. Tuncer, I. I. Rokoityansky, E. Tolak, and T. Savchenko	2009	Asperity along the North Anatolian Fault imaged by magnetotellurics at Duzce, Turkey	Earth Planets Space	61	871-884	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		東工大流体
Yamaguchi, S., Y. Ogawa, K. Fuji-ta, N. Ujihara, H. Inokuchi, and N. Oshiman	2010	Audio-frequency magnetotelluric imaging of the Hijima fault in the Yamasaki fault system, southwest Japan,	Earth Planets Space	62	401-411	○	2(2)(2-1)ウ			東工大流体
Ichihara, H., M. Uyeshima, S. Sakanaka, T. Ogawa, M. Mishina, Y. Ogawa, T. Nishitani, Y. Yamaya, A. Watanabe, Y. Morita, R. Yoshimura, Y. Usui	2011	A fault-zone conductor beneath a compressional inversion zone, northeastern Honshu, Japan	Geophys. Res. Lett.	38	L09301	○	2(2)(2-1)ウ			東工大流体

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Terakawa, T. and M. Matsu'ura	2010	3-D tectonic stress fields in and around Japan inverted from GMT data of seismic events	Tectonics	29	doi:10.1029/2009TC002626	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		名古屋大
Terakawa, T., A. Zoporowski, B. Galvan, and S. A. Miller	2010	High pressure fluid at hypo-central depths in the L'Aquila 2 region inferred from earthquake focal mechanisms	Geology	38	995-998	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		名古屋大
杉戸信彦・岡田篤正・石村大輔・西川泰平	2008	境峠―神谷断層帯南部の最近2回の活動時期―長野県木祖村荻原下川原トレンチ掘削調査―	第四紀研究, 短報	47	183-189	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
Hirahara, K., M. Ohzono, T. Sagiya, Y. Hoso, Y. Yada, and M. Ando	2007	Dense GPS array observations across the Atotsugawa Fault system in central Japan	Geodynamics of Atotsugawa Fault System, Terrapub		25-44	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
Nishigami, K., I. Fujisawa, K. Tadokoro, T. Mizuno, and Y. Mamada	2007	Temporary seismic observation at the Atotsugawa fault, central Japan: Study on fault-zone trapped waves and attenuation of S-waves	Geodynamics of Atotsugawa Fault System, Terrapub		85-92	○	2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア, 3(3)ア		名古屋大
Nishimura, T., T. Sagiya, and R. S. Stein	2007	Crustal block kinematics and seismic potential of the northernmost Philippine Sea plate and Izu microplate central Japan, inferred from GPS and leveling data	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2005JB004102	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
鷺谷威	2007	中部, 東北日本におけるプレート内歪み集中帯―その構造, 変形と地学的意義―	月刊地球	29	376-382		2(2)(2-1)ウ			名古屋大
澤祥・谷口薫・廣内大助・松多信尚・内田主税・佐藤義輝・石黒聡士・田力正好・杉戸信彦・安藤俊人・隈元崇・佐野滋樹・野澤竜二郎・坂上寛之・渡辺満久・鈴木康弘	2007	糸魚川―静岡構造線活断層帯中部, 松本盆地南部, 塩尻峠および諏訪湖南岸断層群の変動地形の再検討	活断層研究	27	169-190	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
田力正好・杉戸信彦・澤祥・谷口薫・廣内大助・松多信尚・佐藤善輝・石黒聡士・安藤俊人・内田主税・坂上寛之・隈元崇・渡辺満久・鈴木康弘	2007	糸魚川―静岡構造線活断層帯中部, 諏訪盆地北東縁の変動地形とその認定根拠, および変位速度	活断層研究	27	147-169	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
山崎文人	2007	御嶽山の火山活動と群発地震活動, 東濃地震科学研究所報告		21			2(2)(2-1)ウ			名古屋大
Ando, M	2006	Geodynamics of Atotsugawa Fault System	Terrapub		186pp		2(2)(2-1)ウ			名古屋大
Tanaka, H., T. Ito, T. Nohara and M. Ando	2006	Description of meso-and microscopic structures of fault zone rocks obtained from tunnel penetrated across the Mozumi-Sukenobe fault, central Japan, in Geodynamics of Atotsugawa Fault System	Geodynamics of Atotsugawa Fault System, Terrapub		103-121	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
鷺谷威	2006	糸魚川―静岡構造線と歪み集中帯―測地データから見る松代群発地震の背景―	月刊地球	28	838-844		2(2)(2-1)ウ			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
澤 祥・田力正好・谷口 薫・廣内大助・松多信尚・安藤俊人・佐藤義輝・石黒聡士・内田主税・坂上寛之・隈元 崇・渡辺満久・鈴木康弘	2006	糸魚川-静岡構造線断層帯北部、大町~松本北部間の変動地形認定と鉛直平均変位速度解明	活断層研究	26	121-136	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
杉戸信彦・岡田篤正	2006	長野盆地西縁断層帯北-中部の最近の活動時期	活断層研究	26	95-104	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
歪集中帯大学合同地震観測グループ	2006	歪集中帯を中心とする大学合同地震観測：跡津川断層域を中心として	東京大学地震研究所彙報				2(2)(2-1)ウ			名古屋大
松多信尚・澤 祥・安藤俊人・廣内大助・田力正好・谷口 薫・佐藤善輝・石黒聡士・内田主税・佐野滋樹・野澤竜二郎・坂上寛之・隈元 崇・渡辺満久・鈴木康弘	2006	写真測量技術を導入した糸魚川-静岡構造線断層帯北部(樽池-木崎湖)の詳細変位地形・鉛直平均変位速度解析	活断層研究	26	105-120	○	2(2)(2-1)ウ			名古屋大
Yukutake, Y., Y. Iio, and S. Horiuchi	2010	Detailed spatial changes in the stress field of the 1984 western Nagano earthquake region	J. Geophys. Res.	115	B06305, doi:10.1029/2008JB006111.	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
三浦 勉・飯尾能久・片尾 浩・中尾節郎・米田格・藤田安良・近藤和男・西村和浩・澤田麻沙代・多田光弘・平野憲雄・山崎友也・富阪和秀・辰巳賢一・加茂正人・澁谷祐郎・大見士朗・加納靖之	2010	近畿地方中北部における臨時地震観測	京都大学防災研究所年報	53B	203-212		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
飯尾能久	2010	内陸地震はどうしておこるのか？	地震ジャーナル	49	1-8		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
大志万直人・藤浩明・笠谷貴史・塩崎一郎・下泉政志・吉村令慧・新貝雅文・藤井郁子・山口覚・中尾節郎・村上英記・山崎明・矢部征・高橋幸裕・森山多加志・増子徳道・清水淳平・源泰拓・大和田毅・豊留修一・岩瀬由紀・上嶋誠・西山陽子・新村華奈子・梶裕亮・平野裕紀・杉山大輔・鳥越孝一郎・伊藤洋輔・玉井信太郎・望戸裕司・高木悠・南拓人・丸谷良博・久田大樹・姫野康一郎・安松潤二・岳田和也・山本優二・臼井嘉哉・寺本万里子・西村和浩・三浦勉	2010	西南日本背弧における海域・陸域での地磁気電位差観測の概要	京都大学防災研究所年報	53B	181-189		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
Satoru Yamaguchi, Yasuo Ogawa, Kiyoshi Fuji-ta, Naoto Ujihara, Hiroo Inokuchi, and Naoto Oshiman	2010	Audio-frequency magnetotelluric imaging of the Hijima Fault, Yamasaki Fault System, southwest Japan	Earth Planets Space	62	401-411	○	2(2)(2-1)ウ	2(2)(2-1)ア		京大防災研
飯尾能久	2010	内陸地震の発生過程の解明	自然災害科学	4-28	284-298	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		京大防災研
Goto, S. and M. Yamano	2010	Reconstruction of the 50 year ground surface temperature history of northern Awaji Island: southwest Japan:using a layered thermalproperty model	Phys. Earth Planet. Inter.	183	435-446	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Iio, Y.	2009	Earthquake nucleation process - Does the initiation of earthquake rupture know about its termination?	Earthquakes, Tsunamis, and Volcanoes in Encyclopedia of Complexity and Systems Science, edited by R. A. Meyers, Springer, New York		2538-2555	○	2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		京大防災研
飯尾能久	2009	内陸地震の発生過程	地震	61	S365-S378	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
Iio, Y., Shibutani, T., Matsumoto, S., Katao, H., Matsushima, T., Ohmi, S., Takeuchi, F., Uehira, K., Nishigami, K., Miyazawa, M., Enescu, B., Hirose, I., Kano, Y., Kohno, Y., Tatsumi, K., Ueno, T., Wada, H., and Y. Yukutake	2009	Precise aftershock distribution of the 2004 Mid-Niigata prefecture earthquake-Implication for a very weak region in the lower crust	Phys. Earth Planet. Inter.	172	345-352	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ	新潟県中越地震の余震分布の詳細な解析により、断層中央部直下の下部地殻のみに非常に柔らかい領域があると仮定すると、M6クラスの余震の破壊過程や余震分布を合理的に説明出来ることを示した。さらに、その非常に柔らかに領域の大きさにより、発生する地震の大きさが決まる可能性を指摘した。何が地震の大きさを決めるのかという問題に一つの答えを与える重要な研究である。	京大防災研
Kawanishi, R., Y. Iio, Y. Yukutake, T. Shibutani, and H. Katao	2009	Local stress concentration in the seismic belt along the Japan Sea coast inferred from precise focal mechanisms: Implications for the stress accumulation process on intraplate earthquake faults	J. Geophys. Res.	114	B01309, doi:10.1029/2008JB005765	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ	内陸地震の断層への応力集中は、直下の下部地殻内の断層帯のゆっくりした変形によることを、合同観測データの詳細な解析と有限要素法によるモデリングにより明らかにした。内陸地震の発生過程に関する物理モデルを構築するための基礎を確かにした論文である。	京大防災研
飯尾能久	2009	内陸地震はなぜ起こるのか？	近未来社				2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
吉村令慧・大志万直人・笠谷貴史・飯尾能久・三浦勉・西村和浩・山崎友也・比嘉哲也・広瀬成章・平加奈子	2009	1984年長野県西部地震震源域周辺でのAMT観測	京都大学防災研究所年報	第52号	B, 249-254		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
Yoshimura, R., N. Oshiman, M. Uyeshima, H. Toh, T. Uto, H. Kanazaki, Y. Mochido, K. Aizawa, Y. Ogawa, T. Nishitani, S. Sakanaka, M. Mishina, H. Satoh, T. Goto, T. Kasaya, S. Yamaguchi, H. Murakami, T. Mogi, Y. Yamaya, M. Harada, I. Shiozaki, Y. Honkura, S. Koyama, S. Nakao, Y. Wada, and Y. Fujita	2009	Magnetotelluric transect across the Niigata-Kobe Tectonic Zone, central Japan: A clear correlation between strain accumulation and resistivity structure	Geophys. Res. Lett.	36	L20311, doi:10.1029/2009GL040016	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ	跡津川断層に直交する測線上の17観測点で、広帯域MT観測を実施し、総延長70km、深さ30kmの領域の比抵抗構造を詳細に求め、断層周辺でGPS観測により明らかにされた歪蓄積状況と非常に強い相関を持つ以下のような比抵抗分布の不均質性を極めて明瞭に示した。断層周辺の上部地殻は全体として高比抵抗であり、その領域はこの地域で実際に新潟-神戸歪集中帯を形成していると考えられている地域と良い対応関係にある。特に、跡津川断層直下から南側では高比抵抗な上部地殻が相対的にその厚さが薄くなっており、下部地殻に存在している低比抵抗領域（低速度領域と対応している）が上昇し、直上の高比抵抗領域の薄くなった部分に入り込んだような構造となっている。さらに、上部地殻の高比抵抗領域の両側に存在している低比抵抗領域はGPS観測による年間変位量の空間分布に変化が見られる地域に対応している。	京大防災研・東北大
向井厚志・大塚成昭	2009	淡路島と六甲における歪観測値から得られた潮汐振幅の経年変化の比較	東濃地震科学研究所報告	23	139-144		2(2)(2-1)ウ			京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Goto, S., M. Yamano, H.C. Kim, Y. Uchida, and Y. Okubo	2009	Ground surface temperature history reconstructed from borehole temperature data in Awaji Island, southwest Japan for studies of human impacts on climate change in East Asia	in "From Headwaters to the Ocean: Hydrological Changes and Watershed Management", Ed. by M. Taniguchi, W. C. Burnett, Y. Fukushima, M. Haigh, and Y. Umezawa		529-534		2 (2) (2-1)ウ			京大防災研
南拓人・藤浩明・笠谷貴史・下泉政志・新貝雅文・大志万直人・吉村令慧・塩崎一郎・山崎明・藤井郁子・村上英記・山口寛・上嶋誠	2009	西南日本背弧における導体地球の長周期応答	Conductivity Anomaly 研究会論文集		56-63		2 (2) (2-1)ウ	2 (1) ウ		京大防災研・鳥取大
Yoshimura, R., N. Oshiman, M. Uyeshima, Y. Ogawa, M. Mishina, H. Toh, S. Sakanaka, H. Ichihara, I. Shiozaki, T. Ogawa, T. Miura, S. Koyama, Y. Fujita, K. Nishimura, Y. Takagi, M. Imai, R. Honda, S. Yabe, S. Nagaoka, M. Tada, and T. Mogi	2008	Magnetotelluric observations around the focal region of the 2007 Noto Hanto Earthquake (Mj 6.9), Central Japan	Earth Planets Space	60	117-122	○	2 (2) (2-1)ウ	2 (1) ウ	2007年能登半島地震 (M6.9) の震源域周辺でマグネトテルリクス法 (MT法) を用いた比抵抗構造探査を26観測点で面的に実施し、能登半島側の地震断層周辺に着目した2次元比抵抗構造を5つの断面で推定し、擬似的に地震断層周辺の3次元的な比抵抗分布状況を明らかにし、地震派生メカニズムを解明する上で重要と思われる特徴的な比抵抗構造を抽出することに成功した。その特徴的な構造は、ア) 本震の震源の下に低比抵抗領域が存在し、余震活動域の東側領域の下部まで広がっている。また、イ) 余震活動分布の東端と最大余震が発生した場所の間の領域は、余震活動が見られなかったが、その領域の深部まで高比抵抗となっている。そして、ウ) 最大余震は、前述の高比抵抗領域の東端で発生している。	京大防災研・北海道大・東北大・東工大流体力学
向井厚志	2008	測地観測における環境影響の解明とその活用	測地学会誌	54	1-13	○	2 (2) (2-1)ウ			京大防災研
Yamano, M., S. Goto, A. Miyakoshi, H. Hamamoto, R.F. Lubis, Vuthy M., and M. Taniguchi	2008	Reconstruction of the thermal environment evolution in urban areas from underground temperature distribution	Sci. Total Environ.		doi:10.1016/j.scitotenv.2008.11.019	○	2 (2) (2-1)ウ			京大防災研
Yukutake, Y., Y. Iio, H. Katao, and T. Shibutani	2007	Estimation of the stress field in the region of the 2000 Western Tottori Earthquake: Using numerous aftershock focal mechanisms	J. Geophys. Res.	112	B09306, doi:10.1029/2005JB004250	○	2 (2) (2-1)ウ	2 (1) ウ	断層の強度をメカニズム解の詳細な解析から推定した重要な研究である。	京大防災研
Yukutake, Y., Y. Iio, H. Katao, and T. Shibutani	2007	Correction to 'Estimation of the stress field in the region of the 2000 Western Tottori earthquake: Using numerous aftershock focal mechanisms	J. Geophys. Res.	112	B12307, doi:10.1029/2007JB005509	○	2 (2) (2-1)ウ	2 (1) ウ		京大防災研
Cheng, X., F. Niu, P. G. Silver, S. Horiuchi, K. Takai, Y. Iio, and H. Ito	2007	Similar microearthquakes observed in western Nagano, Japan, and implications for rupture mechanics	J. Geophys. Res.	112	B04306, doi:10.1029/2006JB004416	○	2 (2) (2-1)ウ	2 (1) ウ		京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
飯尾能久・片尾 浩・上野友岳・Bogdan Enescu・平野憲雄・岡田知巳・内田直希・松本 聡・植平賢司・松島 健・清水 洋	2007	福岡県西方沖地震の余震の応力降下量の空間分布	月刊地球	29	123-127		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
Hiramatsu, Y. and M. Furumoto	2007	Scaling relationships between sizes of nucleation regions and eventual sizes of microearthquakes	Tectonophys.	443	209-219	○	2(2)(2-1)ウ		野島断層の1800mポアホール地震波形データを用いて、断層近傍に発生する極微小地震の初期破壊過程を調べた。その結果、破壊核の形成領域の大きさが地震の最終サイズを決めることが推定された。	京大防災研
Mukai, A. and K. Fujimori	2007	Secular change of permeability in fracture zone nearby the Nojima fault estimated using strain changes due to water injection experiments	Tectonophys.	443	193-199	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Fujimoto, K., A. Ueda, T. Ohtani, M. Takahashi, H. Ito, H. Tanaka, and Anne-Marie Boullier	2007	Borehole water and hydrologic model around the Nojima fault, SW Japan	Tectonophys.	443	174-182	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Fukuchi, T., J. Yurugi, and N. Imai	2007	ESR detection of seismic frictional heating events in the Nojima fault drill core samples, Japan	Tectonophys.	443	127-138	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Lin, A., T. Maruyama, and K. Kobayashi	2007	Tectonic implications of damage zone-related fault-fracture networks revealed in drill core through the Nojima fault, Japan	Tectonophys.	443	161-173	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Tagami, T. and M. Murakami	2007	Probing fault zone heterogeneity on the Nojima fault: Constraints from zircon fission-track analysis of borehole samples	Tectonophys.	443	139-152	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Yamada, R., T. Matsuda, and K. Omura	2007	Apatite and zircon fission-track dating from the Hirabayashi-NIED borehole, Nojima Fault, Japan: Evidence for anomalous heating in fracture zones	Tectonophys.	443	153-160	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
村上英記・山口 覚	2007	独立成分分析によるノイズの大きな地電位データからの微小信号の抽出	情報地質	18			2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Murakami, H., Oshiman, N., Yamaguchi, S., Hashimoto, T., and Yoshimura, R	2007	Time evolution of hydraulic and electrokinetic parameters around the Nojima fault, Japan, estimated by an electrokinetic method	Tectonophys.	443	200-208, 2007. (doi: 10.1016/j.tecto.2007.01.019)	○	2(2)(2-1)ウ	2(4)ア		京大防災研・北海道大
Iio, Y., H. Katao, T. Ueno, B. Enescu, N. Hirano, T. Okada, N. Uchida, S. Matsumoto, T. Matsushima, K. Uehira, and H. Shimizu	2006	Spatial distribution of static stress drops for aftershocks of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake	Earth Planets Space	58	1611-1615	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研・東北大
飯尾能久・松本 聡・松島 健・植平賢司・片尾 浩・大見士朗・澁谷拓郎・竹内文明・西上欽也・Bogdan Enescu・廣瀬一聖・加納靖之・儘田 豊・宮澤理稔・辰己賢一・和田博夫・河野裕希・是永将宏・上野友岳・行竹洋平	2006	2004年新潟県中越地震の発生過程—オンライン合同余震観測結果から—	地震	58	463-475	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Venkataraman A., G. C. Beroza, S. Ide, K. Imanishi, H. Ito, Y. Iio	2006	Measurements of spectral similarity for microearthquakes in western Nagano, Japan	J. Geophys. Res.	111	B03303, doi:10.1029/2005JB003834	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
飯尾能久・松本 聡・片尾 浩・松島 健・大見士朗・澁谷拓郎・竹内文朗・植平賢司・西上欽也・宮澤理稔・Bogdan Enescu・廣瀬一聖・加納靖之・河野裕希・辰己賢一・上野友岳・和田博夫・行竹洋平	2006	2004年新潟県中越地震の発生過程	月刊地球号外	53	217-222		2(2)(2-1)ウ			京大防災研
吉村令慧・大志万直人・藤浩明・山本宜峰・本林勉・和田安男・畑真紀・兼崎弘憲・上嶋誠	2006	跡津川断層沿いでの広帯域MT観測(序報)	Conductivity Anomaly 研究会論文集		67-70		2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		京大防災研
Mori, J. and P. Somerville	2006	2004 Niigata-ken, Chuetsu Earthquake - Seismology and Strong Ground Motions	Earthquake Spectra	22	S9-S21	○	2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Sato, K., M. Hashimoto, and Y. Hoso	2006	Development of a monitoring technique of anomalous crustal deformations	京都大学防災研究所年報	49C	197-235		2(2)(2-1)ウ	2(1)ア		京大防災研
向井厚志・藤森邦夫	2006	淡路島800m孔における歪観測に対する孔口の開放および密封の影響	東濃地震科学研究所報告				2(2)(2-1)ウ			京大防災研
Satoru Yamaguchi, Hideki Murakami, Hisanori Iwamoto, Kazuhiro Takemoto, Kazuya Kitada, Ichiro Shiozaki, Naoto Oshiman, and Shigehiro Katoh	2007	Two-dimensional resistivity structure of the fault associated with the 2000 Western Tottori earthquake	Earth Planets Space	59	1211-1217	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		鳥取大学・京大防災研
Yoshimura R. et al	2008	Magnetotelluric observations around the focal region of the 2007 Noto Hanto Earthquake (M-j 6.9), Central Japan	Earth Planets Space	60	117-122	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		鳥取大学
Yoshimura R. et al	2009	Magnetotelluric transect across the Niigata-Kobe Tectonic Zone, central Japan: A clear correlation between strain accumulation and resistivity structure	Geophys. Res. Lett.	36	10.1029/2009GL040016	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ		鳥取大学
Shimizu, H	2006	Introduction to the special section for the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake	Earth Planets Space	58	3-5	○	2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		九州大
Shimizu, H., H. Takahashi, T. Okada, T. Kanazawa, Y. Iio, H. Miyamachi, T. Matsushima, M. Ichiyonagi, N. Uchida, T. Iwasaki, H. Katao, K. Goto, S. Matsumoto, N. Hirata, S. Nakao, K. Uehira, M. Shinohara, H. Yakiwara, N. Kame, T. Urabe, N. Matsuwo, T. Yamada, A. Watanabe, K. Nakahigashi, B. Enescu, K. Uchida, S. Hashimoto, S. Hirano, T. Yagi, Y. Kohno, T. Ueno, M. Saito, and M. Hori	2006	Aftershock seismicity and fault structure of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (MJMA7.0) derived from urgent joint observations	Earth Planets Space	58	1599-1604	○	2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		九州大・北海道大・東北大
Watanabe, A., S. Matsumoto, T. Matsushima, K. Uehira, N. Matsuwo, and H. Shimizu	2006	Shear wave polarization anisotropy in and around the focal region of the 2005 West off Fukuoka Prefecture earthquake, Earth Planets Space	Earth Planets Space	58	1633-1636	○	2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		九州大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Matsumoto, S., A. Watanabe, T. Matsushima, H. Miyamachi, and S. Hirano	2006	Imaging S-wave scatterer distribution in southeast part of the focal area of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (M <sub>JMA</sub> 7.0) by dense seismic array	Earth Planets Space	58	1627-1632	○	2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア	福岡県西方沖地震の余震域近傍で、水平動地震計によるアレイ観測を行い、本震断層と警固断層との間に強い散乱体が存在していることを明らかにした。これは、断層の折れ曲がり強い不均質を伴っていることを示したもので、破壊の拡大などに短波長不均質が寄与している可能性を示唆している。	九州大
清水 洋	2006	福岡県西方沖地震の余震活動と震源断層の構造	西部地区自然災害資料センターニュース	35	3-8		2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		九州大
植平賢司・山田知朗・篠原雅尚・中東和夫・宮町宏樹・飯尾能久・岡田知巳・高橋浩晃・松尾のり道・内田和也・金沢敏彦・清水洋	2007	福岡県西方沖地震の精密震源分布と発震機構	月刊地球	29	91-97		2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		九州大・北海道大
清水 洋	2007	特集：2005年福岡県西方沖の地震 (M7.0)	地震	59	239-240		2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		九州大
松本 聡	2009	地震波散乱構造の推定	地震	61	S209-S216	○	2(2)(2-1)ウ	2(1)ウ	地球内部における短波長不均質構造の推定法と得られている結果についてレビューした。この中で、短波長不均質や減衰が地震発生やその場と強く関連していることを示し、これらの重要性を指摘した。	九州大
Matsumoto, S., K. Uehira, A. Watanabe, K. Goto, Y. Iio, N. Hirata, T. Okada, H. Takahashi, H. Shimizu, M. Shinohara and T. Kanazawa	2009	High resolution Q-1 estimation based on extension of coda normalization method and its application to P-wave attenuation structure in the aftershock area of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (M7.0)	Geophys. J. Int.	Geophys. J. Int.		○	2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア	精度良く決められた震源データとP <sub>coda</sub> 波スペクトル比を用いて、2005年福岡県西方沖地震震源断層および周辺の減衰構造を推定した。本震断層面とその両端の断層セグメントでは減衰が大きく、この部分で強い不均質構造をもつことが明らかになった。また、アスペリティでは減衰が小さく、これらの結果は断層破壊とそのセグメント境界の果たす役割を考える上で重要な知見である。	九州大
松本 聡・松島 健・平野憲雄・池端 慶・中元真美・山下裕亮・糸谷夏実・栢橋志郎・佐々木裕樹・千葉慶太・千藏ひろみ・宮崎真大・野村和正・李哲俊・武田哲也・浅野陽一・小原一成・飯尾能久	2011	中竜鉱山における3成分地震計アレイ観測	九大理研報(地球惑星)	22	1-8		2(2)(2-1)ウ	2(3)(3-2)ア		九州大
林広樹・阿部恒平・柳沢幸夫・笠原敬司	2006	神奈川県西部、山北南地震観測井のコア試料から産出した有孔虫化石	地質調査研究報告	57	127-133		2(2)(2-1)ウ	1(1)ア		防災科研
林広樹・伊藤谷生・上杉陽・小山田浩子・笠原敬司・関口涉次・高橋雅紀・田中裕一郎・津久井雅志・松井智之・松本拓己・山崎優・山田隆二・山水史生・柳沢幸夫・渡辺真人	2006	神奈川県西部山北南高感度地震観測井の掘削および孔内検層	防災科学技術研究所研究資料	298	1-32		2(2)(2-1)ウ	1(1)ア		防災科研
津久井雅志・山崎優・松井智之・小山田浩子・上杉陽・林広樹・柳沢幸夫・笠原敬司	2006	伊豆弧北端の火山岩類と地殻構造—山北南大深度観測井の箱根火山、先箱根火山岩類から—	地質調査研究報告	57	197-215		2(2)(2-1)ウ	1(1)ア		防災科研
OZAWA, T., S. Nishimura, and H. Ohkura	2006	Crustal Deformation Associated with the 2005 West off Fukuoka Prefecture Earthquake Derived from ENVISAT/InSAR and Fault-slip Modeling	Report of the National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention	69	1-6		2(2)(2-1)ウ	3(2)ア		防災科研
Fukushima, Y., T. Ozawa, and M. Hashimoto	2008	Fault model of the 2007 Noto Hanto earthquake estimated from PALSAR radar interferometry and GPS data	Earth Planets Space	60	99-104	○	2(2)(2-1)ウ	3(2)ア		防災科研
Ozawa, T.	2008	Coseismic deformation of the 2007 Chuetsu-oki earthquake derived from PALSAR/InSAR and its fault model	Earth Planets Space	60	1099-1104	○	2(2)(2-1)ウ	3(2)ア		防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Nishimura, T., M. Tobita, H. Yarai, S. Ozawa, M. Murakami, T. Yutsudo, M. Ishimoto, T. Umesawa, T. Toyofuku, S. Kawamoto, T. Amagai, M. Fujiwara, A. Suzuki, S. Enya, T. Sasaki, M. Yokokawa, S. Omori, S. Tanoue, H. Ikeda, M. Nemoto, H. Suito, F. Hayashi, H. Une, M. Koarai, and M. Tsuzawa	2008	Crustal deformation and a preliminary fault model of the 2007 Chuetsu-oki earthquake observed by GPS, InSAR, and leveling	Earth Planets Space	60	1093-1098	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		国土地理院
Nishimura, T., M. Tobita, H. Yarai, T. Amagai, M. Fujiwara, H. Une, and M. Koarai	2008	Episodic growth of fault-related fold in northern Japan observed by SAR interferometry	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10.1029/2008GL034337	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ	SAR干渉解析により、新潟県の活褶曲地域において、新潟県中越沖地震と同期した活褶曲の急激な成長を示す地殻変動が観測された変動域は、小木ノ城背斜の背斜軸に沿っており、中越沖地震による応力変化によって背斜軸直下の潜在断層における逆断層すべりが加速されたものと考えられる。このような地殻変動の発見は、断層への応力蓄積過程を考える上で、地殻浅部での非地震性すべりの重要性を示したものである。	国土地理院・北海道大
Nishimura, T., M. Tobita, M. Murakami, T. Kanazawa, and M. Shinohara	2010	Fault Model of 2007 M = 6.8 Chuetsu-oki earthquake, central Japan, constructed using geodetic data.	Advances in Geosciences	20	165-178	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		国土地理院
西村卓也	2010	測地観測によって明らかになった新潟県中越沖地震に伴う地殻変動と地震に同期した活褶曲の成長	活断層調査	32	41-48	○	2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		国土地理院
Nishimura, T	2009	Coseismic Deformation and a Fault Model for the Niigataken Chuetsu-oki Earthquake in 2007	Bull. Geograph. Surv. Inst.	57	1-10		2(2)(2-1)ウ	1(1)イ		国土地理院
<b>エ. スラブ内地震の発生機構</b>										
Kita, S., T. Okada, J. Nakajima, T. Matsuzawa, and A. Hasegawa	2006	Existence of a seismic belt in the upper plane of the double seismic zone extending in the along-arc direction at depths of 70-100 km beneath NE Japan	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL028239	○	2(2)(2-1)エ		北海道・東北下の太平洋スラブ内で発生する二重地震面・上面地震の震源を再決定し、その分布を検討した。一定の深さ(約80km)で島弧走向方向に分布する活発な地震活動の帯(上面地震帯)を見つけた。この帯の深さ下限は含水鉱物の高温・高圧実験やスラブ内の温度構造の数値計算から予想される脱水反応を伴う含水鉱物の相境界の位置と一致していた。これらの事実は、脱水反応がスラブ内地震の発生原因である可能性を示唆している。	東北大
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2006	Anomalous low-velocity zone and linear alignment of seismicity along it in the subducted Pacific slab beneath Kanto, Japan: Reactivation of subducted fracture zone?	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL026773	○	2(2)(2-1)エ			東北大
菅ノ又淳一・岡田知己・長谷川昭・Hajiang Zhang・Clifford Thurber	2006	2001年芸予地震(M6.7)震源域およびその周辺における三次元地震波速度構造	地震	59	87-105	○	2(2)(2-1)エ			東北大
菅ノ又淳一・岡田知己・長谷川昭・迫田浩司・Stephen H. Kirby	2006	Double-difference location 法による東北日本弧下の稍深発地震の震源再決定	地震	59	1-18	○	2(2)(2-1)エ			東北大
Hasegawa, A., J. Nakajima, S. Kita, T. Okada, T. Matsuzawa, and S. Kirby	2007	Anomalous deepening of a belt of intraslab earthquakes in the Pacific slab crust under Kanto, central Japan: Possible anomalous thermal shielding, dehydration reactions, and seismicity caused by shallower cold slab material	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL029616	○	2(2)(2-1)エ			東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2007	Subduction of the Philippine Sea plate beneath southwestern Japan: Slab geometry and its relationship to arc magmatism	J. Geophys. Res.	112	B08306, doi:10.1029/2006JB004770	○	2(2)(2-1)エ	2(1)イ		東北大
Qu, C., H. Zhou, and D. Zhao	2007	Deep structure beneath the west margin of Philippine Sea plate and South China Sea from P and S wave travel time tomography	Chinese J. Geophys.	50	1757-1768	○	2(2)(2-1)エ	2(1)イ		東北大
Zhao, D., Z. Wang, N. Umino, and A. Hasegawa	2007	Tomographic Imaging Outside a Seismic Network: Application to the Northeast Japan Arc.	Bull. Seism. Soc. Am.	97	1121-1132	○	2(2)(2-1)エ	2(1)イ		東北大
Hirose, F., J. Nakajima, and A. Hasegawa	2008	Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005274	○	2(2)(2-1)エ	2(1)イ		東北大
Jiang, G., D. Zhao, and G. Zhang	2008	Detailed structure of the subducting Pacific slab beneath the Japan Islands and Japan Sea	Earth Sci. Frontiers	15	222-231	○	2(2)(2-1)エ			東北大
Jiang, G., D. Zhao, and G. Zhang	2008	Seismic evidence for a metastable olivine wedge in the subducting Pacific slab under Japan Sea	Earth Planet. Sci. Lett.	270	300-307	○	2(2)(2-1)エ			東北大
Xia, S., D. Zhao, and X. Qiu	2008	Tomographic evidence for the subducting oceanic crust and forearc mantle serpentinization under Kyushu, Japan	Tectonophys.	449	85-96	○	2(2)(2-1)エ			東北大
Gamage, S. S. N., N. Umino, A. Hasegawa, and S. H. Kirby	2009	Offshore double-planed shallow seismic zone in the NE Japan forearc region revealed by sP depth phases recorded by regional networks	Geophys. J. Int.	178	195-214	○	2(2)(2-1)エ		東北日本弧で見られる太平洋プレート内の地震活動の二重面は稍深発地震のみならず海溝付近にも存在し、しかも応力場は稍深発地震とは反転していることを明らかにした。	東北大
Hino, R., R. Azuma, Y. Ito, Y. Yamamoto, K. Suzuki, H. Tsushima, S. Suzuki, M. Miyashita, T. Tomori, M. Arizono, and G. Tange	2009	Insight into complex rupturing of the immature bending normal fault in the outer slope of the Japan Trench from aftershocks of the 2005 Sanriku earthquake (Mw = 7.0) located by ocean bottom seismometry	Geochem. Geophys. Geosyst.	10	Q07018, doi:10.1029/2009GC002415	○	2(2)(2-1)エ	2(1)ウ		東北大
Jiang, G., D. Zhao, and G. Zhang	2009	Locating deep earthquakes in complex 3-D velocity structure using a modified double-difference location method	J. China Univ. Geosci.	34	1001-1011	○	2(2)(2-1)エ			東北大
Jiang, G., D. Zhao, and G. Zhang	2009	Seismic tomography of the Pacific slab edge under Kamchatka	Tectonophys.	465	190-203	○	2(2)(2-1)エ			東北大
Nakajima, J., F. Hirose, and A. Hasegawa	2009	Seismotectonics beneath the Tokyo metropolitan area: Effect of slab-slab contact and overlap on seismicity	J. Geophys. Res.	114	B08309, doi:10.1029/2008JB006101.	○	2(2)(2-1)エ		中部地方～関東地方におけるフィリピン海プレートの形状を詳細に検討し、新しいプレート形状モデルを提唱した。このモデルでは、フィリピン海プレートは伊豆の北部延長でも連続して存在し、中部日本では深さ140km程度までプレートが沈み込んでいることが明らかになった。	東北大
Nakajima, J., Y. Tsuji, A. Hasegawa, S. Kita, T. Okada, and T. Matsuzawa	2009	Tomographic imaging of hydrated crust and mantle in the subducting Pacific slab beneath Hokkaido, Japan: Evidence for dehydration embrittlement as a cause of intraslab earthquakes	Gondwana Research	16	470-481	○	2(2)(2-1)エ		北海道東部に沈み込む太平洋プレートの内の速度構造を推定し、1993年に発生したスラブ内地震（釧路沖地震：M7.8）の余震域が低速度になっていることを明らかにした。この結果は、スラブ内地震の発生に流体が関与していることを強く示唆している。	東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Nakajima, J., Y. Tsuji, and A. Hasegawa	2009	Seismic evidence for thermally-controlled dehydration reaction in subducting oceanic crust	Geophys. Res. Lett.	36	L03303, doi:10.1029/2008GL036865	○	2 (2) (2-1) エ		太平洋プレート内の詳細な地震波速度構造を推定した結果、東北地方では深さ80km程度、関東では深さ120-140km程度まで海洋性地殻が低速度になっていることが明らかになった。関東地方下では太平洋プレートの直上にフィリピン海プレートが存在するために、太平洋プレートの温度上昇が遅れて、低速度域な海洋性地殻が深くまで及んでいると考えられる。	東北大
Omori, S., S. Kita, S. Maruyama, and M. Santosh	2009	Pressure-temperature conditions of ongoing regional metamorphism beneath the Japanese Islands	Gondwana Research	16	458-469	○	2 (2) (2-1) エ		スラブ内地震が脱水脆性化で発生することを仮定して、東北日本下の太平洋プレート内で発生するスラブ内地震の集中する場所である上面地震帯の位置情報とMORBの相図を用いて、岩石学的手法で太平洋スラブ内の新しい温度構造を推定した。その結果、従来の温度構造モデルよりも百数十度程度、全体的に温度の高くなるモデルが得られた。	東北大
Zhao, D. and E. Ohtani	2009	Deep slab subduction and dehydration and their geodynamic consequences: Evidence from seismology and mineral physics	Gondwana Research	16	401-413	○	2 (2) (2-1) エ	2 (1) イ		東北大
Kita, S., T. Okada, A. Hasegawa, J. Nakajima, and T. Matsuzawa	2010	Existence of interplane earthquakes and neutral stress boundary between the upper and lower planes of the double seismic zone beneath Tohoku and Hokkaido, northeastern Japan	Tectonophys.		doi:10.1016/j.tecto.2010.10.010	○	2 (2) (2-1) エ		北海道・東北下の太平洋スラブ内の応力場のパターンは、プレート表面からの距離によってDC場（沈み込み方向に圧縮場）からDE場（同拡張場）に変化していて、東北下では深さ約23km、北海道では同約14kmで切り替わっていた。そして、このような応力の中立面の深さと過去の大規模スラブ内地震の震源域とを比較したところ、両地域とも大規模スラブ内地震の震源域の広がり、応力場の中立面により制約されていることを見出した。	東北大
Kita, S., T. Okada, A. Hasegawa, J. Nakajima, and T. Matsuzawa	2010	Anomalous deepening of a seismic belt in the upper-plane of the double seismic zone in the Pacific slab beneath the Hokkaido corner: Possible evidence for thermal shielding caused by subducted forearc crust materials	Earth Planet. Sci. Lett.	290	415-426	○	2 (2) (2-1) エ		北海道・島弧会合部下を調べると、上面地震帯が局所的に深部シフト（深さ80-120km）し、そのすぐ浅部（90km以浅）では特異な地殻物質が太平洋スラブ表面と接触していた。これは、特異な地殻物質がマントルウェッジ対流を遮蔽する為、太平洋スラブの温度上昇が妨げられ、上面地震帯を形成する相転移が遅れて起きた為と考えられる。すなわち、テクトニクスが複雑な地域でも、上面地震帯の発生が確認され、脱水反応にて説明できることを示した。	東北大
Nakajima, J. and A. Hasegawa	2010	Cause of M7 earthquakes beneath the Tokyo metropolitan area, Japan: Possible evidence for a vertical tear at the easternmost portion of the Philippine Sea slab	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006863	○	2 (2) (2-1) エ		関東地方下に沈み込むフィリピン海スラブの東端部のマントルが蛇紋岩化していることを地震波速度解析から明らかにした。さらに、過去に発生したM7クラスの地震のうち、1921年茨城県南部の地震（M7.0）と1987年千葉県北東部地震（M6.7）が、この蛇紋岩化域の西縁で発生しており、その震源メカニズム解から、これらの地震は蛇紋岩化域西縁に沿う右横ずれ断層によって発生したというモデルを提唱した。	東北大
Reynard, B., J. Nakajima, and H. Kawakatsu	2010	Earthquakes and plastic deformation of anhydrous slab mantle in double Wadati-Benioff zones	Geophys. Res. Lett.	37	L24309, doi:10.1029/2010GL045494	○	2 (2) (2-1) エ			東北大
長谷川昭・中島淳一・内田直希・弘瀬冬樹・北佐枝子・松澤暢	2010	日本列島下のスラブの三次元構造と地震活動	地学雑誌	119	190-204	○	2 (2) (2-1) エ			東北大
清水 以知子	2010	沈み込みスラブの二重震発面と蛇紋岩の脱水不安定性	月刊地球	32	162-166		2 (2) (2-1) エ	2 (4) ア	沈み込むスラブの中地震発生の原因として、含水鉱物の脱水反応の影響が議論されてきた。我々はスラブマントル領域で起こる蛇紋岩の脱水反応が力学強度におよぼす影響を高温高圧変形実験によって調べ、寿来の「脱水脆性化」説とは異なる「脱水軟化」現象が起こることを明らかにした。	東工大大理

(2-2) 火山噴火準備過程

ア. マグマ上昇・蓄積過程



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Okazaki, N., H. Takahashi, K. Nogami, H. Oshima, H. Okada and M. Kasahara,	2007	Preliminary study on magnetic structure and geothermal activity of Tyatya volcano, southwestern Kuril Islands	Volcanism and Subduction: The Kamchatka region, AGU monograph	172	365-369	○	2 (2) (2-2) ア	2 (3) (3-2) ア		北海道大
岡崎紀俊・高橋浩晃・野上健二・大島弘光・岡田弘・笠原稔	2008	国後島爺爺岳における地磁気および地熱観測	北海道立地質研究所報告	79	35-41		2 (2) (2-2) ア	2 (3) (3-2) ア		北海道大
宮村淳一・岡崎紀俊・伏谷祐二・重野伸昭・橋本武志	2011	十勝岳における自然電位繰り返し測定	北海道大学地球物理学研究報告	74	1-19		2 (2) (2-2) ア			北海道大
橋本武志・西村三治・有田 真・山本輝明・小木曾仁・重野伸昭・岡崎紀俊・茂木透	2010	十勝岳の全磁力変化と蓄熱過程 (2008-2009年)	北海道大学地球物理学研究報告	73	269-280		2 (2) (2-2) ア			北海道大
筒井智樹・井口正人・為栗 健・上田義浩・大島弘光・植木真人・大湊隆雄・及川 純・市原美恵・野上健治・中道治久・大倉敬宏・清水 洋・宮町宏樹・八木原寛・前川徳光・堀川信一郎・吉川 慎・園田忠臣・平野舟一郎・末峯宏一・林 幹太・加藤幸司・長尾潤・池亀孝光・松末伸一・五藤大仁・河野太亮・築田高広・田中窓香・渡辺竜一・長岡優・前原祐樹・吉田沙由美・小林由実・栢橋志郎	2010	桜島火山における反復地震探査 (一回目)	京都大学防災研究所年報	53B	241-260		2 (2) (2-2) ア			北海道大・名古屋大
山谷祐介・橋本武志・茂木 透・村上 亮・岡崎紀俊・吉本充弘・伏谷祐二・橋本雅樹・山本輝明・西村三治・有田 真・的場敦史・土屋遼平	2010	十勝岳62-11火口周辺の3次元比抵抗構造	北海道大学地球物理学研究報告	73	281-294		2 (2) (2-2) ア			北海道大
長谷英彰・橋本武志・西田泰典・宇津木充・井上寛之・佐波瑞恵	2009	自然電位から推定される有珠火山の熱水系	日本地熱学会誌	31	27-37	○	2 (2) (2-2) ア			北海道大
Onizawa, S., H. Oshima, H. Aoyama, T. Maekawa, A. Suzuki, H. Miyamachi, T. Tsutsui, T. Matsushima, S. Tanaka, J. Oikawa, N. Matsuwo, K. Yamamoto, T. Shiga and T. Mori	2009	Basement structure of Hokkaido Komagatake Volcano, Japan, as revealed by artificial seismic survey	J. Volcanol. Geotherm. Res.	183	doi:10.1016/j.jvolgeo res. 2009. 03. 013	○	2 (2) (2-2) ア		人工地震を用いた3Dトモグラフィ解析により北海道駒ヶ岳周辺では、P波速度6 km/sを示す最下層が全体として北北西に向かって深くなり、この上位は駒ヶ岳の西側に広がる沖積平野に向かって低速度層が海から湾入し、これの東側は高速度層が南南西から山頂に向かって張り出だした構造であることを明らかにし、これが重力異常や地質構造と比較し、速度構造を物質科学的な知見から解釈した論文である。	北海道大・東工大流体・産総研
Yamaya, Y., T. Mogi, T. Hashimoto and H. Ichihara	2009	Hydrothermal system beneath the crater of Tarumai volcano, Japan: 3-D resistivity structure revealed using audio-magnetotellurics and induction vector	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	193-202	○	2 (2) (2-2) ア			北海道大
橋本武志・小川康雄・高倉伸一・山谷祐介・市原 寛・宇津木充・井上寛之・小池哲司・長谷川浩・茂木 透	2009	有珠2000年新山域の比抵抗構造	北海道大学地球物理学研究報告	72	79-105		2 (2) (2-2) ア		MT 法比抵抗探査データに基づいて、2000年新山域の浅部地下構造を解析し、新山中央部に貫入マグマを想定させる隆起状の構造を認め、マグマ貫入に伴う物理的な変形や、粘土鉱物の比抵抗が遷移する等温面に対応する可能性が残されているものの、貫入マグマの示す比抵抗値の検討から、この隆起部の比抵抗値は部分的に溶融したマグマを考えれば説明できることを示した論文である。	北海道大
小林知勝	2009	クリギング法を用いた歪場の推定の試み	北海道大学地球物理学研究報告	72	257-268		2 (2) (2-2) ア			北海道大
村上 亮	2009	浅間山の2009年2月噴火の予知成功とその先に目指すべきもの	科学	79	926-932		2 (2) (2-2) ア			北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
大島弘光・村上 亮・森 濟・小林知勝	2009	測地観測との結合による火山性地殻変動解析 および制約	火山活動の評価 及び噴火活動の 把握に関する共 同研究成果報告 書		58-63		2 (2) (2-2) ア			北海道大
青木陽介・武尾 実・辻 浩・小山悦郎・青 山 裕・藤松 淳・松本 聡・宮町宏樹・中 道治久・大倉敬宏・大湊隆雄・及川 純・棚 田理絵・筒井智樹・山本圭吾・山本 希・山 里 平・山脇輝夫・市原美恵・井本良子・風 間卓仁・小山崇夫・前田裕太・前野 深・森 田裕一・中田節也・中村 祥・長田 昇・渡 辺秀文・ALANIS P. K. B.・ANGGONO T.・藤原 善明・福山由朗・萩原慎太郎・橋本武志・平 野舟一郎・堀口桂香・飯島 聖・石原吉明・ 石川溪太・石坂和之・北脇裕太・黒木英州・ 草野富二雄・前川徳光・増田与志郎・松村智 之・中元真美・西村太志・野上健治・奥田 隆・坂井孝行・佐藤正良・鈴木敦生・丹下 豪・植木真人・渡辺篤志・八木原寛・山崎友 也・吉川 慎	2008	浅間山における人工地震探査 - 探査の概要と 初動の走時について -	東京大学地震研 究所彙報	83	1-26		2 (2) (2-2) ア			北海道 大・名古 屋大
神田 径・橋本武志・Tony Hurst・坂中伸 也・山田健太・小川康雄・相沢広記・高倉伸 一・大久保綾子・小山崇夫・小林 幸・田中 良和・宇津木充・井上寛之・小森省吾・石原 和弘・山崎友也・高山鉄朗・為栗 健	2008	2007年度桜島集中観測 - 電磁気構造探査序報	Conductivity Anomaly 研究会 論文集		131-134		2 (2) (2-2) ア			北海道大
Onizawa S., H. Oshima, H. Aoyama, H. Mori, T. Maekawa, A. Suzuki, T. Tsutsui, N. Matsuwo, J. Oikawa, T. Ominato, K. Yamamoto, T. Mori, T. Taira, H. Miyamachi, H. Okada	2007	P-wave velocity structure of Usu volcano: Implication of structural controls on magma movements and eruption locations	J. Volcanol. Geotherm. Res.	160	175-194	○	2 (2) (2-2) ア		有珠山の人工地震を用いた3Dトモグラフィー解析により求められた構造と、2000年噴火の前兆地震や圧力源と比較し、P波速度6km/sの最下層を上方に移動した前兆地震は最下層上面に達した後、境界に沿って南に広がったこと、また3回の山麓噴火は山頂火口原下に分布する高速度な隆起部周辺で起こったことを認め、マグマ貫入が構造に規制されていることを示した論文である。	北海道 大・東工 大流体・ 産総研
長谷英彰・橋本武志・西田泰典・宇津木充・ 井上寛之・佐波瑞恵	2007	有珠山自然電位観測2006	北海道大学地球 物理学研究報告	70	43-52		2 (2) (2-2) ア			北海道大
平林順一・野上健治・大島弘光・井口正人	2007	火山ガス観測からみた口永良部島の活動状況	京都大学防災研 究所年報	B50	359-364		2 (2) (2-2) ア			北海道大
森 濟	2007	広域水準測量から見た北海道駒ヶ岳の深部マ グマ溜まり	北海道大学地球 物理学研究報告	70	145-152		2 (2) (2-2) ア			北海道大
村上 亮	2007	火山噴火予知に貢献する地殻変動観測 - GPS とレーダー観測の活用 -	科学	77	1307- 1311		2 (2) (2-2) ア	3 (2) ア		北海道大
西村卓也・村上 亮	2007	水準測量データによる1930年伊東沖群発地震 のダイク貫入モデル	火山	52	149-159		2 (2) (2-2) ア			北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
渡辺秀文・中道治久・大湊隆雄・鍵山恒臣・及川 純・青木陽介・辻 浩・小山悦郎・長田 昇・萩原道徳・竹田豊太郎・小林 知勝・大島弘光・青山 裕・前川徳光・鈴木敦生・田中 聡・西村太志・仁田交市・山崎純・奥田 隆・山田 守・大倉敬宏・須藤靖明・吉川 慎・井口正人・清水 洋・植平賢司・松島 健・八木原 寛・平野舟一郎	2007	富士山の大学合同稠密地震観測 (2002年9月 - 2005年4月)	東京大学地震研究所彙報	82	195-207		2 (2) (2-2)ア			北海道大・名古屋大
橋本武志	2006	ロングバレー・カルデラ ー地殻活動の現在	月刊地球	28	132-139		2 (2) (2-2)ア			北海道大
Sato, M. and H. Hamaguchi	2006	Weak long-lived ground deformation related to Iwate volcanism revealed by Bayesian decomposition of strain, tilt and positioning data	J. Volcanol. Geotherm. Res.	155	244-262	○	2 (2) (2-2)ア		ベイズ理論に基づき、長期間の連続記録からドリフトと火山性変動を分離する手法を開発した。これを岩手火山で得られた1998年～1999年の傾斜・歪み連続観測記録に適用し、火山性変動を高精度で抽出して火山体下浅部へのマグマ貫入過程を明らかにした。これまで、ドリフトが大きく長期変動の観測には不向きと考えられてきた傾斜・歪みデータから1年間以上の長期間にわたる変動を分離できることを示した意義は大きい。	東北大
集中総合観測班	2006	1999年岩手火山集中総合観測報告	東北大理学研究科		151pp		2 (2) (2-2)ア			東北大
鍵山恒臣・藤原 智・門脇俊弘・濱崎秀夫・西谷忠師・山崎 明・福井史雄・山本哲也・北川貞之・田中良和・橋本武志・坂中伸也・長谷英彰・谷口宏充・長谷中利昭・後藤章夫・大場司・中川光弘・佐々木美・三品正明	2006	臨時観測点による岩手山における全磁力連続観測	1999年岩手火山集中総合観測報告		103-109		2 (2) (2-2)ア			東北大
三品正明・植木真人・浜口博之	2006	岩手山山麓部における全磁力連続観測	1999年岩手火山集中総合観測報告		93-101		2 (2) (2-2)ア			東北大
Abdelwahed, M. F. and D. Zhao	2007	Deep structure of the Japan subduction zone	Phys. Earth Planet. Inter.	162	32-52	○	2 (2) (2-2)ア			東北大
Nolet, G., R. Allen, and D. Zhao	2007	Mantle plume tomography	Chemical Geology	241	248-263	○	2 (2) (2-2)ア			東北大
Xia, S., D. Zhao, X. Qiu, J. Nakajima, T. Matsuzawa, and A. Hasegawa	2007	Mapping the crustal structure under active volcanoes in central Tohoku, Japan using P and PmP data	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL030026	○	2 (2) (2-2)ア	2 (1) イ		東北大
Sun, A., D. Zhao, M. Ikeda, Y. Chen, and Q. Chen	2008	Seismic imaging of southwest Japan using P and PmP data: Implications for arc magmatism and seismotectonics	Gondwana Research	14	535-542	○	2 (2) (2-2)ア			東北大
Xia, S., D. Zhao, and X. Qiu	2008	The 2007 Niigata earthquake: Effect of arc magma and fluids	Phys. Earth Planet. Inter.	166	153-166	○	2 (2) (2-2)ア	2 (1) ウ		東北大
井口正人・高山鉄朗・山崎友也・多田光宏・鈴木敦生・植木真人・太田雄策・中尾 茂・前野直・長尾 潤・馬場幸二・大重吉輝・放生会正美	2008	桜島および始良カルデラ周辺におけるGPS観測	第10回桜島火山の集中総合観測平成19年6月～平成20年3月		53-61		2 (2) (2-2)ア			東北大
山本圭吾・高山鉄朗・山崎友也・大島弘光・前川徳光・植木真人・松本滋夫・菅野貴之・及川純	2008	桜島および鹿児島湾周辺における精密重力および絶対重力測定	第10回桜島火山の集中総合観測平成19年6月～平成20年3月		63-68		2 (2) (2-2)ア			東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Nishimura, T. and S. Ueki	2011	Seismicity and magma supply rate of the 1998 failed eruption at Iwate volcano, Japan	Bull. Volcanol.	73	133-142	○	2(2)(2-2) ア		歪変動に基づき、1998年岩手山活動が噴火に至らずマグマ貫入で終息した理由を考察した。1997年～2009年の長期間連続記録からトレンドを推定して除去し、1998年火山活動にともなう歪変動を抽出した。脱ガスを考慮したマグマ上昇理論より推定した歪変動との比較から、マグマ頭位は一定速度で上昇しており、途中で気相体積の増加がなかったことを示した。このことが噴火未遂に終わった原因と考えられる。	東北大
筒井智樹・森 健彦	2010	火山性微動を用いた火山体のS波反射断面の推定	物理探査	63	467-484	○	2(2)(2-2) ア	3(3)ア		秋田大
筒井智樹・及川 純・鍵山恒臣・富士火山人工地震構造探査グループ	2007	人工地震で見た富士火山の内部構造	物理探査	60	141-143	○	2(2)(2-2) ア	3(3)ア		秋田大
Hernandez P.A., Notsu K., Okada H., Mori T., Sato M., Barahona F. and Perez N.M.	2006	Diffuse emission of CO2 from Showa-Shinzan, Hokkaido, Japan: a sign of volcanic dome degassing.	Pure Appl. Geophys.	163	869-881	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
Mori T., Kazahaya K., Oppenheimer C., McGonigle A.J.S., Tsanev V., Olmos R., Ohwada M. and Shuto T.	2006	Sulfur dioxide fluxes from the volcanoes of Hokkaido, Japan.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	158	235-243	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
Notsu K., Mori T., Chanchan do Vale S., Kagi H. and Ito T.	2006	Monitoring of quiescent volcanoes by diffuse CO2 degassing: case study of Mt. Fuji, Japan.	Pure Appl. Geophys.	163	825-835	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
野津憲治、森俊哉、角野浩史、大野正夫	2007	富士火山の噴気活動とマグマ揮発性物質の放出	富士火山		173-182		2(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		東大理化学
Mori T. and Notsu K.	2008	Temporal variation in chemical composition of the volcanic plume from Aso volcano, Japan, measured by remote FT-IR spectroscopy.	Geochem. J.	42	133-140	○	2(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		東大理化学
Padron E., Hernandez P.A., Toulkeridis T., Perez N.M., Marrero R., Melian G., Virgili G. and Notsu K.	2008	Diffuse CO2 emission rate from Pululahua and the lake-filled Cuicocha calderas, Ecuador.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	176	163-169	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
Nagao K., Kusakabe M., Yoshida Y. and Tanyileke G.	2010	Noble gases in Lakes Nyos and Monoun, Cameroon.	Geochem. J.	44	519-543	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
Notsu K. and Mori T.	2010	Chemical monitoring of volcanic gas using remote FT-IR spectroscopy at several active volcanoes in Japan.	Appl. Geochem.	25	505-512	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
Ohno M., Sumino H., Hernandez P.A., Sato T. and Nagao K.	2011	Helium isotopes in the Izu Peninsula, Japan: relation of magma and crustal activity.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	199	118-126	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
Perez N.M., Hernandez P.A., Padilla G., Nolasco D., Barrancos J., Melian G., Padron E., Dionis S., Calvo D., Rodriguez F., Notsu K., Mori T., Kusakabe M., Arpa M.C., Reniva P. and Ibarra M.	2011	Global CO2 emission from volcanic lakes.	Geology	39	235-238	○	2(2)(2-2) ア			東大理化学
Hernández P.A., Mori T., Padrón E., Sumino H. and Pérez N.	in press	Carbon dioxide from Katanuma volcanic lake, Japan.	Earth Planets Space			○	2(2)(2-2) ア			東大理化学

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Nurhasan, Y. Ogawa, N. Ujihara, S.B. Tank, Y. Honkura, S. Onizawa, T. Mori, and M. Makino,	2006	Two electrical conductors beneath Kusatsu-Shirane volcano, Japan, imaged by audiomagnetotellurics and their implications for hydrothermal system	Earth Planets Space	58	1053-1059	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Sawa T., T. Ohba, J. Hirabayashi	2006	The hydrothermal system beneath Owakudani on Hakone Volcano, Japan, traced by stable isotopic ratios of H2O	J. Nucl. Sci. Technol	43	468-473	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Ohba, T.,	2007	Formation process of recent fumarolic gases at the Mt. Mihara summit peak of the Izu-Oshima volcano, Japan,	Earth Planets Space	59	1127-1133	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
大場武, 澤毅, 平徳泰, 大和田道子, 森川徳敏, 風早康平	2007	箱根カルデラ中央火口丘熱水系における火山性流体の化学的進化	神奈川県温泉地学研究所報告	39	1-42	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Aizawa, K	2008	Classification of self-potential anomalies on volcanoes and possible interpretations for their subsurface structure	J. Volcanol. Geotherm. Res.	175	253-268	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Aizawa, K., Y. Ogawa, T. Hashimoto, T. Koyama, W. Kanda, Y. Yamaya, M. Mishina, T. Kagiya	2008	Shallow resistivity structure of Asama volcano and its implications for magma ascent process in the 2004 eruption	J. Volcanol. Geotherm. Res.	173	165-177a	○	2(2)(2-2)ア		浅間火山のマグマ上昇が、以前の噴火で固結したマグマによって妨げられていることを見出した。固結したマグマは電磁気探査で公比抵抗異常として検知できることを示した。	東工大流体・北海道大・東北大・東
Aizawa, K., M. Uyeshima, and K. Nogami	2008	Zeta potential estimation of volcanic rocks on 11 island arc-type volcanoes in Japan: Implication for the generation of local self-potential anomalies	J. Geophys. Res.	113	B02201	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Ohba, T., K. Nogami, J. Hirabayashi and T. Mori	2008	Isotopic fractionation of SO2 and H2S gases during the absorption by KOH solution, with the application to volcanic gas monitoring at Miyakejima Island, Japan	Geochem. J.	1	118-131	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体・産総研
Ohba, T., J. Hirabayashi, K. Nogami, M. Kusakabe and M. Yoshida	2008	Magma degassing process during the eruption of Mt. Unzen, Japan in 1991 to 1995: Modeling with the chemical composition of volcanic gas	J. Volcanol. Geotherm. Res.	175	120-132	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Kusakabe, M., T. Ohba, Issa, Y. Yoshida, H. Satake, T. Ohizumi, W. C. Evans, G. Tanyileke and G. W. Kling	2008	Evolution of CO2 in Lakes Monoun and Nyos, Cameroon, before and during controlled degassing	Geochem. J.	42	93-118	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
筒井智樹, 鬼澤真也, 森健彦, 野上健治, 平林順一, 小川康雄, 高木憲朗, 鈴木敦生, 及川純, 中道治久, 吉川慎, 松島健	2008	草津白根火山白根火砕丘の地震反射断面—疑似反射記録法による反射断面の推定—	火山	53	1-14	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体・秋田大・名古屋大・産
内田東, 佐藤孝久, 山下隆丞, 寺田暁彦	2009	噴気地における地表面温度と放熱率の経験的關係—赤外カメラと水筒熱流計測による同時観測実験—	火山	54	199-208	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
寺田暁彦, 吉川 慎	2009	接近困難な強酸性火口湖における観測技術—水温モニタリング・湖水および湖底泥の採取—	日本地熱学会誌	31	117-128	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Miyabuchi, Y. and Terada, A.	2009	Subaqueous geothermal activity revealed by lacustrine sediments of the acidic Nakadake crater lake, Aso Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	140-145	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Aizawa, K., Y. Ogawa, M. Mishina, K. Takahashi, S. Nagaoka, N. Takagi, S. Sakanaka, T. Miura	2009	Structural controls on the 1998 volcanic unrest at Iwate Volcano: relationship between shallow electric resistive body and possible magmatic fluid ascent route	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	131-139	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体・東北大
Ingham, M.R., H.M. Bibby, W. Heise, K.A. Jones, P. Cairns, S. Dravitzki, S.L. Bennie, T.G. Caldwell and Y. Ogawa	2009	A magnetotelluric study of Mount Ruapehu volcano, New Zealand	Geophys. J. Int.	179	887-904	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Aizawa, K., Y. Ogawa, and T. Ishido	2009	Groundwater flow and hydrothermal systems within volcanic edifices: delineation by electric self-potential and magnetotellurics	J. Geophys. Res.	114	B01208	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Kusakabe, M., K. Nagao, T. Ohba, J.H., Seo, S-, H.Park, J.Lee, and B-K Park	2009	Noble gas and stable isotope geochemistry of thermal fluids from Deception Island, Antarctica	Antarctic Science	21	255-267	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Yoshida Y, Issa, Kusakabe M, Satake H, Ohba T	2010	An efficient method for measuring CO2 concentration in gassy lakes: Application to Lakes Nyos and Monoun, Cameroon.	Geochem. J.	44	441-448	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Aizawa, K., A. Yokoo, W. Kanda, Y. Ogawa, M. Iguchi	2010	Magnetotelluric pulses generated by volcanic lightning at Sakurajima volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	37	L17301	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体・京大防災研
寺田暁彦	2010	火山における熱観測	火山	55	155-163	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Okubo, A., Kanda, W	2010	Numerical simulation of piezomagnetic changes associated with hydrothermal pressurization	Geophys. J. Int.	181	1343-1361	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Ohba, T.T. Sawa, N. Taira, E.F. Yang, H.F. Lee, T.F. Lan, M. Ohwada, N. Morikawa, K. Kazahaya,	2010	Magmatic fluids at Tatun volcanic group, Taiwan	Appl. Geochem.	25	513-523	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Ohba, T., Y. Daita, T. Sawa, N. Taira, and Y. Kakuage	2011	Coseismic changes in the chemical composition of volcanic gases from the Owakudani geothermal area on Hakone volcano, Japan	Bull. Volcanol.	73	457-469	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Terada, A. and Y. Sudo	in press	Thermal activity within the western-slope geothermal zone of Aso volcano, Japan: Development of a new thermal area	Geothermics			○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Ohba, T., K. Nogami, J. Hirabayashi, T. Sawa, K. Kazahaya, N. Morikawa, M. Ohwada	2011	Chemical and isotopic composition of fumarolic gases at Iwate volcano, Japan, during and after seismic activity in 1998: implications for the modification of ascending volcanic gases	ANNALS OF GEOPHYSICS	54	doi: 10.4401/ag-5182	○	2(2)(2-2)ア			東工大流体
Agustan, F. Kimata, H. Abidin, and Y. E. Pamitro	2009	Measuring ground deformation of the tropical volcano, Ibu, using ALOA- PALSAR data	Remote Sensing Letters	1	34-44	○	2(2)(2-2)ア			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Nakamichi, H., H. Kumagai, M. Nakano, M. Okubo, F. Kimata, Y. Ito, K. Obara	2009	Source mechanism of a very-long-period event at Mt Ontake, central Japan: Response of a hydrothermal system to magma intrusion beneath the summit	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	167-177	○	2(2)(2-2)ア	2(1)エ		名古屋大・東北大
及川純・鍵山恒臣・田中聡・宮町宏樹・筒井智樹・池田靖・湯山弘明・松尾道・大島弘光・西村裕一・山本圭吾・渡辺俊樹・山崎文人・渡辺秀文・藤井敏嗣・中田節也・武尾実・大湊隆雄・金子隆之・吉本充宏・竹田豊太郎・小山悦郎・長田昇・坂守・羽田敏夫・橋本信一・辻浩・井本良子・増谷文雄・嶋野岳人・古川晃子・鷺谷威・藤井巖・林能成・宮島力男・山田守・奥田隆・伊藤武男・橋本武志・前川徳光・鈴木敦生・伊藤拓・三浦康・植木真人・西村太志・仁田交市・佐藤峰司・下村陽一・野上健治・鬼澤真也・小山田浩子・舟崎淳・近澤心・藤原健治・濱田信生・青木元・高木朗充・山本哲也・林豊・金尾政紀・山下幹也・清水洋・渡邊篤志・是永将宏・大倉敬宏・吉川慎・池田さや香・井口正人・為栗健・八木原寛・平野舟一郎	2006	富士山における人工地震探査—観測および走時の読み取り—	東京大学地震研究所彙報	81	71-94		2(2)(2-2)ア			名古屋大
Takagi, N., Kaneshima S., Ohkura, T, Yamamoto M. and Kawakatsu H.	2009	Long-term variation of the shallow tremor sources at Aso Volcano from 1999 to 2003	J. Volcanol. Geotherm. Res.	184	333-346	○	2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)ア		京都大理学研究科
鍵山恒臣・大倉敬宏・宇津木充・吉川慎・井上寛之・寺田 暁彦	2009	火山活動の経過	第4回阿蘇火山の集中総合観測		1-7		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科
大倉敬宏・吉川 慎・井上寛之・宇津木充・鍵山 恒臣・寺田暁彦・加納将行・由井智史・山本 圭吾・高山鐵朗・山崎友也・多田光宏・立尾 有騎・松島 健・内田和也・中元真美・山下 裕亮・平岡喜文・三森庸里江・根本 盛行	2009	阿蘇カルデラにおける水準測量（2008年9月-10月）	第4回阿蘇火山の集中総合観測		8-15		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ	過去数十年の中では比較的静穏な活動状況下にある阿蘇火山について基礎的なデータを得ることができた。地殻変動観測では従来の研究で明らかにされている減圧源の縮小が引き続き継続していること、変動源の位置がより正確に推定され、地震波速度構造から推定されていた低速度域の位置と一致することが明らかとなった。	京都大理学研究科
平岡喜文・三森庸里江・根本 盛行	2009	阿蘇山におけるGPS測量	第4回阿蘇火山の集中総合観測		16-17		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科
吉川慎・大倉敬宏・大島弘光・前川徳光・植木真人・菅野 貴之・松本滋夫・内田和也	2009	阿蘇火山周辺における精密重力測定（2008年11月）	第4回阿蘇火山の集中総合観測		18-22		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科・東北
菅野貴之・大久保修平・松本 滋夫・吉川慎・大倉敬宏・井上寛之	2009	阿蘇火山における絶対重力測定	第4回阿蘇火山の集中総合観測		23-27		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科
平岡喜文・三森庸里江・根本 盛行	2009	阿蘇山における重力変化の観測	第4回阿蘇火山の集中総合観測		28-30		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科
宇津木充・鍵山 恒臣・小森省吾・井上寛之・橋本武志・小山 崇夫・小川康雄・神田 径・山崎友也・長町信吾・石田 憲久	2009	広帯域MT観測から推定される阿蘇カルデラの比抵抗構造	第4回阿蘇火山の集中総合観測		31-42		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ	従来明らかになっていた中央火口丘群西部における構造断面に加えて東部の構造断面も明らかとなり、浅部の熱的活動度の違いを反映して高電気伝導度が分布していることが明らかとなった。	京都大理学研究科
長谷英彰	2009	阿蘇山における自然電位観測（2009年3月）	第4回阿蘇火山の集中総合観測		56-62		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科
寺田暁彦・鍵山 恒臣・吉川 慎	2009	阿蘇火山・中央火口丘群における熱活動の定量化	第4回阿蘇火山の集中総合観測		63-84		2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		京都大理学研究科

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
寺田暁彦・吉川 慎	2009	接近困難な強酸性火口湖における観測技術	第4回阿蘇火山 の集中総合観測		85-104		2(2)(2-2) ア	1(1)イ		京都大理 学研究科
寺田暁彦	2009	阿蘇火山中岳第一火口の熱活動-2008年度の 位置付け-	第4回阿蘇火山 の集中総合観測		105-117		2(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ	阿蘇山頂火口である湯だまりの熱的な状況を、雨量等の気象データ、火 口湖の水位変動、湯だまりの表面温度などに基づいて検討を行った結 果、火口湖の熱収支に基づく地下からの熱フラックスを推定することが 可能となった。	京都大理 学研究科
飯野英樹・小山 寛・内田 東・佐藤孝 久・高松政美・後小路義弘・山下 隆丞	2009	赤外熱映像装置を用いた地獄温泉地熱域にお ける温度連続観測	第4回阿蘇火山 の集中総合観測		118-129		2(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		京都大理 学研究科
後小路義弘・寺田暁彦	2009	カラーチャート(色見本)を用いた湯だまり表 面色の色彩評価	第4回阿蘇火山 の集中総合観測		130-137		2(2)(2-2) ア	1(1)イ		京都大理 学研究科
寺田暁彦・鍵山 恒臣・中村卓司・太田修 史・橋本武志	2009	阿蘇火山火口湖からの湖面蒸発量推定高精度 化の試み-ラマン・ライダーおよび水温観測 ブイによる観測-	第4回阿蘇火山 の集中総合観測		138-145		2(2)(2-2) ア	1(1)イ		京都大理 学研究科
飯野英樹・小山 寛・内田 東・佐藤孝 久・高松政美・後小路義弘・山下 隆丞	2009	阿蘇山の二酸化硫黄放出量算出における地形 の影響を受けた風特性について	第4回阿蘇火山 の集中総合観測		146-156		2(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		京都大理 学研究科
清水洋・福井 理作	2009	阿蘇火山における温泉観測(2003年9月-2009 年5月)	第4回阿蘇火山 の集中総合観測		157-164		2(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ		京都大理 学研究科
Tomiyama, N., K. Koike, M. Iguchi and M. Omura	2011	Analysis of topographic change at Mount Sakurajima, South Kyushu, Japan, using JERS-1 SAR interferometry	Geoinformatics	22	In press	○	2(2)(2-2) ア			京大防災 研
Aizawa, K., W. Kanda, Y. Ogawa, M. Iguchi, A. Yokoo, H. Yakiwara and T. Sugano	2011	Temporal changes in electrical resistivity at Sakurajima volcano from continuous magnetotelluric observations	J. Volcanol. Geotherm. Res.	199	165-175	○	2(2)(2-2) ア		MT連続観測から桜島の地下の比抵抗変化を求めることにより、マグマか ら脱ガスした揮発性成分が火道から水平方向に地下水に混入していった 可能性を示した。	京大防災 研・東工 大流体
Triastuty, H., M. Iguchi and T. Tameguri	2009	Temporal change of characteristics of shallow volcano-tectonic earthquakes associated with increase in volcanic activity at Kuchinoerabujima Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	1-12	○	2(2)(2-2) ア			京大防災 研
Okubo, A., W. Kanda, Y. Tanaka, K. Ishihara, D. Miki, M. Utsugi, T. Takayama, and M. Fukushima	2009	Apparent Magnetization intensity map on Sakurajima volcano, Kyushu, Japan, inferred from low-altitude, high-density helicopter-borne aeromagnetic surveys	Tectonophys.	378	34-42	○	2(2)(2-2) ア			京大防災 研
井口正人・他	2009	2008年桜島人工地震探査の目的と実施	京都大学防災研 究所年報	52B	293-308		2(2)(2-2) ア			京大防災 研・名古 屋大
Hidayati, S., K. Ishihara, M. Iguchi and A. Ratdomopurbo	2008	Focal Mechanism of Volcano-tectonic Earthquakes at Merapi Volcano, Indonesia	Indonesia Jour. Phys.	19	75-82	○	2(2)(2-2) ア			京大防災 研
Fujii, I. and W. Kanda	2008	New procedures to decompose geomagnetic field variations and application to volcanic activities	Geophys. J. Int.	175	400-414	○	2(2)(2-2) ア			京大防災 研
井口正人・高山鉄朗・山崎友也・多田光宏・ 鈴木敦生・植木真人・太田雄策・中尾茂	2008	GPS観測から明らかになった桜島のマグマ活動	京都大学防災研 究所年報	51B	241-246		2(2)(2-2) ア			京大防災 研・東北 大
為栗健・他	2008	桜島火山における火山性地震観測の強化-陸 域観測と海底地震計観測-	京都大学防災研 究所年報	51B	253-260		2(2)(2-2) ア			京大防災 研
横尾亮彦・為栗健・井口正人・石原和弘	2008	桜島昭和火口2007年噴火の活動推移	京都大学防災研 究所年報	51B	267-273		2(2)(2-2) ア			京大防災 研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
井口正人	2008	2006年口永良部島火山はなぜ噴火しなかったか	月刊地球	60	21-28		2(2)(2-2) ア			京大防災研
Sadikin, S., M. Iguchi, M. Hendrasto and G. Suantika	2008	Seismic activity of volcano-tectonic earthquakes at Guntur volcano, West Java, Indonesia during the period from 1991 to 2005	Indonesia Jour. Phys.	18	21-28	○	2(2)(2-2) ア			京大防災研
駒澤正夫・中村佳重郎・山本圭吾・井口正人・赤松純平	2007	口永良部島火山の重力異常—火山の密度による内部構造—	京都大学防災研究所年報	50B	343-348		2(2)(2-2) ア			京大防災研
井口正人・斎藤英二・為栗健・Hetty Triastuty・山崎友也	2007	2006年口永良部島火山活動の評価	京都大学防災研究所年報	50B	349-358		2(2)(2-2) ア			京大防災研
横尾亮彦・井口正人・石原和弘	2007	熱赤外映像観測からみた桜島南岳山体斜面の熱活動	火山	52	121-126	○	2(2)(2-2) ア			京大防災研
井口正人	2007	地球物理学的観測により明らかになった桜島火山の構造とその構造探査の意義	物理探査	60	145-154	○	2(2)(2-2) ア			京大防災研
Hidayati, S., K. Ishihara and M. Iguchi	2007	Volcano-tectonic earthquakes during the stage of magma accumulation at the Aira caldera, southern Kyushu, Japan	Bull. Volcanol. Soc. Jpn	52	289-309	○	2(2)(2-2) ア		桜島火山の火山構造性地震の震源分布と発震機構をもとに始良カルデラから桜島直下へ開口割れ目に沿って移動するマグマ供給モデルを提出した。	京大防災研
斉藤英二・井口正人	2006	口永良部島火山におけるGPS連続観測による気象要素を加味した3次元変位検出	火山	51	21-30	○	2(2)(2-2) ア			京大防災研
Triastuty, H., M. Iguchi and T. Tameguri	2006	Source mechanism of monochromatic and low-frequency events at Papandayan volcano, West Java	Indonesia Jour. Phys.	17	63-72	○	2(2)(2-2) ア			京大防災研
松島 健・河野裕希	2006	千々石カルデラと雲仙火山の活動	月刊地球	48	122-127		2(2)(2-2) ア	2(1)エ		九州大
齋藤政城・松島 健・松尾のり道・清水 洋	2007	阿蘇中岳火山の二酸化硫黄および二酸化炭素ガス放出量の測定	九州大学大学院理学研究院 研究報告 地球惑星科学	22	51-62		2(2)(2-2) ア	3(3)イ		九州大
Kohno, Y., T. Matsushima, H. Shimizu	2008	Pressure sources beneath Unzen Volcano inferred from leveling and GPS data	J. Volcanol. Geotherm. Res.	175	100-109	○	2(2)(2-2) ア	2(1)エ	1990～1995年に活動した雲仙普賢岳における噴火中、噴火後におけるGPS連続観測および繰り返し水準測量の結果を用いて、地下のマグマ溜まりの位置と変化量を推定した。解析の結果、雲仙火山のマグマ溜まりは4つあり、島原半島西方の千々石湾の地下からほぼ45度の角度で普賢岳直下まで並んでいることがわかった。また噴火停止以降は、地下深部のマグマ溜まりは更に深部からのマグマの供給で、わずかに膨張していることがわかった。	九州大
河野裕希・松本 聡・松島 健・植平賢司・清水 洋・馬越孝道	2009	雲仙火山周辺域における相対応力場と1990-1995年噴火活動	北海道大学地球物理学研究報告	72	363-371		2(2)(2-2) ア	2(1)エ		九州大
八木原 寛・平野舟一郎・宮町宏樹・高山鐵朗・市川信夫・為栗 健・井口正人	2010	鹿兒島湾の桜島火山周辺海域における海底地震観測	桜島火山における多項目観測に基づく火山噴火準備過程解明のための研究(京都大学防災研究所附属火山活動研究センター)		35-39		2(2)(2-2) ア			鹿兒島大学
八木原 寛・井口正人・為栗 健・筒井智樹・及川 純・大倉敬宏・宮町宏樹	2010	諏訪之瀬島の火山体浅部3次元P波速度構造と爆発発生場	火山	55	75-87	○	2(2)(2-2) ア			鹿兒島大学・京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
八木原 寛・平野舟一郎・宮町 宏樹・井口 正人・為栗 健・高山 鐵朗・山崎 友也	2008	若尊カルデラおよび桜島南方海域における海底地震観測	第10回桜島火山の集中総合観測平成19年6月～平成20年3月		27-36		2(2)(2-2)ア			鹿児島大学
小澤拓	2006	衛星合成開口レーダ干渉法による地震・火山活動に伴う地殻変動の検出	測地学会誌	52	253-264	○	2(2)(2-2)ア	3(2)ア		防災科研
和田裕・貫渕哲也・大倉博・鶴川元雄	2007	リモートセンシングによる伊豆島島の2002年噴火後の地殻変動と温度分布の観測	火山	52	63-69	○	2(2)(2-2)ア	3(2)イ		防災科研
Chung, Tae Woong, Lees, Jonathan, M., Yoshimoto, K., Fujita, E. and Ukawa, M.	2009	Intrinsic and scattering attenuation of the Mt. Fuji Region, Japan	Geophys. J. Int.	177	1366-1382	○	2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)ア		防災科研
東宮昭彦	2007	実験岩石学的に見た島弧玄武岩の含水量	月刊地球	29	8-15		2(2)(2-2)ア			産総研
Geshi, N.	2008	Vertical and lateral propagation of radial dikes inferred from the flow-direction analysis of the radial dike swarm in the Komochi Volcano in Central Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	172	122-134	○	2(2)(2-2)ア			産総研
松島 喜雄	2008	数値シミュレーションによる薩摩硫黄島硫黄岳の火山熱水系の考察	日本地熱学会誌	30	97-106	○	2(2)(2-2)ア		山頂火口にて火山ガスの放出が極めて活発な、薩摩硫黄島硫黄岳を対象として熱水系の数値シミュレーションを実施することにより、脱ガスした火山ガスを主体とした熱水系の形成過程について検討を行った。	産総研
野上健治・鬼澤真也・平林順一	2008	2004年浅間山噴火における地球化学的観測研究-噴出物の水溶性成分の変動と火山活動-	火山	53	69-77	○	2(2)(2-2)ア	2(2)(2-2)イ		産総研
Okuma, S. C. Stotter, R. Supper, T. Nakatsuka, R. Furukawa, K. Motschka,	2009	Aeromagnetic Constraints on the Subsurface Structure of Stromboli Volcano, Aeolian Islands, Italy	Tectonophys.	478	19-33	○	2(2)(2-2)ア			産総研
Onizawa, S., N. Matsushima, T. Ishido, H. Hase, S. Takakura, and Y. Nishi,	2009	Self-potential distribution on active volcano controlled by three-dimensional resistivity structure in Izu-Oshima, Japan	Geophys. J. Int.	178	1164-1181	○	2(2)(2-2)ア		伊豆大島火山において自然電位分布観測を行い、カルデラ内外での自然電位分布の特徴を把握し、地質構造との比較を行った。	産総研
高倉伸一・橋本武志・小川康雄・井上寛之・山谷祐介・市原 寛・茂木 透・宇津木 充・松島喜雄・佐藤秀幸	2009	有珠火山東麓におけるMT法電磁探査	北海道大学地球物理学研究報告	72	107-115		2(2)(2-2)ア		昭和火山を含む有珠火山東麓でMT法調査を実施し、インダクションベクトルの解析や北北東-南南西に横切る測線に沿っての2次元解析を実施した。その結果、当該地域のおおまかな比抵抗構造が明らかになった。	産総研・北海道大
Yamamoto, J., H. Kagi, Y. Kawakami, N. Hirano, and M. Nakamura	2007	Paleo-Moho depth determined from the pressure of CO2 fluid inclusions: Raman spectroscopic barometry of mantle- and crust-derived rocks	Earth Planet. Sci. Lett.	253	369-377	○	2(2)(2-2)ア	2(3)(3-3)イ		気象庁
高木朗充・福井敬一・小司禎教	2010	火山周辺でのGPS観測における数値気象モデルを用いた対流圏補正	火山	55	1-12	○	2(2)(2-2)ア	3(2)ア	GPS観測データの解析において、気象庁のメソスケール客観解析数値気象データから正確な対流圏遅延量を求めることにより、鉛直成分を高精度に測位計算する手法を開発した。この手法は観測点間の標高差が大きい火山での観測に顕著な効果があり、浅間山におけるGPS観測では見かけの年周変動ノイズをほぼ除去できた。また、2008年から2009年にかけての山体膨張の解析に用い、火山活動評価に有効であることを示した	気象庁
高木朗充・福井敬一・新堀敏基・飯島聖	2010	光波測距の数値気象モデルに基づく大気補正-浅間山への適用-	火山	55	41-51	○	2(2)(2-2)ア	3(2)ア	光波測距データの解析において、気象庁のメソモデル客観解析の格子点データから光波の伝搬経路上の大気の屈折率を推定することによって伝搬速度および伝搬経路の補正を加えることで、より適切な大気補正を行う手法を開発した。また、この手法を浅間山の山麓から山頂部までの光波測距に適用し、噴火を伴うような活動期に山頂部は膨張し、静穏期には収縮することを明らかにした。	気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
高木朗充・福井敬一・山里平・藤原健治・加 治屋秋実	2010	噴火準備期における伊豆大島の相対精密重力 測定	気象研究所研究 報告	61	1-11	○	2(2)(2-2) ア	2(3)(3-3) イ	伊豆大島において2004~2009年に14回の相対精密重力測定を実施した。 重力は山頂カルデラ北縁を中心に減少する傾向が見られた。茂木モデル を用いて観測された重力変化を解析したところ海抜下約4 kmに圧力膨張 源が推定された。それから期待される隆起量はGPSによる実際の観測の5 倍にもなったため、重力と隆起を同時には説明することができなかった。 伊豆大島は複雑なマグマ蓄積系を有する可能性がある。	気象庁
<b>イ. 噴火履歴とマグマの発達過程</b>										
廣瀬亘・岡崎紀俊・石丸聡・田近淳・高橋浩 晃	2007	2006年(平成18年)3月の雌阿寒岳噴火で発生 した泥流とその堆積物	北海道立地質研 究所報告	78	57-81		2(2)(2-2) イ	2(3)(3-3) イ		北海道大
Garcia-Aristizabal, Marzocchi, W. and Fujita E.	in press	A Brownian Model for Recurrent Volcanic Eruptions: An Application to Miyakejima Volcano (Japan)	Bull. Volcanol.			○	2(2)(2-2) イ	2(3)(3-3) ア		防災科研
古川竜太・七山 太	2006	北海道東部太平洋沿岸域における完新世の降 下火砕堆積物	火山	51	351-371	○	2(2)(2-2) イ			産総研
Shibuya, H., Y. Iwasaki, H. Tanaka, and H. Hoshizumi,	2007	Paleomagnetism of Unzen volcano: A volcanic record (Senbongi excursion) of the Iceland Basin event and the Brunhes VGP distribution for Japan	Earth Planets Space	59	763-774	○	2(2)(2-2) イ			産総研
Todd, K. and T. Matsumoto	2007	Mid-Holocene change in types of degassing volcanoes, using indium in Antarctic ice as a tracer of volcanic source type?	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10. 1029/20 07GL030 056	○	2(2)(2-2) イ			産総研
Ishizuka, O., N. Geshi, J. Ito, Y. Kawanabe, and T. Tsujino	2008	The magmatic plumbing of the submarine Hachijo NW volcanic chain, Hachiojima, Japan: long distance magma transport?	J. Geophys. Res.	113	doi:10. 1029/20 07JB005 325	○	2(2)(2-2) イ		八丈島火山のマグマシステムについて検討した。	産総研・ JAMSTEC
Fujiwara, T., Y. Kido, Y. Tamura, and O. Ishizuka,	2009	Gravity and magnetic constraints on the crustal structure and evolution of the Horeki seamount in the Izu-Ogasawara (Bonin) arc	Earth Planets Space	61	333-343	○	2(2)(2-2) イ			産総研
Geshi, N.,	2009	Asymmetric growth of collapse caldera by oblique subsidence during the 2000 AD eruption of Miyakejima, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	280	149-158	○	2(2)(2-2) イ			産総研
Miura, D., T. Oikawa, R. Furukawa, N. Geshi, Y. Nagahashi, and K. Mannen,	2009	Active collapse calderas in Japan	地質学雑誌	115	XIX-XX	○	2(2)(2-2) イ			産総研
石橋純一郎・中井俊一・豊田新・熊谷英憲・ 野口拓郎・石塚 治	2009	地球化学的手法による熱水活動変遷の解析	地学雑誌	118	1186- 1204	○	2(2)(2-2) イ			産総研
Geshi, N., N. Kusumoto, A. Gudmundsson,	2010	The geometric difference between non- feeders and feeder dikes	Geology	38	195-198	○	2(2)(2-2) イ		三宅島のカルデラ壁に観察される、200m以上にわたる岩脈の垂直構造の 例を示した。典型的な供給岩脈と非供給岩脈ではその厚さの垂直変化が 異なる。これは岩脈の貫入から噴火にいたる過程での岩脈内部のマグマ 圧の変化を反映している。	産総研
Minshul, T. A., O. Ishizuka, and D. Garcia-Castellanos,	2010	Long-term growth and subsidence of Ascension Island: Constraints on the rheology of young oceanic lithosphere	Geophys. Res. Lett.	37	doi:10. 1029/20 10GL045 112	○	2(2)(2-2) イ			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Tomiya, A., E. Takahashi, N. Furukawa, and T. Suzuki,	2010	Depth and Evolution of a Silicic Magma Chamber: Melting Experiments on a Low-K Rhyolite From Usu Volcano, Japan	J. Petrol.	51	1333-1354	○	2(2)(2-2)イ		有珠火山のマグマ溜まりの深さや進化過程を実験岩石学的に調べた。歴史時代最初の1663年噴出物（low-K流紋岩）について高温高压岩石融解実験を行い、1663年マグマ溜まりが温度約780℃・深さ約10kmの条件であることが分かった。	産総研
Yamamoto, Y., H. Shibuya, and H. Hoshizumi	2010	Geomagnetic paleointensity deduced for the last 300 kyr from Unzen Volcano, Japan, and the dipolar nature of the Iceland Basin excursion	Earth Planet. Sci. Lett.	293	236-249	○	2(2)(2-2)イ			産総研
宮城磯治・伊藤順一・篠原宏志・鹿児島地方気象台	2010	火山灰から見た2008年の桜島昭和火口の再活動プロセス	火山	55	21-39	○	2(2)(2-2)イ			産総研
Ishizuka, O., K. Tani, M. Reagan, K. Kanayama, S. Umino, Y. Harugane, I. Sakamoto, Y. Miyajima, M. Yuasa, and D. J. Dunkley,	2011	The timescales of subduction initiation and subsequent evolution of an oceanic island arc	Earth Planet. Sci. Lett.	306	229-240	○	2(2)(2-2)イ			産総研
Ishizuka, O., R. N. Ior, M. Yuasa, and Y. Ohara,	2011	Making and breaking an Island arc: A new perspective from the Oligocene Kyushu-Palau arc, Philippine Sea	Geochem. Geophys. Geosyst.	12	doi:10.1029/2010GC003440	○	2(2)(2-2)イ			産総研
Tani, K., D.J. Dunkley, O. Ishizuka, T. Oikawa, I. Isobe, and Y. Tatsumi,	2011	The Izu Peninsula, Japan: Zircon geochronology reveals a record of intra-oceanic rear-arc magmatism in an accreted block of Izu&#8211;Bonin upper crust	Earth Planet. Sci. Lett.	303	225-239	○	2(2)(2-2)イ			産総研
山元孝広	2011	Origin of the sequential Shirakawa ignimbrite magmas from the Aizu caldera cluster, northeast Japan: Evidence for renewal of magma system involving a crustal hot zone	J. Volcanol. Geotherm. Res.	204	91-106	○	2(2)(2-2)イ			産総研

### (3) 地震発生先行・破壊過程と火山噴火過程

#### (3-1) 地震発生先行過程

##### ア. 観測データによる先行現象の評価

Shibata, T., N. Matsumoto, F. Akita, N. Okazaki, H. Takahashi and R. Ikeda	2010	Linear poroelasticity of groundwater levels from observational records at wells in Hokkaido, Japan	Tectonophys.	483	305-309	○	2(3)(3-1)ア	2(1)ウ		北海道大
Katsumata, K.	2011	Long-term seismic quiescence	Earth Planets Space		In press	○	2(3)(3-1)ア			北海道大
山下晴之, 渡邊朋典, 森谷武男, 茂木透	2010	ウェーブレット変換の地震エコー記録への適用とその効果	北海道大学地球物理学研究報告	73	257-268		2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		北海道大
Moriya, T., T. Mogi and M. Takada	2010	Anomalous pre-seismic transmission of FM radio waves resulting from large earthquakes, and its statistical relationship to magnitude of impending earthquakes	Geophys. J. Int.	180	857-868	○	2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		北海道大
森谷武男, 茂木透, 高田真秀, 山本勲	2009	地震に先行するVHF (FM放送波) 散乱波の観測的研究 (Ⅱ)	北海道大学地球物理学研究報告	72	269-286		2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
森谷武男、山本勲、茂木透、高田真秀	2008	地震前兆電波伝播異常の定量性と再現性、地震活動のモデルと予測に関する研究	統計数理研究所 共同研究レポート	211	80-88		2(3)(3-1) ア	2(3)(3-1) イ		北海道大
西田泰典、宇津木充、茂木透	2007	地殻活動にともなう北海道東部域の地磁気変化	Conductivity Anomaly 研究会 論文集		9-16		2(3)(3-1) ア	2(3)(3-1) イ		北海道大
Enomoto, Y., H. Hashimoto, N. Shirai, Y. Murakami, T. Mogi, M. Takada and M. Kasahara	2006	Anomalous geoelectric signals possibly related to the 2000 Mt.Usu eruption and 2003 Tokachi-oki earthquake	Physics and Chemistry of the Earth	31	319-324	○	2(3)(3-1) ア	2(3)(3-1) イ		北海道大
Tsunomori, F. and Notsu, K.	2008	Simultaneous monitoring of gas concentration and groundwater level at the Omaezaki 500-m well, central Japan: Spike-like concentration change of methane level change	Geochem. J.	42	85-91	○	2(3)(3-1) ア		ラドン以外の地下水水中溶存ガスを四重極質量分析計で長期連続観測する方法を確立した	東大理地惑
Tsunomori, F. and Kuo, T.	2010	A mechanism for radon decline prior to the 1978 Izu-Oshima-Kinkai earthquake in Japan	Radiation Measurements	45	139-142	○	2(3)(3-1) ア		地震に先行して観測されてきた地下水中のラドン濃度の減少を定量的に説明することに成功した	東大理地惑
Ishibe, T., K. Shimazaki, K. Satake, and H. Tsuruoka	in press	Change in seismicity beneath the Tokyo metropolitan area due to the 2011 off the Pacific coast of Tohoku, Japan Earthquake	Earth Planets Space			○	2(3)(3-1) ア	2(3)(3-1) イ	東北地方太平洋沖地震前後において、この地震による影響を評価した結果、震源が30キロよりも浅い地震は静岡県東部から神奈川県西部で、30キロよりも深い地震は茨城県南西部、東京湾北部で起きやすくなっていることがわかった。	東大地震研
Ishibe, T., H. Tsuruoka, K. Satake, and K. Shimazaki	2011	Focal Mechanism Catalog Using P-wave First Motion polarities of the Japan University Network Catalog (JUNEC) and Its Characteristics	IUGG2011, June 27 - July 7, Melbourne Convention & Exhibition Centre (MCEC), Melbourne, Australia.				2(3)(3-1) ア	2(3)(3-1) イ		東大地震研
Ito, T., M. Okubo, and T. Sagiya	2009	High resolution mapping of Earth tide response based on GPS data in Japan	J. Geodyn.		doi:10. 1016/j. jgp.200 9.09.01 2	○	2(3)(3-1) ア			名古屋大
Yamazaki, K. and Sakanaka, S.	2011	Localized changes in geomagnetic total intensity values prior to the 1995 Hyogo-ken Nanbu (Kobe) earthquake	J. Geodyn.	51	37-43	○	2(3)(3-1) ア	3(3)イ		京大防災研
Yamazaki, K.	2011	Piezomagnetic fields arising from the propagation of teleseismic waves in magnetized crust with finite conductivity	Geophys. J. Int.	184	626-638	○	2(3)(3-1) ア	3(3)ア		京大防災研
Yamazaki, K.	2011	Enhancement of co-seismic piezomagnetic signals near the edges of magnetization anomalies in the Earth's crust	Earth Planets Space	63	111-118	○	2(3)(3-1) ア	3(3)ア		京大防災研
Yamazaki, K.	2009	Calculation of the piezomagnetic field arising from uniform regional stress in inhomogeneously magnetized crust	Earth Planets Space	61	1163- 1168	○	2(3)(3-1) ア	3(3)イ		京大防災研
大見士朗・平原和朗	2009	地震波干渉法により検出された2007年能登半島地震震源域の地殻構造変化	京都大学防災研 究所年報	52B	231-239		2(3)(3-1) ア			京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Matsumura M., Iyemori T., Tanaka Y., Han D., Nose M., Utsugi M., Oshiman N., Shinagawa H., Odagi Y., Tabata Y	2009	Acoustic resonance between ground and thermosphere	Data Science Journal	8	16831470, 10.2481/dsj.8.S68	○	2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		京大防災研
Ohmi, S., Hirahara, K., Wada, H., and Ito, K.	2008	Temporal variations of crustal structure in the source region of 2007 Noto Hanto earthquake, central Japan, with passive image interferometry	Earth Planets Space	60	1069-1074	○	2(3)(3-1)ア			京大防災研
K. Yamazaki, N. Oshiman, and R. Yoshimura	2008	An accuracy evaluation of a regional geomagnetic field model around Japan - Affectivity of sites deployed by DPR1 -	京都大学防災研究所年報	第51号	B, 213-218,		2(3)(3-1)ア	3(3)イ		京大防災研
山崎健一・吉村令慧・大志万直人	2007	北陸・近畿・中国における全磁力永年変化(4)	京都大学防災研究所年報	48B	269-274		2(3)(3-1)ア	3(3)イ		京大防災研
K. Yamazaki and N. Oshiman	2006	A method for representing geomagnetic total force field in a small region with special attention to discontinuities of data	Earth Planets Space	58	1519-1523	○	2(3)(3-1)ア	3(3)イ		京大防災研
Naoi, M., H. Ogasawara, J. Takeuchi, A. Yamamoto, N. Shimoda, K. Morishita, H. Ishii, S. Nakao, G. van Aswegen, A. J. Mendecki, P. Lenegan, R. Ebrahim-Trollope, and Y. Iio	2006	Small slow-strain steps and their forerunners observed in gold mine in South Africa	Geophys. Res. Lett.	33	doi: 10.1029/2006GL026507	○	2(3)(3-1)ア		金鉱山の地下約2.4kmの地質断層直近の石井式歪計により、百m以内のM2級2回を含む3年間の全活動の25Hz24bit連続記録が得られた。400個の鉱山のカタログ地震に伴う歪ステップの前には歪の加速は見られなかった。しかし、カタログ地震に対応しない多数の歪ステップもあった。中にはカタログ地震のステップに比べて桁違いに遅いものがあり、しかも、非常に遅いステップにのみ、顕著な前駆的歪加速が見られた。	立命館大
Ogasawara, H. and the Research Group for Semi-controlled Earthquake-generation Experiments in South African gold mines	2007	Monitoring of rock mass behavior at the closest proximity to hypocenters in South African gold mines	Scientific Drilling	Special Issue No.1	88-91 doi: 10.2204/iodp.sd.s01.1.1.2007		2(3)(3-1)ア			立命館大
小笠原宏・川方裕則・石井 紘・中谷正生・矢部康男・飯尾能久・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同研究グループ	2009	南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験-至近距離観測による地震発生過程の解明に向けて-	地震	61	S563-S573	○	2(3)(3-1)ア	2(4)ウ	南アフリカ金鉱山における採掘と地震発生、および、研究グループが約15年間に得た至近距離での地震の準備と発生の観測研究の成果をレビュー。複数の鉱山で観測された明瞭な前駆を伴う遅い歪ステップや、鉱山地震のスケーリングなどの成果と学問的位置づけを示した。	立命館大・東大 地震研
Ogasawara, H., R.J. Durrheim, M. Nakatani, Y. Yabe, A. Milev, A. Cichowicz, H. Kawakata, H. Moriya, JST-JICA SA research group	2009	A Japanese - South African collaboration to mitigate seismic risks in deep gold mines	Proc. 1st Hard Rock Safe Safety Conference, South African Institute of Mining and Metallurgy.		115-134	○	2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ	日本政府と南アフリカ政府のMoUに基づいて進められる計画によって、より多点多項目の観測が複数の南アフリカ金鉱山において始まることを紹介。	立命館大・東大 地震研
Durrheim, R.J., H. Ogasawara, M. Nakatani, Y. Yabe, A. Milev, A. Cichowicz, H. Kawakata, H. Moriya and the JST-JICA SA research group	2009	Observational study to mitigate seismic risks in mines: a new Japanese- South African collaborative project	Proc. South African Geophys. Assoc. Biennial Technical Meeting and Exhibition		73-79	○	2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		立命館大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Durrheim, R. J., A. M. Milev, H. Ogasawara, H. Kawakata, M. Nakatani, Y. Yabe, A. Cichowicz, H. Moriya, and the SATREPS research group	2010	Observational study to mitigate seismic risks in mines: a new Japanese - South African collaborative project	Pro. 5th Internat. Seminar on Deep and High Stress Mining, 6-8 October, Santiago, Chile, Australian Centre for Geomechanics		215-226	○	2(3)(3-1) ア	2(3)(3-1) イ		立命館大・東大 地震研
Suto, N., M. Harada, J. Izutsu, and T. Nagao	2006	Time variation of the electromagnetic transfer function of the earth estimated by using a wavelet transform	Proc. Jpn. Acad., Ser. B	82	175-180	○	2(3)(3-1) ア			東海大
長尾年恭・鴨川 仁・服部克己	2006	電磁気学的手法による短期的地震前兆の観測的研究の現状	地震	59	69-85	○	2(3)(3-1) ア	2(3)(3-1) イ		東海大
Hase, H., T. Ishido, and T. Nagao	2006	Potential measurements for quantitative interpretation of self-potential profiles	Bull. Inst. Oceanic Res. Develop., Tokai Univ.	27	9-23		2(3)(3-1) ア			東海大
井筒 潤・金谷淳二・植竹富一・長尾年恭	2006	関東西部における中性点電流および地電流観測	東海大学海洋研究所研究報告	27	25-30		2(3)(3-1) ア			東海大
石川久史・服部克己・野田洋一・長尾年恭	2006	地電位差データからの電車ノイズ除去	電気学会研究会資料. EMC, 電磁環境研究会	6	27-32		2(3)(3-1) ア			東海大
Ishikawa, H., K. Hattori, I. Takahashi, Y. Noda, T. Nagao, and N. Isezaki	2007	Effect of noise from DC-driven trains to geoelectrical potential difference and its reduction in Hakuba area, Japan	IEEJ Trans. FM.	127	41-47	○	2(3)(3-1) ア			東海大
Izutsu, J., M. Harada, T. Nagao, Y. Sasai, and K. Kumagawa	2007	The electromagnetic observation and inter-station transfer function analysis before and after the 2002 dyke intrusion at Hachijo island	Bull. Inst. Oceanic Res. Develop., Tokai Univ.	28	29-35		2(3)(3-1) ア			東海大
馬場久紀・佐柳敬造・今枝儀人・長尾年恭	2008	静岡県水窪町における浅部地下構造探査—電磁気学的観測フィールドの地下速度構造—	東海大学海洋研究所研究報告	29	1-8		2(3)(3-1) ア			東海大
楠本成寿・坂井俊樹・長尾年恭・里村幹夫・孫 文科・大久保修平	2008	地震間および地震時重力変化検出のための御前崎周辺の精密重力測定	東海大学紀要海洋学部「海—自然と文化」	6	1-9		2(3)(3-1) ア			東海大
Nakajima, T., N. Fujii, K. Sayanagi, T. Nagao, T. Kunitomo, Y. Hasada, M. Satomura, T. Masuda, and M. Kumazawa	2008	Recent progress in electromagnetic and seismic ACROSS in Tokai region	Electromag. Seism. Volcan. Areas	1	109-116		2(3)(3-1) ア			東海大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Izutsu, J., T. Nagao, J. Kanaya, T. Uetake, and H. Murayama	2008	Observation of the neutral current and its comparison with the telluric current in Japan	Electromagnetic Phenomena related to Earthquakes and Volcanoes (Narosa Publishing House, New Delhi)	-	194-202		2 (3) (3-1) ア			東海大
鴨川 仁・劉 正彦・長尾年恭・笠井晶二・上田誠也	2008	宇宙から見た地震 —地震発光から津波まで、そして先行現象は?—	地文台によるサイエンス—極限エネルギー—宇宙物理から地球科学まで— (ユニバーサル・アカデミー・プレス, 東京)	-	231-236		2 (3) (3-1) ア	2 (3) (3-1) イ		東海大
筒井 稔・前西健志・山田誉人・井上純一・藤井直之・古本宗充・山田 守・奥田隆・長尾年恭	2008	2地点観測により特定した地中電磁波パルスの波源位置と地殻変動との関係	電気学会研究会資料. EMC, 電磁環境研究会	8	19-24		2 (3) (3-1) ア			東海大
Uyeda, S., M. Kamogawa, and T. Nagao	2009	Electromagnetic signals of Earthquakes	Complexity in Earthquakes, Tsunamis, and Volcanoes, and Forecasting and Early Warning of their Hazards, In: Encyclopedia of Complexity and System Science (Springer)	-	2621-2635	○	2 (3) (3-1) ア			東海大
Uyeda, S., T. Nagao, and M. Kamogawa	2009	Short-term earthquake prediction: current status of seismo-electromagnetics	Tectonophys.	470	205-213	○	2 (3) (3-1) ア			東海大
Orihara, Y., M. Kamogawa, T. Nagao, and S. Uyeda	2009	Independent component analysis of geoelectric field data in the northern Nagano, Japan	Proc. Jpn. Acad., Ser. B	85	435-442	○	2 (3) (3-1) ア			東海大
Orihara, Y., M. Kamogawa, T. Nagao, and S. Uyeda	2009	Heterogeneous electrical structure of Kozu-shima volcanic island, Japan	Proc. Jpn. Acad., Ser. B	85	476-484	○	2 (3) (3-1) ア		神津島周辺の地震活動に先行したと考えられた地電位差変動の空間分布が神津島の極めて大きな電氣的異方性に支配されていることをダイポール・ダイポール法による電流注入実験を行う事により証明した。	東海大
井筒 潤・原田 誠・寺山武志・植竹富一・長尾年恭	2009	超高压変電所の中性点接地線を用いた電磁気連続モニタリングの試み —序報—	東京大学地震研究所彙報	83	265-272		2 (3) (3-1) ア			東海大
原田 誠・井筒 潤・植竹富一・寺山武志・長尾年恭	2009	500kV電力線中性点電流の測定による地下比抵抗モニタの試み	東海大学海洋研究所研究報告	30	45-57		2 (3) (3-1) ア			東海大



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
石川千里・豊島良美・高田雅美・長尾年恭・城和貴	2010	電車ノイズを含む地電位差データからの矩形状地震前駆的シグナル自動抽出	報処理学会論文誌. 数理モデル化と応用	3	22-31	○	2(3)(3-1)ア			東海大
Orihara, Y., M. Kamogawa, A. Takeuchi, H. Fukase, and T. Nagao	2010	Subterranean electrical structure of Kozu-shima volcanic island, Japan	Proc. Jpn. Acad., Ser. B	86	914-919	○	2(3)(3-1)ア		神津島の表層付近の電氣的異方性をVLF-MT探査により島全域について求めた。その結果、電気伝導度は3桁以上に渡って変動すること。さらに表層地質とも関係がある事を示した。この大きな異方性が地震に先行すると考えられた地電位差変動の空間分布について大きな影響を与えていると考えられる。	東海大
長尾年恭・竹内昭洋・鴨川 仁	2010	電磁気学的な地震予知研究が描く将来像	地震ジャーナル	50	83-88		2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		東海大
Uyeda, S., T. Nagao, and M. Kamogawa	2011	Earthquake prediction and precursor	Encyclopedia of Solid Earth Geophysics (Springer)	-	168-178	○	2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		東海大
Nagao, T., S. Uyeda, and M. Kamogawa	2011	What we can do in seismo-electromagnetism and electromagnetic precursors	The Earth's Magnetic Interior (Springer)	-	91-100	○	2(3)(3-1)ア	2(3)(3-1)イ		東海大
小泉 尚嗣	2011	2009年12月の伊豆半島東部における群発地震活動に伴う地下水・地殻歪変化	東濃地震科学研究所報告	27	33-37		2(3)(3-1)ア	2(1)エ	2009年12月に発生した伊豆半島東部の群発地震活動に先行して地下水位や歪が変化した。また、群発地震発生後も、活動の活発化と衰微に対応して地下水位・歪が変化した。	産総研
<b>イ. 先行現象の発生機構の解明</b>										
Muto, J., H. Nagahama, T. Miura, and I. Arakawa	2006	Frictional discharge plasma from natural semiconductor/insulator junctions: Origin of seismo-electromagnetic radiation.	Phys. Chem. Earth	31	346-351	○	2(3)(3-1)イ	2(4)ア		東北大
Takeuchi, A. and H. Nagahama	2006	Electric dipoles perpendicular to a stick-slip plane	Phys. Earth Planet. Inter.	155	208-218	○	2(3)(3-1)イ	2(4)ア		東北大
Kawada, Y., H. Nagahama, and N. Nakamura	2007	Time-scale invariances in preseismic electromagnetic radiation, magnetization and damage evolution of rocks	Natural Hazards Earth Sys. Sci.	7	599-606	○	2(3)(3-1)イ	2(4)ア		東北大
Kawada, Y., H. Nagahama, Y. Omori, Y. Yasuoka, T. Ishikawa, S. Tokonami, and M. Shinogi	2007	Time-scale invariant changes in atmospheric radon concentration and crustal strain prior to a large earthquake	Nonlinear Proc. Geophys.	14	123-130	○	2(3)(3-1)イ	2(4)ア	大地震に先立ち、大気中ラドン濃度の増加が観察される。本論では地殻岩石中での移流ラドンの流体圧や透水性変化が地殻歪み(累積ベニコフ歪)の時間的変化と関係づけられ、ラドン濃度増加速度が本震前時間の冪乗則に従うことを明らかにし、大気中ラドン濃度を地殻ダイナミクスに関連した地震先行現象のプロキシとして利用できることを指摘した。	東北大
Muto, J., H. Nagahama, T. Miura, and I. Arakawa	2007	Frictional discharge at fault asperities: Origin of fractal seismo-electromagnetic radiation.	Tectonophys.	431	113-122	○	2(3)(3-1)イ	2(4)ア		東北大
Omori, Y., Y. Yasuoka, M. Shinogi, H. Nagahama, Y. Kawada, T. Ishikawa, and S. Tokonami	2007	Anomalous radon exhalation linked to preseismic electromagnetic phenomena	Natural Hazards Earth Sys. Sci.	7	629-635	○	2(3)(3-1)イ	2(4)ア		東北大
Muto, J., H. Nagahama, T. Miura, and I. Arakawa	2008	Frictional discharge plasma and seismo-electromagnetic phenomena	Phys. Earth Planet. Inter.	168	1-5	○	2(3)(3-1)イ	2(4)ア		東北大
Omori, Y., H. Nagahama, Y. Kawada, Y. Yasuoka, T. Ishikawa, S. Tokonami, and M. Shinogi	2009	Preseismic alteration of atmospheric electric conditions due to anomalous radon emanation	Phys. Chem. Earth	34	435-440	○	2(3)(3-1)イ			東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Omori, Y., I. Tohbo, H. Nagahama, Y. Ishikawa, M. Takahashi, H. Sato, and T. Sekine	2009	Variation of atmospheric radon concentration with bimodal seasonality	Radiation Measurements	44	1045-1050	○	2(3) (3-1)イ			東北大
Yasuoka, Y., Y. Kawada, H. Nagahama, Y. Omori, T. Ishikawa, S. Tokonami, and M. Shinogi	2009	Preseismic changes in atmospheric radon concentration and crustal strain.	Phys. Chem. Earth	34	431-434	○	2(3) (3-1)イ		兵庫県南部地震前の大気中ラドン濃度の異常上昇が地殻歪、地下水中のラドン・塩素イオン濃度、地下水吐出量などの他の地震先行現象と対応し、10の-8から10の-6のオーダーの地殻歪み変動に関係する。大気中ラドン濃度は、モニタリングステーション周辺の広い領域から放出されたラドン濃度の平均値が積算で、その変化はベキ法則や対数振動モデルで表せる。この濃度観測は地震前地殻ひずみの小さな異常を検出することに有益である。	東北大
Ariyoshi, K., T. Matsuzawa, J.-P. Ampuero, R. Nakata, T. Hori, Y. Kaneda, R. Hino, and A. Hasegawa	2011	Migration process of very low-frequency events based on a chain-reaction model and its application to the detection of preseismic slip for megathrust earthquakes	Earth Planets Space	in press	doi:10.5047/eps.2010.09.003	○	2(3) (3-1)イ	2(2) (2-1)イ	西南日本を模した数値シミュレーションを実施したところ、巨大地震の前に、その深部で生じる低周波イベントの間隔が短くなり、かつ移動速度も規模も大きくなることがわかった。従って、このような低周波イベントをモニターしていれば巨大地震の予測ができる可能性がある。	東北大・JAMSTEC
Onuma, K., J. Muto, H. Nagahama, and K. Otsuki	2011	Electric potential changes associated with nucleation of stick-slip of simulated gouges	Tectonophys.	502	308-314	○	2(3) (3-1)イ	2(4) ア	地震前兆の電磁放射現象の機構解明を目的として、摩擦すべり実験を行い、摩擦すべりに先行して、地震核形成フェーズに対応する電極間電位の変動を観測した。電位変動はすべりに比例して大きくなり、固着すべり時には100 mVに達する。固着すべり直前の核形成フェーズで明瞭な電磁変動が観測されたことから、地震の先行現象として電磁変動が現れる可能性が指摘できる。	東北大
Nagata, K., M. Nakatani, and S. Yoshida	2008	Monitoring frictional strength with acoustic wave transmission	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10.1029/2007GL033146	○	2(3) (3-1)イ	2(4) イ		東大地震研
Kuwano, O., M. Nakatani, and S. Yoshida,	2006	Effect of the flow state on streaming current	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL027712	○	2(3) (3-1)イ	2(4) ア		東大地震研
Kuwano, O., M. Nakatani, and S. Yoshida,	2007	Reply to comment by A. Revil on 'Effect of the flow state on streaming current'	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2006GL029136	○	2(3) (3-1)イ	2(4) ア		東大地震研
牧謙一郎・高野忠、相馬央令子・石井健太郎・吉田真吾・中谷正生	2006	岩石圧縮破壊に伴うマイクロ波放射の観測	地震	58	375-384	○	2(3) (3-1)イ	2(4) ア		東大地震研
Yoshioka, N. and Iwasa, K.	2006	A laboratory experiment to monitor the contact state of a fault by transmission waves	Tectonophys.	413	221-238	○	2(3) (3-1)イ	2(4) イ		東大地震研
Yoshioka N. and Sakaguchi H.	2007	Looking into a sandpile by photo-elasticity and discrete element method	Advances in Geoscience	13	281-290	○	2(3) (3-1)イ	2(4) ア		東大地震研
川崎一朗	2007	地球物理サイドから見た地殻変動連続観測の存在意義	測地学会誌	53	369-377	○	2(3) (3-1)イ			京大防災研
Sato, K. and J. Mori.	2006	Scaling relationship of initiations for moderate to large earthquakes	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005jb003613	○	2(3) (3-1)イ		神岡鉱山の坑道のボアホールにて間隙水圧の連続観測を行い、その地震波応答に対する応答を測定した。その結果、間隙水圧が理論どおり体積ひずみに比例することを確認した。そしてこれらの結果からSkempton係数の値を0.8と決定した。	京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Doan, M. L., E. E. Brodsky, Y. Kano, and K. F. Ma	2006	Evidence suggesting fluid flow beneath Japan due to periodic seismic triggering from the 2004 Sumatra-Andaman earthquake	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2005GL025087	○	2(3)(3-1)イ			京大防災研
森井 互・市川信夫・大谷文夫・清水輝夫	2006	地殻変動連続観測に適したデータロガーの開発	測地学会誌	52	131-139	○	2(3)(3-1)イ			京大防災研
森井 互・尾上謙介・中村佳重郎・大谷文夫・細 善信・和田安男	2006	1995年兵庫県南部地震に先行した広域地殻歪について	京都大学防災研究所年報	49B	245-252		2(3)(3-1)イ			京大防災研
竹内文朗・大谷文夫・森井 互・尾上謙介・細 善信・和田安男・園田保美	2006	北陸観測所トンネルの伸縮計設置	京都大学防災研究所年報	49B	230-243		2(3)(3-1)イ			京大防災研
尾上謙介・松尾成光・細善信・高橋輝雄・石井紘	2006	簡易三成分ひずみ計	京都大学防災研究所年報	49B	263-268		2(3)(3-1)イ			京大防災研
Bai, B., Kawasaki, I., Zhang, T. and Ishikawa, Y.	2006	Quantifying early aftershock activity of the 2004 mid-Niigata Prefecture earthquake (Mw6.6)	Earth Planets Space	58	823-830	○	2(3)(3-1)イ			京大防災研
小巻あずみ・川崎一朗・森井互・小久保一哉・大久保慎人・坪川恒也・今西祐	2006	月刊地球	月刊地球	28	623-631		2(3)(3-1)イ			京大防災研
藤野宏興・片尾浩	2009	琵琶湖西岸地域における微小地震のメカニズムと応力場	京都大学防災研究所年報	52B	275-284		2(3)(3-1)イ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
Sugaya, K., Y. Hiramoto, M. Furumoto and H. Katao	2009	Coseismic change and recovery of scattering environment in the crust after the 1995 Hyogo-ken Nanbu earthquake, Japan	Bull. Seism. Soc. Am.	99	435-440	○	2(3)(3-1)イ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
片尾浩, 伊藤潔, 中尾節郎, 廣瀬一聖, 西村和浩, 福嶋麻佐代	2007	丹波山地直下の地殻深部反射面の探査～大々特による人工・自然地震観測～	京都大学防災研究所年報	50B	297-302		2(3)(3-1)イ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
小笠原知彦, 片尾浩, 飯尾能久	2007	丹波山地における微小地震のメカニズム解決と応力場の推定	京都大学防災研究所年報	49B	331-338		2(3)(3-1)イ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
梅田康弘, 片尾 浩, 大谷文夫, 森井 互	2007	近畿の地殻活動	丹波山地における最近の微小地震活動の静穏化(4)	78	588-599		2(3)(3-1)イ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
片尾 浩	2007	丹波山地における最近の微小地震活動の静穏化(4)	丹波山地における最近の微小地震活動の静穏化(4)	677	383-387		2(3)(3-1)イ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
Iwata, T. and H. Katao	2006	Correlation between the phase of the moon and the occurrences of microearthquakes in the Tamba region through point-process modeling	Geophys. Res. Lett.	33	L07302, doi:10.1029/2005GL025510	○	2(3)(3-1)イ	2(2)(2-1)ウ		京大防災研
竹内昭洋・藍檀オメル・佐柳敬造・長尾年恭	2011	火成岩の不均一圧縮に伴う起電力の発生とそのメカニズム	東海大学海洋研究所研究報告	32	56-61		2(3)(3-1)イ		十分に自然乾燥させた火成岩ブロック試料の一端のみを一軸圧縮すると、非圧縮端が相対的に電位が高くなる起電力が発生した。有限要素法による解析や起電力のブロック長依存性などから判断し、圧縮部で正孔電荷キャリアが発生し、非圧縮部へと拡散するというモデルを提唱した。火成岩構成鉱物に一般的に含まれる格子欠陥である過酸化架橋のエネルギー準位構造が外力により変化し、過酸化架橋がアクセプター化すると考えている。	東海大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
(3-2) 地震破壊過程と強震動										
ア. 断層面の不均質性と動的破壊特性										
Takahashi, H	2008	Real-time eruption magnitude estimation from far-field geodetic data: A proposal for volcano early warning	Journal of Disaster Research	3	252-260	○	2(3)(3-2) ア	2(3)(3-3) イ		北海道大
Yaginuma, T., T. Okada, Y. Yagi, T. Matsuzawa, N. Umino, and A. Hasegawa	2006	Coseismic slip distribution of the 2005 off Miyagi earthquake (M7.2) estimated by inversion of teleseismic and regional seismograms	Earth Planets Space	58	1549-1554	○	2(3)(3-2) ア	2(2)(2-1) ア		東北大
Uchida, N., T. Matsuzawa, W. L. Ellsworth, K. Imanishi, T. Okada, and A. Hasegawa	2007	Source parameters of a M4.8 and its accompanying repeating earthquakes off Kamaishi, NE Japan - implications for the hierarchical structure of asperities and earthquake cycle	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL031263	○	2(3)(3-2) ア	2(2)(2-1) イ	岩手県釜石沖のM4.9の繰り返し地震とその近傍の微小地震の位置、断層サイズ及び応力降下量を推定した。微小地震の一部は、アスペリティ内の同じ場所で繰り返し発生し、アスペリティが階層構造をしていることを示した。また、微小地震の応力降下量はM4.9地震に比べ小さく、弱いアスペリティで発生していると推定された。地震サイクル中の微小地震活動の時間変化から、アスペリティへの応力集中過程について考察した。	東北大
柳沼直・岡田知己・長谷川昭・加藤研一・武村雅之・八木勇治	2007	近地・遠地地震波形インバージョンによる2005年宮城県沖の地震(M7.2)の地震時すべり量分布-1978年宮城県沖地震(M7.4)との関係-	地震	60	43-53	○	2(3)(3-2) ア	2(2)(2-1) ア		東北大
Zhao, D., Z. Wang, N. Umino, and A. Hasegawa	2009	Mapping the mantle wedge and interplate thrust zone of the northeast Japan arc	Tectonophys.	467	89-106	○	2(3)(3-2) ア	2(2)(2-1) ア	sP depth phaseを用いて東北日本前弧域下の3次元P波とS波速度構造を求めた。その結果、太平洋スラブ上面付近の構造不均質とプレート境界型大地震の分布との間に顕著な相関がみられた。	東北大
Hasegawa, A., K. Yoshida, and T. Okada	2011	Nearly complete stress drop in the 2011 Mw9.0 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake	Earth Planets Space	in press	doi:10.5047/eps.2011.06.007	○	2(3)(3-2) ア	2(1)ア	防災科研F-netのCMT解を用い、2011年東北地方太平洋沖地震震源域周辺での応力場の時間変化を推定した。得られた結果から、地震後にσ1軸がプレート境界により垂直に近づくセンスとなっていることがわかった。このことは、応力場がほぼ解放されたことにより説明することができる	東北大
Kobayashi, R., S. Miyazaki, and K. Koketsu	2006	Source processes of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake and its largest aftershock inferred from strong motion and 1-Hz GPS data	Earth Planets Space	58	57-62	○	2(3)(3-2) ア	2(3)(3-2) イ		東大地震研
Miyake, H., Y. Tanaka, M. Sakaue, K. Koketsu, and Y. Ishigaki	2006	Empirical Green's function simulation of broadband ground motions on Genkai Island during the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake	Earth Planets Space	58	1637-1642	○	2(3)(3-2) ア	2(3)(3-2) イ		東大地震研
瀬藤一起・三宅弘恵	2006	2003年十勝沖地震に対する総合的研究の地震学的成果	月刊地球号外	55	46-54		2(3)(3-2) ア			東大地震研
三宅弘恵・室谷智子・瀬藤一起	2006	プレート境界地震のアスペリティのスケーリング則	月刊地球号外	55	86-91		2(3)(3-2) ア	1(3)イ		東大地震研
呉長江・瀬藤一起	2006	遠地波形とGPSデータからみた震源過程	月刊地球号外	56	79-85		2(3)(3-2) ア			東大地震研
瀬藤一起	2007	大震災の可能性	保険学雑誌	597	69-86		2(3)(3-2) ア			東大地震研
三宅弘恵・瀬藤一起・田中康久・坂上実・石垣祐三	2007	福岡県西方沖地震・玄界島の強震動の再現	月刊地球	332	111-115		2(3)(3-2) ア	2(3)(3-2) イ		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Murotani, S., H. Miyake, and K. Koketsu	2008	Scaling of characterized slip models for plate-boundary earthquakes	Earth Planets Space	60	987-991	○	2(3)(3-2)ア	1(3)イ	近年の日本で発生したプレート境界地震の震源モデルをデータベース化し、断層面積のみならずアスペリティのスケーリング則を構築した。	東大地震研
Wu, C., K. Koketsu, and H. Miyake	2008	Source processes of the 1978 and 2005 Miyagi-oki, Japan, earthquakes: Repeated rupture of asperities over successive large earthquakes	J. Geophys. Res.	113	B08316, doi:10.1029/2007JB005189	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	1978年と2005年の宮城県沖地震のアスペリティの繰り返しを、震源インバージョンと強震波形比較の両面から明らかにした。	東大地震研
額縁一起	2008	四川大地震の震源断層と地震動	橋梁と基礎	42	19-21		2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		東大地震研
額縁一起・三宅弘恵	2008	2007年新潟県中越沖地震の震源断層面と柏崎刈羽の強震動	地震ジャーナル	45	27-35		2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		東大地震研
Koketsu, K., Y. Yokota, H. Ghasemi, K. Hikima, H. Miyake, and Z. Wang	2009	Source process and ground motions of the 2008 Wenchuan earthquake	Proc. Int. Conf. Earthq. Eng. for the 1st Anniversary of Wenchuan Earthquake		615-620		2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	2008年中国・四川地震の震源過程を遠地・強震インバージョンから明らかにした。特に、震源近傍の強震記録を用いた解析をわが国で初めて行い、震源の破壊が高速で伝播した可能性を指摘した。	東大地震研
Yokota, Y., K. Koketsu, K. Hikima, and S. Miyazaki	2009	Ability of 1-Hz GPS data to infer the source process of a medium-sized earthquake: The case of the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku, Japan, earthquake	Geophys. Res. Lett.	36	L12301, doi:10.1029/2009GL037799.	○	2(3)(3-2)ア			東大地震研
Miyake, H., K. Koketsu, K. Hikima, M. Shinohara, and T. Kanazawa	2010	Source fault of the 2007 Chuetsu-oki, Japan, earthquake	Bull. Seism. Soc. Am.	100	384-391	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	2007年新潟県中越沖地震の主断層面が南東傾斜か北西傾斜かについて、震源インバージョンの限界を示すと共に、アスペリティの位置決定や海底地震計による余震分布等から南東傾斜が主断層面であることを示した。	東大地震研
Poiata, N., K. Koketsu, and H. Miyake	2010	Source processes of the 2009 Irian Jaya, Indonesia, earthquake doublet	Earth Planets Space	62	475-481	○	2(3)(3-2)ア			東大地震研
Naoi, M., M. Nakatani, Y. Yabe, G. Kwiatek, T. Igarashi, and K. Plenkens	in press	Twenty thousand aftershocks of a very small (M 2) earthquake and their relation to the mainshock rupture and geological structures	Bull. Seism. Soc. Am.	101		○	2(3)(3-2)ア	2(4)ウ		東大地震研・東北大
榎本真梨・橋本学・福島洋・深畑幸俊	2010	ALOS-PALSARデータを用いた2008年中国汶川地震に伴う地殻変動解析	測地学会誌	56	155-167	○	2(3)(3-2)ア	2(1)		東工大理
深畑幸俊	2009	2008年岩手宮城内陸地震による地殻変動と滑り分布インバージョン解析	京大防災研年報	52A	131-137		2(3)(3-2)ア	2(1)		東工大理
Yagi, Y. and Fukahata, Y.	2008	Importance of covariance components in inversion analyses of densely sampled observed data: an application to waveform data inversion for seismic source processes	Geophys. J. Int.	175	215-221	○	2(3)(3-2)ア	2(1)		東工大理
Fukahata Y. and Wright, T. J.	2008	A non-linear geodetic data inversion using ABIC for slip distribution on a fault with an unknown dip angle	Geophys. J. Int.	173	353-364	○	2(3)(3-2)ア	2(1)		東工大理
Briggs, R., A. Sladen, E. Fielding, C. Prentice, K. Hudnut, P. Mann, F. Taylor, A. Crone, R. Gold, T. Ito and M. Simons	2010	Complex rupture during the 12 January 2010 Haiti Earthquake	Nature Geoscience		doi:10.1038/NGE0977	○	2(3)(3-2)ア			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
高野和友・木股文昭	2009	1945年三河地震(M=6.8)に伴う地殻変動と震源断層モデルの再検討	地震	62	85-96	○	2(3)(3-2)ア			名古屋大
石山達也・今泉俊文・越谷 信・杉戸信彦・堤 浩之・廣内大助・丸島直史	2008	2008年岩手宮城内陸地震で一関市柵木立に出現した地表地震断層	活断層研究	29	口絵, iv		2(3)(3-2)ア			名古屋大
Nakano, M., J. Miyakoshi, and K. Yamaoka	2007	A new model for the fault beneath sedimentary basin in the 1989 Nobi earthquake	Earth Planets Space	59	13-19	○	2(3)(3-2)ア			名古屋大
安藤雅孝・Irwan Melano・木股文昭・奥田隆・田所敬一・中道治久・武藤大介・H. Z. Abidin, B. Setyadji, M. A. Kusuma, H. Andreas, M. Gamal. A. Rahman	2007	2006年インドネシア・ジョグジャカルタ地震のメカニズムと被害	歴史地震	22	187-193	○	2(3)(3-2)ア			名古屋大
山中佳子	2007	7月16日新潟県中越沖地震(M6.6)の震源過程	東濃地震科学研究所報告				2(3)(3-2)ア			名古屋大
Tanaka, H., W. M. Chen, C. Y. Wang, K. F. Ma, N. Urata, J. Mori, and M. Ando	2006	Frictional heat from faulting of the 1999 Chi-Chi, Taiwan earthquake	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL026673	○	2(3)(3-2)ア			名古屋大
小白井亮一・小林政能・永井信夫・鈴木康弘	2006	津波被害を捉えた航空写真—東南海地震の新たな資料を発見—	写真測量とリモートセンシング	45	69-72		2(3)(3-2)ア			名古屋大
Asano, K. and T. Iwata	2011	Characterization of Stress Drops on Asperities Estimated from the Heterogeneous Kinematic Slip Model for Strong Motion Prediction for Inland Crustal Earthquakes in Japan	Pure and Applied Geophysics	168	105-116	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	筆者らが強震記録を用いることにより求めた、空間的分解能の高い内陸地殻内地震の不均質すべりモデル、及び同様の方法で求められたモデルを用いて、応力降下量の空間分布を求め、アスペリティ領域における応力降下量の深さ依存性を求め、経験式を提案した。	京大防災研
Iwata, T. and K. Asano	2011	Characterization of the Heterogeneous Source Model of Intraslab Earthquakes toward Strong Ground Motion Prediction	Pure and Applied Geophysics	168	117-124	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	スラブ内地震による強震動の予測をめざし、スラブ内地震の不均質震源モデルを収集して、すべり特性化を行った。断層面積、アスペリティサイズの地震規模に対する経験式を提案した。	京大防災研
Kuriyama, M. and T. Iwata	2011	Examination of source-model construction methodology for strong ground-motion simulation of multi-segment rupture during 1891 Nobi earthquake	Earth Planets Space	63	71-88	○	2(3)(3-2)ア			京大防災研
瀧口正治・浅野公之・岩田知孝	2011	近地強震記録を用いた海溝型繰り返し地震の震源過程の推定と比較—茨城県沖で1982年と2008年に発生したM7の地震を対象として—	地震	63	223-242	○	2(3)(3-2)ア		Suzuki and Iwata (2005)と同様の方法で、1982年、2008年の茨城県沖地震の強震動生成領域を求め、破壊様式の違いや、応力降下量の違いについて見積もり、「くりかえしイベント」の相違点を指摘した。	京大防災研
Sekiguchi, H. and M. Yoshimi	2011	Broadband ground motion reconstruction for the Kanto basin during the 1923 Kanto earthquake	Pure and Applied Geophysics	168	609-630	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	波形インバージョンによる長周期の震源モデルを基に、震源パラメータの経験則と不均質震源像モデルを用いて広帯域の震源モデルを作成、最新の関東平野の深部・浅部構造モデルを用いて広帯域の地震動分布の再現を試みた。	京大防災研
Zhang, W., T. Iwata, and K. Irikura	2010	Dynamic simulation of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake	J. Geophys. Res.	115	B04305	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		京大防災研
染井一寛・浅野公之・岩田知孝	2010	ひずみ集中帯内外で発生した地殻内地震系列間の震源特性の比較	第13回日本地震工学シンポジウム論文集		305-312		2(3)(3-2)ア			京大防災研
関口春子・吉見雅行・堀川晴央	2010	震源パラメータのばらつきを考慮した相模トラフ沿いの地震の震源モデルと地震動の予測	第13回日本地震工学シンポジウム論文集		1951-1956		2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Asano, K. and T. Iwata	2009	Source rupture process of the 2004 Chuetsu, Mid-Niigata prefecture, Japan, earthquake inferred from waveform inversion with dense strong-motion data	Bull. Seism. Soc. Am.	99	123-140	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		京大防災研
栗山雅之・隈元 崇・関口春子・岩田知孝	2008	地震規模予測の考え方の違いが長大活断層で発生する地震の強震動予測結果にもたらす影響の評価 -糸魚川 - 静岡構造線活断層帯北部・中部を震源断層として -	自然災害科学	27	45-67	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		京大防災研
岩田知孝・浅野公之・栗山雅之・岩城麻子	2008	2007年能登半島地震の震源モデルと強震動	京都大学防災研究所年報	51A	121-127		2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		京大防災研
Suzuki, W. and T. Iwata	2007	Source model of the 2005 Miyagi-Oki, Japan, earthquake estimated from broadband strong motions	Earth Planets Space	59	1155-1171	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	2005年宮城沖地震の強震動生成に関するパッチモデルを提案した。2つの強震動生成領域が推定された。1978年の同様の研究と比較して、強震動生成域が重なっていない可能性を指摘した。	京大防災研
Asano, K. and T. Iwata	2006	Source process and near-source ground motions of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake	Earth Planets Space	58	93-98	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ	2005年福岡県西方沖地震の震源モデルを、強震記録を用いて推定した。破壊開始後約3秒のうちに主破壊が破壊開始点より陸側で始まった。この影響により福岡市域に強いディレクティブパルス波が生成された。福岡市域の強震動の定量的評価を、推定した震源モデルと地下構造モデルに基づいて行った。	京大防災研
Suzuki, W. and T. Iwata	2006	Source model of the 2005 west off Fukuoka prefecture earthquake estimated from the empirical Green's function simulation of broadband strong motions	Earth Planets Space	58	99-104	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		京大防災研
Hori, M., S. Matsumoto, K. Uehira, T. Okada, T. Yamada, Y. Iio, M. Shinohara, H. Miyamachi, H. Takahashi, K. Nakahigashi, A. Watanabe, T. Matsushima, N. Matsuwo, T. Kanazawa, and H. Shimizu	2006	Three-dimensional seismic velocity structure as determined by double-difference tomography in and around the focal area of the 2005 West off Fukuoka Prefecture earthquake	Earth Planets Space	58	1621-1626	○	2(3)(3-2)ア	2(1)ウ	2005年福岡県西方沖地震の震源断層近傍の3次元地震波速度構造を、臨時OBS観測も含めた稠密地震観測網のデータを用いて明らかにした。その結果、強震動解析などから推定されているアスベリティの領域が高速領域に対応していること、一方、本震震源（破壊開始点）はやや低速度域にあることなどが示された。	九州大
Uehira, K., T. Yamada, M. Shinohara, K. Nakahigashi, H. Miyamachi, Y. Iio, T. Okada, H. Takahashi, N. Matsuwo, K. Uchida, T. Kanazawa, and H. Shimizu	2006	Precise aftershock distribution of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture Earthquake (Mj=7.0) using a dense onshore and offshore seismic network	Earth Planets Space	58	1605-1610	○	2(3)(3-2)ア	2(2)(2-1)ウ	2005年福岡県西方沖地震の精密震源分布と発震機構を、臨時OBSを含めた稠密地震観測網のデータを使って求めた。その結果、震源断層は数枚の断層面（セグメント）から成ること、本震は深さ9.5kmからまず下部の小セグメントを破壊、その後上部の主セグメントへ進展したと推定されることなど、震源断層の詳細な形状と破壊過程の特徴が明らかになった。	九州大・北海道大
Okamoto, T. and H. Takenaka	2009	Waveform inversion for slip distribution of the 2006 Java tsunami earthquake by using 2.5D finite-difference Green's function	Earth Planets Space	61	e17-e20	○	2(3)(3-2)ア			九州大
山本容維・竹中博士	2009	経験的グリーン関数法を用いた2007年新潟県中越沖地震の震源のモデル化	地震	62	47-60	○	2(3)(3-2)ア			九州大
山口慎司・川方裕則・安達俊仁・梅田康弘	2007	2005年福岡県西方沖地震の破壊初期段階の特徴	地震	59	241-252	○	2(3)(3-2)ア	2(4)ウ	2005年福岡県西方沖地震の破壊初期段階の波形記録を調べた。その結果、初期破壊は同程度の規模を持つ余震とは破壊過程が異なり、徐々に成長を続けていく様相が示された。	立命館大
山田雅行・先名重樹・藤原広行	2007	強震動予測レシビに基づく予測結果のバラツキ評価の検討 -震源パラメータのバラツキについて-	日本地震工学会論文集	1	43-60	○	2(3)(3-2)ア	1(3)ア		防災科研
Fukuyama, E. and Mikumo, T.	2006	Dynamic rupture propagation during the 1891 Nobi, central Japan, earthquake: A possible extension to the branched fault	Bull. Seism. Soc. Am.	96	1257-1266	○	2(3)(3-2)ア	2(3)(3-2)イ		防災科研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Fukuyama, E., S. Aoi, C. Hashimoto and M. Matsu'ura,	2006	Joint simulation of earthquake dynamic rupture and seismic wave propagation, Proc	First International Symposium for "Integrated Predictive Simulation System for Earthquake and Tsunami Disaster		245-253		2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		防災科研
藤原広行、石川裕、奥村俊彦、宮腰淳一		関東地域を対象とした確率論的地震動予測地図—地震活動のモデル化と地震ハザード評価手法—	地学雑誌	116	451-479	○	2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		防災科研
Fukuyama, E.	2007	Fault structure, stress, friction and rupture dynamics of earthquakes, Advances in Earth Sciences: From Earthquakes to Global Warming	Eds. P. R. Sammonds and J. M. T. Thompson, Imperial College Press, London		109-132	○	2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研
福山英一	2007	1995年兵庫県南部地震の動的破壊過程とその周辺の応力場	月刊地球	29	313-317		2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研
福山英一	2007	地震の動的破壊とアスペリティ	月刊地球	29	392-396		2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研
Fukuyama, E. Hashimoto, C. Aoi, S., and Matsu'ura, M.	2007	Integrated simulation of plate subduction, earthquake dynamic rupture and wave propagation	European Geosciences Union General Assembly, Smole nice, Slovakia		EGU2007-A_3169		2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研
Aoi, S., H. Sekiguchi, N. Morikawa, and T. Kunugi	2008	Source process of the 2007 Niigata-ken Chuetsu-oki earthquake derived from near-fault strong motion data	Earth Planets Space	60	1131-1135	○	2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		防災科研
Aoi, S., R. Honda, N. Morikawa, H. Sekiguchi, H. Suzuki, Y. Hayakawa, T. Kunugi, and H. Fujiwara	2008	Three-dimensional finite difference simulation of long-period ground motions for the 2003 Tokachi-oki, Japan, earthquake	J. Geophys. Res.	113,	doi:10.1029/2007JB005452	○	2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		防災科研
Pulido, N., S. Aoi, and H. Fujiwara	2008	Rupture process of the 2007 Notohanto earthquake by using an isochrones back-projection method and K-NET/KiK-net data	Earth Planets Space	60	1035-1040	○	2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		防災科研
Morikawa, N., T. Kanno, A. Narita, H. Fujiwara, T. Okumura, Y. Fukushima and A. Guerpinar	2008	Strong motion uncertainty determined from observed records by dense network in Japan,	J. Seismology	12	529 - 546	○	2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		防災科研
Fukuyama, E., R. Ando, C. Hashimoto, S. Aoi, and M. Matsu'ura	2008	Modeling of the 2003 Tokachi - oki, Japan, Earthquake: Stress Accumulation, Dynamic Rupture and Ground Motions	6th ACES International Workshop, Cairns, Australia		11 - 16		2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Fukuyama, E.	2009	Dynamic rupture propagation of the 1995 Kobe, Japan, earthquake. In: Fault-zone Properties and Earthquake Rupture Dynamics	International Geophysics Series	94	269 - 283		2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研
Fukuyama, E. and K. Mizoguchi	2009	Constitutive parameters for earthquake rupture dynamics	IUTAM Symposium: Dynamic Fracture and Fragmentation		8 - 12		2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研
福山英一	2009	地震の動的破壊パラメータ	地震	61	S309-S314	○	2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研
Fukuyama, E., R. Ando, C. Hashimoto, S. Aoi, and M. Matsu'ura	2009	A Physics-Based Simulation of the 2003 Tokachi-oki, Japan, Earthquake to Predict Strong Ground Motions	Bull. Seism. Soc. Am.	99	3150-3171	○	2 (3) (3-2) ア	2 (3) (3-2) イ		防災科研・名古屋大
Suzuki, W., S. Aoi, and H. Sekiguchi	2009	Rupture Process of the 2008 Northern Iwate Intraslab Earthquake Derived from Strong-Motion Records	Bull. Seism. Soc. Am.	99	2825-2835	○	2 (3) (3-2) ア	1 (1) ア		防災科研・京大防災研
Suzuki, W., S. Aoi, and H. Sekiguchi	2010	Rupture process of the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku, Japan, earthquake derived from near-source strong-motion records	Bull. Seism. Soc. Am.	100	256-266	○	2 (3) (3-2) ア	1 (1) ア		防災科研・京大防災研
鈴木亘・青井真・関口春子	2010	強震記録から見た平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震の震源過程	防災科学技術研究所主要災害調査	43	11-18		2 (3) (3-2) ア	1 (1) ア		防災科研
Aoi, S., B. Enescu, W. Suzuki, Y. Asano, K. Obara, T. Kunugi, and K. Shiomi	2010	Stress transfer in the Tokai subduction zone from the 2009 Suruga Bay earthquake in Japan	Nature Geoscience	3	496-500	○	2 (3) (3-2) ア	1 (1) ア	防災科研が整備・運用している三種類の地震観測網(K-NET/KiK-net(強震観測網)、Hi-net(高感度地震観測網)及びF-net(広帯域地震観測網))の地震観測記録を用いて、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震が、想定される東海地震の震源域に及ぼした影響の評価をおこなった。	防災科研
鈴木 亘・青井 真・関口春子	2010	複雑な断層面形状を考慮した2009年駿河湾の地震の震源過程の推定	第13回日本地震工学シンポジウム論文集		3565-3571		2 (3) (3-2) ア	1 (1) ア		防災科研・京大防災研
Shinobu Ito and Hisao Ito	2007	Slow initial phase and nucleation process of microearthquakes in Western Nagano, Central Japan	J. Geophys. Res.	112	B05301, doi:10.1029/2006JB004290	○	2 (3) (3-2) ア			産総研
伊藤忍・山口和雄・横倉隆伸・加野直巳・大滝壽樹・住田達哉	2010	反射法地震探査による2003年宮城県北部の地震の震源域北西部の地下構造	地質調査研究報告	61	289-299		2 (3) (3-2) ア	3 (3) ア		産総研
伊藤忍・山口和雄・加野直巳・横倉隆伸・榎原京子	2010	旭山撓曲南方延長における地震波干渉法による地下構造調査	地質調査総合センター速報	54	81-87		2 (3) (3-2) ア	3 (3) ア		産総研
Katsumata, A	2010	Depth of the Moho discontinuity beneath the Japanese islands estimated by travelttime analysis	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2008JB005864	○	2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		気象庁
青木重樹・岡田正実	2010	三角ダイヤグラムを用いたメカニズムタイプの変化の統計的検出	地震	63	101-105	○	2 (3) (3-2) ア	1 (3) ア		気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Yoshida, Y., H. Ueno, D. Muto, and S. Aoki	in press	Source process of the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku earthquake with the combination of teleseismic and strong motion data	Earth Planets Space			○	2(3)(3-2)ア	1(3)ア		気象庁
イ. 強震動・津波の生成過程										
高橋浩晃・山口照寛・岡山宗夫・笠原稔	2007	えりも地殻変動観測所での歪地震動波形による1978年宮城県沖地震(M7.4)と2005年宮城県沖の地震(M7.2)の比較	地震	59	209-222	○	2(3)(3-2)イ	2(2)(2-1)ア		北海道大
Maeda T., M. Ichiyonagi, H. Takahashi, R. Honda, T. Yamaguchi, M. Kasahara and T. Sasatani	2008	Source parameters of the 2007 Noto Hanto Earthquake sequence derived from strong motion records at temporary and permanent stations	Earth Planets Space	60	1011-1016	○	2(3)(3-2)イ	2(3)(3-2)ア		北海道大
岩崎伸一・中懸 正・谷岡勇市郎・西村裕一・都司嘉宣・行谷佑一・松本浩幸・井上修作	2006	検潮所で観測されたスマトラ津波	月刊地球	56	128-136		2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大
都司嘉宣・谷岡勇市郎・松富英夫・西村裕一・鎌滝孝信・村上嘉謙・榊山 勉・Andrew Moore・Guy Gelfenbaum・Sindhu Nugroho・Budi Waluyo・Inyoman Sukanta・Rahmat Triyono・行谷佑一	2006	2004年スマトラ島沖地震による最大被災地 Banda Aceh 市とその周辺海岸の津波の浸水高さ	月刊地球	56	154-166		2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Yoshinobu Tsuji, Yuichiro Tanioka, Hideo Matsutomi, Yuichi Nishimura, Takanobu Kamataki, Yoshikane Murakami, Tsutomu Sakakiyama, Andrew Moore, Guy Gelfenbaum, Sindhu Nugroho, Budi Waluyo, Inyoman Sukanta, Tahmat Triyono, and Yuichi Namegaya	2006	Damage and Height Distribution of Sumatra Earthquake-Tsunami of December 26, 2004, in Banda Aceh City and its Environs	Journal of Disaster Research	1	103-115		2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Tomita, T., Arikawa, T., Tatsumi, D., Honda, K., Higashino, H., Watanabe, K., Nishimura, Y., Tanioka, Y., Nakamura, Y., Tsuji, Y., Namegaya, Y., Murata, M., Woodward, S., Satake, K., Imamura, F., Matsutomi, H., Fujima, K., Shigihara, Y., Koshimura, S. and Miyagi, Y.	2008	Joint report for tsunami field survey for the Solomon Islands earthquake of April 1, 2007	津波工学研究報告	25	21-94		2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Wilson, K.J. Power, W.L., Nishimura, Y., 'Atelea Kautoke, R., Vaiomo' unga, R., Mori, H., Pongi, 'A., Fifita, M., Vaoahi, M., Teukava, S	2009	Post-tsunami survey of Niuaotupapu Island, Tonga, following the 30th September 2009, South Pacific tsunami	GNS Science Report 2009/71		28pp		2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Ahn, Y. S., Nakamura, F., Kizuka, T., and Nakamura, Y.	2009	Elevated sedimentation in lake records linked to agricultural activities in the Ishikari River floodplain, northern Japan.	Earth Surface Processes and Landforms	34	1650-1660	○	2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大
都司嘉宣・大年邦雄・中野晋・西村裕一・藤間功司・今村文彦・柿沼太郎・中村有吾・今井健太郎・後藤和久・行谷佑一・鈴木進吾・城下英行・松崎義孝	2010	2010年チリ中部地震による日本での津波被害に関する広域現地調査	土木学会論文集 B2(海岸工学)	66-1	1346-1350	○	2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Hirata, K., K. Satake, Y. Tanioka, T. Kuragano, Y. Hasegawa, Y. Hayashi, and N. Hamada	2006	The 2004 Indian Ocean tsunami: Tsunami source model from satellite altimetry	Earth Planets Space	58	195-201	○	2(3)(3-2)イ	2(1)オ		北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Tanioka, Y., Yudhicara, T. Kusunose, S. Kathiroli, Y. Nishimura, S. Iwasaki, and K. Satake	2006	Rupture process of the 2004 great Sumatra-Andaman earthquake estimated from tsunami waveforms	Earth Planets Space	58	203-209	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Satake, K., K. Hirata, S. Yamaki, and Y. Tanioka	2006	Re-estimation of tsunami source of the 1952 Tokachi-oki earthquake	Earth Planets Space	58	535-542	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Tanioka, Y.	2008	Analysis of the tsunami generated by the 2007 Noto Hanto earthquake	Earth Planets Space	60	123-125	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Namegaya, Y., Y. Tanioka, K. Abe, K. Satake, K. Hirata, M. Okada, and A. R. Gusman	2009	In situ measurements of tide gauge response and corrections of tsunami waveforms from the Niigataken Chuetsu-oki earthquake	Pure Appl. Geophys.	166	97-116	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Matsumoto, H., Y. Tanioka, Y. Nishimura, Y. Tsuji, Y. Namegaya, T. Nakasu, and S. Iwasaki	2009	Review of tide gauge records in the Indian ocean	J. of Earthquake and Tsunami	3	1-15	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Gusman A. R., Y. Tanioka, H. Matsumoto, and S.-I. Iwasaki	2009	Analysis of the tsunami generated by the great 1977 Sumba earthquake that occurred in Indonesia	Bull. Seism. Soc. Am.	99	2169-2179	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
谷岡勇市郎	2009	津波データに基づく震源・津波発生過程の研究	地震	61	S489-S496	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
平田賢治・倉賀野連・林豊・佐竹健治・谷岡勇市郎・長谷川洋平・浜田信生	2006	宇宙から観た津波と地震断層モデル	月刊地球号外	56	32-37		2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
谷岡勇市郎・岩崎伸一	2006	津波波形インバージョンによる2004年スマトラ地震の震源過程解析	月刊地球号外	56	19-24		2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
行谷佑一・谷岡勇市郎・阿部邦昭・佐竹健治・平田賢治・岡田正実・Aditya R. Gusman	2009	2007年新潟県中越沖地震震源域周辺の検潮井戸応答特性調査および津波波形補正	津波工学研究報告	26	95-106		2(3) (3-2)イ	2(1)オ		北海道大
Guaman, A. R., Y. Tanioka, T. Kobayashi, H. Latief, and W. Pandoe	2010	Slip distribution of the 2007 Bengkulu earthquake inferred from tsunami waveforms and InSAR data	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2010JB007565	○	2(3) (3-2)イ	2(1)オ	2007年Bengkuluスマトラ巨大地震のすべり量分布を津波波形データとInSARデータのジョイントインバージョンにより推定した。津波波形インバージョンによりすべりの方向も推定することができた世界で初めての結果である。	北海道大
Nawa, K., N. Suda, K. Satake, Y. Fujii, T. Sato, K. Doi, M. Kanao, and K. Shibuya	2007	Loading and Gravitational Effects of the 2004 Indian Ocean Tsunami at Syowa Station, Antarctica	Bull. Seism. Soc. Am.	97	S271-S278	○	2(3) (3-2)イ			東北大
Tsushima, H., R. Hino, H. Fujimoto, Y. Tanioka, and F. Imamura	2009	Near-field tsunami forecasting from cabled ocean bottom pressure data	J. Geophys. Res.	114	B06309, doi:10.1029/2008JB005988	○	2(3) (3-2)イ	1(1)イ	オンラインの海底津波計のデータを用いることで、海岸の津波を高精度かつリアルタイムに予測可能であることを示した。	東北大・北海道大
Nakahara, H., H. Sato, T. Nishimura, and H. Fujiwara	2011	Direct observation of rupture propagation during the 2011 off the Pacific coast of Tohoku, Japan, earthquake (Mw 9.0) using a small seismic array	Earth Planets Space	in press	doi:10.5047/eps.2011.06.002	○	2(3) (3-2)イ	2(3) (3-2)ア	牡鹿半島における強震動アレイ観測により、3月11日の東北地方太平洋沖地震の断層破壊過程の詳細を明らかにすることに成功した。	東北大
Tsuji, T., Y. Ito, M. Kido, Y. Osada, H. Fujimoto, J. Ashi, M. Kinoshita, and T. Matsuoka	2011	Potential Tsunamigenic Faults of the 2011 Tohoku Earthquake	Earth Planets Space	in press	doi:10.5047/eps.2011.05.028	○	2(3) (3-2)イ	2(1)ウ	2011年東北沖巨大地震の震源域付近に複数の海底断層があり、1999年の反射法地震探査とそれに基づく2008年の潜水調査船しんかい6500による潜航調査が行われている。冷湧水に依存する生物コロニーの存在や急崖の存在はそれらが活断層であることを示しており、その運動が短波長の巨大津波を引き起こした可能性がある。	東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Koketsu, K. and H. Miyake	2008	A seismological overview of long-period ground motion	J. Seismology	12	133-143	○	2(3)(3-2) イ			東大地震研
Koketsu, K., H. Miyake, Afnimar, and Y. Tanaka	2009	A proposal for a standard procedure of modeling 3-D velocity structures and its application to the Tokyo metropolitan area, Japan	Tectonophys.	472	290-300	○	2(3)(3-2) イ	1(3)イ		東大地震研
Hanifa, N. R., M. Irwan, T. Sagiya, F. Kimata., and H. Z. Abidin	2009	Numerical modelling of the 2006 Java Tsunami earthquake	Advances in Geosciences	13	231-248	○	2(3)(3-2) イ			名古屋大
Iwaki, A. and T. Iwata	2010	Simulation of long-period ground motion in the Osaka sedimentary basin: performance estimation and the basin structure effects	Geophys. J. Int.	181	1062-1076	○	2(3)(3-2) イ			京大防災研
Petukhin, A., T. Iwata, and T. Kagawa	2010	Study on the effect of the oceanic water layer on the strong ground motion simulation	Earth Planets Space	62	621-630	○	2(3)(3-2) イ	2(3)(3-2) ア		京大防災研
浅野公之・岩田知孝・岩城麻子・栗山雅之・鈴木 亘	2009	地震および微動観測による石川県鳳珠郡穴水町における地盤震動特性	地震	62	121-135	○	2(3)(3-2) イ			京大防災研
岩城麻子・岩田知孝・関口春子・浅野公之・吉見雅行・鈴木晴彦	2009	大分平野における想定南海地震による長周期地震動のシミュレーション	地震	61	161-173	○	2(3)(3-2) イ	2(3)(3-2) ア		京大防災研
Iwata, T., T. Kagawa, A. Petukhin, and Y. Onishi	2008	Basin and crustal velocity structure models for the simulation of strong ground motions in the Kinki area, Japan	J. Seismology	12	223-234	○	2(3)(3-2) イ	2(3)(3-2) ア		京大防災研
Iwaki, A. and T. Iwata	2008	Validation of 3D basin structure models for long-period ground motion simulation in the Osaka basin, western Japan	J. Seismology	12	197-215	○	2(3)(3-2) イ	2(3)(3-2) ア		京大防災研
JafarGandomi, A. and H. Takenaka	2009	Non-standard FDTD for elastic wave simulation: two-dimensional P-SV case	Geophys. J. Int.	172	282-302	○	2(3)(3-2) イ			九州大
Moustafa, S. S. R. and H. Takenaka	2009	Stochastic ground motion simulation of the 12 October 1992 Dahshour earthquake	Acta Geophysica	57	636-656	○	2(3)(3-2) イ			九州大
竹中博士・中村武史	2010	横等方的媒質における理論地震記象への非弾性減衰の導入	北海道大学地球物理学研究報告	73	185-194		2(3)(3-2) イ			九州大
JafarGandomi, A. and H. Takenaka	2010	Three-component 1D viscoelastic FDM for plane-wave incidence	Advances in Geosciences	20	299-312	○	2(3)(3-2) イ			九州大
Okamoto, T., H. Takenaka, T. Nakamura, and T. Aoki	2010	Accelerating large-scale simulation of seismic wave propagation by multi-GPUS and three-dimensional domain decomposition	Earth Planets Space	62	939-942	○	2(3)(3-2) イ			九州大
竹中博士・中村武史・岡元太郎・金田義行	2010	陸上地形・海底地形を考慮した3次元差分法による長周期地震動シミュレーション	第13回日本地震工学シンポジウム論文集		2610-2615		2(3)(3-2) イ			九州大
中村武史・竹中博士・岡元太郎・金田義行	2011	流体-固体境界周辺における3次元地震波動場の差分法に関する数値実験	地震	63	189-196	○	2(3)(3-2) イ			九州大
S Tsuboi, D Komatitsch, J Tromp	2006	Study on Information Systems Design and Implementation	Bull. Seism. Soc. Am.	95	2125-2135	○	2(3)(3-2) イ	4(5)		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Seiji Tsuboi, Dimitri Komatitsch, Chen Ji, Jeroen Tromp	2006	Broadband Modeling of Global Seismic Wave Propagation on the Earth Simulator using the Spectral-Element Method	Zishin	57	321-329	○	2(3)(3-2)イ	4(5)		JAMSTEC
S. Tsuboi, K. Abe, K. Takano, Y. Yamanaka	2007	Rapid determination of Mw from broadband P waveforms	Bull. Seism. Soc. Am.	85	606-613	○	2(3)(3-2)イ	4(5)		JAMSTEC
坪井 誠司	2007	波形モデリングから見たスマトラ地震の震源過程	月刊地球号外	56	49-52		2(3)(3-2)イ	4(5)		JAMSTEC
林豊	2011	津波警報を解除するタイミングに関する研究の現状と展望	験震時報	75	印刷中		2(3)(3-2)イ			気象庁
林 豊・越村俊一・今村文彦	2011	遠地地震津波の減衰予測のためのMRMS 振幅の時間減衰モデル	土木学会論文集 B2(海岸工学)	B2-67(3)	投稿中	○	2(3)(3-2)イ			気象庁
Hirata, K.	2009	Tsunami amplification along the eastern coast of India and Sri Lanka due to propagating tsunami sources	J. Earthq. Tsunami	3	67-75	○	2(3)(3-2)イ			気象庁
Hirata, K., K. Satake, Y. Tanioka, and Y. Hasegawa	2009	Variable tsunami source and seismic gap in the southernmost Kuril Trench: review	Pure Appl. Geophys.	166	77-96	○	2(3)(3-2)イ			気象庁
林豊・越村俊一・今村文彦	2009	津波のコーダとエンベロープの遠地津波予測への活用可能性-その定義と2006年千島列島沖地震津波への適用-	土木学会論文集 B2(海岸工学)	B2-65(1)	276-280	○	2(3)(3-2)イ			気象庁
Namegaya, Y., Y. Tanioka, K. Abe, K. Satake, K. Hirata, M. Okada, and A. R. Gusman	2009	In situ measurements of tide gauge response along the southwestern coast of the northern Honshu, Japan - Corrections of tsunami waveforms of the 2007 Niigataken Chuetsu-oki earthquake tsunami -	Pure Appl. Geophys.	166	97-116	○	2(3)(3-2)イ			気象庁
Hayashi, Y.	2010	Empirical relationship of tsunami height between offshore and coastal stations	Earth Planets Space	62	269-275	○	2(3)(3-2)イ		海岸の潮位観測施設と全国港湾海洋波浪観測網(NOWPHAS)の沖合波浪観測施設との両方で津波の記録が得られた観測例を収集し、両者での津波第一波振幅と最大振幅について、それぞれ関係式を導いた。	気象庁
林豊・今村文彦・越村俊一	2010	津波減衰過程のトレンドとばらつきの性質の遠地津波予測への活用可能性	土木学会論文集 B2(海岸工学)	B2-66	211-215	○	2(3)(3-2)イ		津波の減衰過程において、移動自乗平均振幅の3倍以上の半振幅の波が出現することが稀だという性質に、移動自乗平均振幅の時間減衰の近似関数を組み合わせれば、津波警報の解除のタイミングの予告を伴う情報発表が可能になることを示した。	気象庁
林豊	2010	GPS波浪計の長周期波形観測値による沿岸津波換算値を活用した津波即時情報	自然災害科学	29(3)	381-391	○	2(3)(3-2)イ			気象庁
Romano, F. A. Piatanesi, S. Lorito, and K. Hirata	2010	Slip distribution of the 2003 Tokachi-Oki Mw 8.1 earthquake from joint inversion of tsunami waveforms and geodetic data	J. Geophys. Res.	115	Doi: 10.1029/2009JB006665	○	2(3)(3-2)イ			気象庁
Tsushima, H., K. Hirata, Y. Hayashi, Y. Tanioka, K. Kimura, S. Sakai, M. Shinohara, T. Kanazawa, R. Hino, and K. Maeda	2011	Near-field tsunami forecasting using offshore tsunami data from the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake	Earth Planets Space		accepted	○	2(3)(3-2)イ		2011年東北地方太平洋沖地震に伴う巨大津波は、日本近海に設置された様々な沖合津波観測点で、沿岸への襲来に先駆けて検知された。本研究では、こうしたデータに、開発中の津波予測手法を適用し、早期予測の可能性を調べた。その結果、三陸海岸の大船渡などの検潮所で水位上昇が1mに達する時刻の少なくとも5分前には、こうした沿岸地域に巨大な津波が迫っていることを予測できる可能性があることがわかった。	気象庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Hayashi, Y., H. Tsushima, K. Hirata, K. Kimura and K. Maeda	2011	Tsunami source area due to the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake determined by tsunami arrival times at offshore observation stations	Earth Planets Space	in press		○	2(3) (3-2)イ			気象庁
(3-3) 火山噴火過程										
ア. 噴火機構の解明とモデル化										
岡崎紀俊・高橋浩晃・笠原稔・志賀透	2009	連続および繰り返しGPS観測による2006年雌阿寒岳噴火に伴う地殻変動	北海道大学地球物理学研究報告	72	191-202		2(3) (3-3)ア	2(3) (3-3)イ		北海道大
Kobayashi, T., T. Ohminato, Y. Ida, and E. Fujita	2009	Long period seismic signals observed before the caldera formation with the 2000 Miyake-jima volcanic activity, Japan	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2007JB00555	○	2(3) (3-3)ア			北海道大
Saito T., H. Yamamoto and H. Oshima	2009	Numerical simulations of explosive volcanic eruption: Blast waves and pyroclastic flows	Intern. Jour. Aeros. Inn.	2	81-88	○	2(3) (3-3)ア			北海道大
青山 裕	2008	CMG40T地震計の傾斜応答に関する簡易試験	火山	53	35-46	○	2(3) (3-3)ア			北海道大
Aoyama, H. and H. Oshima	2008	Tilt change recorded by broadband seismometer prior to small phreatic explosion of Meakan-dake volcano, Hokkaido, Japan	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10.1029/2007GL032988	○	2(3) (3-3)ア		2006年におこった雌阿寒岳の小規模水蒸気爆発に伴う前兆群発地震活動期間中に広帯域地震計が記録した微動なかに傾斜変動が含まれることを見だし、広帯域地震計が傾斜観測に利用できることを示すとともに、それを開口割れ目で説明し、前兆に乏しいとされてきた水蒸気爆発について発生予測と発生機構を理解する手がかりを与えた論文である。	北海道大
Stix, J. and T. Kobayashi	2008	Magma dynamics and collapse mechanisms during four historic caldera-forming events	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005073	○	2(3) (3-3)ア			北海道大
橋本武志	2008	火道内過程による電磁場変動	火山噴火機構の解明とモデル化—高度な噴火予知を目指して—京都大学防災研究所研究集会20K-09報告書		51-52		2(3) (3-3)ア		火山爆発に伴って火道内で生じる可能性のある電磁気現象を検討し、爆発による急激な圧力変化によって生じる圧磁気、Rapid Fluid Disruptionと呼ばれる液体の急激な気化あるいは破砕に伴う電荷分離、マグマ頭位の上昇・下降に伴う火道内の比抵抗変化に伴う変動は観測手法を工夫することで検出できる可能性のあることを示した論文である。	北海道大
市原美恵・リペペ マウリチオ・後藤章夫・谷口宏充・大島弘光	2008	埋設発破に伴う表面現象の相似則と媒質依存性—火山爆発に伴う空振と噴煙の解読に向けて—	—高度な噴火予知を目指して—京都大学防災研究所研究集会20K-09報告書		41-44		2(3) (3-3)ア			北海道大
小林知勝・大湊隆雄・井田喜明・藤田英輔	2008	2000年三宅島火山活動で観測された超長周期地震—カルデラ形成直前に頻発する膨張現象—	月刊地球号外	60	77-84		2(3) (3-3)ア			北海道大
鈴木建夫・新井田清信・西田泰典・大島弘光・室伏 誠	2008	火山岩塊の運動再考(3)—放出火山岩塊に対する風の効果と岩塊の初速度についてのモデル計算—	北海道大学地球物理学研究報告	71	1-18		2(3) (3-3)ア			北海道大
鈴木建夫・新井田清信・西田泰典・大島弘光・室伏 誠	2008	火山岩塊の運動再考(4)—浅間火山1938年および有珠火山1977年噴火における放出火山岩塊の解析—	北海道大学地球物理学研究報告	71	19-38		2(3) (3-3)ア			北海道大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
橋本武志・茂木 透・西田泰典・高田真秀・鈴木敦生・前川徳光・佐藤秀幸	2007	ドーム状隆起に伴う磁場変化－有珠山2000年噴火時の全磁力変化再検討－	北海道大学地球物理学研究報告	70	123-135		2(3)(3-3)ア			北海道大
小野 忍・大島弘光	2007	1977年有珠山噴火で生じた噴煙柱の解析	北海道大学地球物理学研究報告	70	153-161		2(3)(3-3)ア		固相の保存則でパラメータに制約を加えた一次元定常強制ブリュームモデルを用いて有珠山の1977年噴火で生じた噴煙柱を解析し、爆発・噴火現象をモデル化する際の1つの境界条件となる噴出速度を推定した研究であると同時に、数少ないブリュームモデルを適用した解析事例でもある。	北海道大
Nishimura, T., M. Ichihara, and S. Ueki	2006	Investigation of the Onikobe geyser, NE Japan, by observing the ground tilt and flow parameters	Earth Planets Space	58	e21-e24	○	2(3)(3-3)ア	2(4)エ		東北大
Murase, M., K. Ono, T. Ito, R. Miyajima, H. Mori, H. Aoyama, H. Oshima, Y. Yoshida, A. Terada, E. Koyama, T. Takeda, H. Watanabe, F. Kimata, and N. Fujii	2007	Time-dependent model for volume changes in pressure sources at Asama volcano, central Japan due to vertical deformations detected by precise leveling during 1902-2005	J. Volcanol. Geotherm. Res.	164	54-75	○	2(3)(3-3)ア	2(2)(2-2)ア		東北大
McNutt, R. S. and Nishimura, T.	2008	Volcanic tremor during eruptions: temporal characteristics, scaling and constraints on conduit size and processes	J. Volcanol. Geotherm. Res.	178	10-18	○	2(3)(3-3)ア	2(3)(3-3)イ	噴火微動の強度は、火口半径に比例して大きくなる。この特徴は、火口半径の2乗に比例する強度をもち、より大きい火口内圧力により励起されるブルカノ式・ストロンボリ式噴火により励起される爆発地震と明らかに異なる。このスケーリングの違いは、メカニズムの違いを反映するとともに、噴火様式を地震波データから区別できることを示唆する。	東北大
Yamamoto, M. and Sato, H.	2010	Multiple scattering and mode conversion revealed by an active seismic experiment at Asama volcano, Japan	J. Geophys. Res.	115	B07304, doi:10.1029/2009JB007109	○	2(3)(3-3)ア		浅間山の不均質構造を人工震源の地震波形を輻射伝達理論に基づいて解析し、S波の平均自由行程を約1KMと推定した。火山の構造解析に新手法をもたらすものである。	東北大・東大地震研
Nishimura, T. and M. Iguchi	2011	Volcanic earthquakes and tremor in Japan	Kyoto University Press, Kyoto		253pp		2(3)(3-3)ア	2(2)(2-2)ア	近年までの日本で観測された火山性地震と微動について、火山活動や噴火時の地震波信号の理解に役立てられるように2006年に日本語で出版したものの英語版。	東北大
Mori T. and Burton M	2006	The SO2 camera: A simple, fast and cheap method for ground-based imaging of SO2 in volcanic plumes.	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL027916	○	2(3)(3-3)ア	3(2)イ	目に見えない火山噴煙中の二酸化硫黄を可視化するUVカメラとフィルターを用いた手法を開発した論文。これにより、秒スケールの高時間分解能で二酸化硫黄放出率がとらえることが可能になり、噴火直前の放出率変化の測定を可能にした。	東大理化学
Mori T., Mori T., Kazahaya K., Ohwada M., Hirabayashi J. and Yoshikawa S.	2006	Effect of UV scattering on SO2 emission rate measurements.	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL026285.	○	2(3)(3-3)ア	2(2)(2-2)ア		東大理化学・東工大流体
Mori T. and Burton M.	2009	Quantification of the gas mass emitted during single explosions on Stromboli with the SO2 imaging camera.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	188	395-400	○	2(3)(3-3)ア	3(3)イ	イタリア・ストロンボリ火山で二酸化硫黄可視化装置を用い、1回のストロンボリ式噴火でどれくらいのガスを放出するかを初めて定量した論文。	東大理化学
Kazahaya R., Mori T., Takeo M., Ohminato T., Urabe T. and Maeda Y.	2011	Relation between single very-long-period pulses and volcanic gas emissions at Mt. Asama, Japan.	Geophys. Res. Lett.	38	doi:10.1029/2011GL047555	○	2(3)(3-3)ア		浅間火山で発生する超長周期(VLP)地震に伴って噴出するガス量を二酸化硫黄可視化装置で測定し、VLPの規模と二酸化硫黄放出率の間に日理関係があることを観測によって示した論文。	東大理化学
Maeda, Y. and M. Takeo	2011	Very-Long-Period pulses at Asama volcano, central Japan, inferred from dense seismic observations	Geophys. J. Int.	185	265-282	○	2(3)(3-3)ア		浅間山火道浅部で発生する傾斜を伴う地震の発生場所と発生機構を、火口近傍の稠密広帯域地震観測データから明らかにし、火口からの火山ガス噴出との関連も解明した。火道浅部での火山活動を明らかにする上で大きな成果を上げた。	東大地震研
Maeda, Y., M. Takeo, and T. Ohminato	2011	A waveform inversion including tilt: method and simple tests	Geophys. J. Int.	184	907-918	○	2(3)(3-3)ア			東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Tanaka, H. K. M., H. Taira, T. Uchida, M. Tanaka, M. Takeo, T. Ohminato, and H. Tsuji	2010	Three dimensional CAT scan of a volcano with cosmic-ray muon radiography	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2010JB007677	○	2(3)(3-3)ア	3(3)ア	浅間山の火口底直下の火道内部の3次元的な密度分布を火口の東と北に設置したミュオン検出装置により初めて明らかにした。火道浅部の構造を知る上で大きな成果を上げた。	東大地震研
Nagaoka, Y., K. Nishida, Y. Aoki, and M. Takeo	2010	Temporal change of phase velocity beneath Mt. Asama, Japan, inferred from coda wave interferometry	Geophys. Res. Lett.	37	doi:10.1029/2010GL045289	○	2(3)(3-3)ア			東大地震研
Savage, M. K., T. Ohminato, Y. Aoki, H. Tsuji, and S. M. Greve	2010	Stress magnitude and its temporal variation at Mt. Aasama Volcano, Japan, from seismic anisotropy and GPS	Earth Planet. Sci. Lett.	290	403-414	○	2(3)(3-3)ア			東大地震研
Aoki, Y., M. Takeo, H. Aoyama, J. Fujimatsu, S. Matsumoto, H. Miyamachi, H. Nakamichi, T. Ohkura, T. Ohminato, J. Oikawa, R. Tanada, T. Tsutsui, K. Yamamoto, M. Yamamoto, T. Yamasato, and T. Yamawaki	2009	P-wave velocity structure beneath Asama Volcano, Japan, inferred from active source seismic experiment	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	273-278	○	2(3)(3-3)ア			東大地震研・北海道大・東工大流体力学・名古屋大
Aoki, Y., M. Takeo, T. Tsutsui, and Y. Morita	2009	Active source seismic experiment confirms the magma pathway of Asama Volcano, Japan	EOS Trans. Am. Geophys. Union	15	Dec.	○	2(3)(3-3)ア			東大地震研
Ohminato, T.	2008	Source mechanisms of vulcanian eruptions at Mt. Asama, Japan, inferred from volcano seismic signals	Geological Society, London	307	189-206	○	2(3)(3-3)ア			東大地震研
Tanaka, H. K. M., T. Nakano, S. Takahashi, J. Yoshida, M. Takeo, J. Oikawa, T. Ohminato, Y. Aoki, E. Koyama, H. Tsuji, H. Oshima, T. Maekawa, H. Watanabe and K. Niwa	2008	Radiographic imaging below a volcanic crater floor with cosmic-ray muons	Am. J. Sci.	308	843-850	○	2(3)(3-3)ア	3(3)ア		東大地震研・北海道大
Tanaka, H. K. M., T. Nakano, S. Takahashi, J. Yoshida, M. Takeo, J. Oikawa, T. Ohminato, Y. Aoki, E. Koyama, H. Tsuji, and K. Niwa	2007	High resolution imaging in the inhomogenous crust with cosmic-ray muon radiography: The density structure below the volcanic crater floor of Mt. Asama, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	165	87-107	○	2(3)(3-3)ア	3(3)ア		東大地震研
Minoru Takeo, Yosuke Aoki, Takao Ohminato, Maki Yamamoto	2006	Magma supply path beneath Mt. Asama volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL026247	○	2(3)(3-3)ア		2004年噴火前後の震源分布と地殻変動データから、浅間山の浅部マグマ供給系を明らかにした。	東大地震研
Ohminato, T., M. Takeo, H. Kumagai, T. Yamashina, J. Oikawa, E. Koyama, H. Tsuji, and T. Urabe	2006	Vulcanian eruptions with dominant single force components observed during the Asama 2004 volcanic activity in Japan	Earth Planets Space	58	583-593	○	2(3)(3-3)ア			東大地震研
Ichihara, M. and T. Nishimura	2009	Pressure impulses generated by bubbles interacting with ambient perturbation	R. A. Meyers eds., Encyclopedia of Complexity and Systems Science,	7	6955-6977	○	2(3)(3-3)ア	2(4)エ		東大地震研
Ichihara, M., M. Ripepe, A. Goto, H. Oshima, H. Aoyama, M. Iguchi, K. Tanaka, and H. Taniguchi	2009	Airwaves generated by an underwater explosion: Implications to volcanic infrasound	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB005792	○	2(3)(3-3)ア	2(4)エ		東大地震研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Tanaka, H.K.M., T. Uchida, M. Tanaka, M. Takeo, J. Oikawa, T. Ohminato, Y. Aoki, E. Koyama and H.Tsuji	2009	Detecting a mass change inside a volcano by cosmic-ray muon radiography (muography): First results from measurements at Asama volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2009GL039448	○	2 (3) (3-3) ア	3 (3) ア	宇宙線を用いて透視画像を得るためのリアルタイム観測を実施するシステムを開発し、浅間山において2方向から運用した。2009年2月の浅間山微噴火の前後での火道近傍の密度構造変化から、水蒸気爆発が発生していることを確認した。透視画像は噴火推移予測のための資料として提供された。	東大地震研
Nogami, K., M. Iguchi, K. Ishihara, J. Hirabayashi, and D. Miki	2006	Behavior of fluorine and chlorine in volcanic ash of Sakurajima volcano, Japan in the sequence of its eruptive activity	Earth Planets Space	58	595-600	○	2 (3) (3-3) ア		桜島の火山灰中のフッ素および塩素の濃度変化と噴火の推移の関連を示した論文	東工大流体・京大防災研
Kanda, W., M. Utsugi, Y. Tanaka, T. Hashimoto, I. Fujii, T. Hasenaka, N. Shigeno	2010	A heating process of Kuchi-erabu-jima volcano, Japan, as inferred from geomagnetic field variations and electrical structure	J. Volcanol. Geotherm. Res.	189	158-171	○	2 (3) (3-3) ア	2 (2) (2-2) ア	火山活動に伴う全磁力変動源と比抵抗構造との解析によって 口永良部島火山の熱水系とその熱源の変動を明らかにした。	東工大流体・北海道大・京大理・京大防災研
Meilano, I., F. Kimata, and N. Fujii	2006	Time Dependent of Magma Intrusion Model During the Early Stage of The 2000 Miyakejima Activity	J. Volcanol. Geotherm. Res.	150	202-212	○	2 (3) (3-3) ア			名古屋大
Morita Y., S. Nakao and Y. Hayashi	2006	A quantitative approach to the dike intrusion process inferred from a joint analysis of geodetic and seismological data for the 1998 earthquake swarm off the east coast of Izu Peninsula, central Japan	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005JB003860	○	2 (3) (3-3) ア			名古屋大
Murase, M., M. Irwan, S. Kariya, T. Tabei, T.Okuda, R. Miyajima, J. Oikawa, H. Watanabe, T.Kato, and S. Nakao	2006	Time Dependent Model of Magma Intrusion in and around Miyake and Kozu Islands, Central Japan in June-August, 2000	J. Geophys. Res.	150	213-231	○	2 (3) (3-3) ア			名古屋大
井口正人・横尾亮彦・為栗 健	2010	桜島昭和火口噴火の規模について	京都大学防災研究所年報	51B	233-240		2 (3) (3-3) ア			京大防災研
Yokoo, A. and M. Iguchi	2010	Swelling of crater bottom as a part of eruption processes at Suwanosejima volcano, Japan: Using an alternative signal of infrasound wave recorded on eruption movie	J. Volcanol. Geotherm. Res.	196	287-294	○	2 (3) (3-3) ア			京大防災研
横尾亮彦・為栗健	2009	地球物理観測による桜島昭和火口の噴火プロセスへの一考察	京都大学防災研究所年報	52B	319-322		2 (3) (3-3) ア			京大防災研
立尾有騎・井口正人	2009	桜島におけるBL型地震群発活動に伴う地盤変動	火山	53	175-186	○	2 (3) (3-3) ア			京大防災研
Yokoo, A., T. Tameguri and M. Iguchi	2009	Swelling-up of lava plug associated with Vulcanian eruption at Sakurajima volcano, Japan, as revealed by infrasound record-Case study on eruption on January 2, 2007	Bull. Volcanol.	71	619-630	○	2 (3) (3-3) ア			京大防災研
Maryanto, S., M. Iguchi and T. Tameguri	2008	Constraints on source mechanism of harmonic tremor based on seismological, ground deformation and visual observations at Sakurajima Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	170	198-217	○	2 (3) (3-3) ア		桜島のハーモニック微動を2種類に分類し、卓越周波数の変化とそれに伴う表面現象から火道内の状態を推察した。	京大防災研
Iguchi, M., H. Yakiwara, T. Tameguri, M. Hendrasto and J. Hirabayashi	2008	Mechanism of explosive eruption revealed by geophysical observations at the Sakurajima, Suwanosejima and Semeru volcanoes	J. Volcanol. Geotherm. Res.	178	1-9	○	2 (3) (3-3) ア		火山爆発は先行する火山体の膨張と噴火に伴う収縮を伴う。爆発発生直前に膨張から収縮に転換するが、その時に、小規模な収縮と小規模で急激な膨張を伴う。小規模な収縮は上昇したマグマの過剰圧による火道最先端に形成されたガス溜まりからのガスの逸脱、小収縮はガスの逸脱による減圧により引き起こされたマグマの急激な発泡と解釈される。	京大防災研・東北大・東工大流体

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Morrissey, M., M. Garces, K., Ishihara, and M. Iguchi	2008	Analysis of Infrasonic and Seismic Events Related to the 1998 Vulcanian Eruption at Sakurajima	J. Volcanol. Geotherm. Res.	175	315-324	○	2(3)(3-3) ア			京大防災研
Kuswandarto, H., M. Iguchi and M. Hendrasto	2008	Automatic and Real-time Processing of Tilt Records for Prediction of Explosions at Semeru Volcano, East Java	Indonesia Jour. Phys.	19	69-74	○	2(3)(3-3) ア			京大防災研
Tameguri, T., S. Maryanto and M. Iguchi	2007	Source mechanisms of harmonic tremors at Sakurajima volcano	Bull. Volcanol. Soc. Jpn	52	273-279	○	2(3)(3-3) ア			京大防災研
Umakoshi, K., N. Takamura, N. Shinzato, K. Uchida, N. Matsuwo, H. Shimizu	2008	Seismicity associated with the 1991-1995 dome growth at Unzen Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	175	91-99	○	2(3)(3-3) ア	2(2)(2-2) ア		九州大
Y. Fujinawa, T. Matsumoto and H. Iitaka, K. Takahashi, H. Nakano, T. Doi, T. Saito, N. Kasai, S. Sato	2006	Earliest detection of magma movements by measuring transient streaming potentials	Physics and Chemistry of the Earth	31	223-233	○	2(3)(3-3) ア	2(2)(2-2) ア		防災科研
Y. Ishimine	2006	Sensitivity of the dynamics of volcanic eruption columns to their shape	Bull. Volcanol.	68	516-537	○	2(3)(3-3) ア	2(2)(2-2) ア		防災科研
Y. Ishimine	2007	A simple integral model of buoyancy-generating plumes and its application to volcanic eruption columns	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004274	○	2(3)(3-3) ア	2(2)(2-2) ア		防災科研
Eisuke FUJITA	in press	Strategy for lava flow disaster mitigation: Implication from numerical simulations. LavaFlow: Eruptions, Features and Hazards	Nova Science Publishers				2(3)(3-3) ア	2(2)(2-2) ア		防災科研
Fujita, E., Araki, K and Nagano, K.	2011	Volcanic Tremor Induced by Gas-Liquid Two-phase flow: Implications of Density Wave Oscillation	J. Geophys. Res.	116	B09201, doi:10.1029/2010JB008068	○	2(3)(3-3) ア	2(3)(3-3) イ		防災科研
Fujita, E.	2008	Banded tremor at Miyakejima volcano, Japan: Implication for two-phase flow instability	J. Geophys. Res.	113	10.1029/2006JB004829	○	2(3)(3-3) ア	2(3)(3-3) イ		防災科研
Kobayashi, T., Ohminato, T., Ida, Y. and Fujita, E.	2008	Very long period seismic signals observed before the caldera formation with the 2000 Miyakejima volcanic activity, Japan	J. Geophys. Res.	114	10.1029/2007JB005557	○	2(3)(3-3) ア	2(3)(3-3) イ		防災科研
Ueda, H., T. Matsumoto, E. Fujita, M. Ukawa, E. Yamamoto, Y. Sasai, M. Irwan, and F. Kimata	2006	Geomagnetic changes associated with the dike intrusion during the 2000 Miyakejima eruptive activity, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	245	416-426	○	2(3)(3-3) ア	2(3)(3-3) イ		防災科研・名古屋大
Kozono T. and Koyaguchi T.	2009	Effects of relative motion between gas and liquid on 1-dimensional steady flow in silicic volcanic conduits: An analytical method	J. Volcanol. Geotherm. Res.	180	21-36	○	2(3)(3-3) ア	2(2)(2-2) ア		防災科研
小園誠史・三谷典子	2006	一次元定常火道流のモデリング・総説	岩石鉱物科学	35	166-176		2(3)(3-3) ア	2(2)(2-2) ア		防災科研
Urai, Minoru., N. Geshi, and T. Staudacher,	2007	Size and volume evaluation of the caldera collapse on Piton de la Fournaise volcano during the April 2007 eruption using ASTER stereo imagery	Geophys. Res. Lett.	34	1-7 doi:10.1029/2007GL031551	○	2(3)(3-3) ア			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Geshi, N. and T. Oikawa,	2008	Phreatomagmatic eruptions associated with the caldera collapse during the Miyakejima 2000 eruption, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	176	457-468	○	2(3)(3-3)ア		三宅島火山2000年噴火の噴出物の野外調査および構成粒子の解析により、カルデラ形成に伴うマグマ水蒸気噴火のメカニズムのモデルを提唱した。三宅島2000年噴火ではカルデラ形成による荷重の除去がマグマ水蒸気を誘発した要因のひとつであることを提唱した。	産総研
Mori, T., Y. Sdo, S. Yoshikawa, and T. Tsutsui,	2008	Characteristics of isolated hybrid tremor (HBT) during a calm activity period at Aso Volcano	Bull. Volcanol.	70	1031-1042	○	2(3)(3-3)ア			産総研
Geshi, N., and Shinohara, H.	2010	三宅島火山の連続脱ガスに伴う小噴火噴出物に含まれる玄武岩本質物から推測する火道内マグマプロセス	火山	55	241-250	○	2(3)(3-3)ア	2(3)(3-3)イ		産総研
Miura, D., R. Furukawa, T. Oikawa, K. Mannen, N. Geshi, and Y. Nagahashi	2010	Active collapse calderas in the world	J. Geol. Soc. Jap.	116	XIII-XIV	○	2(3)(3-3)ア	2(3)(3-3)イ		産総研
Saito, G., Y. Morishita, and H. Shinohara,	2010	Magma plumbing system of the 2000 eruption of Miyakejima volcano, Japan, deduced from volatile and major component contents of olivine-hosted melt inclusions	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/	○	2(3)(3-3)ア	2(3)(3-3)イ		産総研
下司信夫・宝田晋治・筒井正明・森 健彦・小林哲夫	2010	霧島火山新燃岳2008年8月22日噴火の噴出物	火山	55	53-64	○	2(3)(3-3)ア	2(3)(3-3)イ	霧島火山新燃岳2008年8月22日噴火の噴出物について野外調査に基づきその特徴及び噴出量を報告した。	産総研
Geshi, N., N. Karoly, and T. Oikawa,	2011	Growth of phreatomagmatic explosion craters: A model inferred from Suoana crater in Miyakejima Volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	201	30-38	○	2(3)(3-3)ア	2(3)(3-3)イ	三宅島すおう穴火口の断面から、マール火口-ダイアトリーム系の発達過程モデルを提唱する。	産総研
M. Ohno, H. Sumino, P. A. Hernandez, T. Sato and K. Nagao	2011	Helium isotopes in the Izu Peninsula, Japan: Relation of magma and crustal activity	J. Volcanol. Geotherm. Res.	199	118-126	○	2(3)(3-3)ア	2(1)エ		産総研
<b>イ. 噴火の推移と多様性の把握</b>										
岡崎紀俊・廣瀬亘・石丸聡・田近淳・村山泰司・田村慎・柴田智郎・秋田藤夫・岡孝雄・高橋浩晃・一柳昌義・山口照寛・笠原稔	2007	2006年3月21日に小噴火した雌阿寒岳の観測報告	北海道立地質研究所報告	78	83-91		2(3)(3-3)イ	2(2)(2-2)ア		北海道大
石丸聡・田村慎・廣瀬亘・村山泰司・岡崎紀俊・柴田智郎・中川光弘・吉本充宏・長谷川健・上澤真平・西本潤平・小杉安由美・松本亜希子・馬場彰・佐々木寿・高橋浩晃・一柳昌義・山口照寛・河野裕希・本多亮・笠原稔・札幌管区気象台・釧路地方気象台・網走地方気象台	2009	2008年11月に噴火した雌阿寒岳の調査報告	北海道立地質研究所報告	80	115-126		2(3)(3-3)イ	2(3)(3-3)ア		北海道大
橋本武志・宇津木充・中塚 正・大熊茂雄・小山崇夫・神田 径・鈴木敦生	2010	繰り返し空中磁気測量で検出された有珠山の全磁気変化	Conductivity Anomaly 研究会論文集		155-163		2(3)(3-3)イ			北海道大
Aoyama, H., S. Onizawa, T. Kobayashi, T. Tameguri, T. Hashimoto, H. Oshima and H. Y. Mori	2009	Inter-eruptive volcanism at Usu volcano: Micro-earthquakes and dome subsidence	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	203-217	○	2(3)(3-3)イ		1977-82年噴火活動終息後に比べて高い状態にある有珠山の2000年噴火終息後の地震活動について、臨時地震観測結果や干渉Sar解析結果、既存の研究成果を併せて検討し、この状態は、2000年噴火と無関係に、1995年ころから始まる活動の延長線上にあり、1977-82年噴火で有珠山頂部直下に貫入したマグマの延性-脆性転移で説明されることを示し、貫入マグマの長期的な状態変化を議論した論文である。	北海道大・産総研
橋本武志・宇津木充・小森省吾	2009	米塚スコリア丘の内部構造	第4回阿蘇火山の集中総合観測		43-55		2(3)(3-3)イ			北海道大・京大理

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
小池哲司・長谷川浩・藤井郁子・橋本武志	2009	有珠山西山火口群での全磁力測量	北海道大学地球物理学研究報告	72	117-124		2(3)(3-3) イ			北海道大
寺田暁彦・鍵山恒臣・松島喜雄・吉川 慎・吉川章文・小山 寛・山崎伸行・平松秀行・大島弘光	2009	有珠火山2000年新山からの総放熱率	北海道大学地球物理学研究報告	72	139-157		2(3)(3-3) イ			北海道大
寺田暁彦・鍵山恒臣・吉川 慎・吉川章文・小山 寛・山崎伸行・平松秀行・大島弘光	2009	氷を用いた噴気地からの放熱率評価 - 有珠火山2000年新山西山噴気地での観測実験 -	北海道大学地球物理学研究報告	72	125-138		2(3)(3-3) イ			北海道大
Hashimoto, T., T. Hurst, A. Suzuki, T. Mogi, Y. Yamaya and M. Tamura	2008	The role of Thermal Viscous Remanent Magnetisation (TVRM) in magnetic changes associated with volcanic eruptions: insights from the 2000 eruption of Mt Usu, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	176	610-616	○	2(3)(3-3) イ		有珠山の2000年新山地域で行った全磁力観測から2つの帯磁源を見だし、表面熱活動の消長や浅部地下構造を加味して、波長の長い変化は貫入マグマの冷却帯磁で、短波長の変化は浅部に分布が想定される逆帯磁岩体の熱粘性磁化獲得で説明し、2000年新山の地下磁気構造モデルを提案した論文である。特に掘削探査で逆帯磁岩体が確認されれば、熱粘性磁化獲得モデルについては世界的にも数少ない観測研究となる。	北海道大
Terada, A., T. Kagiya, H. Oshima	2008	Ice Box Calorimetry: A handy method for estimation of heat discharge rates through a steaming ground	Earth Planets Space	60	699-703	○	2(3)(3-3) イ		一定量の氷の融解時間から放熱量を推定する方法を実験的、理論的な検討を通して実用化するとともに、この方法を2000年噴火活動終息後に発達した2000年新山の地熱異常域で用いて、2005年以降の放熱量が1様減少にあることを明らかにした論文である。加えて放熱量の減少率を、1977-82年の噴火後に山頂部で発達した地熱異常域での放熱量減少率と比較し、貫入マグマの大きさや状態変化についても議論している。	北海道大
寺田暁彦・大島弘光・松島喜雄・鍵山恒臣	2008	有珠火山2000年新山からの総放熱率とその変遷 - 1977年噴火後のマグマ冷却過程との比較 -	日本地熱学会誌	30	259-270	○	2(3)(3-3) イ			北海道大・京大理
寺田暁彦・橋本武志	2008	阿蘇の火口湖「湯だまり」が1,500年間も維持されている理由	月刊地球号外	60	121-132		2(3)(3-3) イ			北海道大
青山 裕・鬼澤真也・為栗 健・鈴木敦生・前川徳光・大島弘光・森 濟・橋本武志・志賀 透・小山 寛・中橋正樹・吉川章文・福山由朗	2007	臨時稠密地震観測で見てきた有珠山の微小地震活動	北海道大学地球物理学研究報告	70	107-121		2(3)(3-3) イ			北海道大・産総研
小池哲司・長谷川浩・藤井郁子・大和田毅・徳本哲男・大川隆志・橋本武志	2007	有珠山西山火口群での全磁力測量	Conductivity Anomaly 研究会 論文集		130-135		2(3)(3-3) イ			北海道大
中塚 正・宇津木充・大熊茂雄・田中良和・浅間山電磁気構造探査グループ・橋本武志	2007	浅間火山2005年空中磁気異常の1992年 データとの比較	Conductivity Anomaly 研究会 論文集		120-125		2(3)(3-3) イ			北海道大
岡崎紀俊・大津 直・広瀬 亘・石丸 聡・田村 慎・川上源太郎・田近 淳・高橋浩晃・橋本武志・茂木 透・笠原 稔	2007	有珠山の地殻変動予測に関する研究	北海道立地質研究所調査研究報告	35	162		2(3)(3-3) イ			北海道大
Okada, J.	2006	Magma intrusion modeled by shallow inflation and deep deflation sources. An application to Mt. Usu, Japan.	Geophys. Bull. Hokkaido Univ.	69	191-206		2(3)(3-3) イ			北海道大
大島弘光	2006	北海道のカルデラ - カルデラの重力異常 -	月刊地球	28	103-109		2(3)(3-3) イ			北海道大
Murase, M., T. Ito, Y. Hayashi, T. Sagiya, F. Kimata and H. Watanabe	2010	Spatio-temporal distribution of magma intrusions inducing repeated earthquake swarms off the east coast of the Izu peninsula, central Japan, for 1973-1998	J. Volcanol. Geotherm. Res.	193	25-36	○	2(3)(3-3) イ			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Murase, M., K. Ono, T. Ito, R. Miyajima, H. Mori, H. Aoyama, H. Oshima, Y. Yoshida, A. Terada, E. Koyama, T. Takeda, H. Watanabe, F. Kimata, and N. Fujii	2007	Time-dependent model for volume changes in pressure sources at Asama volcano, central Japan due to vertical deformations detected by precise leveling during 1902-2005	Journal of Volcanology and Geothermal Research	164	54-75	○	2(3)(3-3)イ			名古屋大・北海道大
鍵山恒臣	2008	噴火卓越型火山活動と地熱活動卓越型火山活動—新しい視点で見る火山活動—	日本地熱学会誌	30	193-204	○	2(3)(3-3)イ	1(2)(2-2)ア	火山活動には、比較的噴火活動が卓越する場合と噴火せず地熱活動が卓越する場合の両極端に代表される多様性があることを明らかにし、その多様性がマグマからの揮発性成分の脱ガスや地価の密度構造、応力場の違いによってもたらされている可能性があることを指摘した。	京都大理学研究科
Komori, S., Kagiya, T., Hoshizumi, H., Takakura, S. and Mimura, M.	2010	Vertical mapping of hydrothermal fluids and alteration from bulk conductivity: Simple interpretation on the USDP-1 site, Unzen Volcano, SW Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	198	339-347	○	2(3)(3-3)イ		電磁気構造調査によって観測される電気伝導度を間隙水の電気伝導度と岩石のマトリックス部分の電気伝導度に分離する手法を開発した。この手法を適用することで、マグマから発散される揮発性成分の量を電磁気構造調査によって明らかにする道が開かれた。	京都大理学研究科
小森省吾・鍵山恒臣・宇津木 充・寺田暁彦・井上寛之・スリグトモ ワヒュー・田中良和・星住英夫	2008	雲仙火山北東部における浅部比抵抗域と熱水の関係	火山	53	131-136	○	2(3)(3-3)イ			京都大理学研究科・産総研
Srigutomo, W., Kagiya, T., Kanda, W., Mune Kane, H., Hashimoto, T., Tanaka, Y., Utada, H. and Utsugi, M.	2008	Resistivity structure of Unzen Volcano derived from Time Domain Electromagnetic (TDEM) survey.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	175	231-240	○	2(3)(3-3)イ			京都大理学研究科・北海道大
Kagiya, T., Utsugi, M., Chen, C-H., Yoshikawa, S. and Miyabuchi, Y.	2010	Conductivity distribution of the surface layer around Tatun Volcanic group, Taiwan - For understanding preparing process of large-scale low-frequency eruptions -	Annual Rep. Inst. Geotherm. Sci. Kyoto Univ.	FY2009	49-51		2(3)(3-3)イ			京都大理学研究科
福井理作・清水 洋	2009	阿蘇栃木・垂玉温泉における二酸化炭素・水温観測	第4回阿蘇火山の集中総合観測		157-164		2(3)(3-3)イ	2(2)(2-2)ア		九州大
石峯康浩	2007	火山研究への貢献が期待される多様なコンピュータシミュレーション	火山	52	221-239	○	2(3)(3-3)イ	2(2)(2-2)ア		防災科研
Fujita, E.	2010	Strategy for Lava Flow Disaster Mitigation: Implication of Numerical Simulations	Lava Flow: Eruptions, Features and Hazards, Nova Science Publishers, Inc.			○	2(3)(3-3)イ	2(2)(2-2)イ		防災科研
Proietti, C., Coltelli, M., Marsella, M. And Fujita, E.	2009	A quantitative approach for evaluating lava flow simulation reliability: LavaSIM code applied to the 2001 Etna eruption	Geochem. Geophys. Geosyst.	10	doi:10.1029/2009GC002426	○	2(3)(3-3)イ	2(2)(2-2)イ		防災科研
Fujita, E., Hidaka, M., Goto, A., Umino, S.	2008	Simulations of counteraction to lava flow control	Bull. Volcanol.	71	401-408	○	2(3)(3-3)イ	2(2)(2-2)イ		防災科研
新田恵理子・木股三善・星野美保子・越後拓也・濱崎聡志・篠原宏志・西田憲正・八田珠郎・清水雅浩	2006	薩摩硫黄島硫黄岳に産する高温火山昇華物	岩石鉱物科学	35	270-281	○	2(3)(3-3)イ			産総研
Saha, M., Y. Nishida, T. Mogi, S. Takakura, and N. Matsushima,	2007	Development of Geothermal Field following the 2000 Eruption of Usu Volcano as Revealed by Ground Temperature, Resistivity and Self-potential Variations	Ann. Geophys. - Italy	50	79-92	○	2(3)(3-3)イ			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Hshinohara, H., T. Oba, K. Kazahaya, and H. Takahashi,	2008	Origin of volcanic gases discharging from a cooling lava dome of Unzen volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	174	295-306	○	2(3) (3-3)イ			産総研・東工大流体
Ishizuka, O.	2008	Volcanic and tectonic framework of the hydrothermal activity of the Izu-Bonin arc	Resour. Geol.	58	206-219	○	2(3) (3-3)イ			産総研
Sato, T., I. Machida, M. Takahashi, T. Nakamura	2006	Geochemical changes in spring water associated with the 2000 eruption of Miyakejima volcano, Japan	Pure Appl. Geophys.	163	809-823	○	2(3) (3-3)イ	2(3) (3-3)ア		産総研
(4) 地震発生・火山噴火素過程										
ア. 岩石の変形・破壊の物理的・化学的素過程										
Kawada, Y. and H. Nagahama	2006	Cumulative Benioff strain-release, modified Omori's law and transient behaviour of rocks	Tectonophys.	424	157-166	○	2(4)ア			東北大
Kawada, Y., H. Nagahama, and H. Hara	2006	Irreversible thermodynamic and viscoelastic model for power-law relaxation and attenuation of rocks	Tectonophys.	427	255-263	○	2(4)ア			東北大
矢部康男	2006	異方性を有する断層破砕帯における「弱い断層」と「最適なすべり面」に関する考察	地震	58	407-409	○	2(4)ア			東北大
Yabe, Y.	2008	Evolution of source characteristics of AE events during frictional sliding	Earth Planets Space	60	e5-e8	○	2(4)ア		摩擦すべりに伴って発生するAEの波形を広帯域センサーで観測し、AEの震源パラメーターの累積すべり量依存性を明らかにした。AEの深淵サイズはすべり量にほとんど依存しないが、累積すべり量の増加に伴い応力降下量は減少した。このことと、以前の研究成果とを合わせると、摩擦すべりに伴うAEの震源サイズは、実験に用いた岩石の鉱物粒径によって規定される長波長の断層面形状に依存するが、応力降下量は短波長の断層面形状（粗さ）に依存していることが示唆される。	東北大
Hara J. and N. Tsuchiya	2009	Chemical modification of pyroclastic rock by hot water: an experimental investigation of mass transport at the fluid solid interface.	Geofluids	9	24-38	○	2(4)ア			東北大
Nemoto, K., N. Watanabe, N. Hirano, and N. Tsuchiya	2009	Direct measurement of contact area and stress dependence of anisotropic AEow through rock fracture with heterogeneous aperture distribution.	Earth Planet. Sci. Lett.	281	81-87	○	2(4)ア			東北大
Okamoto, A. and N. Tsuchiya	2009	Velocity and vertical fluid ascent within vein-forming fractures.	Geology	37	563-566	○	2(4)ア		き裂内での石英の核成長速度とその結果生じた結晶粒子の沈降速度との兼ね合いを関数化し、自形結晶を生じて沈積する石英からなる鉱物脈の形成プロセスを明らかにした。その結果、鉱物脈内の流体の移動速度は、数cm/sと推定することができた。この結果は、地殻内における流体の移動速度を鉱物学的視点から解明した新たな試みである。	東北大
Watanabe, N., N. Hirano, and N. Tsuchiya.	2009	Diversity of channeling flow in heterogeneous aperture distribution inferred from integrated experimental-numerical analysis on flow through shear fracture in granite.	J. Geophys. Res.	114	1-17	○	2(4)ア		岩石き裂内の流体流動を実験と数値計算の両面から検討し、引張り裂にせん断変位を与えた場合の封圧下での流体流動は、優先流路を選択的に流れるチャネリングフローであることを明らかにして、その特性を封圧とせん断変位を変化させて克明に明らかにすることに成功した。スケール規模ははるかに小さいが、断層面、およびアスペリティー周辺での流体流動の特性を検討する足がかりを得た。	東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Okamoto, A., H. Saishu, N. Hirano, and N. Tsuchiya	2010	Mineralogical and textural variation of silica minerals in hydrothermal flow-through experiments: Implications for quartz vein formation	Geochimica Cosmochimica Acta	74	3692-3706	○	2(4)ア			東北大
Takahara, K., J. Muto, and H. Nagahama	2010	Skin depth of electromagnetic wave through fractal crustal rocks	IEEJ Trans. FM.	130	258-264	○	2(4)ア			東北大
Muto, J.	2011	Rheological structure of northeastern Japan lithosphere based on geophysical observations and rock mechanics	Tectonophys.	503	201-206	○	2(4)ア	2(1)オ	近年の地球物理学的観測や岩石力学的実験の結果を統合した東北日本弧の強度断面を作成した。測地学的に得られた東西短縮歪み速度において、計算された強度断面は、測地学的に得られた奥羽山脈への歪集中や微小地震の浅発化を予測する。このような強度の弱い領域は、地震後の余効変動や地震に先立つ断層への応力集中機構そして既存断層の再活動を引き起こすことを示した。	東北大
Muto, J., G. Hirth, R., Heilbronner, and J. Tullis	2011	Plastic anisotropy and fabric evolution in sheared and recrystallized quartz single crystals	J. Geophys. Res.	116	doi:10.1029/2010JB007891.	○	2(4)ア	2(4)イ	岩石鉱物の塑性変形時に発達する結晶格子定向配列 (LPO) に伴う岩石の強度低下 (幾何学軟化) を明らかにするために、人工水晶単結晶を用いて、様々な方位でせん断変形をおこない、歪と動的再結晶の進行に伴うLPOの発達を調べた。様々な方位でせん断変形しても、高歪下では歪楕円のY軸方向にc軸が向くY集中LPOとなる。このLPO形成に伴い、石英多結晶体の粘性率は1桁程度減少することから、LPO形成による地殻軟化の可能性を指摘した。	東北大
Nakatani, M. and Scholz, C.H.	2006	Intrinsic and apparent short-time limits for fault healing: Theory, observations, and implications for velocity-dependent friction	J. Geophys. Res.	111	doi:10.1029/2005JB004096	○	2(4)ア	2(3)(3-1)イ		東大地震研
中谷正生・永田広平	2009	速度・状態依存摩擦とその物理	地震	61	S563-S573	○	2(4)ア	2(3)(3-1)イ		東大地震研
Hori, T., H. Sakaguchi, N. Yoshioka, and Y. Kaneda	2007	Shear resistance reduction due to vibration in simulated fault gouge	AGU monograph, Radiated energy and the Physics of Earthquake Faulting	170	135-142	○	2(4)ア	2(3)(3-1)イ		東大地震研
吉田真吾・永田広平・中谷正生	2007	速度・状態依存摩擦則の物理	物性研究	88	254-260		2(4)ア	2(3)(3-1)イ		東大地震研
Yoshioka, N and Sakaguchi, H.	2006	An experimental trial to detect nucleation process by transmission waves across a simulated faults with a gouge layer	Advances in Geosciences	1	105-116	○	2(4)ア	2(3)(3-1)イ		東大地震研
Kadono, T., K. Saruwatari, J. Kameda, and H. Tanaka	2006	Surface roughness of alumina fragments caused by hypervelocity impact	Planetary and Space Science	54	212-215	○	2(4)ア	2(3)(3-2)ア		東大地震研
清水以知子	2006	構造地質学における実験技術	構造地質	49	1-4	○	2(4)ア	2(4)イ		東大地震研
Michibayashi, K. and Murakami, M.	2007	Development of a shear band cleavage as a result of strain partitioning	J. Structural Geol.	29	1070-1082	○	2(4)ア	2(4)イ		東大地震研
Okamoto, A. and Michibayashi, K.	2006	Misorientation of garnet aggregate within a vein: Implications for timescale of vein formation during metamorphism	J. of Metamorphic geology	24	353-366	○	2(4)ア	2(4)イ		東大地震研
道林克禎	2006	かんらん岩の構造解析と地球内部のレオロジー	日本レオロジー学会誌	34	291-300	○	2(4)ア	2(4)イ		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Michibayashi, K., T. Hirose, T. Nozaka, Y. Harigane, J. Escatrin, H. Delius, M. Linek, and Y. Ohara	2008	Hydratation due to high-T brittle fracture within in-situ oceanic crust, 30° N Mid-Atlantic Ridge	Earth Planet. Sci. Lett.	275	348-354	○	2(4)ア	2(2)(2-1)		東大地震研
Shimizu, I.	2008	Theories and applicability of grain size piezometers: The role of dynamic recrystallization mechanisms	J. Structural Geol.	30	899-917	○	2(4)ア	2(2)(2-1)		東大地震研
Harigane, Y., K. Michibayashi and Y. Ohara	2010	Amphibolitization within the lower crust in the termination area of the Godzilla Megamullion, an oceanic core complex in the Parece Vela Basin	Island Arc	19	718-730	○	2(4)ア	2(2)(2-1)		東大地震研
Harigane, Y., K. Michibayashi and Y. Ohara	2011	Relicts of deformed lithospheric mantle within serpentinites and weathered peridotites from the Godzilla Megamullion, Parece Vela Back-Arc Basin, Philippine Sea	Island Arc	20	174-187	○	2(4)ア	2(2)(2-1)		東大地震研
Harigane, Y., K. Michibayashi, and Y. Ohara	2008	Shearing within lower crust during progressive retrogression: structural analyses of gabbroic rocks from the Godzilla Mullion, an oceanic complex in Parece Vela backarc basin	Tectonophys.	457	183-196	○	2(4)ア	2(2)(2-1)		東大地震研
Masuda, T., T. Miyake, M. Enami	2011	Ultra-high residual compressive stress (> 2 GPa) in a very small volume (< 1 μm <sup>3</sup> ) of indented quartz	American Mineralogist	96	283-287	○	2(4)ア	2(2)(2-1)		東大地震研
Hatano, T.	2009	Growing length and time scales in a suspension of athermal particles	Phys. Rev. E	79	doi:10.1103/PhysRevE.79.050301	○	2(4)ア	2(3)(3-1)イ		東大地震研
Noda, H., Kanagawa, K., Hirose, T. and Inoue, A.	in press	Frictional experiments of dolerite at intermediate slip rates with controlled temperature: Rate-weakening or temperature-weakening?	J. Geophys. Res.	116	doi:10.1029/2010JB007945	○	2(4)ア	2(3)(3-2)ア		東大地震研
Hiraga, T., T. Miyazaki, M. Tasaka and H. Yoshida	2010	Mantle superplasticity and its self-made demise	Nature	468	1091-1094	○	2(4)ア	2(2)(2-1)		東大地震研
Takei, Y. and Holtzman, B. K.	2009	Viscous constitutive relations of solid-liquid composites in terms of grain boundary contiguity: 3. Causes and consequences of viscous anisotropy	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB005852	○	2(4)ア	2(4)イ		東大地震研
Takei, Y. and Hier-Majumder, S.	2009	A generalized formulation of interfacial tension driven fluid migration with dissolution/precipitation	Earth Planet. Sci. Lett.	288	138-148	○	2(4)ア	2(4)イ		東大地震研
Takei, Y.	2010	Stress-induced anisotropy of partially molten rock analogue deformed under quasi-static loading test	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2009JB006568	○	2(4)ア	2(4)イ		東大地震研
Shimizu, I.	in press	Steady-state grain size in dynamic recrystallization of minerals	Recrystallization			○	2(4)ア	2(4)イ		東工大理



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Shimizu, I.	2011	Erratum to "Theories and applicability of grain size piezometers: The role of dynamic recrystallization mechanisms" [J Struct Geol 30 (2008) 899-917]	J. Structural Geol.	33	1136-1137	○	2(4)ア	2(4)イ		東工大理
Yoshimitsu, N., H. Kawakata, and N. Takahashi	2009	Broadband P waves transmitting through fracturing Westerly granite before and after the peak stress under a triaxial compressive condition	Earth Planets Space	61	e21-e24	○	2(4)ア	2(3)(3-1)ア	花崗岩試料の三軸圧縮破壊試験をおこない、試料の円筒軸方向に透過させたP波の速度と初動振幅の変化を調べた。その結果、初動振幅について、強度経過後に顕著な低下を示すことが明らかにされた。	立命館大
Yoshimitsu, N., and H. Kawakata	2011	Temporal Changes in the Q of Broadband P Waves Transmitting through a Fracturing Westerly Granite Sample under Triaxial Compressive Conditions	Bull. Seism. Soc. Am.	101	421-426	○	2(4)ア	2(3)(3-1)ア	花崗岩試料の三軸圧縮破壊試験をおこない、試料の円筒軸方向に透過させたP波の非弾性減衰パラメータQの変化を調べた。その結果、破壊に先行して明瞭にQが低下する、すなわち減衰が強くなることが明らかにされた。	立命館大
田村 肇	2009	機動的希ガス分析に向けて：希ガス元素分析における装置移動の影響評価の試み	JAMSTEC-R IFRREE特集号		41-49	○	2(4)ア	2(4)イ		JAMSTEC
Strasser, M., Moore, G.F., Kimura, G., Kitamura, Y., Kopf, A.J., et. Al.	2009	Origin and evolution of a splay fault in the Nankai accretionary wedge	Nature Geoscience	2	648-652	○	2(4)ア	2(4)イ	巨大分岐断層の起源と発展過程	JAMSTEC
Tudge, J., Lovell, M.A., Davies, S.J., Harvey, P.K., Saito, S., and Expedition 314 Scientists	2009	Petrophysically determined lithofacies at the Nankai Trough Accretionary Prism: NanTroSEIZE, IODP Expedition 314	J. Geol. Soc. (London)	166/5	961-968	○	2(4)ア	3(3)イ	検層で推定した付加帯中の岩相	JAMSTEC
Ayumu Miyakawa, Yasuhiro Yamada and Toshifumi Matsuoka	2009	Effect of increased shear stress along a plate boundary fault on the formation of an out-of-sequence thrust and a break in surface slope within an accretionary wedge, based on numerical simulations	Tectonophys.	484	127-138	○	2(4)ア	2(4)ウ	数値計算による断層の挙動の再現と観測データの比較	JAMSTEC
Ikari, M., Saffer D.M., and C. Marone	2009	Frictional and hydrologic properties of a major splay fault system, nankai subduction zone	Geophys. Res. Lett.	36/L2 0313	1-5	○	2(4)ア	2(1)ウ	巨大分岐断層の摩擦、水理学上特性	JAMSTEC
Hirono, T., Ujiie, K., Ishikawa, T., Mishima, T., Hamada, Y., et. Al.	2009	Estimation of temperature rise in a shallow slip zone of the megasplay fault in the Nankai Trough	Tectonophys.	478/3-4	215-220	○	2(4)ア	2(3)(3-2)ア	巨大分岐断層すべり面での温度上昇	JAMSTEC
Kitamura Y., Kanamatsu, T., Zhao, X.X.,	2010	Structural evolution in accretionary prism toe revealed by magnetic fabric analysis from IODP NanTroSEIZE Expedition 316	Earth Planet. Sci. Lett.	292/1-s	221-230	○	2(4)ア	2(1)ア	磁性鉱物配列が示す付加帯内の構造の形成過程	JAMSTEC
Riedinger, N., Brunner, B., Formolo, M.J., Solomon, E., Kasten, S., Strasser, M., and Ferdelman, T.G.	2010	Oxidative sulfur cycling in the deep biosphere of the Nankai Trough, Japan	Geology	14124	851-854	○	2(4)ア	2(4)イ	南海トラフ海底下生物圏での酸化性硫黄の循環	JAMSTEC
Milliken, K. L. and Reed, R. M.	2010	Multiple causes of diagenetic fabric anisotropy in weakly consolidated mud, Nankai Accretionary Prism, IODP Expedition 316	J. Structural Geol.	32	in press	○	2(4)ア	2(4)イ	南海付加帯の続成鉱物の配列異方性の成因について	JAMSTEC
Ujiie, K., and A. Tsutsumi	2010	High-velocity frictional properties of clay-rich fault gouge in a megasplay fault zone, Nankai subduction zone	Geophys. Res. Lett.	37		○	2(4)ア	2(4)イ	断層粘土の高速摩擦挙動	JAMSTEC
Hiroyuki Saito, Noriyuki Suzuki	2010	Distribution of acyclic and cyclic biphitanediols in recent marine sediments from IODP Site C0001, Nankai Trough	Organic Geochemistry	15220	1001-1004	○	2(4)ア	2(4)イ	海底下でのジオール類の周期的、非周期的分布	JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Hashimoto, Y., H. J. Tobin, and M. Knuth	2010	Velocity-porosity relationships for slope apron and accreted sediments in the Nankai Trough Seismogenic Zone Experiment, Integrated Ocean Drilling Program Expedition 315 Site C0001	Geochem. Geophys. Geosyst.	11		○	2(4)ア	2(4)イ	南海トラフ付加帯の速度-間隙率の相関	JAMSTEC
Inagaki, Fumio	2010	Deep seafloor microbial communities.	In: Encyclopedia of Life Sciences (ELS). John Wiley & Sons, Ltd, Chichester.			○	2(4)ア	2(4)イ	深部海底下微生物圏	JAMSTEC
Underwood, M.B., Saito, S., Kubo, Y. and the IODP Expedition 322 Scientists	2010	IODP Expedition 322 drills two sites to document inputs to the Nankai Trough subduction zone	Sci. Drill.	10	14-25		2(4)ア	2(4)イ	Exp 322結果概要	JAMSTEC
Doan, M-L, et al.	2011	Quantification of free gas in the Kumano fore-arc basin detected from borehole physical properties: IODP NanTroSEIZE drilling Site C0009	Geochem. Geophys. Geosyst.	12			2(4)ア	2(4)イ	熊野前弧海盆でのフリーガス	JAMSTEC
Ujii, K., A. Tsutsumi, and J. Kameda	2011	Reproduction of thermal pressurization and fluidization of clay-rich fault gouges by high-velocity friction experiments and implications for seismic slip in natural faults	in Geology of the earthquake source. The Geological Society Books			○	2(4)ア	2(4)イ	高速摩擦実験による断層粘土の熱圧力と液状化	JAMSTEC
Ikari, M., and Saffer, D.M.	2011	Slip Behavior of Fault Systems in the Nankai Convergent Margin	Geochem. Geophys. Geosyst.			○	2(4)ア	2(4)イ	南海沈み込み帯断層システムのすべり挙動	JAMSTEC
Takeshi Tsuji, Jack Dvorkin, Gary Mavko, Norimitsu Nakata, Toshifumi Matsuoka, Ayako Nakanishi, Shuichi Kodaira, and Osamu Nishizawa	2011	Vp/Vs ratio and shear-wave splitting in the Nankai Trough seismogenic zone: Insights into effective stress, pore pressure and sediment consolidation	Geophysics	27820	71-82	○	2(4)ア	2(4)イ	南海トラフのVp/Vs比と専断波	JAMSTEC
Sakaguchi, A. and 11 others	2011	Seismic slip propagation to the up-dip end of plate boundary subduction interface faults: Vitrinite reflectance geothermometry on Integrated Ocean Drilling Program NanTroSEIZE cores	Geology	39	395-398	○	2(4)ア	2(4)イ	ビトリナイト反射率による熱史と歪み破壊進行	JAMSTEC ・京大防災研
Aiuppa, A., R. Moretti, C. Federico, G. Giudice, S. Gurrieri, M. Liuzzo, P. Papale, H. Shinohara and M. Valenza,	2007	Forecasting Etna eruptions by real-time observation of volcanic gas composition	Geology	35	1115-1115	○	2(4)ア			産総研
篠原宏志	2007	三宅島噴火と火山ガス放出	科学	77	1264-1267		2(4)ア			産総研
Aiuppa, A., G. Giudice, M. Liuzzo, M. Burton, T. Caltabiano, A. S. McGonigle, H. Shinohara and M. Valenza,	2008	The total volatile flux from Mount Etna	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10.1029/2008GL035871	○	2(4)ア			産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Shinohara, H.	2008	Excess degassing from volcanoes and its role on eruptive and intrusive activity	Rev. Geophys.	46	doi:10.1029/2007RG000244	○	2(4)ア		火山ガスの放出量は噴火により地表に放出されるマグマにより地下から輸送される火山ガスの量は遙かに多い。噴火、非噴火時の火山ガス放出過程や実例を紹介しつつ、その意義を議論する。	産総研
Shinohara, H., A. Aiuppa, G. Giudice, S. Gurrieri, M. Liuzzo,	2008	Variation of H <sub>2</sub> O/CO <sub>2</sub> and CO <sub>2</sub> /SO <sub>2</sub> ratios of volcanic gases discharged by continuous degassing of Mt. Etna volcano, Italy	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005185	○	2(4)ア			産総研
Takeuchi, S., A. Tomiya, and S. Nakajima,	2008	Permeability measurements of natural and experimental volcanic materials with a simple permeameter: Toward an understanding of magmatic degassing processes	J. Volcanol. Geotherm. Res.	177	329-339	○	2(4)ア		マグマの脱ガス過程を考える上で重要なマグマのガス浸透率を測定するための透気試験装置を開発した。本透気試験装置は天然試料だけでなく、サイズの小さい実験試料の透気試験も行うことができる。	産総研
Shinohara, H.,	2009	A missing link between volcanic degassing and chloride partitioning experiments	Chemical Geology	263	51-59	○	2(4)ア			産総研
Takeuchi, S., A. Tomiya, and H. Shinohara,	2009	Degassing conditions for permeable silicic magmas: Implications from decompression experiments with constant rates	Earth Planet. Sci. Lett.	283	101-110	○	2(4)ア			産総研
Zambardi, T., J.E. Sonke, J.P. Toutain F. Sortino, and H. Shinohara	2009	Mercury emissions and stable isotopic compositions at Vulcano Island (Italy)	Earth Planet. Sci. Lett.	277	236-243	○	2(4)ア			産総研
Matsushima, N.	2011	Estimation of permeability and degassing depth of Iwodake volcano at Satsuma-Iwojima, Japan, by thermal observation and numerical simulation	J. Volcanol. Geotherm. Res.	202	167-177	○	2(4)ア		薩摩硫黄島硫黄岳の放熱分布及び火山ガスの分布等を熱水系シミュレーションにより解析し、マグマからの火山ガスの供給が浅部で生じている事を明らかにした。	産総研
Shinohara, H., J. Hirabayashi, and K. Nogami,	2011	Evolution of volcanic gas composition during repeated culmination of volcanic activity at Kuchinoerabujima volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	202	107-116	○	2(4)ア			産総研・東工大流体力学
Shinohara, H., N. Matsushima, K. Kazahaya, and M. Owada,	2011	Interaction of magmatic and hydrothermal systems at Meakandake volcano, Hokkaido, Japan	Bull. Volcanol.	73	409-421	○	2(4)ア			産総研
K. Kitamura, K. Mauda, M. Takahashi, and O. Nishizawa	2006	The influence of pore fluids on seismic wave velocities under high temperature and high pressure conditions - Development of a new technique with gas apparatus at AIST Japan -	Earth Planets Space	58	1515-1518	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
K. Mizoguchi, E. Fukuyama, K. Kitamura, M. Takahashi, K. Masuda, and K. Omura	2007	Depth dependent strength of the fault gouge at the Atotsugawa fault central Japan: a possible mechanism for its creeping motion	Phys. Earth Planet. Inter.	161	115-125	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
K. Mizoguchi, M. Takahashi, K. Masuda, E. Fukuyama	2007	Fault strength drop due to phase transitions in the pore fluid	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL029345	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
M. Takahashi, K. Mizoguchi, K. Kitamura, and K. Masuda	2007	Effects of clay content on the frictional strength and fluid transport property of faults	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004678	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
K. Mizoguchi, M. Takahashi W. Tanikawa K. Masuda S-R. Song W. Soh	2008	Frictional strength of fault gouge in Taiwan Chelungpu fault obtained from TCDP Hole B	Tectonophys.	460	198-205	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
A. M. Jobst, Masmann Amel Rejeb and S. Uehara	2009	Study of the initiation and propagation of excavation damaged zones around openings in argillaceous rock	Environmental Geology	57	1325-1335	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
Jobst Masmann Shin-ichi Uehara Amel Rejeb Alain Millard	2009	Investigation of desaturation in an old tunnel and new galleries at an argillaceous site	Environmental Geology	57	1337-1345	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
M. Aoya, T. Mizukami, S. Uehara and S. Wallis	2009	High-P metamorphism pattern of induced flow in the mantle wedge and the link with plutonism in paired metamorphic belts	Terra Nova	21	61-73	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
M. Takahashi K. Mizoguchi K. Masuda	2009	Potential of phyllosilicate dehydration and dehydroxylation reactions to trigger earthquakes	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB005630	○	2(4)ア	2(4)イ	粘土鉱物は比較的安定滑りを起こすことが知られているが一方でその鉱物内にある水が熱により脱水を起こすと急激にその性質を失うことになる。また脱水により発生した流体が断層空間内に閉じこめられていれば(非排水条件)、高い水圧の発生により断層は不安定になると考えられている。モンモリロナイトの層間水の脱水とカオリナイトの構造水の脱水の2種の脱水について、500度までの加熱による脱水の様式の違いや、強度変化について調べ、脱水による水圧の上昇を見積もった。	産総研
N. Shiegmatsu K. Fujimoto T. Ohtani B. Shibazaki T. Tomita H. Tanaka Y. Miyashita	2009	Localisation of plastic flow in the mid-crust along a crustal-scale fault: insight from the Hatagawa Fault Zone NE Japan	J. Structural Geol.	31	601-614	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
Shin-ichi Uehara and Toshihiko Shimamoto	2009	Contact analyses and permeability measurements of polished fracture surfaces in Sambagawa metapelitic schists and Ryoke mylonites from the Median Tectonic Line Japan	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB005744	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
佐藤 隆司・北川 有一・木口 努・塚本 斉・重松 紀生・板場 智史・佐藤 努・関 陽児・梅田 康弘・加藤 春貴・小泉 尚嗣	2009	東南海・南海地震予測のための地下水等観測点整備に伴う地殻応力測定(速報)	地質ニュース	662	38-41		2(4)ア	2(4)イ		産総研
佐藤隆司・雷 興林	2009	アコースティック・エミッションー地震発生過程解明のための実験的研究ー	地震	61	S535-S540	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
重松紀生・小泉尚嗣・藤本光一郎・古谷直人・田中伸明・竹下 徹・森 宏・Simon Wallis・木村希生	2009	中央構造線断層帯掘削とコアによる断層内部構造解析	地質ニュース	662	16-22		2(4)ア	2(4)イ		産総研
増田幸治	2009	地震発生メカニズムの解明に向けて 一実験室で断層深部の環境を再現するー	産総研 TODAY	9	18		2(4)ア	2(4)イ		産総研
増田幸治・佐藤隆司・重松紀生・高橋美紀・上原真一	2009	地震発生層における地震素過程の解明	地質ニュース	663	19-22		2(4)ア	2(4)イ		産総研
大坪 誠・重松紀生・北川有一・小泉尚嗣	2009	南海トラフ沈み込み帯前弧陸域での応力場変遷: 熊野市井内浦および紀北町海山観測点コアをきる断層面を用いて	地質学雑誌	115	457-469	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
Ito T. Satoh T. Kato H.	2010	Deep rock stress measurement by hydraulic fracturing method taking account of system compliance effect	Rock Stress and Earthquakes		43-49	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Keigo Kitamura Miki Takahashi Kazuo Mizoguchi Koji Masuda Hisao Ito and Sheng-Rong Song	2010	Effects of pressure on pore characteristics and permeability of porous rocks as estimated from seismic-wave velocities in cores from TCDP Hole-A	Geophys. J. Int.	182	1148-1160	○	2(4)ア	2(4)イ	空隙を含む岩石について、封圧を30MPaまで加える過程で、弾性波速度 (Vp, Vs) と透水係数を同時に測定し、それらの関係について明らかにした。試料には台湾Chelungpu断層掘削計画によって深度480-1320mより回収されたボーリングコアを用いた。断層帯周辺でのVp/Vsと輸送特定の関係が粒子の分別の程度に依存していることがわかった。	産総研
廣瀬文洋・高橋美紀	2010	蛇紋岩の摩擦特性と断層運動—研究レビューと最近の結果—	月刊地球	32	156-161		2(4)ア	2(4)イ		産総研
高橋美紀・上原真一・高橋学	2011	花崗岩を起源とする断層ガウジの剪断強度および水理特性	Journal of MMIJ (資源と素材)	127	165-168	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
上原真一・嶋本利彦・松本拓真・新里忠史・岡崎啓史・高橋美紀	2011	地下深部における新第三紀泥質軟岩中の亀裂の透水特性～室内試験による推定～	Journal of MMIJ (資源と素材)	127	139-144	○	2(4)ア	2(4)イ		産総研
<b>イ. 地殻・上部マントルの物性の環境依存性</b>										
Nishimoto, S., M. Ishikawa, M. Arima, Y. Yoshida, and J. Nakajima	2008	Simultaneous high P-T measurements of ultrasonic compressional and shear wave velocities in Ichino-megata mafic xenoliths: Their bearings on seismic velocity perturbations in lower crust of Northeast Japan arc	J. Geophys. Res.	113	B12212, doi:10.1029/2008JB005587	○	2(4)イ	2(1)ウ		東北大
熊澤峰夫・清水以知子	2006	日本における固体圧変形実験装置の開発と研究の系譜	構造地質	49	5-14	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
清水以知子・道林克禎・渡辺悠太・増田俊明・熊澤峰夫・清水以知子	2006	固体圧変形実験装置MK65Sの設計と性能；内部摩擦の評価	構造地質	49	15-26	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Michibayashi, K., N. Abe, A. Okamoto, T. Saruwatari, and K. Michikura	2006	Seismic anisotropy in the uppermost mantle, back-arc region of the northeast Japan arc: petrophysical analyses of Ichinomegata peridotite xenoliths	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL025812	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Michibayashi, K., T. Ina, and K. Kanagawa	2006	The effect of dynamic recrystallization on olivine fabric and seismic anisotropy: Insights from a ductile shear zone in the Oman ophiolite	Earth Planet. Sci. Lett.	244	695-708	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
植田直彦・道林克禎	2010	1GPa, 800°Cにおけるフリント中の石英多結晶体の結晶成長実験	静岡大学地球科学研究報告	37	21-26		2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
井元恒・道林克禎	2010	1GPa, 800°Cにおけるメノウ中の石英多結晶体の結晶成長実験	静岡大学地球科学研究報告	37	13-19		2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
井本恒・道林克禎・大内智博・中村美千彦	2008	ゾル・ゲル法による石英結晶試料の合成	静岡大学地球科学研究報告	35	45-54		2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Koizumi, S., T. Hiraga, C. Tachibana, M. Tasaka, T. Miyazaki, T. Kobayashi, A. Takamasa, N. Ohashi, and S. Sano	2010	Synthesis of highly dense and fine-grained aggregates of mantle composites by vacuum sintering of mineral nano-powders	Physics and Chemistry of Minerals	37	505-518	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Hiraga, T., C. Tachibana, N. Ohashi, and S. Sano	2010	Grain growth systematics for forsterite ± enstatite: Effect of lithology on grain size in the upper mantle	Earth Planet. Sci. Lett.	291	10-20	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Fujisawa, K. and Takei, Y	2009	A new experimental method to estimate viscoelastic properties from ultra-sonic wave transmission measurements	Journal of Sound and Vibration	323	609-625	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
McCarthy, C., Y. Takei, and T. Hiraga	in press	Experimental study of attenuation and dispersion over a broad frequency range: 1. The universal scaling of polycrystalline materials	J. Geophys. Res.			○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Takei, Y., K. Fujisawa, and C. McCarthy	in press	Experimental study of attenuation and dispersion over a broad frequency range: 1. The apparatus	J. Geophys. Res.			○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Takei, Y. and Holtzman, B. K.	2009	Viscous constitutive relations of solid-liquid composites in terms of grain boundary contiguity: 1. Grain boundary diffusion control model	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB005850	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Takei, Y. and Holtzman, B. K.	2009	Viscous constitutive relations of solid-liquid composites in terms of grain boundary contiguity: 2. Compositional model for small melt fractions	J. Geophys. Res.	114	doi:10.1029/2008JB005851	○	2(4)イ	2(4)ア		東大地震研
Watanabe, T. H. Kasami and S. Ohshima	2007	Compressional and shear wave velocities of serpentinized peridotites up to 200 Mpa	Earth Planets Space	59	233-244	○	2(4)イ	2(2)(2-1)		東大地震研
Tasaka, M., K. Michibayashi, and T. Nozaka	2008	B-type olivine fabrics developed in the fore-arc side of the mantle wedge along a subducting slab.	Earth Planet. Sci. Lett.	272	747-757	○	2(4)イ	2(1)		東大地震研
鏡味芳宏・渡辺了	2009	弾性波速度測定に基づく跡津川断層周辺浅部地殻物質の推定	地震	61	99-111	○	2(4)イ	2(2)(2-1)		東大地震研
渡辺了・矢野秀明	2010	蛇紋岩の地震波速度—蛇紋岩の地震学的マッピングに向けて	月刊地球	32	141-146		2(4)イ	2(2)(2-1)		東大地震研
渡辺了	2009	地殻・マントル物質の地震波速度と電気伝導度：沈み込み帯の水を探る	地震	61	S541-S562	○	2(4)イ	2(2)(2-1)		東大地震研
Watanabe, T.	2010	Geometry of intercrystalline brine in plastically deforming Halite rocks: inference from electrical resistivity	Advances in Interpretation of Geological Processes, Geological Society, London, Special Publications	332	69-78	○	2(4)イ	2(2)(2-1)		東大地震研
Hirauchi, K., K. Michibayashi, H. Ueda and I. Katayama.	2010	Spatial variations in antigorite fabric across a serpentine subduction channel: Insight from the Ohmachi Seamount, Izu-Bonin frontal arc	Earth Planet. Sci. Lett.	299	196-206	○	2(4)イ	2(2)(2-1)		東大地震研
新海優里・渡辺了・道林克禎・針金由美子・小原泰彦	2010	深海底から採取した蛇紋岩の弾性波速度測定：予察	静岡大学地球科学研究報告	37	27-34		2(4)イ	2(2)(2-1)		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kono, Y., M. Ishikawa, Y. Harigane, K. Michibayashi, and M. Arima	2008	P- and S-wave velocities of the lowermost crustal rocks from the Kohistan arc: Implications for seismic Moho discontinuity attributed to abundant garnet	Tectonophys.	467	44-54	○	2(4)イ	2(1)		東大地震研
Ujiie, K., A. Yamaguchi, S. Taguchi	2008	Stretching of fluid inclusions in calcite as an indicator of frictional heating on faults	Geology	36	111-114	○	2(4)イ	2(4)ア		JAMSTEC
Ujiie, K., A. Yamaguchi, G. Kimura, S. Toh	2007	Fluidization of granular material in a subduction thrust at seismogenic depths	Earth Planet. Sci. Lett.	259	307-318	○	2(4)イ	2(4)ア		JAMSTEC
Ujiie, K., H. Yamaguchi, A. Sakaguchi, S. Toh,	2007	Pseudotachylytes in an ancient accretionary complex and implications for melt lubrication during subduction zone earthquakes	Journal of Structural Geology	29(4)	599-613	○	2(4)イ	2(4)ア		JAMSTEC
Jin-Oh Park, Gou Fujie, Lalith Wijerathne, Takane Hori, Shuichi Kodaira, Yoshio Fukao, Gregory F. Moore, Nathan L. Bangs, Shin'ichi Kuramoto and Asahiko Taira	2010	A low-velocity zone with weak reflectivity along the Nankai subduction zone	Geology	38	283-286	○	2(4)イ	2(4)ア		JAMSTEC
Gonin, M., P. Henry, S. Bourlange, H. Raimbourg, and T. Reuschle	2010	Interpretation of porosity and LWD resistivity from the Nankai accretionary wedge in the light of clay physico-chemical properties: evidence for erosion and local overpressuring.	Geochem. Geophys. Geosyst.			○	2(4)イ	2(1)ウ	粘土鉱物の挙動から見た間隙率と検層比抵抗データの解釈	JAMSTEC
Raimbourg, H., Y. Hamano, S. Saito, M. Kinoshita, and A. Kopf	2010	Acoustic and mechanical properties of Nankai accretionary prism core samples	Geochem. Geophys. Geosyst.			○	2(4)イ	2(4)ア	南海付加帯物質の音波・力学特性	JAMSTEC
Kinoshita, R. Von Huene, M., G. Moore, H. Tobin, and C. R. Ranero	2006	The seismogenic zone experiment	Oceanography	19	28-38		2(4)イ			JAMSTEC
Kinoshita, M., T. Kanamatsu, K. Kawamura, T. Shibata, H. Hamamoto, and K. Fujino	2008	Heat flow distribution on the floor of Nankai Trough off Kumano and implications for the geothermal regime of subducting sediments	JAMSTEC Report of Research and Development	8	3-28		2(4)イ			JAMSTEC
木下正高・Harold Tobin・芦寿一郎・Siegfried Lallemand・木村学・Elizabeth Screaton・Moe Kyaw Thu・真砂英樹・Daniel Curewitz・IODP第314/315/316航海乗船研究者	2008	南海トラフ巨大地震震源域への掘削調査を開始	科学	78			2(4)イ			JAMSTEC
Tudge, J., Lovell, M.A., Davies, S.J., Harvey, P.K., Saito, S., and Expedition 314 Scientists	2009	Petrophysically determined lithofacies at the Nankai Trough Accretionary Prism: NanTroSEIZE, IODP Expedition 314	J. Geol. Soc. (London)	166	961-968	○	2(4)イ			JAMSTEC
Screaton, E., Kimura, G., Curewitz, D., Moore G., F. et al.	2009	Interactions between deformation and fluids in the frontal thrust region of the NanTroSEIZE transect offshore the Kii Peninsula, Japan: Results from IODP Expedition 316 Sites C0006 and C0007	Geochem. Geophys. Geosyst.	10	1-14	○	2(4)イ			JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Strasser, M., G. F. Moore, G. Kimura, Y. Kitamura, A. J. Kopf, S. Lallemand, J.-O. Park, E. J. Screaton, X. Su, M. B. Underwood, and X. Zhao	2009	Origin and evolution of a splay fault in the Nankai accretionary wedge	Nature Geoscience	2	648-652	○	2(4)イ			JAMSTEC
Bangs, N.L., G. F. Moore, S.P.S. Gulick, H.J. Tobin, S. Kuramoto, and A. Taira	2009	Broad, weak regions of the Nankai megathrust and implications for shallow coseismic slip	Earth Planet. Sci. Lett.	284	44-49	○	2(4)イ			JAMSTEC
Kawamura, K., Y. Ogawa, R. Arima, S. Yokoyama, S. Kawakami, Y. Dilek, G.F. Moore, S. Hirano, A. Yamaguchi, T. Sasaki, and YK05-08/YK06-02 Scientific Parties	2009	Structural architecture and active deformation of the Nankai accretionary prism	Geol. Soc. Am. Bull.			○	2(4)イ			JAMSTEC
Tsuji, T., J.O. Park, G.F. Moore, S. Kodaira, Y. Fukao, and N. Bangs	2009	Intraoceanic thrusts in the Nankai Trough off the Kii Peninsula: Implications for interplate earthquakes	Geophys. Res. Lett.	36	Doi:10.1029/2008GL036974	○	2(4)イ			JAMSTEC
Ujiie, K., Kameyama, M. and Yamaguchi, A.	2010	Geological record of thermal pressurization and earthquake instability of subduction thrusts	Tectonophys.	485	260-268	○	2(4)イ			JAMSTEC
Kawamura, K., Kanamatsu, T., Kinoshita, M., Saito, S., Shibata, T., Fujino, K., Misawa, A., Burmeister, K.C.	2010	Redistribution of sediments by submarine landslides on the eastern Nankai Accretionary Prism.	Submarine Mass Movements and Their Consequences IV	28	313-322	○	2(4)イ			JAMSTEC

#### ウ. 摩擦・破壊現象の規模依存性

Plenkens, K., G. Kwiatek, M. Nakatani, G. Dresen and the JAGUARS Group	2010	Observation of seismic events with frequencies $f > 25$ kHz at Mponeng Deep Gold Mine, South Africa, Seism. Res. Lett.	Seismol. Res. Lett.	81	467-479	○	2(4)ウ	2(3)(3-1)イ		東大地震研
Kwiatek, G., K. Plenkens, M. Nakatani, Y. Yabe, G. Dresen, and JAGUARS-Group	2010	Frequency-magnitude characteristics down to Magnitude -4.4 for induced seismicity recorded at Mponeng Gold Mine, South Africa	Bull. Seism. Soc. Am.	100	1165-1173	○	2(4)ウ	2(3)(3-2)ア		東大地震研
渡辺俊樹	2009	地盤の可視化技術と評価法	鹿島出版会				2(4)ウ			名古屋大
渡辺俊樹	2009	地殻内構造と物性の解明のための反射法地震探査の技術動向	地震	61	S217-S223	○	2(4)ウ			名古屋大
Meneghini F., Di Toro G., Rowe D. C., Moore J. C., Tsutsumi A. and Yamaguchi A.	2010	Record of mega-earthquakes in subduction thrusts: the black fault rocks of Pasagshak Point (Kodiak Island, Alaska)	Geological Society of America, Bulletin	122	doi:10.1130/B30049.1	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Hayashi, N., and Tsutsumi, A.	2010	Deformation textures and mechanical behavior of a hydrated amorphous silica formed along an experimentally produced fault in chert	Geophys. Res. Lett.		doi:10.1029/2010GL042943	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Ujiie, K., and Tsutsumi, A.	2010	High-velocity frictional properties of clay-rich fault gouge in a megasplay fault zone, Nankai subduction zone	Geophys. Res. Lett.		doi:10.1029/2010GL046002	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Ujiie, K., Tsutsumi, A., Fialko, Y. and Yamaguchi, H.	2009	Experimental investigation of frictional melting of argillite at high slip rates: Implications for seismic slip in subduction-accretion complexes	J. Geophys. Res.	118	doi:10.1029/2008JB006165	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
堤 昭人	2009	高速すべり時における岩石の摩擦強度弱化的機構 - 摩擦熔融を伴わない場合について -	地震	61	S527-S533	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
堤 昭人・林 奈央・井上結貴	2009	プレート沈み込み帯における付加体物質の摩擦特性	トライボロジスト	54	738-743		2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Byrne, T. B., Lin, W., Tsutsumi, A., Yamamoto, T., Lewis, J. C., Kanagawa, K., Kitamura, Y., Yamaguchi, A. and Kimura, G.	2009	Anelastic strain recovery reveals extension across SW Japan subduction zone.	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2009GRL040749	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Screaton, E. 他23名, Tsutsumi, A. 他3名	2009	Interactions between deformation and fluids in the frontal thrust region of the NanTroSEIZE transect offshore the Kii Peninsula, Japan: Results from IODP Expedition 316 Sites C0006 and C0007.	GEOCHEMISTRY GEOPHYSICS GEOSYSTEMS	10	doi:10.1029/2009GC002713	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Boutareaud, S., Calugaru, D., Han, R., Fabbri, O., Mizoguchi, K., Tsutsumi, A., and Shimamoto, T	2008	Clay-clast aggregates: A new textural evidence for seismic fault sliding?	Geophys. Res. Lett.		doi:10.1029/2007GL032554	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
嶋本利彦・堤 昭人・廣瀬文洋・相澤泰隆・曾根大貴・上原真一・谷川 亘・野田博之・溝口一生	2006	京都大学の摩擦・変形・透水試験機	構造地質	49	49-71		2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Sone, H., Hirose, T., Uehara, S., Noda, H., Aizawa, Y., Mizoguchi, K., Tanikawa, W., Tsutsumi, A. and Shimamoto, T.	2006	Rock deformation apparatuses at Kyoto university	構造地質	49	v-viii		2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Tsutsumi, A., and Mizoguchi, K.	2006	Effect of melt squeezing rate on shear stress along a simulated fault in gabbro during frictional melting	Geophys. Res. Lett.		doi:10.1029/2007GL031565	○	2(4)ウ	2(4)イ		京大防災研
Yamada, T., J. J. Mori, S. Ide, R. E. Abercrombie, H. Kawakata, M. Nakatani, Y. Iio, and H. Ogasawara	2007	Stress drops and radiated seismic energies of microearthquakes in a South African gold mine	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004553	○	2(4)ウ	2(3)(3-2)ア	南アフリカ金鉱山において発生したMw0.0~1.3の地震の波形記録を用いて、応力降下量と地震波放射エネルギーを推定した。その結果、Mw~0程度の小さい地震においても、中大規模地震と同程度の応力降下量、モーメント規格化エネルギーを持つことが示され、似たような動的破壊過程を持つことが示唆された。	立命館大・東大 地震研・京大防災研
Yabe, Y., J. Philipp, M. Nakatani, G. Morema, M. Naoi, H. Kawakata, T. Igarashi, G. Dresen, H. Ogawara, and JAGUARS	2009	Observation of numerous aftershocks of an Mw 1.9 earthquake with an AE network installed in a deep gold mine in South Africa	Earth Planets Space	61	e49-e52	○	2(4)ウ	2(3)(3-1)ア	南アフリカ金鉱山において展開されたAE観測網の近傍約30mにおいて、Mw1.9の地震が発生した。これにともない、本震後6日強の期間内にM>-4の余震を20000個以上検出することに成功した。また、そのうちの13000個は面的に分布することも明らかにされた。	立命館大・東北大・東大 地震研
Fukuyama, E. and Mizoguchi, K.	2010	Constitutive parameters for earthquake rupture dynamics based on high-velocity friction tests with variable slip rate	Int. J. Fracture	163	15-26	○	2(4)ウ	2(4)ア		防災科研
Mizoguchi, K. and Fukuyama, E.	2010	Laboratory measurements of rock friction at subseismic slip velocities	Int. J. Rock Mech. Min. Sci	47	1363-1371	○	2(4)ウ	2(4)ア		防災科研

エ. マグマの分化・発泡・脱ガス過程

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い議論の項目	次に関連の深い議論の項目	概要説明	機関名
Nakamura, M., K. Ohtaki, and S. Takeuchi	2008	Permeability and pore-connectivity variation of pumices from a single pyroclastic flow eruption: Implications for partial fragmentation.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	176	302-314	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア		東北大
Okumura, S., M. Nakamura, A. Tsuchiyama, T. Nakano, and K. Uesugi	2008	Evolution of bubble microstructure in sheared rhyolite: Formation of a channel-like bubble network	J. Geophys. Res.	113	B07208	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア		東北大
Yamamoto, M. and H. Kawakatsu	2008	An efficient method to compute the dynamic response of a fluid-filled crack	Geophys. J. Int.	174	1174-1186	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア		東北大
Nishimura, T.	2009	Volcano deformation caused by magma ascent in an open conduit	J. Volcanol. Geotherm. Res.	187	178-192	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア	開口型火道を上昇するマグマによる山体変形について、理論的な考察を行った。気泡成長の有無により、膨脹現象に時間的な変化が現れることから、爆発性の主因である揮発性成分の挙動を測地学的データから測定できることを示した。	東北大
Okumura, S., M. Nakamura, S. Takeuchi, A. Tsuchiyama, T. Nakano, and K. Uesugi	2009	Magma deformation may induce non-explosive volcanism via degassing through bubble networks	Earth Planet. Sci. Lett.	281	267-274	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア		東北大
Yoshimura, S. and M. Nakamura	2011	Carbon dioxide transport in crustal magmatic systems.	Earth Planet. Sci. Lett.	307	470-478	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア		東北大
Sumino H., Ikehata K., Shimizu A., Nagao K. and Nakada S.	2008	Magmatic processes of Unzen volcano revealed by excess argon distribution in zero-age plagioclase phenocrysts.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	175	189-207	○	2(4)エ	2(2)(2-2)ア		東大理化学
Ikehata K., Yasuda A. and Notsu K.	2010	The geochemistry of volatile species in melt inclusions and sulfide minerals from Izu-Oshima volcano, Japan.	Mineral. Petrol.	99	143-152	○	2(4)エ			東大理化学
Vidal, V., M. Ichihara, M. Ripepe, and K. Kurita	2009	Acoustic waveform of continuous bubbling in a non-Newtonian fluid	Phys. Rev. E	80	doi:10.1103/PhysRevE.80.066314	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア	ある現象の時間間隔、様式、前兆信号、それらを支配する記憶効果やイベントからイベントへのフィードバック現象を解明することは、予知研究の重要課題である。系は大きく異なるが、この問題と物理的相似性の強い現象を室内実験で見つけた。非ニュートン性流体中に連続的に気泡を注入した際、気泡の破裂に伴う圧力波の波形と破裂前に発生する前駆的音波に明瞭な相関関係があり、両者の特徴が準周期的に変動する現象である。	東大地震研
Rubin, M.B. and M. Ichihara	2010	Rheological models for large deformations of elastic-viscoplastic materials	Int. J. Eng. Sci.	48	1534-1543	○	2(4)エ	2(4)ア		東大地震研
Ichihara, M. and M.B. Rubin	2010	Brittleness of fracture in flowing magma	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2010JB007820	○	2(4)エ	2(4)ア	爆発的噴火におけるマグマと波動の放出過程においては、マグマの流動と破壊が重要な役割を果たしている。これまで、流体の脆性破壊について、明確な定義が無かったため、議論が混乱していた。そこで、流体の破壊の脆性度を定めるパラメータを理論的考察によって提案し、これまで行われてきたマグマ破碎のモデル実験の結果を再検討した。その結果、モデル事件の結果を爆発的噴火の数値モデルに反映させる道筋ができた。	東大地震研
安田 敦	2011	顕微FT-IR反射分光法による斑晶ガラス包有物の含水量測定	火山	56	印刷中	○	2(4)エ	2(2)(2-2)イ		東大地震研
Miwa, T., A. Toramaru, M. Iguchi	2009	Correlations of volcanic ash texture with explosion earthquakes from vulcanian eruptions at Sakurajima volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	184	473-486	○	2(4)エ	2(3)(3-3)ア	物質科学的研究によって、桜島ブルカノ式噴火における噴火直前の火道内部の状態と噴火強度との間の相関を発見した。	九州大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
<b>3. 新たな観測技術の開発</b>										
<b>(1) 海底における観測技術の開発と高度化</b>										
<b>ア. 海底地殻変動観測技術</b>										
Fujimoto, H.	2006	Ocean bottom crustal movement observation using GPS/Acoustic system by universities in Japan	J. Geod. Soc. Japan	52	265-272	○	3(1)ア	1(1)イ		東北大
Kido, M., H. Fujimoto, S. Miura, Y. Osada, K. Tsuka, and T. Tabei	2006	Seafloor displacement at Kumano-nada caused by the 2004 off Kii Peninsula earthquake, detected through repeated GPS/Acoustic surveys	Earth Planets Space	58	911-915	○	3(1)ア	1(1)ウ	2004年紀伊半島沖地震の震源近傍にある海底地殻変動観測点での地震前後の繰り返し観測により、南南東30cmの地震時変位を捉え、地震断層の推定に寄与した。海底の地震時変位を捉えた世界初の成果となった。	東北大
Matsumoto, K., T. Sato, H. Fujimoto, Y. Tamura, M. Nishino, R. Hino, T. Higashi, and T. Kanazawa	2006	Ocean bottom pressure observation off Sanriku and comparison with ocean tides, altimetry, and barotropic signals from ocean models	Geophys. Res. Lett.	33	doi:10.1029/2006GL026706	○	3(1)ア	1(1)イ		東北大
Osada, Y., H. Fujimoto, T. Kanazawa, S. Nakao, S. Sakai, S. Miura, J. A. Hildebrand, and C. D. Chadwell	2006	Development of a GPS/Acoustic seafloor positioning system for 6000 m water depth and its trial experiments at sea	J. Geod. Soc. Japan	52	171-182	○	3(1)ア	1(1)イ		東北大
Kido, M.	2007	Detecting horizontal gradient of sound speed in ocean	Earth Planets Space	59	e33-e36	○	3(1)ア	1(1)イ	GPS音響方式による海底地殻変動観測の測位精度向上のため、音速場の空間変化を傾斜として近似し、それを海底局の追加により推定可能であることを理論的に示した。さらに推定に最適な海底局配置と観測位置を示した。	東北大
Kido, M., Y. Osada, and H. Fujimoto	2008	Temporal variation of sound speed in ocean: a comparison between GPS/acoustic and in situ measurements	Earth Planets Space	60	229-234	○	3(1)ア	1(1)イ	GPS音響方式の海底地殻変動観測において、推定した海中音速場の時間変化を独立した海洋物理観測と比較することにより、音響測距により極めて高い精度で音速場の水平成層構成成分の時間変化をモニターできることを実証した。また、半日潮に同期した変化が卓越することも示した。	東北大
Osada, Y., M. Kido, H. Fujimoto, and Y. Kaneda	2008	Development of a seafloor acoustic ranging system toward the seafloor cable network system	Ocean Eng.	35	doi:10.1016/j.oceaneng.2008.07.007	○	3(1)ア			東北大
佐藤まりこ・木戸元之・田所敬一	2008	GPS/音響結合方式による海底地殻変動観測 ～観測成果と新たな取り組み～	測地学会誌	54	113-125	○	3(1)ア	1(1)イ		東北大
長田幸仁・水上知子・木戸元之・太田雄策・対馬弘晃・三浦哲・藤本博己	2008	10 Hz GPS 受信機導入による海底地殻変動 観測高度化の試み	測地学会誌	54	141-151	○	3(1)ア	3(2)ア		東北大
藤本博己・木戸元之・長田幸仁・金田義行	2008	GPS/A方式海底地殻変動観測に向けた観測システムの開発	測地学会誌	54	181-187	○	3(1)ア			東北大
木戸元之・藤本博己・長田幸仁	2008	過去の海底地殻変動観測における動揺センサーデータの有効利用について	測地学会誌	54	163-179	○	3(1)ア			東北大
Inazu, D., T. Sato, S. Miura, Y. Ohta, K. Nakamura, H. Fujimoto, C. F. Larsen, and T. Higuchi	2009	Accurate Ocean Tide Modeling in Southeast Alaska and Large Tidal Dissipation around Glacier Bay	J. Oceanog.	65	335-347	○	3(1)ア			東北大
藤本博己	2009	海底地殻変動観測	地震	61	S69-S74	○	3(1)ア			東北大
藤本博己・野崎京三・河野啓幸・伝法谷宣洋・押田淳・小泉金一郎・三石晋・岩本綱司・金沢敏彦	2009	海底重力計の改造と沿岸域における海底重力測定—陸海域シームレス精密重力調査に向けて—	測地学会誌	55	325-339	○	3(1)ア			東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Fujimoto, H., M. Kido, Y. Osada, K. Tadokoro, T. Okuda, Y. Matsumoto, and K. Kurihara,	2011	Long-term stability of acoustic benchmarks deployed on thick sediment for GPS/Acoustic seafloor positioning	in "Accretionary Prisms and Convergent Margin Tectonics in the Northwest Pacific Basin", ed. by Y. Ogawa, R. Anima and Y. Dilek, Modern Approaches in Solid Earth Sciences, Vol. 8, Springer, Dordrecht		doi:10.1007/978-90-481-8885-7_263-272	○	3(1)ア	1(1)ウ	004年紀伊半島南東沖地震 (Mw7.5) では、世界で初めて、海底の観測により地殻変動が検出された。この観測に用いた海底局は海面から投下し、厚い堆積層で覆われた海底に設置されており、地震による姿勢の安定性が問題だった。そこで熊野灘の海底に設置していた3機関の海底地殻変動観測用海底局10台の設置状況を、地震後にハイパードルフィンにより観察した。地震の影響は求められず、ほぼ鉛直に設置されていることを確認した。	東北大
杉本慎吾・長田幸仁・石川直史・浅倉直矢・田所敬一・渡部 豪・奥田 隆・高谷和典・生田領野・安藤雅孝	2009	基線長別移動体測位実験によるキネマティックGPS ソフトウェアの評価	測地学会誌	55	65-85	○	3(1)ア	1(1)ウ		名古屋大
杉本慎吾・田所敬一・生田領野・渡部 豪・奥田 隆・佐柳敬造・武藤大介・木元章典・安藤雅孝	2009	制約音速による海底測位手法の改良とその評価	測地学会誌	55	53-63	○	3(1)ア	1(1)ウ		名古屋大
Ikuta, R., K. Tadokoro, M. Ando, T. Okuda, S. Sugimoto, K. Takatani, K. Yada, and G. M. Besana	2008	A new GPS-acoustic method for measuring ocean floor crustal deformation: Application to the Nankai Trough	J. Geophys.	113	doi:10.1029/2006JB004875	○	3(1)ア	1(1)ウ		名古屋大
武藤大介・田所敬一・杉本慎吾・奥田 隆・渡部 豪・木元章典・生田領野・安藤雅孝	2008	海底ベンチマーク位置決定精度における海中音速構造の時空間変化の影響に関する数値実験	測地学会誌	54	153-162	○	3(1)ア	1(1)ウ		名古屋大
杉本慎吾・田所敬一・佐柳敬造・生田領野・奥田 隆・長尾年恭・安藤雅孝	2007	海底地殻変動観測における温度、圧力連続計測	東海大学海洋研究所研究報告	28	37-48	○	3(1)ア	1(1)ウ		名古屋大
Ando, M., K. Tadokoro, R. Ikuta, S. Sugimoto, T. Okuda, and G. Besana	2006	Sea-floor Crustal Deformation Observations using Acoustic-Ranging/KGPS and Cabled Acoustic/Acoustic Ranging Techniques	Proceedings of Scientific Submarine Cable			○	3(1)ア	1(1)ウ		名古屋大
Sawyer, Audrey H., P. Flemings, D. Elsworth, and M. Kinoshita	2008	Response of Submarine Hydrologic Monitoring Instruments to Formation Pressure Changes: Theory and Application to Nankai ACORKs	J. Geophys. Res.	113	doi:10.1029/2007JB005132	○	3(1)ア			JAMSTEC
Fujita, M., T. Ishikawa, M. Mochizuki, M. Sato, S. Toyama, M. Katayama, Y. Matsumoto, T. Yabuki, A. Asada and O. L. Colombo	2006	GPS/Acoustic seafloor geodetic observation: method of data analysis and its application	Earth Planets Space	58	265-275	○	3(1)ア	2(2)(2-1)ア	GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測について、線形最小二乗法に基づくインバージョンの手法による局位置解析ソフトウェアの開発を行い、宮城県沖における太平洋プレート沈み込みの影響によるプレート内変動の初期成果を報告し、一部のデータセットによる安定性評価を行った。	海上保安庁
藤田雅之	2006	GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測～海上保安庁の取り組み(レビュー)～	海洋情報部研究報告	42	1-14	○	3(1)ア	2(2)(2-1)ア	海上保安庁のGPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測について、2000年以降約5年間の進捗状況を、特にデータ解析手法の開発及び観測成果に重点を置きつまとめた。	海上保安庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
石川直史・藤田雅之・松本良浩	2006	海底局位置決定における海中水温構造の影響	海洋情報部研究報告	42	15-26	○	3(1)ア		海底地殻変動観測における海底局位置の測位結果と、観測海域の水温構造との間の関係について検討した。その結果、水温構造の時間的・空間的変動の安定性が測位結果に大きく影響を与えることが分かった。	海上保安庁
河合晃司・藤田雅之・石川直史・松本良浩・望月将志	2006	長基線KGPSの精度評価について	海洋情報部技報	24	80-86		3(1)ア		海底地殻変動観測で使用しているKGPS解析において、100kmから1500km程度の基線長における解析について精度評価を行った。	海上保安庁
Matsumoto, Y. and M. Fujita	2006	Combined GPS/Acoustic Seafloor Geodetic Observation System by Japan Coast Guard	Journal of the Geodetic Society of Japan	52	273-278	○	3(1)ア	2(2)(2-1)ア	2000年より海上保安庁海洋情報部が実施しているGPS/音響結合方式による海底地殻変動観測の進展について、データ解析手法の開発と得られた成果を中心に、最新の動向までを概説する。	海上保安庁
松本良浩・藤田雅之・河合晃司・石川直史・矢吹哲一朗・望月将志・浅田 昭	2006	海底地殻変動観測におけるGPSマスト局アンテナの利用	海洋情報部技報	24	94-98		3(1)ア		観測データを用いて、測量船のマストに設置したGPSアンテナ(マスト局)を用いて海底基準点の位置決定を行った場合の局位置解への影響について考察した。	海上保安庁
松本良浩・石川直史・藤田雅之	2007	海底地殻変動観測における音響トランスデューサ位置のバイアス誤差の推定	海洋情報部研究報告	43	17-28	○	3(1)ア		海底地殻変動観測における誤差要因である音響トランスデューサ位置のバイアス誤差補正のため、音響トランスデューサ位置のバイアス誤差と海底基準局の位置の同時推定手法について検討し、その結果について報告した。	海上保安庁
望月将志・成田誉孝・石川直史・吉田善吾・河合晃司・松下 優・川井仁一・淵之上紘和・松本良浩・藤田雅之・浅田 昭	2007	海底地殻変動観測用音響トランスデューサの音響位相特性と音響位相中心	海洋情報部研究報告	43	29-36	○	3(1)ア		海底地殻変動観測において使用している2種類の音響トランスデューサに対して水槽試験を実施し、角度による測距応答曲線を取得、見込まれる計測誤差の把握を行った。	海上保安庁
石川直史・松本良浩	2007	海底地殻変動観測における海中音速度処理手法	海洋情報部技報	25	100-106		3(1)ア		海底地殻変動観測において必要となる海中音速度において、CTD、XCTDおよびXBTによる観測データの処理方法についてまとめた。	海上保安庁
河合晃司・石川直史・松本良浩・望月将志	2007	海底地殻変動観測におけるKGPS解析の現状について	海洋情報部技報	25	107-111		3(1)ア		海底地殻変動観測におけるKGPS解析の現状と今後の展望について報告した。	海上保安庁
松本良浩・藤田雅之・石川直史	2008	海底地殻変動観測における複数エポック一括局位置解析手法の導入	海洋情報部技報	26	16-22		3(1)ア		海底地殻変動観測の局位置解析において、新しい解析手法である「複数エポック同時解析」の手法を紹介するとともに、その効果と影響について考察を行った。	海上保安庁
望月将志・浅田 昭・浦 環・藤田雅之	2008	海中ロボットを利用する次世代海底地殻変動観測システムの開発	測地学会誌	54, 3	189-197	○	3(1)ア	3(1)ウ	AUV(自律型海中ロボット)を利用した次世代の海底地殻変動観測システムの開発に係る試験結果等に関する報告	海上保安庁
藤田雅之	2009	海底地殻変動観測のための精密海底測位手法の確立などの海洋測地学への貢献	測地学会誌	55	1-15	○	3(1)ア		筆者が取り組んだ海洋測地学への貢献について概観し、特に海底地殻変動の技術開発課程についてまとめた。	海上保安庁
齋藤宏彰・佐藤まりこ	2009	海底地殻変動観測における海中音速測定頻度の局位置への影響について	海洋情報部研究報告	45	23-33	○	3(1)ア		観測の効率化における検討の一環として、海中音速測定頻度を減らすことによる局位置への影響評価を行った。	海上保安庁
川井仁一・浅倉宜矢・松本良浩	2009	測量船「明洋」への海底地殻変動観測用送受波器の船底装備について	海洋情報部技報	27	50-55		3(1)ア		2008年3月に測量船「明洋」にトランスデューサの船底装備を行い航走しながらの観測を実現した。ここでは、トランスデューサ差をはじめとした観測機器の装備状況について報告している。	海上保安庁
笹原昇・浅倉宜矢・西下厚志・長野勝行・橋本崇史・泉紀明	2009	ITによる長基線KGPS測位を基準としたMSAS・PPP・DGPSの精度評価について	海洋情報部技報	27	66-77		3(1)ア		測量船で収録したKGPSデータを使用して基線長ソフトウェア「IT」とPPPにより解析するとともに、同時にMSASとDGPS対応の受信機を搭載しデータを収録し、各GPS測位手法とその解析結果を比較した。	海上保安庁
佐藤まりこ・浅倉宜矢・齋藤宏彰	2009	船底トランスデューサによる航走海底地殻変動観測の評価(速報)	海洋情報部技報	27	56-65		3(1)ア		2008年3月に測量船に観測機器を搭載し、航走しながらの観測を実現した。本論文では、航走観測により得られたデータの評価を行い、以前よりも効率的で安定した結果が得られることを示した。	海上保安庁
齋藤宏彰・関由貴子・梅原直人・浅倉宜矢・佐藤まりこ	2010	海底地殻変動観測のKGPS解析における速報層の有効性について	海洋情報部研究報告	46	32-38		3(1)ア		海底地殻変動において、速報層を使用した際のKGPS解析への影響について評価を行い、速報層の利用が可能であることを示した。	海上保安庁
佐藤まりこ	2010	海底基準局の識別信号の追加について	海洋情報部研究報告	46	108-115		3(1)ア		海底基準局の更新に関連して新たに追加した各海底基準局の識別信号の概要についてまとめた。	海上保安庁

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
石川直史	2011	海底地殻変動観測における海底音響基準局の更新	海洋情報部研究報告	47	44-50		3(1)ア		電池で動作している海底局を観測結果の継続性を維持しつつ、更新していく方法についてまとめた。	海上保安庁
<b>イ. 海底地震観測技術</b>										
金沢敏彦・篠原雅尚・塩原 肇	2009	海底地震観測の最近の進展 -海底地震観測システムと海底における自然地震観測の進展について-	地震	61	S55-S68	○	3(1)イ	2(1)イ		東大地震研
塩原 肇・金沢敏彦	2009	海底地震計用軽量自律型センサーの開発	地震	61	137-144	○	3(1)イ	2(1)イ		東大地震研
<b>ウ. 海底実時間観測システム</b>										
E. Araki, T. Byrne, L. McNeill, D. Saffer, N. Eguchi, K. Takahashi, S. Toczko	2009	NanTroSEIZE Stage 2: NanTroSEIZERiser/riserless observatory	IODP Sci. Prosp.	319	doi:10.2204/iodp.sp.319.2009		3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
松本 浩幸	2007	2006年千島列島沖地震にともなう津波の深海底現場観測について	海岸工学論文集	54		○	3(1)ウ	1(1)ウ		JAMSTEC
Hiroyuki Matsumoto, Yoshiyuki Kaneda	2009	Review of recent tsunami observation by offshore cabled observatory	Journal of Disaster Research	4	489-497	○	3(1)ウ	1(1)ウ		JAMSTEC
松本浩幸, 大堀道広, 金田義行	2009	震源近傍における海底津波計データの津波予警報への利用に関する検討	海岸工学論文集	56	356-360	○	3(1)ウ	1(1)ウ		JAMSTEC
笠谷貴史, 後藤忠徳, 高木亮	2006	海洋における地殻構造探査のための電磁場観測技術とその動向	物理探査	59	585-594	○	3(1)ウ	1(1)ウ		JAMSTEC
Takafumi Kasaya, Tada-nori Goto	2008	A small OBEM and OBE system with an arm folding system	Exploration Geophysics			○	3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
Takafumi Kasaya, Kyohiko Mitsuzawa, Tada-nori Goto, Ryoichi Iwase, Keizo Sayanagi, Eiichiro Araki, Kenichi Asakawa, Hitoshi Mikada, Tomoki Watanabe, Ichiro Takahashi, Toshiyasu Nagao	2009	Trial of multidisciplinary observation at an expandable sub-marine cabled station:off-Hatsushima Island Observatory; in Sagami Bay, Japan	Sensors	9	9241-9254	○	3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
田村 肇	2011	環境シミュレーター-OOVEE の製作	JAMSTEC Report of Research and Development	12		○	3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
T. Yokobiki, T. Goto, E. Araki, K. Asakawa, T. Kasaya, M. Kinoshita, K. Kawaguchi, M. Harada, T. Nakajima, H. Nagao and K. Sayanagi	2008	Development of a New Cabled Observatory "Tokai SCANNER"	Proc. Oceans 2008-MTS/IEEE Kobe Techno-Ocean		DOI:10.1109/OC EANSKOB E. 2008. 4531002		3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
Ryoichi Iwase, Jun Naoui, Toshiaki Kikuchi, Koichi Mizutani	2006	Association between Phase Modulation and Waveform on Phase Information Transmission by Phase Conjugate Wave	Japanese Journal of Applied Physics	45	4853-4855	○	3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
岩瀬 良一, 直井 純, 菊池 年晃, 水谷 孝一	2007	相模湾における低周波雑音計測	海洋音響学会誌	34	87-96	○	3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
R. Iwase, T. Kikuchi and K. Mizutani	2007	ADCP echo amplitude variability associated with environmental fluctuation on deep seafloor	Proc. Symposium on Ultrasonic Electronics	28	469-470		3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
岩瀬 良一	2011	深海を泳ぐマッコウクジラ -相模湾初島沖深海底で聞こえるクリック音の正体	超音波TECHO				3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
K. Fujikura, K. Amaki, J. P. Barry, Y. Fujiwara, Y. Furushima, R. Iwase, H. Yamamoto and T. Maruyama	2007	Long-term in situ monitoring of spawning behavior and fecundity in Calyptogena	MARINE ECOLOGY PROGRESS SERIES	333	185-193		3(1)ウ	3(1)ア		JAMSTEC
(2) 宇宙技術等の利用の高度化										
ア. 宇宙測地技術										
高田陽一郎・小林知勝・古屋正人・村上亮	in press	InSARIによる2008年岩手宮城内陸地震に伴う余効変動の検出	測地学会誌	57		○	3(2)ア			北海道大
Kobayashi, T., Y. Takada, M. Furuya, M. Murakami	2009	Locations and types of ruptures involved in the 2008 Sichuan Earthquake inferred from SAR image matching	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2008GL036907	○	3(2)ア			北海道大
Takada, Y., T. Kobayashi, M. Furuya and M. Murakami	2009	Coseismic displacement due to the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake detected by ALOS/PALSAR: Preliminary results	Earth Planets Space	61	e9-e12	○	3(2)ア			北海道大
Ohta, Y., I. Meilano, T. Sagiya, F. Kimata, and K. Hirahara	2006	Large surface wave of the 2004 Sumatra-Andaman earthquake captured by the very long baseline kinematic analysis of 1-Hz GPS data	Earth Planets Space	58	153-157	○	3(2)ア		2004年スマトラ地震時に励起された表面波を超長基線キネマティックGPS解析によって捉えた。2,000kmに及ぶ長距離基線においても地震波動を含めたダイナミックな地殻変動を捉えられることを示した。	東北大・名古屋大
太田雄策・鷺谷威・木股文昭	2006	PPPキネマティックGPSの長期安定性評価	測地学会誌	52	309-318	○	3(2)ア		固定点によらない精密単独測位法に基づいたキネマティック解析の長期的な安定性およびノイズ特性について詳細に調べた。特定の衛星の面外制御による軌道擾乱によって推定時系列も顕著な擾乱を受けることを指摘した。	東北大・名古屋大
佐藤忠弘	2007	測地観測とジオダイナミクス	測地学会誌	58	113-122	○	3(2)ア			東北大
Ohta, Y., M. Ohzono, S. Miura, T. Iinuma, K. Tachibana, K. Takatsuka, K. Miyao, T. Sato, and N. Umino	2008	Coseismic fault model of the 2008 Iwate-Miyagi Nairiku earthquake deduced by a dense GPS network	Earth Planets Space	60	1197-1201	○	3(2)ア	2(2)(2-1)ウ	2008年岩手宮城内陸地震時の断層モデルを稠密なGPS観測網データに基づいて推定した。本震断層は顕著な活断層として認定されていた出店断層では無い伏在断層が破壊したものであることを示した。また震源に最も近い観測点で1.5mにおよぶ大きな隆起をキネマティックGPS解析によって検出した。	東北大
Ohta, Y., K. Takatsuka, S. Miura, and T. Sato	2008	Seismic and Tsunami wave signal detection of the 2004 Sumatra- Andaman earthquake by high-rate kinematic GPS and broadband seismometer analysis	Proceedings of Symposium on Giant Earthquakes and Tsunamis	1	135-140	○	3(2)ア	2(3)(3-2)イ		東北大
Sato, T., S. Miura, Y. Ohta, H. Fujimoto, W. Sun, C.F. Larsen, M. Heavner, A. M. Kaufman, and J. T. Freymueller	2008	Earth tides observed by gravity and GPS in southeastern Alaska	J. Geodyn.	46	78-89	○	3(2)ア			東北大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Wallace, L. M., J. Beavan, S. Miura, and R. McCaffrey	2009	Using global positioning system data to assess tectonic hazards	in "Volcanic and Tectonic Hazard Assessment for Nuclear Facilities", ed. by C. B. Connor, N. A. Chapman, and L. J. Connor, Cambridge University Press, Cambridge		156-175		3 (2) ア			東北大
太田雄策・三浦哲・松村信介・森俊行	2010	低価格2周波GPS受信機とデータロガーを用いたGPS観測システムの構築	測地学会誌	56	101-106	○	3 (2) ア		高機能な二周波GPS受信機に変わる低価格GPS観測システムを新たに開発した。単機能に絞られたGPS受信機とLinuxシステムを組み込んだ小型PCを組み合わせることによって、従来の半分程度の価格で高機能二周波GPSに匹敵する性能を持ったGPS観測システムが構築可能である。	東北大
松島 健	2006	火山観測におけるGPSの利用とWAAS機能について	測地学会誌	52	329-330	○	3 (2) ア	3 (3) イ		九州大
S. Shimada and T. Kazakami	2006	Recent dynamic crustal movements in the Tokai Region, Central Japan observed by GPS measurements	Dynamic Planet		578-584		3 (2) ア	1 (1) ウ		防災科研
小澤拓, 谷口宏充	2007	合成開口レーダ干渉法による白頭山の火山活動に伴う地殻変動の検出	防災科学技術研究所研究報告	71	1-10		3 (2) ア			防災科研
小澤拓, 上田英樹, 島田政信, 飛田幹男, 矢来博司, 和田弘人, 雨貝知美, 藤原みどり, 藤田英輔, 鶴川元雄	2007	PALSAR/InSARにより得られた小笠原硫黄島の2006年火山活動活性化に伴う地殻変動(速報)	防災科学技術研究所研究報告	71	11-22		3 (2) ア			防災科研
Masanobu Shimada, Taku Ozawa, Yo Fukushima, Masato Furuya, Ake Rosenqvist	2008	Japanese L-band radar improves surface deformation monitoring	EOS Trans. Am. Geophys. Union	89	277-278		3 (2) ア			防災科研
Ken Xiansheng Hao, Hongjun Si, Hiroyuki Fujiwara, Taku Ozawa	2009	Coseismic surface-ruptures and crustal deformations of the 2008 Wenchuan earthquake Mw7.9, China	Geophys. Res. Lett.	36	L11303, doi: 10.1029/2009GL037971	○	3 (2) ア			防災科研
Yosuke Miyagi, Taku Ozawa, Masanobu Shimada	2009	Crustal deformation associated with an M8.1 earthquake in the Solomon Islands, detected by ALOS/PALSAR	Earth Planet. Sci. Lett.	287	385-391	○	3 (2) ア			防災科研
小澤拓, 清水慎吾	2011	数値気象モデルを用いたSAR干渉解析における大気遅延誤差の軽減	測地学会誌	56	137-147	○	3 (2) ア			防災科研
宮城洋介, 小澤拓	2011	ALOS/PALSAR観測により明らかになった、2007年(M8.1)、2010年(M7.1)のソロモン諸島沖地震と地震空白域の関係	測地学会誌	56	169-177	○	3 (2) ア			防災科研



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
R. Ohtani, J. J. McGuire and P. Segall	2010	Network strain filter: A new tool for monitoring and detecting transient deformation signals in GPS arrays	J. Geophys. Res.	115	B12418-B12434	○	3(2)ア		大規模な連続観測地観測網から、ゆっくりとした地殻変動を検出するためにネットワークフィルター(NSF)を開発した。その原理は、観測網全体から時空間的に相関のある信号を検出することによる。南カリフォルニアにあるGPS連続観測網(SCIGN)を模した数値実験、及び国土地理院のGPS連続観測網(GEONET)の実際のデータで解析した結果、NSFにより、半自動的にゆっくりとした変動を検出できた。	産総研
小司禎教, 岩淵哲也, 瀬古弘, 畑中雄樹, 市川隆一, 大谷 竜, 萬納寺信崇	2010	GPS気象学: GPS水蒸気情報システムの構築と気象学・測地学・水文学への応用に関する研究	測地学会誌	55	17-38	○	3(2)ア			産総研
Tobita, M., H. Suito, T. Imakiire, M. Kato, S. Fujiwara, and M. Murakami	2006	Outline of vertical displacement of the 2004 and 2005 Sumatra earthquakes revealed by satellite radar imagery	Earth Planets Space	58	e1-e4	○	3(2)ア			国土地理院
Fujiwara, S., M. Tobita, H.P. Sato, S. Ozawa, H. Une, M. Koarai, H. Nakai, M. Fujiwara, H. Yarai, T. Nishimura, and F. Hayashi	2006	Satellite Data Gives Snapshot of the 2005 Pakistan	EOS Trans. Am. Geophys. Union	87	doi:10.1029/2006EO070001	○	3(2)ア			国土地理院
藤原 智・飛田幹男・佐藤 浩・小沢慎三郎・宇根 寛	2007	衛星SAR解析による2005年パキスタン北部地震の地殻変動量と地表断層の推定	E-journal GEO	2	95-103	○	3(2)ア			国土地理院
Munekane, H	2007	Ocean mass variations from GRACE and tsunami gauges	J. Geophys. Res.	112	doi:10.1029/2006JB004618	○	3(2)ア			国土地理院
和田弘人・松坂 茂・藤原 智・藤原みどり・雨貝知美・飛田幹男・矢来博司	2007	The strategy of InSAR geodetic survey project with ALOS/PALSAR in GSI	測地学会誌	52	285-296	○	3(2)ア			国土地理院
Munekane, H., Y. Kuroishi, Y. Hatanaka, and H. Yarai	2008	Spurious annual vertical deformations over Japan due to mismodelling of tropospheric delays	Geophys. J. Int.	176	831-836	○	3(2)ア		GPS鉛直座標時系列に含まれる、大気遅延量の誤推定に伴う年周誤差について、数値気象モデルに基づくシミュレーションにより定量的な評価を行った。その結果、GPS解析で用いるマッピング関数として一般的に使用されているNMFを用いた場合、年周誤差の振幅は北に行くほど大きく、北緯45度で3mmに達すること、また、その位相は日本全体でほぼ同様であり、2月末に最大のみかけ上の沈降を示すこと、などが分かった。	国土地理院
Munekane, H., Y. Kuroishi, Y. Hatanaka, K. Takashima, and M. Ishimoto	2010	Groundwater-induced vertical movements in Tsukuba revisited: installation of a new GPS station	Earth Planets Space	62	711-715	○	3(2)ア			国土地理院
Munekane, H. and J. Boehm	2010	Numerical simulation of troposphere-induced errors in GPS-derived geodetic time series over Japan	J. Geod.	84	405-417	○	3(2)ア			国土地理院
Tobita, M., T. Nishimura, T. Kobayashi, K. X. Hao, and Y. Shindo	2011	Estimation of coseismic deformation and a fault model of the 2010 Yushu earthquake using PALSAR interferometry data	Earth Planet. Sci. Lett.	307	430-438	○	3(2)ア		ScanSAR干渉技術の開発や位相連続化手法の改良といった衛星SAR干渉解析による地殻変動把握技術の高度化を行い、2010年青海省地震に伴う地表地震断層沿いの左横ずれ量分布を推定することに成功した。	国土地理院
Kobayashi, T., M. Tobita, T. Nishimura, A. Suzuki, Y. Noguchi, and M. Yamanaka	in press	Crustal deformation map for the 2011 off the Pacific coast of Japan, Tohoku Earthquake, detected by InSAR analysis combined with GEONET data	Earth Planets Space			○	3(2)ア	1(1)ア	GPSデータとの統合解析手法を適用したSAR干渉解析を東北地方太平洋沖地震において行った。精度が低い速報的軌道情報(RARR値)を用いた干渉解析においても、GPSデータを組み込むことにより、軌道情報の誤差に起因するノイズが低減され、地殻変動を正確かつ迅速に抽出できることを示した。	国土地理院
小林知勝・飛田幹男・村上 亮	2011	局所的大変位を伴う地殻変動計測のためのビクセルオフセット解析	測地学会誌	57	71-81	○	3(2)ア			国土地理院・北海道大
飛田幹男・林 文	2006	衛星レーダー画像分析による隆起・沈降	月刊地球	56	25-31		3(2)ア			国土地理院

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
飛田幹男	2006	パキスタン地震の地殻変動三次元マップ	月刊地震レポ ート サイズモ	10	8-9		3(2)ア			国土地理 院
飛田幹男	2006	人工衛星レーダー画像分析による災害全体像 の把握	国土地理院技術 資料A・1	313	63-73		3(2)ア			国土地理 院
飛田幹男・今給黎哲郎・水藤 尚・加藤 敏・林 文・村上 亮	2006	衛星SAR画像分析による2004・2005年スマトラ 沖地震に伴う隆起沈降域の把握	国土地理院時報	109	21-32		3(2)ア			国土地理 院
Munekane, H., Y. Kuroishi, Y. Hatanaka, K. Takashima, M. Ishimoto, and M. Tobita	2009	An Ultra-deeply anchored GPS station in Tsukuba, Japan - preliminary report -	Bull. Geograph. Surv. Inst.	57	11-17		3(2)ア			国土地理 院
中川弘之・豊福隆史・小谷京湖・宮原伐折 羅・岩下知真子・川元智司・畑中雄樹・宗包 浩志・石本正芳・湯通堂亨 ・石倉信広・菅原安広	2009	GPS連続観測システム (GEONET) の新しい解析 戦略 (第4版) によるルーチン解析システム の構築について	国土地理院時報	118	1-8		3(2)ア			国土地理 院
豊福隆史・岩下知真子・畑中雄樹・湯通堂亨	2009	電子基準点のアンテナ絶対位相特性モデルの 構築と評価	国土地理院時報	118	9-15		3(2)ア			国土地理 院
小谷京湖・吉田賢司・畑中雄樹・宗包浩志	2009	GPS連続観測システム (GEONET) 解析固定点座 標算出手法について	国土地理院時報	118	17-21		3(2)ア			国土地理 院
飛田幹男・小沢慎三郎・矢来博司・西村卓 也・水藤 尚・宇根 寛・今給黎哲郎・雨貝 知美・林 文	2009	2007年スマトラ南部地震の地殻変動・地震断 層と断層モデル	月刊地球	354	181-188		3(2)ア			国土地理 院
Munekane, H.	2010	On Improving Precision of GPS-derived Height Time Series at GEONET Stations	Bull. Geograph. Surv. Inst.	58	39-46		3(2)ア			国土地理 院
イ. リモートセンシング技術										
Mori T., Hirabayashi J., Kazahaya K., Mori T., Ohwada M., Miyashita M., Iino H. and Nakahori Y.	2007	A Compact Ultraviolet Spectrometer System (COMPUSS) for monitoring volcanic SO2 emission: validation and preliminary observation.	火山	52	105-112	○	3(2)イ	2(2)(2-2) ア		東大理化 学
Kazahaya R., Mori T., Kazahaya K. and Hirabayashi J.	2008	Computed tomography reconstruction of SO2 concentration distribution in the volcanic plume of Miyakejima, Japan, by airborne traverse technique using three UV spectrometers.	Geophys. Res. Lett.	35	doi:10. 1029/20 08GL034 177	○	3(2)イ	2(3)(3-3) イ		東大理化 学
金子隆之・高崎健二・安田 敦・青木陽介	2006	MODIS夜間赤外画像による浅間山2004-2005年 活動の熱観測	火山	51	273-283	○	3(2)イ		MODISの夜間赤外画像を利用して、浅間山2004年~2005年の活動を解析した。この結果、熱異常のパルスが4回観測され、これらはGPSで検知された浅部へのマグマ貫入に対応し、その数週間後に発生していることがわかった。最初の2回の熱異常パルスは噴火を伴っているが、残りの2回は熱異常の発生だけであった。また、一連の噴火活動が始まる2~3週間前から熱異常のレベルが上昇していたことがわかった。	東大地震 研
金子隆之・田 寛之・高崎健二・安田 敦・ 前野 深・小山悦郎・中田節也	2010	MTSATで捉えた浅間山2009年2月2日噴火に伴う 噴煙	火山	55	119-128	○	3(2)イ		MTSATのデータにより、浅間山2009年噴火の噴煙を観測した。この結果、噴煙の先端部は、時速約135km、終端部は約51kmで南東方向へ移動したことがわかった。両者の相対速度の違いにより、噴煙は時間と共に拡大したが、これは当時の高度による風速の違いに対応していることがわかった。	東大地震 研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kaneko, T., T. Koyama, A. Yasuda, M. Takeo, T. Yanagisawa, K. Kajiwara, and Y. Honda	2011	Low-altitude remote sensing of volcanoes using an unmanned autonomous helicopter: an example of aeromagnetic observation at Izu-Oshima volcano, JAPAN	Inter. J. Remote Sens.	32	1491-1504	○	3(2)イ		無人ヘリを火山の低空リモートセンシングに利用するための基礎実験を伊豆大島で行った。この実験では、センサーとして磁力計を搭載し、低空からの空中磁気観測を行った。この結果、カルデラ内に、北西-南東方向の岩脈群が存在する可能性があることがわかった。この実験を通じ、無人ヘリは火山の低空観測プラットフォームとして、十分な実用度をもつことが確かめられた。	東大地震研
Nakatsuka, T., Utsugi, M., Okuma, S., Tanaka, Y., Hashimoto, T.	2009	Detection of aeromagnetic anomaly change associated with volcanic activity: An application of the generalized mis-tie control method	Tectonophys.	478	3-18	○	3(2)イ			京都大理学研究所
實測哲也	2009	火山観測用航空機搭載型リモートセンシング装置-装置の概要と浅間山の温度観測事例-	建設の施工企画	716	19-23		3(2)イ	1(1)ア		防災科研
實測哲也	2008	火山災害の航空機搭載型光学センサによる観測	計測と制御	47	1022-1027		3(2)イ	1(1)ア		防災科研
Oguchi, T., Udagawa, M., Nanba, N., Maki, M., Ishimine, Y.	2009	Measurements of Dielectric Constant of Volcanic Ash Erupted From Five Volcanoes in Japan	Geoscience and Remote Sensing	47	1089-1096	○	3(2)イ			防災科研
實測哲也	2011	ARTS により計測した浅間山の火口内温度分布 - (2007年4月から2010年3月) -	防災科学技術研究所研究資料	355	1-28		3(2)イ	1(3)ア		防災科研
Shimbori, T., Y. Aikawa, N. Seino	2009	Operational implementation of the tephra fall forecast with the JMA mesoscale tracer transport model	CAS/JSCWGNERActivAtmosOceanicModel	39	0529-0530		3(2)イ	2(3)(3-3)イ		気象庁
新堀敏基・相川百合・福井敬一・橋本明弘・清野直子・山里平	2010	火山灰移流拡散モデルによる量的降灰予測-2009年浅間山噴火の事例-	気象研究所研究報告	61	13-29	○	3(2)イ	2(3)(3-3)イ	降灰予測のために開発した火山灰移流拡散モデルを用いて、降灰量の量的予測を行う数値シミュレーションの方法を論じた。その方法を2009年2月2日浅間山噴火の事例に適用したところ、降灰域の定性的な特徴は概ね予測でき、分布主軸上の降灰量も観測値と同じオーダーで予測可能であることが示された。	気象庁

### (3) 観測技術の継続的高度化

#### ア. 地下状態モニタリング技術

Tanaka, H. K. M., H. Miyajima, T. Kusagaya, A. Taketa, T. Uchida, and M. Tanaka	2011	Cosmic muon imaging of hidden seismic fault zones: Rainwater permeation into the mechanical fractured zones in Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	306	156-162	○	3(3)ア	2(1)ウ		東大地震研
Tanaka, H. K. M., H. Taira, T. Uchida, M. Tanaka, M. Takeo, T. Ohimato, Y. Aoki, R. Nishiyama, S. Daigo, and H. Tsuji	2010	Three-dimensional computational axial tomography scan of a volcano with cosmic ray muon radiograph	J. Geophys. Res.	115	doi:10.1029/2010JB007677	○	3(3)ア			東大地震研
Yamashina, Y., T. Yamashina, H. Taira, and H. Tanaka	2010	Development of a cost effective plastic scintillator for cosmic-ray muon radiography of a volcano	Earth Planets Space	62	173-178	○	3(3)ア	3(3)イ		東大地震研
Uchida, T. H. K. M. Tanaka, and M. Tanaka	2010	Development of a muon radiographic imaging electronic board system towards a stable solar power operation	Earth Planets Space	62	167-172	○	3(3)ア	3(3)イ		東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Tanaka, H.K.M., T. Uchida, M. Tanaka, H. Shinohara, and H. Taira	2010	Development of a portable assembly type cosmic-ray muon module for measuring the density structure of a column of magma	Earth Planets Space	62	119-129	○	3(3)ア	3(3)イ	本論文は、宇宙線ミュオンを用いた密度構造を測定するために新たに開発した移動可能な検出器システムと、解析手法を述べている。低消費電力と機動性を備えた新装置を用いて、薩摩硫黄島硫黄岳で観測を行い、火山体浅部に火道の存在を示す低密度領域を検出した。本論文は、宇宙線ミュオンラジオグラフィの技術的な発展と火道浅部構造の新たな知見を示したものであり、2011年度日本火山学会論文賞に選ばれた。	東大地震研
田中宏幸	2010	ミュオンを用いた断層のイメージング	地震ジャーナル	50	1-5		3(3)ア			東大地震研
Taira, H., and H.K.M. Tanaka	2010	Possible space and power effective muon sensor module for imaging a volcano	Earth Planets Space	62	179-186	○	3(3)ア	3(3)イ		東大地震研
Tanaka, H.K.M., T. Uchida, M. Tanaka, and H. Shinohara	2009	Cosmic-ray muon imaging of magma in a conduit: Degassing process of Satsuma-Iwojima Volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	36	doi:10.1029/2008GL036451	○	3(3)ア	2(4)エ	宇宙線による透視技法として、原子核乾板方式とは異なる可搬型シンチレータ方式を開発した。これによりリアルタイム観測が可能となる。このシステムを、大量のSO <sub>2</sub> の放出を続ける薩摩硫黄島に設置し観測した。その結果、透視画像の中に透過率の大きく異なる領域を見出し、火道の位置と形状を同定した。透視画像による結果は、マグマからの脱ガス過程から期待されるマグマ頭位と整合する。	東大地震研
Uchida, T., H.K.M. Tanaka, and M. Tanaka	2009	Space Saving and Power Efficient Readout System for Cosmic-Ray Muon Radiography	IEEE Trans. Nuclear Science	56	448-452	○	3(3)ア	3(3)イ		東大地震研
田中宏幸	2009	火山内部透かし噴火予測	検査技術	12	44-48		3(3)ア			東大地震研
田中宏幸	2009	宇宙線で地球・火山を透視する	科学	79	507-512		3(3)ア			東大地震研
田中宏幸	2008	原子核写真乾板を用いた火山体の宇宙線ミュオンラジオグラフィ	日本写真学会誌	71	318-323	○	3(3)ア	3(3)イ		東大地震研
Tanaka H.K.M., and I. Yokoyama	2008	Muon radiography and deformation analysis of the lava dome formed by the 1944 eruption of Usu, Hokkaido - Contact between high-energy physics and volcano physics	Proc. Jpn. Acad., Ser. B	84	107-116	○	3(3)ア			東大地震研
Tanaka H.K.M., T. Nakano, S. Takahashi, J. Yoshida, M. Ohshima, T. Maekawa, H. Watanabe, and K. Niwa	2007	Imaging the Conduit Shape beneath the Dome with Cosmic-ray Muons: the Structure beneath Showa-Shinzan Lava Dome, Japan	Geophys. Res. Lett.	34	doi:10.1029/2007GL031389	○	3(3)ア			東大地震研
Tanaka H.K.M., T. Nakano, S. Takahashi, J. Yoshida, M. Takeo, J. Oikawa, T. Ohminato, Y. Aoki, E. Koyama, H. Tsuji, and K. Niwa	2007	High resolution imaging in the inhomogeneous crust with cosmic-ray muon radiography: the density structure below the volcanic crater floor of Mt. Asama, Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	263	104-113	○	3(3)ア	3(3)イ		東大地震研
Tanaka H.K.M., T. Nakano, S. Takahashi, J. Yoshida, and K. Niwa	2007	Development of an emulsion imaging system for cosmic-ray muon radiography to explore the internal structure of a volcano, Mt. Asama	Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, Section A: Accelerators, Spectrometers, Detectors, and Associated Equipment A	575	489-497	○	3(3)ア		世界で初めて宇宙線による火山の透視に成功した論文。浅間山の透視で、火口直下に2004年噴火後の固結溶岩および空隙率の高い火道を見出した。Nature誌のResearch Highlightでもトップで紹介された。	東大地震研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
田中宏幸	2007	原子核写真乾板技術を用いた火山体の宇宙線ラジオグラフィ	日本写真学会誌	70	230-235	○	3(3)ア	3(3)イ		東大地震研
Saeki, M., K. Yamaoka and R. Ikuta	2010	Development of Simulation Algorithm for Analysing Temporal Stability of ACROSS Seismic Source.	Active Geophysical Monitoring, ed by Kasahara, J., Korneev, V. and Zhdanov, M.		259-277	○	3(3)ア			名古屋大
Kasahara, J, K. Tsuruga, Y. Hasada, T. Kunitomo, R. Ikuta, T. Watanabe, K. Yamaoka, N. Fujii, and M. Kumazawa	2009	Detection and continuous monitoring of strong seismic reflectors at the subducting Philippine Sea Plate using ACROSS	Active Geophysical Monitoring, Vol. 40 (Kasahara, Korneev and Zhdanov (Eds.), Handbook of Geophysical Exploration: Seismic Exploration, Elsevier)	40	435-447	○	3(3)ア			名古屋大
渡辺俊樹	2007	地震探査における散乱波解析と不均質構造の推定	月刊地球	29	227-231		3(3)ア			名古屋大
渡辺俊樹・生田領野・相馬知征・山岡耕春・藤井直之	2007	東海監視に向けた地震波アクロスと小規模地震計アレイによる試験観測	月刊地球	29	475-480		3(3)ア	2(2)イ		名古屋大
Bakulin, A., V. Korneev, T. Watanabe, and S. Ziatdinov	2006	Time-lapse changes in tube and guided waves in cross-well Mallik experiment	Expanded Abstract of the 76th Annual Meeting, Society of Exploration Geophysicists		379-383	○	3(3)ア			名古屋大
Saiga, A., K. Yamaoka, T. Kunitomo and T. Watanabe	2006	Continuous observation of seismic wave velocity and apparent velocity using a precise seismic array and ACROSS seismic source	Earth Planets Space	58(8)	993-1005	○	3(3)ア	1(2)イ		名古屋大
Watanabe, T., Ikuta, R., Yamaoka, K., Soma, T. and Fujii, N.	2006	Continuous Active Seismic Observation using ACROSS Source and Seismometer Array	Proceedings of the 8th SEGJ International Symposium - Imaging and interpretation -		369-372	○	3(3)ア	2(2)イ		名古屋大
Xu PL	2009	Iterative generalized cross-validation for fusing heteroscedastic data of inverse ill-posed problems	Geophys. J. Int.	179	182-200	○	3(3)ア	2(2)(2-1)ウ		京大防災研

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
T. Hobiger, S. Shimada, S. Shimizu, R. Ichikawa, Y. Koyama, and T. Kondo	2010	Improving GPS po-sitioning estimates during extreme weather situations by the help of fine-mesh numerical weather models	J. Atmospheric Solar-Terrestrial Phys.	72	262-270	○	3 (3) ア	1 (1) ア		防災科研
Shimada, S.	in press	Comparison of the Coordinates Solutions between the Absolute and the Relative PCV Models in the Dense Regional GPS Network in Japan	Geodesy for Planet Earth, Springer-Verlag, Berlin				3 (3) ア	1 (1) ア		防災科研
Hobiger, T., S. Shimada, S. Shimizu, R. Ichikawa, Y. Koyama, and T. Kondo		Improving GPS positioning estimates during extreme weather situations by the help of fine-mesh numerical weather models	J. Atmospheric Solar-Terrestrial Phys.	72	262-270		3 (3) ア	1 (1) ア		防災科研
松本 則夫	2006	2-7 地震と地下水	地球 一図説 アースサイエンス		154-155		3 (3) ア			産総研
小泉 尚嗣	2010	地下水位観測による地殻変動の推定-現状と展望-	地震ジャーナル	50	89-94		3 (3) ア		地下水位観測によって地殻変動を推定し地震予知に結びつける研究について現状と展望を述べた。	産総研
Kitagawa, Y., S. Itaba, N. Matsumoto, and N. Koizumi	in press	Frequency characteristics of the response of water pressure in a closed well to volumetric strain in the high-frequency domain	J. Geophys. Res.	in press	doi:10.1029/2010JB007794	○	3 (3) ア	1 (1) ウ	2010年チリ地震 (Mw8.8) の表面波で生じた密閉井戸における地下水位変化を詳しく解析し、動的体積歪変化による水位変化に周波数依存があることを明らかにした。また、それを定式化した。	産総研
イ. 地震活動や噴火活動の活発な地域における観測技術										
Nakamura, T., N. Sugimoto, T. Tsuda, M. Abo, T. Hashimoto, A. Terada	2006	Observation of water vapor with a portable raman lidar -continuous monitoring and field experiments over the forest and at the volcano-	Proceedings of the 23rd International Laser Radar Conference		897-900	○	3 (3) イ			北海道大
新谷昌人	2010	レーザー干渉法の精密測地観測への応用	測地学会誌	56	1-12	○	3 (3) イ	3 (3) ウ		東大地震研
新谷昌人, 坪川恒也	2010	小型絶対重力計の開発	月刊地球	32	271-277		3 (3) イ	2 (2) (2-2) ア		東大地震研
Hori, T., A. Araya, S. Moriwaki and N. Mio	2009	Formulation of frequency stability limited by laser intrinsic noise in feedback systems	Journal of Applied Optics	48	429-435	○	3 (3) イ	3 (3) ウ		東大地震研
Hori, T., A. Araya, S. Moriwaki and N. Mio	2007	Development of a wavelength-stabilized distributed Bragg reflector laser diode to the Cs-D2 line for field use in accurate geophysical measurements	Rev. Sci. Instrum.	78	026105	○	3 (3) イ	3 (3) ウ		東大地震研
政所 茜・山内常生・藤井 巖	2007	野外地震臨時観測用データロガー低消費電力化の試み	地震	60	153-161	○	3 (3) イ			名古屋大
藤井巖・山内常生・政所茜	2006	低消費電力データロガーの開発と瑞浪観測坑での発破観測	東濃地震科学研究所報告	20	39-42		3 (3) イ			名古屋大
植平 賢司	2008	MRTGを用いた地震観測網の監視	東京大学地震研究所技術研究報告	14	1-12		3 (3) イ			九州大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
内田 和也・植平 賢司	2008	マイクロサーバ・OpenBlockS266 を使った地震観測点におけるデータバックアップ	東京大学地震研究所技術研究報告	14	38-46		3 (3) イ			九州大
Uehira, K	2009	Development of a distributed backup system and a recovery system for telemetric seismic data	Earth Planets Space	61	285-289	○	3 (3) イ		テレメータ回線が大容量になり、かつ双方向通信が出来るようになると、観測点側にデータをバックアップして置く事により、回線やデータセンターサイドでの障害が発生してもデータを復旧することができる。そこで、バックアップシステムの構築と、データ復旧を簡単に行うためのWRRPというプロトコルの開発を行い、実際の九州大学のテレメータ観測網に展開し、運用を開始した。	九州大・東大地震研
内田 和也・植平 賢司	2010	宮崎県広渡ダムにおける衛星テレメータを使用した地震観測点の設置	東京大学地震研究所技術研究報告	16	1-8		3 (3) イ			九州大
Lisa McNeill <sup>1</sup> , Demian Saffer <sup>2</sup> , Tim Byrne <sup>3</sup> , Eiichiro Araki <sup>4</sup> , Sean Tozco <sup>5</sup> , Nobu Eguchi <sup>5</sup> , Kyoma Takahashi <sup>5,6</sup> , and Expedition 319 Scientists <sup>7</sup>	2010	IODP Expedition 319, Stage 2 of the NanTroSEIZE Complex Drilling Project: First IODP riser drilling operations and observatory installation towards understanding seismogenic processes within Subduction Zones	Scientific Drilling			○	3 (3) イ	3 (3) ウ	Exp 319結果概要	JAMSTEC
Matsushima, N., and Shinohara, H.	2006	Visible and invisible volcanic plumes	Geophys. Res. Lett.	33	doi.10.1029/2006GL026506	○	3 (3) イ		火山噴煙の見かけ（白煙または半透明の噴煙）が火山噴煙の水分量と温度、化学組成の関数である事を理論的に解析し、噴煙の見た目から噴気温度を推定する手法を開発した。	産総研
Mori, T., J. Hirabayashi, K. Kazahaya, T. Mori, and M. Owada	2007	Use of a COMPact Ultraviolet Spectrometer System (COMPASS) for monitoring volcanic SO2 emission: Validation and preliminary observation.	火山	52	105-112	○	3 (3) イ		DOAS法による火山ガス中の二酸化硫黄濃度を測定する国産小型装置を新規開発した。システムの特徴と性能試験結果を示した。	産総研
Mori, T., T. Suzuki, J. Hirabayashi, K. Nogami, M. Owada, and S. Yoshikawa,	2008	Depth estimation of fumarolic gas source deduced by fume pressure measurement	Earth Planets Space	60	889-893	○	3 (3) イ		活動的な噴気孔における沸騰源（気液分離）の深さを解明するために、音響共鳴現象を利用した計測方法を考案した。その計測法を地熱プラントに於いてテストして有効性を確認し、草津白根火山の噴気地帯に於いて、沸騰源（気液分離）深度を解明した。	産総研
<b>ウ. 大深度ボアホールにおける計測技術</b>										
Araya, A., K. Sekiya, and Y. Shindo	2007	Laser-Interferometric Broadband Seismometer for Ocean Borehole Observations	Proc. International Symposium on Underwater Technology 2007, Tokyo, Japan, 17-20 April, 2007, IEEE		245-248		3 (3) ウ	3 (1) イ		東大地震研
石井 紘・山内常生	2007	地殻活動総合観測システムの開発と観測された成果および今後の連続観測について	測地学会誌	53	99-111	○	3 (3) ウ			名古屋大
向井厚志・山内常生・石井 紘・松本滋夫・浅井康広	2007	応力解放法に基づく3次元の初期応力の解析解の導出について	東濃地震科学研究所報告		33-38		3 (3) ウ			名古屋大
向井厚志・山内常生・石井 紘・松本滋夫・浅井康広	2007	水圧感度検定による弾性定数の検証	東濃地震科学研究所報告		151-156		3 (3) ウ			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
山内 常生	2007	坑道を利用する諸観測装置の開発と地震予知に関わる成果	測地学会誌	53	135-146	○	3(3)ウ			名古屋大
山内常生・清水茂治郎・黒柳正恵・大西正臣	2007	充電式歪計の開発を深さ200m前後の水平ボーリング孔内における歪観測	東濃地震科学研究所報告		99-110		3(3)ウ			名古屋大
Ishii, H., T. Yamauchi, Y. Asai, S. Matsumoto and A. Mukai	2006	Interesting phenomena detected by the continuous observation of strain and in-situ stress measurements in the vicinity of the active Mozumi-Sukenobe Fault	Geodynamics of Atotsugawa Fault System, Terrapub		157-162	○	3(3)ウ			名古屋大
山内常生・石井紘・向井厚志・松本滋夫・清水茂次郎・大西正臣	2006	小口径インテリジェント型歪計の開発ー野外観測用省電力測定器の開発ー	東濃地震科学研究所報告	20	155-160		3(3)ウ			名古屋大
Kuramoto, S., Curewitz, D., Moe, K.T., Masago, H., and Exp. 314, 315, 316 Science Parties	2008	The First D/V Chikyu IODP Operations: Successful Logging and Coring During NanTroSEIZE Stage 1 Expeditions	Sci. Drill.	6	38-42	○	3(3)ウ	3(3)イ	NanTroSEIZEステージ1の完了報告	JAMSTEC
Tobin, H., Kinoshita, M., Ashi, J., Lallemand, S., Kimura, G., Scream, E., Moe, K.T., Masago, H., Curewitz, D., and IODP Expeditions 314/315/316 Scientific Party	2009	NanTroSEIZE Stage 1 Expeditions 314, 315, 316: First Drilling Program of the Nankai Trough Seismogenic Zone Experiment	Sci. Drill.	8	4-17	○	3(3)ウ	3(3)イ	NanTroSEIZEステージ1の結果概要	JAMSTEC
<b>4. 計画推進のための体制の強化</b>										
Yoshiyuki Kaneda, Kazuo Hirahara, Takashi Furumura	2009	New Research Project for Evaluating Seismic Linkage Around the Nankai Trough - Integration of Observation, Simulation, and Disaster Mitigation	Journal of Disaster Research	4(2)	61-66	○	4(1)	2(2)(2-1)ア		JAMSTEC
地震予知連絡会	2009		地震予知連絡会40年のあゆみ		374pp		4(1)			国土地理院
筒井智樹・西谷忠師・坂中伸也	2010	秋田大学体験学習教室の理念と物理探査学習教材の開発	物理探査	63	141-152	○	4(4)			秋田大
西谷忠師・筒井智樹・坂中伸也	2006	物理探査をささえる若い人材に対する体験学習について	物理探査	60	575-582	○	4(4)			秋田大
Hoof, E. E. E., Brandsdóttir, B., Mjelde, R., Shimamura, H., Murai, Y.	2006	Asymmetric plume-ridge interaction around Iceland: The Kolbeinsey Ridge Iceland Seismic Experiment	Geochemistry Geophysics Geosystems	7	doi: 10.1029/2005GG001123	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Breivik, A. J., Mjelde, R., Faleide, J. I., Murai, Y.	2006	Rates of continental breakup magmatism and seafloor spreading in the Norway Basin - Iceland plume interaction	J. Geophys. Res.	111	doi: 10.1029/2005JB004004	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Rouzo, S., Klingelhöfer, F., Jonquet-Kolsto, H., Karpuz, R., Kravik, K., Mjelde, R., Murai, Y., Raum, T., Shimamura, H., Williamson, P., Géli, L.	2006	2-D and 3-D modelling of wide-angle seismic data: an example from the Vøring volcanic passive margin	Mar. Geophys. Res.	27	181-199	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Mjelde, R., Raum, T., Murai, Y., Takanami, T.	2007	Continent-ocean-transitions: Review, and a new tectono-magmatic model of the Vøring Plateau, NE Atlantic	J. Geodyn.	43	374-392	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大



著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Kandilarov, A., Mjelde, R., Okino, K., Murai, Y.	2008	Crustal structure of the ultra-slow spreading Knipovich Ridge, North Atlantic, along a presumed amagmatic portion of oceanic crustal formation	Mar. Geophys. Res.	29	109-134	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Bécel, A., Laigle, M., de Voogd, B., Hirn, A., Taymaz, T., Galvé, A., Shimamura, H., Murai, Y., Lépine, J.-C., Sapin, M., Özalaybey, S.	2009	Moho, crustal architecture and deep deformation under the North Marmara Trough, from the SEISMARMARA Leg 1 offshore-onshore reflection-refraction survey	Tectonophys.	467	1-21	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Mjelde, R., Raum, T., Kandilarov, A., Murai, Y., Takanami, T.	2009	Crustal structure and evolution of the outer Møre Margin, NE Atlantic	Tectonophys.	468	224-243	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Kandilarov, A., Landa, H., Mjelde, R., Pedersen, R. B., Okino, K., Murai, Y.	2010	Crustal structure of the ultra-slow spreading Knipovich Ridge, North Atlantic, along a presumed ridge segment center	Mar. Geophys. Res.	31	173-195	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Czuba, W., Grad, M., Mjelde, R., Guterch, A., Libak, A., Krüger, F., Murai, Y., Schweitzer, J., the IPY Project Group	2011	Continent-ocean-transition across a trans-tensional margin segment: off Bear Island, Barents Sea	Geophys. J. Int.	184	541-554	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Reyners, M., Eberhart-Phillips, D., Stuart, G. and Nishimura, Y.,	2006	Imaging subduction from the trench to 300 km depth beneath the central North Island, New Zealand, with Vp and Vp/Vs.	Geophys. J. Int.	165	565-583	○	4(5)	2(1)ウ		北海道大
Henrys, S., Reyners, M., Pecher, I., Bannister, S., Nishimura, Y. and Maslen, G.,	2006	Kinking of the subducting slab by escalator normal faulting beneath the North Island of New Zealand.	Geology		777-780	○	4(5)	2(1)オ		北海道大
Dossing, A., Dahl-Jensen, T., Thybo, H., Mjelde, R. and Nishimura, Y.,	2007	East Greenland Ridge in the North Atlantic Ocean: An integrated geophysical study of a continental sliver in a boundary transform fault setting.	J. Geophys. Res.	113	doi: 10.1029/ 2007JB 005536	○	4(5)	2(1)オ		北海道大
Czuba, W., Grad, M., Guterch, A., Majdanski, M., Malinowski, M., Mjelde, R., Moskalik, M., Sroda, P., Wilde-Piorko, M. and Nishimura, Y.,	2008	Seismic crustal structure along the deep transect Horsted'05, Svalbard	Polish Polar Research	29	279-290	○	4(5)	2(1)オ		北海道大
木股文昭	2008	2004年スマトラ・アンダマン地震津波から3年：地震学としての課題と展望	2004年北部スマトラ地震調査報告IV		3-6		4(5)			名古屋大
木股文昭	2008	アチェ山中における2004年スマトラ地震津波後の変化	2004年北部スマトラ地震調査報告IV		89-92		4(5)			名古屋大
木股文昭	2008	津波被災体験の共有化をめざして：シャクアラ大学学生との交流	2004年北部スマトラ地震調査報告IV		106-108		4(5)			名古屋大
木村玲欧	2007	バンダアチェでの調査票調査の実施～復旧、復興カレンダー	2004年北部スマトラ地震調査報告IV		52-59		4(5)			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建 議の項目	次に関連 の深い建 議の項目	概要説明	機関名
Shigeru Matsuzaka	2008	Report for the 14th PCGIAP Meeting	Permanent Committee on GIS Infrastructure for Asia and the Pacific	-	-		4 (5)	2 (1) ア		国土地理 院
Hiroshi MUNEKANE , Yoshihiro FUKUZAKI	2006	A plate motion model around Japan	Bulletin of the Geographical Survey Institute	53	35-41		4 (5)	2 (1) ア		国土地理 院
Shigeru Matsuzaka	2009	Report for 18th UNRCC-AP	Permanent Committee on GIS Infrastructure for Asia and the Pacific	-	-		4 (5)	2 (1) ア		国土地理 院
Shigeru Matsuzaka	2010	Report of Activities for 16th PCGIAP Meeting	Permanent Committee on GIS Infrastructure for Asia and the Pacific	-	-		4 (5)	2 (1) ア		国土地理 院
鈴木隆広・岡崎紀俊・柴田智郎・垣原康之・ 廣瀬 亘・野呂田晋・高橋 良・川上源太 郎・石丸 聡・田村 慎・村山泰司・荻野 激・高清水康博・一柳昌義・高橋浩晃・河野 裕希・佐藤達也	2010	公設試験研究機関のアウトリーチ活動－札幌 市立平岸小学校での事例－	北海道立地質研 究所報告	81	103-111		4 (6)			北海道大
隈本邦彦・上口義雄・郡 伸子・櫻井祐太・ 定池祐季・佐藤秀美・田中 徹・三宅武寿・ 山崎 学・山本俊介・西村裕一	2009	津波のリスクを地域住民が正しく知るための 手法の開発と評価：科学者と市民の直接対話 を重視した2つのイベントの経験から	科学技術コミュ ニケーション	4	3-18	○	4 (6)	2 (3) (3-2) イ		北海道大
伊藤武男 (分担執筆)	2009	日本地方地質誌 (近畿地方)	日本地質学会編 集, 朝倉書店 (分担執筆)		453		4 (6)			名古屋大
鈴木康弘	2009	愛知県史「自然」	愛知県史編さん 委員会				4 (6)			名古屋大
木股文昭	2008	御嶽火山-長い眠りから覚めてもう30年 まだ 全体像がつかめない神秘的な山	震災予防	223	1-7		4 (6)			名古屋大
鈴木康弘	2008	学校耐震と活断層	科学	79	175-178		4 (6)			名古屋大
鈴木康弘	2008	環境事典	旬報社 (共著)	27	72, 132, 169- 170, 230 , 250, 68 7, 698, 7 31		4 (6)			名古屋大
鈴木康弘	2008	岩手・宮城内陸地震と活断層－「想定外」地 震を招いた要因－	科学	79	206-209		4 (6)			名古屋大

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
川崎一朗・小泉尚嗣・東田進也・長尾年恭・西村卓也・平松良浩・堀高峰・山岡耕春	2007	地震予知の科学	東京大学出版会		1-218		4(6)		過去10年程度の成果に基づいて、地震予知研究の現状について説明した。	名古屋大・産総研
工藤一嘉・栗田敬・瀬瀬一起・島崎邦彦・都司嘉宣・土井恵治・中田節也・藤井敏嗣・山岡耕春・山下輝夫	2007	地震・津波と火山の事典			1-18		4(6)			名古屋大
林能成・木村玲欧・鈴木康弘・飛田潤	2007	地域貢献としての連続防災講演会の開催－名古屋大学防災アカデミー	東京大学地震研究所 技術研究報告	13	138-146	○	4(6)			名古屋大
山岡耕春	2007	Q&A日本は沈む？－地震・火山と防災－	理工図書		1-200		4(6)			名古屋大
Kimura, R., H. Hayashi, S. Tatsuki and K. Tamura	2006	Behavioral and Psychological Reconstruction Process of Victims in the 2004 Mid-Niigata Prefecture Earthquake	Proceedings of the eighth U.S. National Conference on Earthquake Engineering	CD-ROM	No. 606 (9p.)	○	4(6)			名古屋大
安藤雅孝	2006	インドネシアで起きた最近の4つの被害地震	名古屋大学環境学研究科2004年北部スマトラ地震調査報告Ⅲ		3-6		4(6)			名古屋大
安藤雅孝	2006	地震のメカニズムと防災、その時どうする	ジャーナリスト学校(朝日新聞)		81-104		4(6)			名古屋大
安藤雅孝・木股文昭・田中重好・木村玲欧	2006	第1章「自然現象としての巨大大地震」、超巨大地震がやってきた、スマトラ沖地震津波に学ぶ	時事通信社				4(6)			名古屋大
安藤雅孝・田所敬一・林能成・木村玲欧	2006	いま活断層が危ない	中日新聞社		220pp		4(6)			名古屋大
安藤雅孝・林能成	2006	海で津波に遭った人の話－序報－	名古屋大学環境学研究科2005年北部スマトラ地震調査報告Ⅲ		41-46		4(6)			名古屋大
木股文昭	2006	2004年アチェ・アンダマン地震からアチェの鎮魂歌	名古屋大学環境学研究科「2004年北部スマトラ地震調査報告Ⅲ」		96-100		4(6)			名古屋大
木股文昭・田中重好・木村玲欧	2006	巨大地震がやってきた	時事通信社		229		4(6)			名古屋大
鷺谷威	2006	日本が研究をリード揺れない地震、別冊日経サイエンス「地球大異変：巨大地震や超大型台風の脅威」	日経サイエンス編集部		36-38		4(6)			名古屋大
林能成、木村玲欧	2006	地震・防災研究の地域密着型アウトリーチ	東京大学地震研究所技術研究報告	12	6-18	○	4(6)			名古屋大
清水 洋	2009	噴火の脅威と噴火災害軽減のための取り組み	日本機械学会誌	112	18-21		4(6)			九州大
(関連の深い建議の項目に入力がないもの)										

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページ	査読の有無	最も関連の深い建議の項目	次に関連の深い建議の項目	概要説明	機関名
Kamiya, N., Tsunomori, F., Kagi, H. and Notsu, K.	2011	Dynamic light scattering study of the inhibiting effect on crystal growth of calcium carbonate	Bulletin of Chemical Society of Japan	84	344-348	○				東大理地惑
Yamashita, T. and Suzuki, T.	2011	Dynamic modeling of slow slip coupled with tremor	J. Geophys. Res.	116	doi:10.1029/2010JB008136	○				東大地震研